

## 日中戦争下の音楽交渉

—日本占領下の北京における音楽活動に着目して—

入学年度：2018年

学籍番号：2318909

執筆者名：鄭曉麗

## 論文内容の要旨

学籍番号：2318909

氏名（ふりがな）：鄭 曉麗（てい ぎょうれい）

論文等題目：日中戦争下の音楽交渉—日本占領下の北京における音楽活動に着目して—

本論文の目的は、1937年から1945年までの日本占領下の北京における音楽活動に焦点を当てて、「占領空間」における音楽活動の実態を明らかにし、日中戦争下の日中音楽交渉の一つの側面を提示することである。そのうえで、「占領空間」における音楽文化には、どのような特徴があったのか、戦時下の「音楽交渉」とその内面——いわゆる人々の行動が何を指して、どのような意味があったのかを考察する。

これまでに戦時下の北京における音楽文化の状況については、近代北京音楽史での概説（孟、2012）のほかに、個別研究として、作曲家・江文也の日中戦時下の北京における音楽活動（劉、2005）や、新民会の統制下に置かれた戦時下北京の音楽文化（王、2013）などの研究が行われたが、特定の人物や組織に限定され、戦時下日本楽壇の動向については十分な検討が行われておらず、また日本語資料の活用不足などの問題が浮かび上がってくる。特に、戦時下の北京音楽文化史の一部として、また戦時下の日本帝国の外地文化政策を理解する上で注目すべき日本人音楽家の状況、及び彼らがいかに中国人音楽家と接触したのかについては、これまで政治的な理由で顧みられなかったため、不明瞭なままである。

以上のことを踏まえて、本論文は日本・中国両国の資料を利用し、日本占領下の北京における「音楽工作」の実態、日本人音楽家の音楽活動、中国人・台湾人および欧米人音楽家の音楽活動の実態を解明した。

第一章では、占領下の北京音楽文化を理解するため、先行研究や修士論文に基づいて中華民国から占領期までの北京音楽史（1912-1937）を以下の三つの方面から略述した。まず、専門音楽教育が大学での音楽専攻の設立によって、1910～1930年代の北京においてどのように発展してきたのか、その全体像を提示した。そして、西楽社、北京愛美楽社などの音楽団体を事例として、演奏活動の実態および1920～1930年代の北京における音楽享受の実態を明らかにした。また、音楽環境の整備について、1920～1930年代の北京楽壇のキーパーソンである柯政和の音楽事業を中心に記述した。

第二章では、日本占領下の北京においてどのような「音楽工作」が行われたのか、また日本側においてはどのような動向が見られたのかを検討した。まず、1937年12月7日から11日まで東京で開催された東亜文化振興協議会（1938年東亜文化協議会に改称）が、北京における「音楽工作」を推進させるための重要な要因であったことを指摘した。そして占領地現地における「音楽工作」の実態としては、抗日音楽が禁止された一方で、日本

の傀儡政権である中華民国臨時政府が、日本化教育のための音楽講座や新民歌曲の募集、ならびにそれらの強制的な普及により、臨時政府のイデオロギーを大衆に浸透させようとしていた。さらに北京中央放送局（原名：北京中央廣播電台）のラジオ放送番組を分析した結果、日本側が西洋音楽を中心に用いた「音楽工作」を通して、戦時下の「日中親善」を深める意図を持っていたことが明らかになった。とりわけ1942年以降は北京音楽文化協会の設立により、北京楽壇の統制による「音楽工作」が強化された。

第三章では、1937～1945年に日本軍の占領地となった北京における日本人音楽家の音楽活動に焦点を当て、従来漠然とした把握にとどまっていた戦時下の北京における西洋音楽を中心とした音楽文化の一側面を明らかにした。特に戦時下において初めて北京に移住した日本人音楽家袴田克巳夫妻や、北京に派遣された北支那方面軍軍楽隊、そして北京に渡航した東京音楽学校の卒業生（井上直二、寶井真一、荒井三郎など）、さらには一時的に北京に渡った音楽家・音楽関係者（藤原義江、山田耕筰など）について、それぞれの音楽活動の実態を明らかにした。彼らは占領下の北京において、それまで停滞していた西洋音楽による音楽活動の主たる担い手となっていた。

第四章では、占領下の北京における中国人・台湾人および欧米人音楽家の音楽活動に注目した。まずは、新たに発見した史料に基づき、江文也が占領下の北京において行った歌曲を中心とする演奏活動の実態を明らかにした。加えて、中国人・欧米人音楽家が主催した慈善演奏会では、宗教音楽をテーマとした演奏会が多く開催されたことがわかった。これらの演奏会において、占領空間に置かれた人々が、西洋音楽に平和への祈りをこめていたことを指摘した。

結論として、以下の指摘を行った。日本占領下の北京における音楽活動では、西洋音楽が支配側の「音楽工作」を浸透させるための重要な手段として用いられた。一方で西洋音楽は、被支配側における戦争への抵抗、ないしはそれに対する消極的・受動的な協力にも大きな役割を果たしていた。いわば西洋音楽による「音楽交渉」が、非対称関係にある両者に刺激を与えつつ、両者が文化的に浸透し合う現象をももたらしていたのである。結果として、抗日音楽を禁止された北京の占領空間において、支配側や被支配側の間に「中立」とみられる西洋音楽を通じた「音楽交渉」の発生が、戦時下の北京における西洋音楽の意外な発展を促進したと言えるだろう。

## 凡例

1. 日本が成立させた「傀儡」国家、現地政権等（「満洲国」「中華民国臨時政府」等）には、本来括弧を付すべきであるが、煩雑さを避けるためこれを外した。
2. 「支那」「北支」という語の使用は本来避けるべきであるが、固有名詞及び史料中にあるものはそのまま使用した。
3. 史料の引用の際、旧字体は常用漢字に改めた。しかし、原意を損なわないため旧字体のまま引用したところもある。
4. 年号は、西暦で表記した。
5. 曲名は《 》で表記した。
6. 引用した中国語の日本語翻訳は、執筆者によるものである。
7. 特別な限定がない限り、〔 〕は引用者による注釈、…は引用者による省略を示す。
8. 引用文中で判読不能の文字や修正が入り判読できない文字などは■で表記した。

# 目次

序論	1
<b>第一章 中華民国から日本占領期までの北京音楽略史 (1912~1937)</b>	<b>8</b>
第一節 北京における音楽教育機関の設立	8
第二節 北京における音楽享受の実態—西楽社、北京愛美楽社を事例として	8
第三節 北京における音楽環境の整備—柯政和と中華楽社を事例として	10
第四節 まとめ	13
<b>第二章 日本占領下の北京における「音楽工作」の構想とその展開 (1937-1945)</b>	<b>14</b>
第一節 日本占領下の北京の基本状況	14
1. 傀儡政権・中華民国臨時政府の成立と新民会の設立	
2. 日本占領下の北京における人口の変動	
3. 文化・教育界の変化	
第二節 日本の「対支音楽工作」の背景と構想	20
1. 「対支文化工作」の提起と東亜文化協議会の開催	
2. 「対支音楽工作」の提起と日本音楽界による新たな動向	
第三節 日本化教育（プロパガンダ）としての「音楽工作」	26
1. 学校音楽教科書の統制と検閲	
2. 日本語普及のための音楽講座	
3. 新民会による「新民歌曲」の募集と普及	
第四節 北京中央放送局における「音楽工作」の展開	41
1. 北京中央放送局における「音楽工作」	
2. ラジオ番組表からみる「音楽工作」の実際	
第五節 総力戦体制と楽壇の統制——「音楽工作」の強化	51
1. 北京音楽文化協会の設立と協力演奏会の増加	
2. 北京市音楽堂の建設	
第六節 まとめ	58
<b>第三章 日本占領下の北京における日本人音楽家とその音楽活動</b>	<b>59</b>
第一節 戦時下はじめて北京に移住した日本人音楽家——袴田克巳夫妻	62

第二節 日本占領下の北京に派遣された北支那方面軍軍楽隊……………	60
1. 北支那派遣軍軍楽隊から北支那方面軍軍楽隊への編成	
2. 北支那方面軍軍楽隊の音楽活動	
第三節 北京に移住した東京音楽学校の卒業生……………	70
1. 北京に渡航した東京音楽学校の卒業生の概要	
2. 寶井真一について	
3. 井上直二と北京交響楽団	
4. 荒井三郎と北京合唱協会	
第四節 北京に渡航した日本人音楽家・音楽関係者……………	76
1. 藤原義江の演奏旅行	
2. 山田耕筰の北京への旅	
3. 『音楽之友』編集者・三浦潤の北京への旅	
第五節 まとめ ……………	80
<b>第四章 日本占領下の北京における中国人・欧米人音楽家とその音楽活動……………</b>	<b>81</b>
第一節 「台湾出身」音楽家の江文也とその演奏活動 ……………	81
1. 戦時下の北京に移住した江文也	
2. 江文也と北京中央放送局の「世界名曲定期放送」番組	
第二節 各国音楽家が共演する演奏会—慈善演奏会を中心に……………	86
第三節 戦時下における平和への祈り——宗教音楽の演奏会を中心に……………	88
1. 燕京大学合唱団による《メサイア》演奏会	
2. 北平聯合聖楽団による演奏会	
第四節 まとめ ……………	89
<b>結論 「音楽交渉」とその内面：抵抗・支配・協力……………</b>	<b>90</b>
主要参考史料・文献……………	92
図表一覧 ……………	99

## 序論

本論文の目的は、1937年から1945年まで日本占領下の北京における音楽活動に焦点を当てて、「占領空間」における音楽活動の実態を明らかにし、日中戦争下の日中音楽交渉の一つの側面を提示することである。そのうえで、「占領空間」における音楽文化は、どのような特徴があるのか、戦時下の「音楽交渉」とその内面——いわゆる人々の行動が何を目指して、どういう意味があったのかを考察する。以下、本論文の問題提起・研究意義、本論文の研究視点や方法、先行研究、論文の構成という順に述べる。

### 第一節 研究の背景と問題の提起

20世紀前半の日中音楽交流史に関して、1931年から1945年までのいわゆる日本という「十五年戦争」（中国では「十四年抗日戦争」、「第二次中日戦争」と称される）期の音楽史は、いつも漠然と語られている。戦時下の日中音楽交流史に関する研究は、「空白史」と言われるほど極めて研究が少ない現状がある。その理由としては、資料調査の難しさ、政治的な配慮、研究対象の一部への集中、また日中研究者の対話・交流の不十分さなどを指摘できる。それは、音楽分野だけでなく、日中戦争期に関する他分野における研究も同じ境遇にある。

以下では、歴史学をはじめとする「日中戦争」に関する研究史、研究の背景である音楽史における「日中戦争期の音楽」に関する先行研究や最新の研究動向の整理を踏まえて、本論文の問題提起を述べる。

#### 1. 歴史学をはじめとする「日中戦争」に関する研究の研究史

歴史学では「日中戦争」に関する研究は、日本と中国いずれも1980年代から本格的な研究が開始された。日本では、1980年代日中戦争研究を開始した家近亮子の研究をはじめ、それまでの中国史研究を支配した共産党中心の一面的な歴史観（革命史観）に飽き足らず、中華民国期の統治システム、軍事・政治・社会の近代化や民主化、経済発展などを客観的に評価する研究に着手した研究者は少なくない<sup>1</sup>。1990年代に入り、国際的な研究交流や研究手法の多様化が進展し、カルチュラル・スタディーズ (Cultural studies) やポスト・コロニアリズム (post colonialism) といった新たな視点の導入が盛んになると、「侵略と抵抗」、「支配と従属」といった二分法にとらわれない研究成果も目立つようになってきた<sup>2</sup>。一方、中国では長い間、中国近代史研究は中国共産党史と同義であり、抗日戦争も中国共産党史・中国革命史の一部分と考えられていた。1985年の抗日戦争勝利40周年を契機として日中戦争研究のブームが中国国内で起こるようになった。研究の視角は共産党史の枠組から中国近代史の枠組に変わり、中国における日中戦争の研究は新たな研究成果を収めることになった<sup>3</sup>。

2000年以降、「日中戦争」に関する研究が促進された大きなきっかけは、2006年から

<sup>1</sup> 波多野澄雄「日本における日中戦争史研究について」『外交史料館報』第31号、2018年3月、38頁。

<sup>2</sup> 同上、37頁。

<sup>3</sup> 史桂芳「中国における日中戦争研究について——視点と成果——」『大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー』、2010年19号、1頁。

2010年までに両国政府が主導で進めた「日中歴史共同研究プロジェクト」<sup>4</sup>である。結果から見ると、「問題を発見し討論して相互理解を促すのにかなり有効であった」と報告書で言及された<sup>5</sup>。特に「日中戦争」を含まれる近現代の部分について、当プロジェクトを通じて両国の研究者がともに対話する・議論する機会を作られた。研究の結果は、プロジェクト報告書のほかに「日中戦争の国際共同研究 1-6」シリーズにまとめられ、慶応義塾大学出版会により出版された<sup>6</sup>。その影響で2010年以降、日中戦争に関する研究がより一層進展するようになった。日本側の研究傾向として、①日本史研究ではより精緻になる、②中国史研究では新たな資料の公開（例えば蒋介石日記など）や利用環境の整備によって、さらに研究が進められるようになった、③政治外交史や軍事史だけでなく、「総力戦と社会変容」、「占領地統治と「傀儡政権」問題」、「上海租界研究」、「外交国際関係」、「メディアと文化」など多岐的な研究が展開される、というところが見られる。

特に、「メディアと文化」の分野については、植民地や占領地を含む帝国日本の統治メカニズムに関する研究の進展を背景に、帝国圏の様々なメディアの機能に関する研究が盛んである。例えば、竹山昭子『史料が語る太平洋戦争下の放送』（2005）<sup>7</sup>、山本武利が編集したメディア史に関する論文集（2006）<sup>8</sup>、貴志俊彦・川島真・孫安石編『戦争・ラジオ・記憶』（2006）<sup>9</sup>がある。また日中戦時下の映画や舞踊に関する研究も増えてきた。その代表として、晏妮『戦時日中映画交渉史』（2010）<sup>10</sup>、星野幸代『日中戦争下のモダンダンス』（2018）<sup>11</sup>、西村正男『移動するメディアとプロパガンダ——日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術』（2020）<sup>12</sup>などがあげられる。

## 2. 音楽史における「日中戦争」に関する研究の研究史

しかし、日本や中国の近代史のなかでは、いずれも「音楽」の位置づけについて、他分野の研究進展と比べると、それまであまり言及されなかった。

日本では、歴史学の研究動向を踏まえて、音楽学の学界にも「日中戦争」に関する研究の端緒が開けつつあるとみられる。2000年2月の「洋楽文化研究会」の設立が「十五年戦

---

<sup>4</sup> 「日中歴史共同研究」プロジェクト(2006-2010)は、研究者による冷静な研究を通じて、学術的に歴史の事実を明らかにし、歴史認識に関する意見を交換して、歴史認識の隔たりと問題を分析することで歴史問題をめぐる対立感情を和らげ、日中両国の交流を増進して両国間の平和的な友好関係を深めることを目的とする。2006年10月8日、安倍晋三総理大臣と胡錦濤国家主席は日中の研究者による歴史共同研究を立ち上げることで合意を結成した。その後、両国政府は各10名の研究者を選び、共同研究委員会を組織した。2006年12月26、27日、日中両国の委員が第1回全体会合および古代・中近世史分科会、近現代史分科会の会合を北京中国社会科学院で開催した（第1期「日中歴史共同研究」報告書より参考）。

<sup>5</sup> 第1期「日中歴史共同研究」報告書、3頁。

<sup>6</sup> 「日中戦争の国際共同研究」シリーズ、東京：慶応義塾大学出版会、出版年2006年から2017までとする。タイトルは1. 中国の地域政権と日本の統治（2006）、2. 日中戦争の軍事的展開（2006）、3. 日中戦争期中国の社会と文化（2010）、4. 国際関係のなかの日中戦争（2011）、5. 戦時期の中国の経済発展と社会変容（2014）、6. 日中終戦と戦後アジアへの展望（2017）がある。

<sup>7</sup> 竹山昭子『史料が語る太平洋戦争下の放送』東京：世界思想社、2005年。

<sup>8</sup> 山本武利編『岩波講座 帝国日本の学知』（第四巻）東京：岩波書店、2006年。

<sup>9</sup> 貴志俊彦・川島真・孫安石編『戦争・ラジオ・記憶』東京：勉誠出版、2006年。

<sup>10</sup> 晏妮『戦時日中映画交渉史』東京：岩波書店、2010年。

<sup>11</sup> 星野幸代『日中戦争下のモダンダンス』東京：汲古書院、2018年2月。

<sup>12</sup> 西村正男『移動するメディアとプロパガンダ——日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術』東京：勉誠出版、2020年3月。

争期」を含め 1910 年代から 1940 年代までの日本をめぐる洋楽研究を促進する大きなきっかけとなったと考えられる。その代表である戸ノ下達也、幹事の上田誠二、顧問の長木誠司は、そこから「十五年戦争期」の音楽史に関する研究をリードした研究者でもある。同年 12 月、日本音楽学会第 52 回全国大会ではシンポジウム「十五年戦争期の日本の音楽文化と社会」が開催された。シンポジウムでは「十五年戦争期」の音楽に関して、再認識すべきであると提起され、また戦時下の邦楽の動向も注目すべきであり、歴史学と音楽学の間の対話・交流も必要であると言及された。

このような学会での動きを踏まえて、2000 年以降、戦時下の音楽文化に関する研究に光が当てられつつあるようになった。その結果として、2006 年 9 月 9 日洋楽文化史研究会と日本音楽学会関東支部の合同例会として、シンポジウム「戦争・メディア・音楽——二つの大戦と日本の音楽文化」が開催された。シンポジウムで議論されたテーマは論文集『総力戦と音楽文化——音と声の戦争』<sup>13</sup>にまとめられ、出版された。また、戸ノ下達也『音楽を動員せよ 統制と娯楽の十五年戦争』<sup>14</sup>、酒井健太郎や松岡昌和の外地、南方占領地における音楽文化の研究、榎本泰子や井口淳子の戦時下の上海租界における音楽文化に関する研究などが現れた。2015 年の終戦 70 周年を契機として、戦時下の音楽文化研究はより一層促進されるようになった。

一方、中国では「戦時下の音楽文化」に関する研究は蓄積があるが、中国共産党史・中国革命史の歴史観の影響で 2000 年までの研究は、「抗日音楽に関する研究への集中」の傾向が見られる。2010 年代以降、日本側の研究成果や歴史資料を参照しつつ、新たな研究が現れるようになった。例えば、日本占領下の哈爾濱における音楽活動の実態に関する研究（王岩 2013）や旧満州国のラジオ放送と音楽に関する研究（陈乃良 2014、劉潤 2015）、また占領下の上海における音楽文化研究（留生 2016）などあげられる。

### 3. 問題提起、研究意義

以上の研究史を踏まえて、「日中戦争」における音楽文化に関する研究には、日中両国とも以下の研究傾向が見られる。

歴史的な角度から見ると、①20 世紀前半の日中音楽交流史においての「日中戦争期」に関して、これまでは漠然と語られていたが、歴史学の進展に伴い 2000 年以降には研究の機運が高まってきた。②2000 年以降、音楽分野では戦時下の研究が少しずつ現れていたが、戦時下の日中音楽交流の実態に関してまだ十分に検討されていない現状である。

地理的な角度から見ると、①日本側の研究では戦時下の日本国内の楽壇の状況、占領下の南方、旧満洲国、戦時下の上海租界が主な研究地域と見られる。②一方、中国側の研究では共産党が勢力を持つ「革命区」（大後方）、国民党が勢力を持つ「国統区」、日本占領下の哈爾濱、戦時下の上海租界を主な研究地域と見られる。



図 0-1 戦時期の音楽文化研究現状（概念図）

<sup>13</sup> 戸ノ下達也、長木誠司編著『総力戦と音楽文化——音と声の戦争』東京：青弓社、2008 年。

<sup>14</sup> 戸ノ下達也『音楽を動員せよ 統制と娯楽の十五年戦争』〈越境する近代 5〉東京：青弓社、2008 年。

しかし、中国国内では、1937年日中戦争の勃発より1945年の終戦まで約8年間日本軍の占領地となり、また戦時下日本の新たな基地と位置付けられた北京を中心とする華北地域の日中音楽交流に関する研究が少ない。戦時下の北京における音楽文化については、これまで近代北京音楽史の中で言及された（孟維平、2012）が、その他の研究成果としては、江文也の戦時下北京における音楽活動研究（劉麟玉、2005）、新民会による北京の音楽活動研究（王垠丹、2013）がある。特に、王の研究は日本占領下の「新民会」の音楽活動に注目し、北京で発行された中国語新聞の『新民報』から当時の音楽状況を明らかにしたものであり、当研究分野では重要な参考文献となる。しかし、特定の組織に限定されたため、当時の音楽文化の全般的な状況が見られない点を含め、日本語資料の活用不足は大きな欠陥と指摘せざるを得ない。

北京は、中華民国初期では近代の中国における音楽教育の展開や西洋音楽の普及に際して全国の中心地として位置づけられる。また地理的な角度から見ると、日中戦時下の中国の東北地域と華中地域をつなぐ役割も看過できない。そのため、本研究では戦時下の北京に注目し、日本占領下の北京における音楽活動の実態を明らかにし、近代北京音楽史における日中戦争下の「空白」を埋めることによって、戦前・戦中・戦後を超えて、近代北京音楽史の全体像を捉えることが可能となること、日中戦争下の日中音楽交流史を中国の東北地域、華北地域、華中地域など、それぞれ地域を跨ぐ全面的研究が可能になることに意義があると考えられる。

## 第二節 研究視角と研究方法

### 1. 日中戦時下における「音楽交渉」の概念

これまでの日中戦争下の音楽史研究では、国別の音楽史という見方に則ったものが多かった。しかし、戦時期の音楽史に限って言えば、戦争と植民地や占領地の支配という歴史的コンテクストにおいて、支配と被支配の複雑な関係を捉えなければならないにもかかわらず、どちらか一方を省略せざるを得ないという傾向があるように思われる。こうした国別の文化史の叙述を構築的に打破しようとして、近年来「日中戦争下」の視点によって両国の状況を照らし合わせた研究成果が少なからず出されてきたといえる。例えば星野幸代『日中戦争下のモダンダンス』（2018）、西村正男『移動するメディアとプロパガンダ——日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術』（2020）が挙げられる。しかし、音楽史の分野ではまだ研究が不十分であると思われる。この現状に対して、戦時下において関わっていた日中両国の音楽史を越境的な視座でとらえ直してみたいと考えている。

その入口としては、戦時下の音楽による文化の接触は「音楽交流」より「音楽交渉」であると定義したい。戦争の文脈において支配側と非支配側、侵略側と被侵略側という非対称的な関係が存在しているため、そのような情勢の下に平等に「交流」することはそもそも難しいと思われる。戦争の複雑な歴史的背景を考えると、対峙しつつも時折「連携」「協力」も生まれたりした当時の「交渉」は、非常に複雑なものである。そのため、「音楽交渉」という視角から、戦時下の音楽史において非対称関係にある両者に刺激を与えつつ相互影響を及ぼして、文化的に浸透し合う現象をもたらしていた音楽の文化を分析していきたい。

## 2. 研究方法

研究方法は史料文献の調査・分析により基礎的なデータを収集し、それをもとに考察するという手順で行った。具体的には以下の通りである。

- ・音楽との直接関係資料——音楽活動の実態を考察する
  - (1)新聞、雑誌（音楽専門誌）における音楽記事
  - (2)当時の演奏会プログラムに載った音楽情報
  - (3)手稿譜、当時の出版譜などの楽譜資料
- ・音楽との間接関係資料——音楽活動の背景と動機を考察する
  - (4)戦時下の音楽政策/音楽文化工作に関する外交史料、公文書などの文書資料
  - (5)音楽家の情報に関する文書資料（出身、履歴、活動記録など）
  - (6)音楽活動に関する「学校」「団体」「場所」などの関係文書資料

研究内容は以下の三つに順序立てられる。まず、上記の音楽との直接/間接関係資料を収集し、分類する。これにより、戦時下の北京における音楽文化の各側面から「誰か、どこで、何のために、何をしたのか」という基本情報を把握する。そして、以上の調査結果を踏まえて、(3)の楽譜資料を収集し、当時の音楽活動に行われた演奏活動のレパートリーを整理し、戦時下の北京にはどのような音楽が演奏されたのかを解明する。最後は、基本情報の把握により、当時の北京で重要な役割を果たした音楽家や、音楽活動を選び、(4)(5)(6)の資料を使ってこれらの音楽活動の背景と動機を考察する。

## 3. 史料調査・分析

日本占領下の北京における音楽文化に関する研究は立ち遅れていて、殆どの状況が不明瞭なままである。そのため、研究の基盤となる基礎的な資料の調査と収集が今回の主な作業であった。その結果は、以下の二点を取り上げる。

①日本占領下の北京で発行された中国語新聞『新民報』（日刊紙）について調査を行い、そのなかの音楽関連記事を抽出する作業を行った。『新民報』は1938年1月1日から1944年4月まで発行された新聞紙であり、朝刊8版、夕刊4版という構成である。文芸に関する情報は、主に朝刊の8版目「明珠」という欄で掲載されている。本研究では、1938年1月から1942年12月まで5年分の資料調査と複写作業を終了し、音楽関連記事は約1500点以上を発見した。これらの資料のもとに、音楽記事細目（『新民報』における音楽記事一覧）を完成し、付録として添付した。

②『新民報』のほかに、1937～1945年の戦時下の北京における音楽活動を対象として、日本語と中国語の一般紙、音楽新聞紙および音楽専門誌における音楽記事を収集した。中国側の先行研究で、言語の壁による日本語資料の考察不足という課題を解決するため、本研究では特に日本語の音楽関連資料を網羅的に調査し、資料収集を行った。その結果、戦後には日本・中国のいずれも顧みられてこなかった戦時下の北京における音楽活動に関する貴重な資料や記事など約30点以上を発見し、音楽記事の一覧を作成し、付録として添付した。

上記の資料調査の成果から、戦時下の北京で行われた音楽活動の実態を解明できるだけでなく、占領下北京における日中音楽交渉によって生まれた音楽文化の新たな側面を具体的に描出できると考える。また、該当研究分野のより広い視野からの研究に対して、基盤

となる参考資料である点でも意義深い。

表 0-1：資料調査の状況とその結果

調査地	調査期間	資料名	資料類型	調査範囲	調査結果
東京	2019年4月～8月	『音楽世界』	音楽雑誌	1937.7-1941.10 全号	戦時下の北京音楽情報に関わる日本語の記事28点。
		『音楽之友』	音楽雑誌	1941.12-1943.1 全号	
		『音楽教育研究』	音楽雑誌	1939.10-1943.5 全号	
		『音楽文化新聞』	音楽雑誌	1941.12-1943.9 全号	
		『朝日新聞』DB	一般紙	1937.7-1945.8	
		『読売新聞』DB	一般紙	1937.7-1945.8	
		『毎日新聞』DB	一般紙	1937.7-1945.8	
		『揚子江』	一般雑誌	1938.9-1944.12 全号	
北京	2019年9月	『新民報』	一般紙	1941.1.1-1942.12.31	中国語の音楽記事295点。
東京	2019年10月～12月	『吹奏楽』、 『音楽新潮』、 『音楽評論』	音楽雑誌	1937.7-1945.8	戦時下の北京音楽情報に関わる日本語の記事5点。
京都	2020年1月	『新民報』	一般紙	1938.1-1940.10	中国語の音楽記事1223点。

上記の資料調査の結果に基づいて著者作成

### 第三節 各章の構成

本論文は、以下のように構成される。

第一章では、近代における北京の音楽文化をより理解できるように、先行研究や修士論文をもとに、中華民国から占領期までの北京音楽略史を述べる。特に以下三つの方面から説明する。一点目は、北京の大学における音楽教育機関の設立である。音楽教育機関は、音楽の普及と発展に際して重要な基盤だと思われる。この部分では、1910～1930年代の北京における音楽専門教育はどのように発展してきたのか、その全体像を提示する。二点目は、1920～30年代の北京における実際の音楽享受を演奏会の実態を通して提示する。どのような演奏家がいたのか、どのようなレパートリーが演奏されたのか、聴衆のレベルはどうだったのかを明らかにする。三点目は、音楽環境の整備に注目する。特に1910～20年代に東京音楽学校に留学した経験があり、1920～30年代北京楽壇のキーパーソンである柯政和の音楽事業を中心に説明する。

第二章では、日本占領下の北京におけるどのような文化政策が行われたのか、日本側ではどのような機運があったのかを明らかにする。北京を中心とする華北地域では、日本軍の占領地になって以降、北京での音楽工作の展開を推進する気運が、日本国内とりわけ音

楽界で高まっていった。その重要な誘因となったのが、1937年12月7日から11日まで東京で開催された「東亜文化振興協議会」（1938年「東亜文化協議会」に改称）であったことがわかった。そして、北京における「音楽工作」の実態について、日本化教育（プロパガンダ）としての「音楽工作」、北京中央放送局における「音楽工作」の展開、そして1942年から総力戦体制と楽壇の統制による「音楽工作」の教化という展開のプロセスを明らかにする。

第三章では、1937～1945年日本軍の占領地となった北京における日本人音楽家の音楽活動に焦点を当て、従来漠然とした把握にとどまっていた戦時下の北京における西洋音楽を中心とした音楽文化の一側面を明らかにする。特に戦時下において初めて北京に移住した日本人音楽家袴田克巳夫妻や、北京に派遣された北支那方面軍軍楽隊、そして史料から多く見られた北京に渡航した東京音楽学校の卒業生（井上直二、寶井真一、荒井三郎など）の音楽活動と一時的に北京に渡った音楽家・音楽関係者（藤原義江、山田耕筰など）の音楽活動を明らかにする。

第四章では、占領下の北京における中国人・台湾人および欧米人音楽家の音楽活動に注目する。まずは、新たに発見された史料に基づき、「台湾出身」音楽家の江文也が占領下の北京において行った声楽曲を中心とした演奏活動の実態を明らかにする。加えて、中国人、欧米人音楽家が主催した慈善演奏会では、宗教音楽をテーマとした演奏会が多く開催されたことの意義を指摘する。これらの演奏会において、占領空間に置かれた人々は、西洋音楽の中に平和への祈りを込めていたことが明らかにする。

最後には、以上の四章の検討を踏まえて、結論を導く。

## 第一章 中華民国から日本占領期までの北京音楽略史（1912～1937）

近代における北京の音楽文化をより理解できるように、先行研究や修士論文に基づいて、中華民国から日本占領期までの北京音楽略史を述べる。

### 第一節 北京における音楽教育機関の設立

音楽教育機関は、音楽の普及と発展に際して重要な基盤だと思われる。孟維平の著作によると、1898-1927年までの北京は、中国近代における新音楽<sup>15</sup>文化の中心となっていた<sup>16</sup>。1919年に、「新文化運動」と呼ばれる「五・四運動」が起きたのに続き、蔡元培（1868-1940）が「美育論」を提唱すると共に、中国の音楽界では、種々の新しい動きが見え始めた。大学に音楽専攻を設置し、音楽団体や音楽活動が増えていた。

まず、音楽教育機関から見ると、1927年に上海国立音楽院<sup>17</sup>という中国近代における最初の音楽専門教育機関が成立するまでに、北京では幾つかの大学に音楽の専攻が先に設置されていた。例えば、教会大学の燕京大学（1919）、北京女子高等師範学校（1920）、国立北京師範大学（1923）、国立北京芸術専門学校（1925）に、音楽科が徐々に立ち上げられるようになった。そして、音楽団体について言えば、1916年成立した北京大学音楽研究会は、1922年音楽伝習所となり、近代中国における最初の高等音楽教育機関となった。1920年、ドイツに留学した蕭友梅（1884-1940）<sup>18</sup>が帰国し、北京大学音楽伝習所と北京女子高等師範学校の音楽教育の主宰者となり、1922年には初めての中国人のオーケストラを創立したが、演奏会の開催から見ると、在中西洋人の演奏会が中心となり、中国人の演奏会はまだ学校教育の成果を披露するものに限られていた。また、音楽雑誌については、北京大学音楽研究会により1920年3月から創刊され、1921年12月まで続けていた『音楽雑誌』がある。

1927年までは、北京の音楽界は、学校音楽教育及び師範音楽教育が中心である。蕭友梅の主宰する北京大学音楽伝習所が中心となり、中国における西洋音楽発展の舵を取っていた。1920年代の北京音楽界は、西洋音楽が普及する一方で、新音楽の樹立を探求している段階にあったと言えよう。

### 第二節 北京における音楽享受の実態——西楽社、北京愛美楽社を事例として

1926年4月11日には北京師範大学の生徒が「西楽社」という音楽サークルを創立した。『发起师大西乐社缘起』（訳：師範大学西楽社創立章程）によると、その契機とは、生徒は柯政和教員が西洋音楽の普及に寝食を忘れるほど尽力していたことに感心し、「西楽社」を創立したのである。北京師範大学の学生なら誰でも参加でき、ヴァイオリン、ハーモニ

<sup>15</sup> 新音楽とは、西洋音楽の受容による新しい音楽であり、中国の伝統音楽と区別するため新音楽と称した。

<sup>16</sup> 孟維平『北京近代新音乐发展史研究』北京：首都师范大学出版社、2012年を参考にした。

<sup>17</sup> 1927年11月27日に蔡元培と蕭友梅によって建設された国立音楽院であり、現在の中国上海音楽学院の前身である。

<sup>18</sup> 蕭友梅（1884-1940）中国広東省中山県出身。1901年から日本に留学し、東京音楽学校選科で声楽とピアノ、東京大学で教育学を専攻した。1910年からドイツのライプツィヒ音楽院とライプツィヒ大学で学び、博士学位を取得。1927年中国最初の音楽院である上海国立音楽院を設立した。音楽教育家、作曲家、近代中国の音楽教育の第一人者である。

カ、ピアノ、唱歌、楽理、軍楽という六つの組に分かれて活動することになった。初期のメンバーは、当時の北京師範大学の学生を中心に23名が集まっていた。また、活動内容は西洋音楽の普及を趣旨とし、音楽会やマスター講座の開催、音楽雑誌の発行と唱歌コンクールの実施などの事業案を立てていたことがわかった。西楽社の成員として、柯政和の名が記入されていなかったが、柯政和がこのサークルに協力していたことが推測できる。

そして、設立後間もない1926年5月1日と5月10日に、西楽社は北京師範大学で第1回、第2回の蓄音機音楽会を開催した。同年12月26日、西楽社の主催により第1回音楽会が北京師範大学で開催された。出演者は、生徒が中心になり、客員による演奏があったが、そのうちの1人が1926年春から北京師範大学のハーモニカ教授を務めている井奥敬一<sup>19</sup>である。プログラムによると、ハーモニカ曲は独奏から二重奏、三重奏さらに大合奏を含み、全体プログラムの約半分(11曲/24曲)を占めている。これは、北京師範大学が1926年春から新しく開設したハーモニカ授業の教育成果を披露したものとも言える。

続いて、1927年5月23日には、柯政和の提案により、西楽社を前身とする社会人向けの「北京愛美楽社」という音楽団体を立ち上げた。同年6月3日に「愛美楽社成立宣言」という文章が新聞紙『世界日報』に掲載された。北京愛美楽社の社員は、西楽社の成員をもとに、当時北京の音楽界で重要な人物である劉天華と北京師範大学や附属高校の教員を含む19人を加え、合計42名となった。事業計画として、定期演奏会(外国演奏家を呼ぶ)の開催、社刊『新楽潮』の発行、中国と外国演奏家の紹介、音楽学校の設立などの提案を企てた。

同年6月、社刊『新楽潮』創刊号を発行し、6月25日には、北京愛美楽社の主催により第1回音楽会を開催した。また、当時の音楽教育の変遷に応じるため、10月19日、北京愛美楽社により社会人向けの音楽学校を創立し、ヴァイオリン、ピアノ、唱歌、チェロ、国楽、楽理という授業が柯政和を含む中外の音楽家により行われていた。一方で、西洋音楽の普及のため、1929年まで8回の音楽会が行われた。記録が以下のように残っている<sup>20</sup>。

- 第1回 1927年6月25日 北京愛美楽社成立音楽会
- 第2回 1927年12月20日 ルーマニアのヴァイオリン演奏家とピアノ演奏家の音楽会
- 第3回 1928年1月12日 北京愛美楽社と国楽改進社の合同音楽会
- 第4回 1928年4月3日 ロシアのピアノ演奏家 Oleg Pershin 音楽会
- 第5回 1928年10月15日 オーストリアのピアノ演奏家 Leo. Sirota の音楽会
- 第6回 1929年1月31日 シューベルト没後百年記念音楽会
- 第7回 11月?日 ロシアのピアノ演奏家 Benno Moiseiwitsh 音楽会
- 第8回 11月8日 オランダのソプラノ Renee Pelerin の音楽会

西楽社の音楽会とは違い、北京愛美楽社により開催された音楽会は、学生向けだけでなく、社会人を含む一般公開の音楽会と思われる。そして、音楽会の演奏者は、主に外国人演奏者が中心であった。なぜこのような音楽会が開催されるかと言えば、「音楽会には短期間に、大勢の聴衆を集められるという特徴があつて、西洋音楽の普及に対してよい効果

<sup>19</sup> 井奥敬一(生没年不詳)、日本蝶印ハーモニカ楽団のメンバー。大連山葉洋行楽器部に所属。1926年から北京師範大学の音楽講師を務めた。

<sup>20</sup> 李岩「20世紀20年代的西乐社、爱美乐社及柯政和」『音乐研究』第3期、2003年、34～43頁。

を収めるというメリットがある、さらに外国人演奏者の音楽会は一番人気がある」と、柯政和が「民国十六音楽界」という文章で述べている<sup>21</sup>。また当時の外国人演奏会の予告は、外国人の新聞に掲載されることがよく見られるため、北京に滞在する外国人をターゲットとしたものが多いと推測される。北京愛美楽社により開催された外国演奏者の音楽会は、1920年代末の北京における西洋音楽の普及に促進させる役割を果たしたと言えよう。

### 第三節 北京における音楽環境の整備—柯政和と中華楽社を事例として

#### 1. 柯政和について

柯政和は1890年11月11日、台湾台南県塩水港に生まれ、日本植民地時代の台湾で幼少期を過ごした。1907年に台湾総督府国語学校師範科に入学した。当時の国語学校には、多数の日本人が教員を務めていた。孫芝君の研究によると、日本人音楽教員の高橋二三四（1896.6～1907.11 在職）、鈴木保羅（1905～1908 在職）、入江好治郎（1910.4～1915 在職）、張福興（1910～1926 在職）が在職していたことが分かった<sup>22</sup>。そして、国語学校では様々な演奏会を行い、当時の台湾における西洋音楽の演奏について重要な「場」となっていた<sup>23</sup>。そうした環境で、柯政和は最初の専門的な音楽教育を受け、西洋音楽に対する関心を寄せたと思われる。

1911年、柯政和は音楽の優れた才能を示したため、総督府の推薦を受けて公費留学生として東京音楽学校選科に入学し、その後1912年に甲種師範科に進学した。当時のカリキュラムによると、柯政和は、唱歌、器楽の演奏、音楽通論、和声論、音楽史、教育法まで全面的な教育を受けたと考えられる<sup>24</sup>。また、柯政和の在籍期間における東京音楽学校の教授陣を見ると、たとえば唱歌の鳥居枕、ピアノの橘糸重、杉浦チカ、ヴァイオリンの川上淳、大塚淳、和声論の本居長世、クローン・ダスタフ、音楽史の富尾木知佳などがいた<sup>25</sup>。当時の東京音楽学校には、西洋音楽教育の最優秀者が集まっていたと言える。1915年東京音楽学校を修了後、台湾総督府国語学校に戻り、音楽講師を務める一方で「台湾音楽会」を創立するなど、様々な活動を展開した。1919年には再び日本に留学し、東京音楽学校聴講科と上智大学文学部ドイツ文学科に在学した。再留学の理由は不明であるが、ドイツ語の習得経験が後の音楽出版事業に活用されたことは間違いないだろう。1921年、柯政和は岡本友江<sup>26</sup>と結婚した。

東京に滞在した約7年間は、柯政和の音楽キャリアにおいて非常に重要な時期であった。柯政和が日本に留学したのは日本の大正時代であり、日本の西洋音楽出版・音楽産業が「年々盛ン」になっていた時代でもあった。ここではとくに、柯政和と大正時代の音楽出版界に重要な位置を占めていた山本正夫との交友関係に注目したい。山本正夫（本名は堤正夫、1880～1943）は、1903年に東京音楽学校本科器楽部（ヴァイオリン）卒業後、音楽教育の現場に立ち続けていた。一方で山本は、音楽社の経営や雑誌『音楽界』の編集主幹

<sup>21</sup> 柯政和「民国十六音楽界」『新楽潮』第1巻第5期、1927年、2頁。

<sup>22</sup> 孫芝君「日治時期台湾師範學校音楽教育之研究」国立台湾師範大學碩士論文、1997年、99～100頁。

<sup>23</sup> 劉麟玉（2005）、岡部芳広（2007）、鄭曉麗（2018）を参照した。

<sup>24</sup> 『東京音楽学校一覽』（明治45～大正2年）、40～41頁。

<sup>25</sup> 「東京音楽学校職員一覽および在職年表」『東京藝術大学百年史 東京音楽学校編 第二巻』、1594～1600頁。

<sup>26</sup> 岡本友江、石川県金沢出身。ミッションスクール（現在の北陸学院）に在学した（『読売東京』1921年10月30日第4頁による）。1922年、北京に移住してから「柯静君」に改名した。

を務めたほか、音楽教育会、帝国楽事会などの音楽団体の運営に携わる音楽実業家でもあった。二人の最初の接触は、1913年、柯政和による文章「台湾の劇について」「台湾の民謡」が、山本正夫が主宰する『音楽界』に掲載された時であると考えられる<sup>27</sup>。また1921年12月3日、柯政和は東洋の平和のためとして、中国人、台湾人、日本人、朝鮮人の親睦を目的とする共同演奏会を開催したが、山本はその主な後援者の一人であった<sup>28</sup>。山本はこの演奏会について、東京音楽学校ウヰルクマイステル氏（ヴェルクマイスター）の最後の演奏会と同じく当年の日本楽壇に大きな影響を与えたと指摘した<sup>29</sup>。ここから、柯政和の最初の留学時代から二人が深く交友したことが窺える。山本正夫の音楽教育、音楽出版および音楽産業の発展に全力を尽した姿は、柯政和の北京での音楽活動のモデルになった可能性が高いと推測される。

1922年、柯政和は妻の岡本氏と共に北京に移住した。北京に渡った契機は不明であるが、北京での音楽活動は柯政和の音楽キャリアに重要な時期であったことは間違いない。彼は1923年から北京師範大学の音楽教授を務めるかわり、1926年の中華楽社の設立、1927年の北京愛美楽社の創立と社刊『新楽潮』の発行、外国人の演奏会のプロデュース、また1935年の中国教育音楽促進会の創立など、多様な事業を展開した。これらの活動によって、柯政和は北京の音楽界で活躍する人々との人脈を広げ、自身の影響力を確立することができた。彼は、間もなく北京音楽界の主な担い手となった。

## 2. 中華楽社の設立と変遷

先行研究によると、中華楽社（The Chinese Music Company、中国語：中華樂社）は1928年にはすでに営業していたとされるが、具体的な設立時期については記載がない。しかし、当時北京で発行されていた『世界日報』（The World Morning Post）という日刊新聞をみると、1927年1月6日から26日まで、20日間連続で中華楽社の広告があった<sup>30</sup>。これにより、中華楽社は1926年には音楽商店としてすでに設立されていたと推測できる。草創期の中華楽社は、各国からピアノ、ヴァイオリン、レコード、楽譜・音楽書を取り扱っていた。当時の北京における西洋楽器・楽譜の取扱と販売の担い手は、主に北京、天津の外国人が経営する商社（中国語で洋行）が中心であった。北京には、モートリー商会（Moutrie&Company, Ltd.）があり、天津にはフランス租界の法華教育用品会社、日本租界の副華洋行などがあった。中華楽社が設立された一方で、同年には中国人の孟其昌が、主に中国の楽器や楽譜などの音楽用品を取り扱う「孟広楽社」（中国語：孟廣樂社）を創業した。1937年までの北京において、中国人が経営する音楽専門商店はこの二店のみであっ

---

<sup>27</sup> 柯政和が筆名の郢成康で「台湾の劇に就いて」（『音楽界』、第6巻第2号、1913年2月、36～39頁）と「台湾の民謡」（『音楽界』第6巻第3号、1913年3月、63～64頁）を投稿した。「台湾の劇に就いて」と同じ文章が、柯丁丑の名前で『台湾教育会雑誌』（1913年第133号、57～62頁）にも掲載されている。

<sup>28</sup> 「内地人を妻とする音楽家の柯氏一日支鮮人融合の為音楽院を組織」『読売東京』1921年10月30日、朝刊、4頁。

<sup>29</sup> 山本正夫「十二月号の巻頭に」『音楽界』1921年12月号（第242号）、1頁。

<sup>30</sup> 『世界日報』（The World Morning Post）は、1925年成舍我（1898-1991）により北平（北京）で創刊された日刊新聞であった。1日平均の売上は3～4万部で、華北地区で影響力を持っていた。特に文化と教育に関心の高い読者が多数を占めており、当時是一定の地位を占めていた（張友鸞著『世界日報盛衰史』、重慶：重慶出版社、1982年、12頁）。

た<sup>31</sup>。

とはいえ、当時の北京師範大学で音楽教授を務めていた柯政和は、なぜ、どのようなきっかけで中華楽社を設立したのだろうか。柯政和は「我が国の音楽教育は、教師の養成、教科書の編成、教具の配備など、まだ十分に整備されていない状態であった」と述べている<sup>32</sup>。一方、柯政和の遺族からは、「父は、音楽発展に必要な環境から作ろうと考え、音楽商店の運営楽譜・音楽書の編集、印刷、出版まで、全て自分で創業してきた」との証言を得た<sup>33</sup>。したがって、設立理由は明示されていないものの、中華楽社の事業は、柯政和の北京における音楽事業構想の一部に含まれていたであろう。

また特筆すべきは、柯政和と大連山葉洋行楽器部<sup>34</sup>の経理を務める山葉亀五郎<sup>35</sup>との関わりである。1925年10月8日、柯政和は山葉亀五郎に依頼して日本蝶印ハーモニカ楽団を呼び、北京師範大学で演奏会を開催した。出演者は、井奥敬一、小幡四郎、新村武、鈴木信であった。聴衆は2000人以上集まり、この演奏会は北京において「ハーモニカ・ブーム」を巻き起こすこととなった<sup>36</sup>。その勢いによって、1926年春、柯政和は井奥敬一を招聘して、北京師範大学にハーモニカの授業を開設することになった<sup>37</sup>。この出来事は、中華楽社の音楽出版事業の展開のきっかけとなったと考えられる。

1927年3月、井奥敬一著・柯政和訳による『初等口琴練習集』が出版された。これは中華楽社の最初の出版物であった。翌年には、後編『口琴如何吹奏』（『ハーモニカの演奏法』）、柯政和・張秀山共編『名歌新集』（第1冊）が引き続き出版された。1927年5月には、柯政和が主宰する「北京愛美楽社」が設立された。同年6月、社刊『新樂潮』が中華楽社により発行された。その後、多数の中華楽社の広告が『新樂潮』に掲載されていた。

1932年、中華楽社は北京の立達書局、和濟印書局と合併し、志誠実業株式会社の一部となった<sup>38</sup>。中華楽社（商店と出版部門）は志誠実業株式会社の楽器部となり、同年起業した中華ピアノ工場は、志誠実業株式会社の製造部となった。国産の中華ピアノの開発に取り組んだきっかけは、柯政和が当時の「産業の発展を通じて国を救う」という考えに影響を受けたからだと考えられる。中華ピアノは、英語名はOriental Pianoであり、中国語名は「中華鋼琴」である。製造の詳細な情報について、今のところはないが、1933年中華楽社が出版した音楽教科書には、中華ピアノの広告が掲載された<sup>39</sup>。

1920～30年代の北京において人気を博した中華楽社の事業であったが、1936年頃を境にその勢いは衰えていた。音楽商店は、経営不振のため1937年頃に閉店し、その後中華楽社

---

<sup>31</sup> 李岩「旧中国的孟广乐社」『朔风起时弄乐潮 李岩音乐学术论文集』上海：上海音乐学院出版社、2004年、198～200頁。

<sup>32</sup> 柯政和「發刊辭」『新樂潮』第1巻第1號、1927年、1頁。

<sup>33</sup> 柯政和の息子である柯智翹（1933～）に、2017年9月6日、15日、22日に電話によりインタビューを行った。

<sup>34</sup> 大連山葉洋行は、明治41年（1908）に開設された日本楽器（現ヤマハ）大連支店を大正12年（1923）に廃止し、同年大陸進出の拠点として設立された会社である。

<sup>35</sup> 山葉寅楠の甥である。日本楽器製造株式会社技師。

<sup>36</sup> 李岩「20世紀20年代的西乐社、爱美乐社及柯政和」『音乐研究』第3期、2003年、36頁。

<sup>37</sup> 「序言」、柯政和編『口琴如何吹奏』中華楽社、1928年、3頁。

<sup>38</sup> 志誠實業有限公司編『志誠實業有限公司：發起、章程、沿革、現狀』北平：志誠實業有限公司、1932年、4頁。

<sup>39</sup> 柯政和編『模範唱歌教科書・様本』北平：中華楽社出版、1933年、5頁。

の名は途絶えてしまった。音楽出版社は、1936年6月以後、中国教育音楽促進会という名を経て、1938年から新民音楽書局と名称を変更した。しかし1941年頃以降は、それも徐々に歴史の舞台から退いたようだ。これらの変遷は、おそらく日中戦争の影響を受けたものと考えられる。

#### 第四節 まとめ

1912年から1937年占領期までの北京音楽史は、大枠に二つの段階に分けられる。

まず、1912年から1927年までの北京は、中国近代における西洋音楽や専門音楽教育の中心となっていた。1919年に「新文化運動」が起きたのに続き、蔡元培が提唱した「美育論」が教育の現場に浸透しつつある。それに伴い、音楽界でも様々な新しい動きが始めるようになった。北京大学音楽研究会（1922年北京大學音楽伝習所と改称した）をはじめ、教会大学を含む各大学では音楽専攻が開設し、音楽団体の結成も増えてきた。1927年までの北京音楽界は、日本やドイツに留学した蕭友梅が主な担い手の一人と言える。彼は音楽専門教育の発展に尽力する一方、オーケストラの創立や西洋音楽の演奏会の普及にも力を注いだ。その結果、音楽専門教育や西洋音楽の演奏活動が北京の音楽界に徐々に着地するようになった。

そして、1927年南京政府の成立に伴い、蕭友梅が上海に行き、中国最初の音楽学院である上海国立音楽院を設立したことによって、中国音楽発展の中心地が上海および南方にかわるようになってきた。一見した限りでは、北京音楽界の発展が衰微してくると思われるが、柯政和が主宰する北京愛美楽社により音楽雑誌の発行、演奏会のプロデュース、中華楽社により専門音楽書籍・教科書の出版や音楽商店事業の展開などによって、1927年以降の北京音楽界は、専門音楽教育への転換や西洋音楽を発展するための音楽環境が整備されるようになってきた。

## 第二章 日本占領下の北京における「音楽工作」の構想とその展開（1937～1945）

1937年7月7日の盧溝橋事件を契機に日中全面戦争が勃発した。29日に当時の北京は日本軍の侵入によって陥落した。その後、北京は終戦の1945年までの約8年間、日本軍の統治下に置かれていた。日本占領地となった北京は、「傀儡政権」（対日協力政権）の成立に伴い、人口が変動し、経済、教育や生活のあらゆる面で変化を経験した。また日本軍の政治的・軍事的拡張主義と一体になった文化政策（「対支文化工作」）を巡る議論も日本国内で高まっていた。本章では、日中両国の資料を利用し、「対支文化工作」の一環としての「音楽工作」の構想とその背景、また日本占領下の北京において「音楽工作」の具体的な展開を明らかにする。

### 第一節 日本占領下の北京の基本状況

「音楽工作」の考察に入る前に、まず日本占領下の北京の基本状況を把握しておく必要がある。本節では、主に『日偽北京新民会』（北京市档案馆編、1989）、『抗日战争与中华民族复兴』（叶成林著、2015）、『日本侵华图志 第23卷 扶植伪政权』（张宪文主编、2015）、『傀儡政権—日中戦争、対日協力政権史』（広中一成、2019）、『日中戦争』（波多野澄雄等、2018）等の先行研究に基づいて、傀儡政権である中華民国臨時政府と新民会の成立、戦時下の北京における人口の変動、また文化・教育の動向について記述する。

#### 1. 傀儡政権・中華民国臨時政府の成立と新民会の設立

##### 1-1 傀儡政権・中華民国臨時政府と新民主義

日本軍は盧溝橋事件を起こした後、北京と天津一帯（平津地区）に占領地を拓げるとともに、そこを統治する新たな傀儡政権の設立にも着手した。1937年7月30日、北京が日本軍に占領された翌日に、北平治安維持会<sup>40</sup>が発足した。北平治安維持会が北平の都市名を「北京」に改称した<sup>41</sup>。北平治安維持会の委員は当時華北政財界の要人らが務めたが、それぞれの部局に日本人顧問が置かれ、治安維持会のあらゆる業務に干渉したため、事実上は日本側の指示のもとに行動した。その後、1937年12月14日、北平治安維持会のもとに中華民国臨時政府（以下略称：臨時政府）が成立した。臨時政府は冀東政権<sup>42</sup>と合流し、当時日本占領下に置かれた華北地域（河北省、山東省、河南省、山西省の華北四省、北京

<sup>40</sup> 北平治安維持会は日中戦争期間中、日本軍が占領下北平市に設置された治安維持を主とする行政組織である。同年12月14日に中華民国臨時政府の成立と共に廃止された。

<sup>41</sup> 北京という名称は1421年明朝三代皇帝の永楽帝が即位し、北平遷都の実行によって地名を「北京」に改めた。その後、長く「北京」の名称で使われていたが、1928年、中国を統一した中華民国政府は、首都を南京に置き、北京が首都でなくなったことを表すため、都市名を北平と改めた。北平治安維持会が北平を「北京」と改称した時、日本軍は国民政府に取って代わる新たな華北傀儡政権の設立を進めていて、北京はその首都として想定されていたという。1937年から1945年まで続いた日本軍占領期では北京の名称が用いられたが、1945年日本の敗戦によってふたたび北平に改称され、1949年10月1日の中華人民共和国成立により北平は新中国の首都として、北京と改称され現在に至っている。しかし、日本占領下の北京について、中国側の研究文献では、日本軍占領期の中華民国臨時政府を認めないため、占領期の北京はすべて「北平」と称する。一方、日本語の研究文献では占領期の北京をそのまま「北京」と表す場合が多い傾向にあると見られる。

<sup>42</sup> 冀東政権、全称は冀東防共自治政府である。1935年から1938年まで中国河北省に存在した政権。

市及び天津、青島市といった地区)を統治した。

臨時政府は、冀東政権と同じく第一次国共合作後の国民政府を否定する。国旗は冀東政権も使用していた五色旗、そして国歌は1928年に国民政府が中国を統一するまで歌われていた「卿雲歌」を採用した。臨時政府は行政委員会・議政委員会・司法委員会からなり、最高指導者の主席はひとまず空位とし、行政委員長の王克敏がその間政権の代表者を務めた。



図 2-1：中華民國臨時政府成立式典、北京天安門<sup>43</sup>

臨時政府の施政方針によると、「清除国民党一党専制的積弊，絶対排除容共政策，以体现东亚道義的民族協和精神為基準，与領邦友好相处，谋求真正的親善合作」（中国語）<sup>44</sup>という。要は、国民党の一党独裁の積弊を一掃し、容共政策を絶対に排除し、東アジアの道義を体现する民族協和精神を基準に隣国と友好的につき合い、真の親善協力を求めるというのである（注：筆者訳）。しかし、実際には1938年4月17日、北支那方面軍司令官寺内寿一と王克敏との間で結ばれた「政府顧問約定」によると、臨時政府が必要とする専門技術官・教授・教官・教導などの顧問は、北支那方面軍司令官が推薦した日本人を充てると規定されている。臨時政府の本質は、傀儡政権である。中央・地方各機関にも、従前の傀儡政権と同様、日本軍の命令で日本人顧問が配置されており、臨時政府のあらゆる業務に干渉した。いわゆる日本軍を頂点とする「内面指導」体制<sup>45</sup>が事実上に成立した。臨時政府は1940年に汪兆銘政権に吸収合併されたが、華北政務委員会へと改編され終戦まで華北地域の統治を続けた。

## 1-2 新民会の設立と新民主義

日本の対華北占領統治は、基本的に満洲国協和会のモデルを模倣した。満洲国では建国理念とされた「王道楽土」、「民族協和」といった思想の普及をはかるために、民衆教化

<sup>43</sup> 『朝日新聞畫報』第30巻第1號、特輯『支那戦線寫真』第24報、1938年1月5日、10頁。

<sup>44</sup> 日本防衛廳戦史室編：『華北治安戦（上）』天津：天津人民出版社、1982年、第54～55頁。

<sup>45</sup> 小野美里の博士論文によると、「内面指導」という言葉は、現地占領軍の管下、重要な個所に少数日本人を配置し、水面下で「傀儡」組織を制御する間接支配のことを示す。小野美里「日中戦争期華北占領地における文教政策の展開——「事変」下占領地の「内面指導」」東京首都大学博士論文、2015年、7頁。

団体として満洲国協和会が設立され活動していた<sup>46</sup>。これに基づいて、臨時政府が成立してから10日後に、1937年12月24日北支那方面軍の主導で北京に中華民國新民会（以下「新民会」と略称する）が設立された。

新民会は、「臨時政府と表裏一体の民衆団体」を標榜し、「中日満の共栄を実現し、党（注：共産党）の全滅を目指して世界平和に貢献することを期待している」（筆者訳）を目的とする。新民会は北京に中央指導部本部を置いて、傘下各機関の統治・各種工作の企画指導・職員の養成をする。会長は王克敏が担当して、中央指導部本部のなかに総務部、教化部、厚生部が設置された。繆斌<sup>47</sup>は中央指導部部長兼厚生部長を務め、宋介は教化部長を務め、日本軍華北側の特務部文化組長の小澤開作<sup>48</sup>が総務部長を担当した。そのなかでも総務部は新民会運営の中枢で、部内各科長のほとんどは日本人で占められていた。新民会も臨時政府と同様、事実上日本人によって運営されていたのである。



図 2-2：「新民會首都指導部成立大會紀念攝影」<sup>49</sup>

続いて「臨時政府の立脚する思想的根拠」として、新民会の指導理念として掲げられた「新民主義」について述べる。「新民主義」は、国民党の三民主義及び共産党の共産主義への対抗として、北支軍特務部が支配下の民心を獲得し自発的協力に導くための思想として構想したものである。その名前の由来は、儒教の經典『大学』の冒頭「徳を明らかにすし、民を新たにす」にあったことがよく知られている。新民主義の内容は新民会の初期の綱領と大体一致している。すなわち、「新政権を護持し民意暢達を図る/地産（産業）を開発し民生を安んず/東方の文化道徳を宣揚光被す/剿共滅党の大纛の下に反共戦線に参加す/友隣締盟の実現に邁進し人類平和に貢献す」<sup>50</sup>の5項目である。要は新政府への協力という意味で政治的主体性を発揮し、生活の向上・安定に目を向け、国民党の三民主義や共産党の共産主義を払拭して東洋の「文化道徳」を宣揚し、日本との「友好」に邁進する

<sup>46</sup> 広中一成『傀儡政権—日中戦争、対日協力政権史』東京：角川書店、2019年、97～98頁。

<sup>47</sup> 繆斌（1899-1946）、政治家。北平（北京）に成立した親日政権の中華民國臨時政府に参加した。新民会中央指揮部部長に就任し、会長の王克敏を補佐していた。石原莞爾と親交を結び、「東亜連盟運動」を推進していた。中国側では「漢奸」と認識されている。

<sup>48</sup> 小澤開作（1898-1970）、歯科医師、民族主義者。満州での立場は満州国を日本の統治や傀儡国家としてではなく、五族協和の王道楽土として実現させようとする熱烈な理想主義者であった。北京新民会の創立にわたって重要な人物であった。指揮者の小澤征爾は三男。

<sup>49</sup> 経盛鴻等編著『日本侵華圖志 第23卷 扶植偽政權』濟南：山東畫報出版社、2015年5月、33頁。

<sup>50</sup> 『新民會會務須知』北京：新民會中央指導部出版、1938年、3頁。

よう、民を新たにすることだと理解できよう<sup>51</sup>。

特に、繆斌は中央指導部長に就任後、「新民主主義」を会の行動原理として積極的に推進していた。新民会は、新民主主義など自らの主張を世間に広く訴えかけるため、各種手段を講じて「新民主主義」を普及させた。『新民報』という新聞を創刊する一方、会務に従事する職員や地方で指導員として活動する人材を育てるため、新民学院・新民塾・中央訓練所・青年訓練所といった育成機関をも開設した。

### 1-3 新民会組織の変遷と綱領の変化

新民会は発足以降、組織の確立に力を尽くすとともに、各地で会員の獲得を進めた。その結果、職員の数は発足直後の数人から、1939年度末には2338人に増大し、組織末端の分会の会員数も1939年末には67万4000人にまで達した<sup>52</sup>。そして、新民会組織の変遷について、主な以下三つの段階に分けられる<sup>53</sup>。

最初の段階では、無党派の民衆段階から「反共」の政治団体へ発展した。1939年3月、新民会創設時から会の運営を支援してきた根本大佐が興亜院華北連絡部次長に転補され、9月予備役陸軍中將の安藤紀三郎<sup>54</sup>が新民会顧問に着任、軍の影響力を背景に新民会の実権を掌握した。1939年12月、王克敏が新民会会長に就任し、副会長は張燕卿に代わっていた。その段階の綱領は、上記の五項目である。二つ目の段階では、安藤紀三郎は1940年3月、日本の「宣撫班」と新民会の統合を断行、綱領や章程などを改めた。それ故に、新民会では日本軍の勢力がより一層強くなった。その段階の綱領は、「新民精神を発揚し王道を表現す/反共を実行し文化を復興し平和を確立す/産業を振興し人民生活を改善す/善隣締盟以て東亜新秩序を建設す」<sup>55</sup>の四項目である。「東亜新秩序」を提出することは、日本が唱えた大陸政策の変遷に繋がっていると考えられる。三つ目の段階では、1941年5月に新民会が再び組織の改革を行い、「共産党を討伐する」体制に変更した。それに伴い、新民会の綱領は「新民精神を発揚し反共を実行す/国民組織を完成す/東亜各民族を団結す/世界新秩序を建設す」と再び変更された<sup>56</sup>。新民会の組織変遷と綱領の変化は、文教政策や新民会の具体的な活動にも反映されている。

### 1-4 中華民国臨時政府の文教政策

日本軍の占領地において、政治的・軍事的拡張主義と一体となって工作されたのが「日本語を東亜の共通語に」という文教政策であった。その方策は日本軍、興亜院華北・華中連絡部等の工作により大陸に成立した対日協力政府（親日傀儡政権）の文教施策によって日本語・日本文化を普及させることであった。中華民国臨時政府が、華中・華北のほかの日本軍に協力的な親日政府と同じ、その文教政策は反共・反党化（三民主義排除）主義を第一義的に掲げ、中国固有の精神文化（儒教の教学）重視、欧米文化の影響排除、日本語

<sup>51</sup> 小野美里「日中戦争期華北占領地における文教政策の展開——「事変」下占領地の「内面指導」」東京首都大学博士論文、2015年、25頁。

<sup>52</sup> 広中一成『傀儡政権—日中戦争、対日協力政権史』東京：角川書店、2019年、103頁。

<sup>53</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013年、7頁。

<sup>54</sup> 安藤紀三郎（1879-1954）、太平洋戦争時の大政翼賛会副総裁、陸軍中將。

<sup>55</sup> 『新民会の新発足』排共懇談会事務局出版、1940年、10頁。

<sup>56</sup> 北京市档案馆編『日偽北京新民会』北京：光明日报出版社、1989年、3～5頁。

普及を中心とした親日教育の実行であった。

臨時政府は新たな文教行政を布くにあたり、前政権の文教政策に対し「過去ノ国民政府ハ党化ヲ方針トシ排日ヲ手段トセル結果今次事変ヲ惹起セリ、今後ハ党化排日ノ教育ニ対シテハ速ヤカニ嚴重取締ヲ加ヘシ」との判断を下し、さらに1938年3月、新教育の指導主旨及び方針として「一、党化抗日教育の絶滅」、「二、親日満思想の徹底」、「三、防共精神の普及」、「四、新民主主義の養成」の四大教育原則を掲げた<sup>57</sup>。

上記の教育方針は日本側（軍特務部総務課）が立案し、中国側（臨時政府教育部：湯爾和教育総長）と協議の上で決定され、臨時政府が実行したという<sup>58</sup>。その文教政策を実現することにわたって、音楽は日本化教育（プロパガンダ）の道具として中華民国臨時政府および新民会に利用されるようになった。詳細は本章の第二節で述べる。

## 2. 日本占領下の北京における人口の変動

戦争動乱の影響および北京が日本軍の占領地になったことによって、北京市内の人口に大きな変動が起こった。北京の住民や知識人の多くが北京から逃れ、南の内陸へ移動した。1937年に北京特別市警察局が行った人口統計<sup>59</sup>によると、1937年の年間人口の変動について北京の内外城と郊外を含めて約33367人が減少した。減少した人口は、北京市総人口の22%を占めている。特に1937年8月以降、急減する傾向が見られる（図2-3）。また1937年の出生率を見ると、当年度の出生人数は約22929人であり、出生率は14.5%である。死亡人数は約27085人であり、死亡率は17.7%である。当年度の自然成長率は-3.2%を示している。その理由の一つとして、戦争の影響によって人々の生活が貧困になり、人口がマイナスになったことが挙げられる。

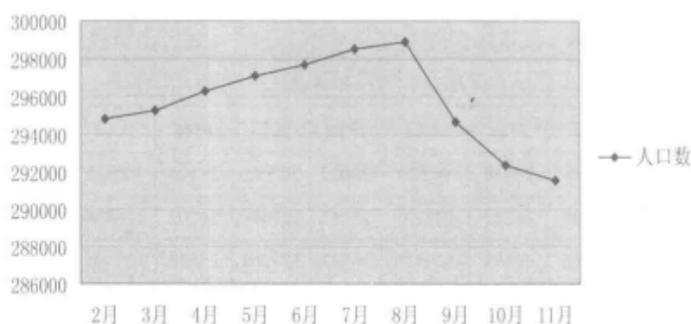


図2-3：1937年2月-11月北京市総人口変化グラフ<sup>60</sup>

一方、戦時下の北京は日本軍の占領地ないし「北支建設の中心地」になり、日本人や朝

<sup>57</sup> 宮脇弘幸「日中戦争期日本軍占領区の文教政策——華北・蒙疆・華中における日本語普及の展開——」『人文社会科学論叢』、2021年3月、30号、38頁。

<sup>58</sup> 1938年2月、文部省の藤本萬治教学局指導課長と横山督学官が華北に派遣され、日本軍（北支）特務部総務課に配属された。そこで臨時政府の教育方針、学制などの教育法規の立案をし、軍特務部の承認を得て臨時政府側に提出し、政府教育部はそれを実行した（藤本萬治「北支に於ける文化工作の現状（一）」『文部時報 第642号』1939年1月21日、56-61頁）。

<sup>59</sup> 北京特別市警察局『盧溝橋事變前後之統計變異』、1937年12月、37頁。

<sup>60</sup> 謝荫明、陳静著『北平抗战实录沦陷时期的北平社会』北京：北京出版社、2015年、20頁より引用。

鮮人が大量に移住するようになった。「事変後、北京ブームともいべき現象が日本に起こり、事変前まではもっぱら上海に釘付けになっていた日本人の熱い視線は、占領に伴って北京に移住するようになった。」と戦時下日中映画史研究者の晏妮は述べている<sup>61</sup>。当時の統計資料から見ると、1937年11月末の時点で、北京に住む日本人や日本の植民地である朝鮮人はそれぞれ1621人、1923人で、合計3544人となり、すでに全市の居留民総数5063人の70%以上を占めている<sup>62</sup>。当時の人口移動に関する記録によると、北京における日本人、朝鮮人の人口は、事変前は3,000～4,500人であったが、1939年には5万人、1941年には9万人と爆発的に増えていった。華北の都市部には、多くの日本人が暮らしており、その数はおよそ40万人であったことが窺える<sup>63</sup>。外来者の移住が増加したことに伴い、それぞれのコミュニティが形成されるようになった。

### 3. 文化・教育界の変化

日本人移住者の増加に伴い、日本人学校も増えてきた。1941年に出版された『北京案内記』<sup>64</sup>によると、日本人学校は14か所あった。そのなかで、特に「北京日本東城第一国民学校」と「北京日本西城国民学校」にそれぞれ1000人以上の生徒が在籍していたことが窺えた。

表 2-1 : 1941 年の北京における日本人学校一覧

学校名	児童/生徒数	教員数
北京興亜学院	250	17
中央日本語学院	130	20
北京日本中学校	387	20
北京第一日本高等女学校	639	33
北京第二日本高等女学校	323	16
北京日本商業学校	131	12
北京日本青年学校	538	12
北京日本東城第一国民学校	2329	66
同城北分教場	489	15
北京日本東城第二国民学校	715	21
同外城分教場	513	11
北京日本西城国民学校	1458	30
同城南分教場	477	10
北京西郊第一国民学校	90	6

安藤更生編『北京案内記』（新民印書局、1941年）より著者作成

<sup>61</sup> 晏妮『戦時日中映画交渉史』東京：岩波書店、2010年、137頁。

<sup>62</sup> 谢荫明、陈静著『北平抗战实录沦陷时期的北平社会』北京：北京出版社、2015年、23～24頁。

<sup>63</sup> 安藤更生編『北京案内記』北京：新民印書局、1941年、2頁。「北支蒙疆主要都市邦人人口事変前現在比較表」『北支』1939年9月号、32頁に参照した。

<sup>64</sup> 安藤更生編『北京案内記』北京：新民印書局、1941年、378頁。

一方、北京の大学に関する状況では、北京にあった多くの国立及び私立大学は、日本軍に占領されるまえに非戦闘区域の内陸へ移動した。『北京案内記』（1941）によると、1941年の時点では中国側大学が、国立北京大学、国立北京師範学院、国立北京女子師範学院、私立中国大学、私立燕京大学（米系）、私立輔仁大学（仏系）、私立協和医学院（米系）のみが挙げられる。そのなかで、国立北京大学、国立北京師範学院、国立北京女子師範学院はいずれも日本軍の統治に置かれて、臨時政府に接收され、再編されたものである。また、輔仁大学、燕京大学、協和医学院などは外国が運営している関係で、辛うじて残り、独自の教育活動を展開していた。アメリカ人が経営していた燕京大学は、1941年まで続けていたが太平洋戦争の勃発によって廃校を余儀なくされた。戦争の影響で勉強する場を失った学生は、その一部が輔仁大学に受け入れられた<sup>65</sup>。

## 第二節 日本の「対支音楽工作」の背景と構想

戦時下の音楽文化において、音楽はプロパガンダの手段として、「慰安」と「教化」の効果をはたしたことがよく知られている。北京を中心とする華北地域では、日本軍の占領地になって以降、北京での音楽工作の展開を推進する機運が、日本国内とりわけ音楽界で高まっていた。このことから、以下は戦時下の北京において、日本側が「対支文化工作」のうち「音楽工作」に乗り出した背景、構想とその活動の実態について考察する。

### 1. 「対支文化工作」の提起と東亜文化協議会の開催

#### 1-1 「対支文化事業」から「対支文化工作」へ

本文が論じる文化工作は、戦時もしくは占領期の文化工作を指す。これは、ある国が自国の文化や思想を国内外に向けて宣伝する活動であり、一種の宣伝工作（プロパガンダ）ともいえる。中島鈿三、平井政夫の『宣伝戦』<sup>66</sup>によると、文化工作は「暗示的な手段を媒介として行なわれる意識的行為であり、自国の意図した如くに相手を思考又は行動せしめる組織的行動」であり、「あくまでも説得の形を採り、根気強く繰り返し、相手の心深く喰い入り、これを揺り動かすものでなければならない」、また「或る思想や或る主義を撒布したり、これに対する心構えを作ったりするために役立つあらゆる精神的手段を含んでいる」のである。

日本の「対支文化工作」はいつから、どのような形で展開されていたのか。「対支文化工作」の前身は、1923年に日中の間に展開された「対支文化事業」に遡ることができる。国立公文書館アジア歴史資料館のデータベースによると、対支文化事業とは、1923年に制定された対支文化事業特別会計法に基づき、義和団事件賠償金および山東関係の鉄道、鉱山、公有財産などの補償金を運用資金として実施された中国における日本の教育文化事業である。具体的な事業内容には、在日中国人留学生・在中日本人学生への学費の補給、北京研究所のほか東京・京都の東方文化学院の設置などが含まれていた。その後、対支文化事業は1924年「東方文化事業」と改称され、平和的親善のために中国側と共同で文化事業を行うこととされたが、1928年の済南事件や1931年の満洲事変などの影響で日中両国の関係が悪化し両国共同での文化事業が徐々に困難となったため、「東方文化事業」は日本

<sup>65</sup> 王京「教会大学と日中戦争——「北平私立輔仁大学档案」（1925-1952）からみた戦時下の学生収容——」、人類文化研究のための非文字資料の体系化（03）、2006年、257頁。

<sup>66</sup> 島鈿三、平井政夫『宣伝戦』、東京：ダイヤモンド社、1943年、5-7頁。

による単独の文化事業となった。1930年代の文化事業は、日中の平和的親善を目指すものから、満洲や華北、南京など日本の占領地における文化工作の側面が強くなっていった。1938年12月16日に日中戦争処理のために興亜院<sup>67</sup>が設立されたことによって、文化事業の主要業務は外務省から興亜院の管轄となり名実ともに占領のための日本の対中文化工作へと変貌した<sup>68</sup>。

このような背景を踏まえてきた「文化工作」は、戦時下に入って、どのような変化が行われたのか。戦時下の「対支文化工作」について、その具体的な内容を考察するにはまず「東亜文化協議会」に言及しなければならない。1937年12月7日～11日に東京で開催された東亜文化協議会は、戦時下の「対支文化工作」を明確にしようとする最初の動きであったと言える。

## 1-2 東亜文化協議会の開催について

東亜文化協議会は、最初「東亜文化振興協議会」と称した。日本の外務省文化事業部と中華民国臨時政府（日本軍の傀儡政権）の合同で1937年12月7日から11日までに東京で開催された。1938年8月29日に「東亜文化協議会」（以下「協議会」と略称）と改称し、戦時下の「日中文化提携」の連絡機関として、本部を北京に置いて設立された。現在、この組織は中国側から漢奸団体と認識されている。



図 2-4：「東亜文化協議会成立大会記念撮影 撮於北京懷仁堂」（写真は部分）<sup>69</sup>

『新生北支の建設現況』によると、日中學會並びに文化団体の協力に依り、日中兩國の文化提携並文教の振興を図ることを目的とし、主旨は日中文化提携と日中親善であった<sup>70</sup>。役員は日中兩國の文化人が務めた。湯爾和、周作人が会長に歴任した。1938年設立されてから1945年の終戦まで、毎年1回を中国の北京、または日本の東京や京都で開催することになった。現時点で、東亜文化協議会の開催情報が確認できたのは、表 2-2 の通りである。

<sup>67</sup> 興亜院は日中戦争によって中国大陸での戦線が拡大し占領地域が増えたため、占領地の政務・開発事業を統一指揮するために開設された日本の国家機関の一つである。

<sup>68</sup> 国立公文書館アジア歴史資料センター、<https://www.jacar.go.jp/glossary/term1/0090-0010-0080-0020-0140.html>。2021年9月1日閲覧。

<sup>69</sup> 東亜文化協議会成立大会記念撮影、平賀譲デジタルアーカイブ、東京大学柏図書館所蔵。  
<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/hiraga/document/46453c07-ea1d-4f78-baa3-7fe27553762f#?c=0&m=0&s=0&cv=2&xywh=3031%2C-1682%2C10941%2C6526> 2021年10月14日閲覧。

<sup>70</sup> 『新生北支の建設現況』北京：華北事情案内所出版、1939年、19頁。

表 2-2：東亜文化協議会の開催情報一覧

会議名	開催期間	開催地	備考欄
第 1 回東亜文教振興協議會	1937/12/7～11	東京	柯政和が参加。
第 2 回東亜文化協議会	1938/8/27～9/2	北京	8/30 発会式
第 3 回東亜文化協議会	1939/8/31～9/4	北京	
第 4 回東亜文化協議会	1940 年	北京	
第 5 回東亜文化協議会	1941/4/11～14	東京・京都	柯政和が参加。
第 6 回東亜文化協議会	1942/8/31～？	北京	
第 7 回東亜文化協議会	1943 年	東京	

『東亜文化振興協議会速記録』（1937）、『新民報』記事などに基づいて筆者作成

1937 年 12 月 7 日から 11 日まで東京で開催された最初回の協議会は、東亜文化協議会が正式に設立される前段階とも言える。その際に、北京の文化人代表として 7 人の役員が来日し、会議に参加した。そのうち、戦前・戦中を通して北京の楽壇における重要な人物であった柯政和は、北平師範大学教授・北京地方維持会専門委員・華北教育総会常務委員という肩書で出席したが、北京側の代表のなかで唯一の音楽家の背景を持つ人物であったことにも留意すべきである。また日本側の音楽家の代表には、東京音楽学校校長の乗杉嘉寿が協議会にも参加した。

会議中、日中両国の文化工作者が互いに時局の状況、および文化工作の方針に関する「小中学校教育」、「日支両国語」、「大学」、「研究機関」、「留学生」、「両国交歓」、「東亜文化振興、日支提携に就いての機関」という 7 つの議題、合計 64 項目に対して提案し、意見を交換した。『東亜文化振興協議会速記録』（1937）によると、議題のなかの僅かであるが芸術、音楽に関して、柯政和と乗杉嘉寿により以下のことが提案された。

〔東亜文化振興、日支提携に就いての機関に関するもの〕の提案（一部抜粋）<sup>71</sup>

- 五四、東亜芸術協会を設立する事（柯）
- 五五、支那の古代芸術の研究保護に貢献寄与すること（乗杉）
- 五六、北京に於て音楽博物館を建設すること（柯）
- 五七、美術音楽演劇等両国芸術の交換普及に尽力せよ（乗杉）
- 五八、之が為めに各種の文化聯盟を作り相互に気脈を通じ各部門の協力に資すること（乗杉）

以上のことから、東亜文化協議会において、芸術や音楽を通じた文化工作の重要性が提示されたことが窺えた。加えて、会議期間中に柯政和が日本の新聞にインタビューを受けた記録も残っている。そこで、彼は将来の対支文化事業をどうすべきかについて、以下のよう述べた。

先ず文化事業を官吏の手から離れ、真に両国民衆の文化代表をもって組織する有力な文化機関を東京と北京に作る。そして、この新文化機関を中心として音楽家は音

<sup>71</sup> 大東文化協會東亜文教國策委員會編『東亜文化振興協議會速記録』東京：大東文化協會東亜文教國策委員會事務局、1937 年、157～165 頁。

楽家同士で、婦人は婦人同士で、自然科学者は自然科学者同士で集まって意見を交換し相互の諒解を深めるようになる。かくて初めて国民同士が結ばれるのだ、それを政府が応援なり支持をすればいい<sup>72</sup>。

また「事変後北支に於いて最初に手を付けるべき教育は何か」と質問されて、柯政和は「私は実業教育だと思ひます。ですから会議が終了いたしましたら日本の実業教育を見学し、帰へたらその方へ力を尽したいと思っています。」と答えていた。実際に、会議期間中には、柯政和をはじめ北支側の委員が東京市立第一中学校、東京女子高等師範学校を視察した。



図 2-5：「東京女子高等師範学校視察の支那側委員」（左四：柯政和）<sup>73</sup>

また、会期中の柯政和が、石井漠の舞踊研究所を訪問した記録が残っている。石井漠は1936年12月、北京・上海・青島などに中国公演ツアーを行い、当時の日本で代表的な舞踊家の一人である。会見のなかで、柯政和と石井の二人は、握手を交しながら「如何にも芸術的なシーンを展開し、日中親善は是非芸術から」という意見を話し合った<sup>74</sup>。

以上のように、柯政和や乗杉嘉寿、また石井漠らが芸術関係者としての立場から、音楽や芸術による「日中親善」に尽力しようとしたという考え方は窺うことができた。また、この協議会に関して、当時の日本の新聞や雑誌メディアやラジオ講演を含む、多数の報道に取り上げられ、世論を盛り上げるようになった<sup>75</sup>。

<sup>72</sup> 「お役所仕事を離れて北支新文化の建設へ 柯教授が日本への注文」『中外商業新報記事』、昭和12年12月9日。

<sup>73</sup> 大東文化協会東亜文教国策委員会編『東亜文化振興協議会速記録』東京：大東文化協会東亜文教国策委員会事務局、1937年、口絵。

<sup>74</sup> 能勢岩吉「北支文化使節接伴記—柯使節行政学会へ」『朝鮮行政』1938年2(1)、117-121頁。

<sup>75</sup> 大東文化協会東亜文教国策委員会編『東亜文化振興協議会速記録』（1937）の附録では、「東亜文化振興協議会に関する各新聞社説及び報道抜粋」がある。

## 2. 「対支音楽工作」の提起と日本音楽界による新たな動向

### 2-1 「対支音楽工作」の提起について

まず「対支音楽工作」の定義と対象について検討する。「対支音楽工作」は「支那」に対して行われた音楽工作を意味しているが、実際には「北支」（北京を中心とする華北地域）と「中支」（上海をと中心とする華中地域）に分けて、音楽工作が実施されていた。そのなかで、「北支音楽工作」は戦時下の北京を中心に行われたため、事実上「北京の音楽工作」とも言える。本文で「音楽工作」を検討する対象は、「北支音楽工作」或は「北京の音楽工作」に限定することをまず明言したい。それを前提として、「北支音楽工作」の提起について、実際にどう行われたのかを明らかにする。

東亜文化振興協議会の開催に先立つ 1937 年 12 月 2 日の『朝日新聞』では、すでに音楽評論家の塩入亀輔<sup>76</sup>が記事「北支文化工作と音楽」を発表した。彼は、以下のように述べた。

政府も愈々北支文化工作に乗り出すそうであり、近く北支の学者、教育者等が本邦への見学に来朝するとのことであるが、それについて何よりも音楽による文化工作を取り上げて貰いたいと思ふ。（中略）支那で目下使用されている音楽用語の大部分は日本人の訳語になるものであるのを見ても、北支許りでなく、支那全体の音楽的開発は我々の手に委せられなければならない<sup>77</sup>。

塩入の記述では、音楽による文化工作の重要性を提示した。塩入は初回の東亜文化振興協議会が開催される直前に、文化政策の新たな動きを鋭敏に感じ取っていたのであろうか。現時点では、この記事は北支音楽文化工作に関して書かれた最初のものとして推定される。

一方、1938 年 3 月に出版された衆議院の調査資料『対支文化工作に関する論調』のなかで、中村彌三次の文章「大陸文化政策に就いて」においての「六、芸術的文化事業」の章で、芸術とりわけ音楽による文化工作の重要性が改めて強調された。中村彌三次は、以下のように述べた。

民族と民族との交渉についても亦等しく妥当することで、そこに芸術的文化事業が、茲に問題たる大陸文化政策のうえにも一の重要な役割を占める所以のものがある。況んや、諸他の精神的融合手段が必ず言語又は文字という相当操り難い仲介手段を挟むに反して、芸術的融合手段の多くは、例えば音楽の如く、或は絵画・彫刻・建築乃至美術工芸のごとく、自体直ちに情操移入の媒介物たるに於いては、猶更のことであろう<sup>78</sup>。

また、中村彌三次の文章でも塩入亀輔の記事「北支文化工作と音楽」に言及し、塩入の観点到同意した上で、更に「同時に絵画、彫刻、建築、工芸美術等の造型美術についても、

<sup>76</sup> 塩入亀輔（1900-1938）、音楽評論家。東京に生まれ、早稲田大学法学部卒業。著作：『ジャズ音楽』（敬文館、1929）、『レコード名曲解説』（誠文堂、1931）、『スコアの読み方 管絃楽法入門』（音楽世界社、1933）など。

<sup>77</sup> 塩入亀輔「北支文化工作と音楽」『東京朝日新聞』1937（昭和12）年12月2日朝刊、7頁。

<sup>78</sup> 中村彌三次「大陸文化政策に就いて」『対支文化工作に関する論調』（調査資料第14輯）東京：衆議院、1938年3月、333頁。

亦等しく妥当し得べき見解である」と述べ、それを行う方法として「支那各地に於て随時、日本音楽の公開演奏会を催すこと、絵画、彫刻、各種の美術工芸展覧会を開催すること、多少その直接交感性に於ての制約あるを免れないが、例えば映画乃至演劇などの紹介を行うことなども、その一例となし得るであろう。」と提言した。

以上の記録からみると、「対支文化工作」における芸術とりわけ音楽の重要性がますます重視されるようになったことが窺える。「音楽工作」を巡る言論は、日本音楽界の行動にも影響を及ぼしている。

## 2-2 「対支音楽工作」をめぐる日本音楽界による新たな動向

1938年3月14日『朝日新聞』の「楽人も是非一役を北支大衆教化に交響楽団進出」との記事では、山田耕筰が率いる中京交響楽団がこれから「北支」方面に約一か月の慰問演奏を含む演奏旅行をすることが決定したこと、また「北支」は朝鮮・満州には渡航経験があった山田耕筰にとっても初の地になることも書かれている。

北支方面に約一か月の演奏の旅を続け皇軍の慰問とともに、北支大衆に対する教化運動として事変後最初の音楽家集団の前進が民間に計画され、山田耕作氏を中心に中京交響楽団約50名が四月下旬渡支することが決定した。(中略)これまで京城、平壤、釜山、新京、奉天、大連と演奏計画は着々と進められ、更に皇軍戦捷の跡を偲んで北京、天津の他の野外演奏計画が具体化したものだが、演奏曲目も愛国行進曲その他日本的歌謡曲の他に邦人作曲家の手になる支那の旋律による作品等である<sup>79</sup>。

この記事の10日後、1938年3月24日の『読売新聞』には「音楽で北支宣撫—袴田氏夫妻 鹿島立ち」が掲載された。文章では、以下のように述べている。

北支を音楽で宣撫しようという最初の音楽家袴田氏夫妻—元千葉県立成東中学校音楽教師袴田克巳氏とこんど浅草女子商業学校教師をやめた夫人音子さんの二人は長女美智子ちゃんを連れて、23日午前から東京発の「つばめ」で北支に鹿島立った。(中略)「東洋音楽学校時代の仲間、支那学友が北京に音楽学校を経営している、友人のところ足場に念願の音楽宣撫に續けるつもりです」と袴田氏は語る<sup>80</sup>。

ここで、戦時下の北京に移住した最初の音楽家は、袴田氏夫妻であったことが窺える。日本の楽壇による言論の提起、そして慰問演奏旅行への進出に伴い、やっと北京に足を運ぶ日本人音楽家の姿が現われるようになった。袴田夫婦に関しては第三章で詳しく記述する。

<sup>79</sup> 「「楽人も是非一役を」北支大衆教化に交響楽団進出」『東京朝日新聞』1938(昭和13)年3月14日朝刊、11頁。

<sup>80</sup> 「音楽で北支宣撫 袴田氏夫妻 鹿島立ち」『読売新聞』1938年3月24日、2頁。

### 第三節 日本化教育（プロパガンダ）としての「音楽工作」

戦時下の音楽文化において、音楽はプロパガンダの手段として「慰安」と「教化」の効果を果たしていたことがよく知られている。本節では、戦時下の北京において、音楽はどのようなメディアに乗せられ、どのような形で現地住民の「日本化教育」（プロパガンダ）に貢献するように要請されたのかについて考えてみたい。以下では、学校音楽教科書の統制と検閲、日本語普及のための音楽工作、新民会による「新民歌曲」の募集と普及、またラジオによる「音楽工作」の展開、という四つの視点から詳しく述べていく。

#### 1. 学校音楽教科書の統制と検閲

##### 1-1 北京臨時教科書審訂委員会の開催と教科書の検閲

第一節「中華民国臨時政府の文教政策」で述べたように、日本軍の占領地において「日本語を東亜の共通語に」という文教政策が行われた。その中身は、反共・反党化（三民主義排除）主義を第一義的に掲げ、中国固有の精神文化（儒教の教学）重視、欧米文化の影響排除、日本語普及を中心とした親日教育の実行である。占領地の文教政策を実行するために、まず小中学校教科書から排日内容を削除することは急務であった。

北京が日本軍の占領によって陥落して間もなく、1937年8月16日北平治安維持会は『各級学校教科書改訂案』を提出し、通過した。翌日、北平（北京）臨時教科書審訂委員会が設立された。委員会は小学校組、中学校組、師範学校組と体育専門学校組を分けており、それぞれ3-5人の委員を配置する。委員会の顧問には日本人の武田熙<sup>81</sup>を任命した<sup>82</sup>。教科書の改訂について、武田は以下三つの方針を定めた。

- 一、日華親善協力を徹底的に実行し、学生のあらゆる排日的な言論と思想を取り締まる。
- 二、「王道」の真意を学生に理解させる。
- 三、日華文化の提携を徹底的に図る。<sup>83</sup>

その方針に基づいて全ての教科書が検閲されるようになり、排日感情や抗日思想の内容が徹底的に排除された。元々各出版社により出版された学校教科書が、臨時政府の命令により、その修正と出版は「新民書局」（日本語では、新民印書館と呼ばれる）<sup>84</sup>の一社に指定された。

1939年10月の時点で新民印書館が印刷・発行をおこなっていた教科書の書類は56種類ある<sup>85</sup>。しかし、そのなかには音楽教科書が含まれていない。1938年2月20日『新民報』の「教育版」欄目によると、新民会中央指導部委員、前国立師範大学教授、音楽家の柯政

<sup>81</sup> 武田熙は、1900年北海道生まれ。1922年国士館高等部卒、1933年外務省派遣の第3種補給生として北京大学文學院留学。事変後は北平陸軍機関情報主任、北京地方維持会顧問、北京大学・教育部立外国語専科学校教授、興亜院華北連絡部調査官、北京大使館調査官等文教の要職を歴任。

<sup>82</sup> 宋恩榮、余子俠編『日本侵華教育全史 第2巻 華北巻』北京：人民教育出版社、2016年、233頁。

<sup>83</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士学位论文、2013年、15頁。

<sup>84</sup> 新民印書館は、日中戦争中の1938年に北京で創立された日中合弁会社であり、当時華北における最大規模の印刷会社であった。黄漢青「新民印書館について」『慶應義塾大学日吉紀要言語・文化・コミュニケーション』第41号、2009年、135頁を参照。

<sup>85</sup> 黄漢青「新民印書館について」『慶應義塾大学日吉紀要言語・文化・コミュニケーション』第41号、2009年、142頁。

和に、小中学校の音楽教科書の編集を臨時政府が任命された。8月23日、柯政和が編集した『初小音楽教科書』、『初級小学模範音楽教科書』、『高級小学模範教科書』、『初中模範唱歌教科書』、『高中模範唱歌教科書』は、新民音楽書局によって出版された<sup>86</sup>。このシリーズの音楽教科書は、臨時政府の教育部の検閲を受けて、唯一に認めた音楽教科書シリーズである。その後、このシリーズの音楽教科書は北京全市の小学校・中学校の「国定」音楽教科書となった。

### 1-2 新民音楽書局による音楽教科書シリーズの出版

新民音楽書局の前身は、柯政和が1928年北京で設立した中華楽社であると推測される<sup>87</sup>。新民音楽書局で1938年に出版された音楽教科書シリーズも、実は中華楽社により出版された音楽教科書シリーズの重版である。1935年2月の『中華楽社出版音楽書目録』と1938年2月『新民音楽書局目録』と比較してみると、目録の内容はほぼ重なっており、中華楽社が出版した書籍や楽譜がそのまま「新民音楽書局」の名に変わって再出版されたことが窺えた。

著者	書名	価格	著者	書名	価格
柯政和	唱歌作曲法	0.80	柯政和	五十鈴樂譜習曲集	1.20
柯政和	提琴演奏法	0.60	柯政和	二十鈴樂譜習曲集	0.60
柯政和	管樂演奏法	0.70	柯政和	廿五鈴樂譜習曲集	1.50
柯政和	鋼琴演奏法	0.50	柯政和	廿四鈴樂譜習曲集	1.50
柯政和	唱歌教科書(第一冊)	0.50	柯政和	樂樂譜習曲集	1.00
柯政和	唱歌教科書(第二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第二十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第二十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第三十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第三十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第四十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第四十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第五十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第五十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第六十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第六十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第七十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第七十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第八十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第八十九冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十一冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十二冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十一冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十三冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十二冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十四冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十三冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十五冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十四冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十六冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十五冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十七冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十六冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十八冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十七冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第九十九冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十八冊)	0.50
柯政和	唱歌教科書(第一百冊)	0.50	柯政和	唱歌教科書(第九十九冊)	0.50

図 2-6: 『中華楽社出版音楽書目録』 (1935)

著者	書名	価格	著者	書名	価格
柯政和	音樂通論	3.00	混聲合唱一百曲集(第一冊)	柯政和	.50
張秀山	音樂之性質與演奏	.60	女聲合唱一百曲集	柯政和	.50
張秀山	樂學演奏法	.60	男聲合唱曲集	李怡忱	.80
張秀山	唱歌作曲法	.60	板橋遺譜(混聲四部合唱)	龔美瑤	.25
柯政和	初中標準樂理教科書	.50	英文一百名歌集(初級部)		.25
柯政和	初中級樂理教科書	.70	英文一百名歌集(高級部)		.25
柯政和	新樂理(十冊)	特價@.10	歌林適用四聲二部合唱曲集	柯政和	.50
比魯普	鋼琴初步	1.50	合唱曲集		.50
柯政和	鋼琴初步	1.80	世界名歌選(五冊)	李怡忱	.60
柯政和	鋼琴初步	1.50	鋼琴調音(第二集)	李怡忱	.60
柯政和	鋼琴初步	1.50	鋼琴調音	李怡忱	.60
柯政和	鋼琴初步	1.50	中國名歌集	龔美瑤	.50
柯政和	鋼琴初步	1.50	世界名歌一百曲集(三冊)	柯政和	@.60
柯政和	鋼琴初步	1.50	名歌新集(第二冊)	張秀山	.40
柯政和	鋼琴初步	1.50	二十五曲克羅歷名歌集	柯政和	.40
柯政和	鋼琴初步	1.50	English Songs for Junior Middle Schools	A.M. Huggins	.90
柯政和	鋼琴初步	1.50	新樂集	龔美瑤	1.50
柯政和	鋼琴初步	1.50	中學歌曲集	李怡忱	.50
柯政和	鋼琴初步	1.50	小兒的小歌	龔美瑤	1.50
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範唱歌教科書	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第四冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第五冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第六冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第七冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第八冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第九冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十一冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十二冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十三冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十四冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十五冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十六冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十七冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十八冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第十九冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十一冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十二冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十三冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十四冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十五冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十六冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十七冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十八冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第二十九冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十一冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十二冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十三冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十四冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十五冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十六冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十七冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十八冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第三十九冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第四十冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第四十一冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第四十二冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第四十三冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第四十四冊)	柯政和	@.06
柯政和	鋼琴初步	1.50	初小模範音樂教科書(第四十五冊)	柯政和</	

# 初中模範唱歌教科書

柯政和編

第二冊

新民音樂書局出版

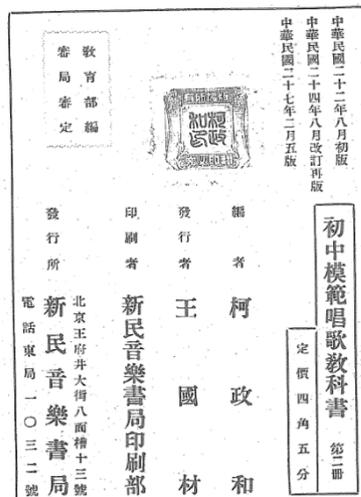


図 2-8 (左) : 『初中模範唱歌教科書 (第二冊)』表紙

図 2-9 (右) : 『初中模範唱歌教科書 (第二冊)』奥付

『初中模範唱歌教科書 (第二冊)』奥付の左上には「教育部編審局審定」という印が貼っている。臨時政府教育部の審査と検閲を受けたことを示している。そして、右上の出版の履歴を見ると、1938年2月に出版されたのは第5版であることがわかった。

そして、『初級小学模範音楽教科書』の戦前・戦中の二つの版を比較してみよう。戦前に出版された中華楽社の版は伴奏譜になるが、曲目が一致している。

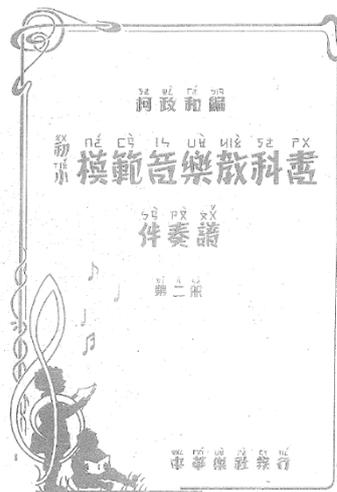


図 2-10 (左) : 『初級小學模範音楽教科書 (第三冊)』 (新民音樂書局、1941年6月)

図 2-11 (右) : 『初級小學模範音楽教科書伴奏譜 (第二冊)』 (中華楽社、1935年12月)

楽譜の表紙から見ると、楽譜と伴奏附の違いで横縦の形式が変わったが、デザインはほぼ同じである。また教科書の曲目を比較すると、毎冊は合計14曲がある。戦前・戦中の版とは全く同じ曲目であった。教科書の前書きに書かれたように「本書の曲目は、世界各国の

童謡や民謡から取り上げたものである。メロディーは明るい曲風で、児童に楽しめる曲を用意した。児童の徳性を十分に涵養できる」。これらの曲は、主な世界各地の民謡や童謡のメロディを基に、いずれも西洋音楽に中国語の歌詞を付けたものである。

袴田克巳が書いた「抗日音楽と音楽工作」の文章では、当時北京で発行されている音楽教科書について、「現在北京で発行されている小学校及び中学校用音楽教科書は全部外国唱歌の旋律に支那語を附したもので、支那人の作曲した曲や支那の歌曲や民謡は取り入れられていない。日本の旋律も多少はあるが、親日的な内容はない。」と述べた<sup>88</sup>。これらの音楽教科書には、抗日や排日する曲目がなければ、愛国を表現する曲目もない、また親日的な曲もないというところが注目すべきである。臨時政府の文教政策によると、親日教育の部分については、これらの音楽教科書にはまだ反映されていないと言えるだろう。

一方、新民音楽書局が出版した音楽教科書は、北京市内の各小学校・中学校で実際にどう使用されていたのか。2019年2月に公開された「華北交通アーカイブ」では、小学校で行っていた音楽授業の写真を見つけた。児童たちが手に持っている音楽教科書の表紙から見ると、新民音楽書局が出版した『初級小学模範音楽教科書』であることが確認できた。



図 2-12 : 唱歌の時間、1938 年 9 月<sup>89</sup>

## 2. 日本語普及のための音楽講座

### 2-1 北京近代科学図書館の日本語講座

占領下の北京における文教政策を進める為、日本語を解する人材の育成も様々な場で展開した。学校教育で小学校 3 年から日本語が正課としてカリキュラムに組み込まれたほか、

<sup>88</sup> 袴田克巳「抗日音楽と音楽工作」『音楽世界』第 11 巻第 1 号、昭和 14 年、86 頁。

<sup>89</sup> 「華北の交通アーカイブ」(No.5646) (華北交通アーカイブ作成委員会)

<http://codh.rois.ac.jp/north-china-railway/> 2019 年 10 月 2 日閲覧。

一般民衆向けの社会教育機関や、日系国策会社附設の日本語学校、北支軍宣撫班や新民会でも行われた。またラジオによる日本語講座などによっても、日本語の普及が目指された<sup>90</sup>。そのなかで、特に占領期の初期における日本語教育の促進に役割を果たした北京近代科学図書館が行った日本語講座を取り上げる。

北京近代科学図書館は、1936年12月に北京で創設された日本図書館である。主として日本にかんする図書を蒐集し、その利用対象を外国人においた図書館をいう。中国からの義和団賠償金による対支文化事業の一環として建てられたもので、日本語図書や中国における日本研究図書・中訳日文図書などを収集し、また各種の日本語講座の開講、展示会の開催、日本人著作の中国語訳の出版活動などきめ細かい活動を展開した<sup>91</sup>。



図 2-13: 北京近代科学図書館正門、1938年4月<sup>92</sup>



図 2-14: 日本語講習所・通学生<sup>93</sup>

図書館における日本語講座の開催は、1937年9月に開始された北京放送日本語講座を聴講する形で、閲覧室とテキストを用意して始まったが、1937年11月より図書館の主催による講習会の開催を開始した。『北京近代科学図書館概況』（1939）によると、1939年9月まで約2年間で7期の基礎講座が行われた。

表 2-3 : 北京近代科学図書館が開催した日本語基礎講座一覧

講座名称	開催期間	人数	授業内容	備考
第一期	1937/11/11/ ～約3ヵ月	120	日本語基礎	初級班のみ。柯政和が講師。
第二期	1938/3/5 ～ 6/7	189	講読、會話、日本語學習法	初級（3班）、中級（1班）。
第三期	1938/6/18～	286	講読、文法、會話、翻訳	初級（3班）、中級（2班）。

<sup>90</sup> 小野美里「日中戦争期華北占領地における文教政策の展開——「事変」下占領地の「内面指導」」東京首都大学博士論文、2015年、22頁。

<sup>91</sup> 岡村敬二「北京近代科学図書館と〈日本〉」『日本研究：国際日本文化研究センター紀要』第7号、1992年3月、105頁。

<sup>92</sup> 「華北の交通アーカイブ」（No.1518）（華北交通アーカイブ作成委員会）  
<http://codh.rois.ac.jp/north-china-railway/> 2019年10月2日閲覧。

<sup>93</sup> 「華北の交通アーカイブ」（No.1570）（華北交通アーカイブ作成委員会）  
<http://codh.rois.ac.jp/north-china-railway/> 2019年10月2日閲覧。

	9/17		法、日本語学習法	班)、高級(1班)。
第四期	1938/9/26～ 12/21	241	講談、會話、文法、翻訳 法、聴寫	初級(2班)、中級(2 班)、高級(1班)。
第五期	1939/1/5～ 3/30	208	講談、會話、文法、翻訳 法、聴寫	同じ
第六期	1939/4/8～ 7/21	136	講談、會話、文法、作 文、日本事情、聴寫	同じ
第七期	1939/9/18～	86	講談、會話、文法、日作 文、聴寫、音楽	音楽は高級班のみ。島村 義雄が音楽の担当教員。

『北京近代科学図書館概況』(昭和14年12月)より筆者作成

そのなかで、特に注目すべきは、第七期から「音楽」の授業が増えたことである。担当教員は島村義雄である。また基礎講座のほかに、師範科も開設された。第一期は1938年9月10日から1939年2月18日にわたって開催した。そのなかで週1回「音楽」の授業を設けている。講師は袴田克巳である<sup>94</sup>。

## 2-2 日本語学習のための音楽講座

なぜ近代科学図書館の日本語講座のなかに音楽授業が設けられていたのか。『北京近代科学図書館概況』(1939)によると、「日本語特にその発音の教授上日本の唱歌の教授が極めて有効であることはよく聞くことであるが、本館としてはかかる日本語の教授の効果と云ふ一面に局限せず、むしろ情感に訴へることから生まれた直接的理解と自らなる親和感の醸成ということを期待している」<sup>95</sup>と述べている。要は、音楽が感情に伝える力を活かし、日本語学習の効果を挙げることにともに、日本への親近感を生むことが期待されている。

そのため、日本語基礎講座の第六期と第七期の間に、1939年7月にまず第一期の「日本音楽講座」が開催された。授業の担当は袴田克巳である。授業は「日本名歌曲選」第一輯とその他のレコードを教材として日本名歌曲の練習と鑑賞を行った。受講対象は北京近代科学図書日本語講座第六期を修了した人とする。北京中央放送局の「夏期特別講座」の内容と重ねて、約1か月の期間で毎週3回、毎回2時間ほど開催した。音楽講座で使用された教材の中身は確認できないが、袴田克巳の記事によると、《荒城の月》は受講生にとって最も愛好された曲であることがわかった<sup>96</sup>。その後、音楽の授業は日本語講第七期からカリキュラムに定着し、それと並行して第二期の「日本音楽講座」は、外部者からの申込が可能となり、同年9月中に開催された。

<sup>94</sup> 北京近代科学図書館編『北京近代科学図書館概況』、1939年12月、55～57頁。

<sup>95</sup> 同じ、58頁。

<sup>96</sup> 袴田克巳「抗日音楽と音楽工作」『音楽世界』第11巻第1号、昭和14年、87頁。



図 2-15: 北京近代科學図書館第一期音楽講座、1939 年 7 月<sup>97</sup>

また、1940 年 1 月 19 日『新民報』での記事「日本歌曲指導放送」によると、当日のラジオ放送「音楽芸術による日中親善のため」では、北京近代図書館音楽講座の生徒より日本歌曲《春が来た》、《まちぼうけ》を放送した。日本語学習の延長線として開設された音楽講座は、ある程度続けていたと言えよう。音楽に日本語学習のためだけでなく、「日中親善」の役割を果たすことも要請されていたことがわかった。

### 3. 新民会による「新民歌曲」の募集と普及

続いて、新民会中央指導部の「音楽工作」に着目したい。戦時下、歌謡による宣伝や教化動員のひとつの形態として、国家（または組織）目的に即応し国民教化動員や国策（または指導方針）宣伝を目的とした上からの公的流行歌は、日本では「国民歌」と言われた<sup>98</sup>。それに基づいて、新民会の目的にかなった国民の教化、動員、宣撫の役割を担った歌曲を、本文では「新民歌曲」と定義する。これらの歌曲募集は時局・社会状況が直接反映されたものであり、また臨時政府やメディアが直接その募集に関わることによって、メディアイベントとしての性格も併せ持つものだったと考えられる。

以下では、日本占領下の北京における新民会が主催する「新民歌曲」の募集活動に着目し、占領初期からアジア・太平洋戦争期に至るまで歌曲募集の変遷を考察したい。「新民歌曲」の募集概況について、すでに王垠丹の論文が言及している<sup>99</sup>が、本文では先行研究に基づいて、新たに楽譜や写真等一次資料を加えて、募集された「新民歌曲」の特徴を分析し、それらの歌曲を普及するための演奏活動の意義を検討したい。

#### 3-1 「新民之歌」をテーマとする歌曲募集と普及

新民会は、成立初期から「新民主義」および新民会の綱領を民衆のなかに浸透させるために、複数回の歌曲募集活動を行った。最初に行われたのは、「新民之歌」をテーマとす

<sup>97</sup> 北京近代科學図書館編『北京近代科學図書館概況』、1939 年 12 月、口絵。

<sup>98</sup> 戸ノ下達也『音楽を動員せよ 統制と娯楽の十五年戦争』東京：青弓社、149 頁。

<sup>99</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013 年、20～26 頁。

る歌曲募集の活動であった。

王垠丹の論文によると、1938年1月4日『新民報』では歌詞募集の広告を打ち出し、それから広告を2週間ほど掲載し続けた。同年3月5日に3000点を超える応募作品の中から受賞者が発表された。一等賞は李薦賢（賞金200元）、二等賞は温濟普、劉平非（賞金50元）、三等賞は王菊農、胡瑜、王石梅（賞金10元）。そして、作曲の募集も同じ方法で『新民報』の広告によって大衆に募集したが、最終的には作曲家の江文也に委託した。4月3日に東京のレコード会社で《新民歌》のレコードが吹き込まれた。独唱は江文也、ピアノ伴奏は谷康子であった。

《新民歌》のレコード現蔵は確認できなかったが、数字譜の楽譜は1938年12月11日『新民報』に掲載されたことが確認できた。歌詞の一部を表すと、「旭日照東亞，全亞協和為一家。學宗孔孟行王道，人作新民在中華。格物致知正心誠意，修身齊家治國平天下」（日本語訳：旭日は東アジアを照らし、全アジアは一家である。孔子、孟子を学び、王道を行い、人々は中華の土地で新民になる）とのことである。最後の一行「格物致知正心誠意，修身齊家治國平天下」は、儒教の経典『大学』からの言葉であった。また繰り返しの歌詞には、「反共排共」という言葉も現れる。《新民歌》は、新民会の初期の綱領をすべて反映していると言えよう。

E調 新 民 之 歌									
6	1	2	3	23	23	21	6	—	
旭	日	照	東	亞	東	亞	亞	—	
撒	下	照	東	亞	亞	亞	亞	—	
博	河	小	康	康	康	康	康	—	
得	得	興	人	人	人	人	人	—	
12	3	6	21	21	21	21	21	—	
全	亞	和	為	一	家	家	家	—	
必	切	惡	大	同	花	花	花	—	
6	61	23	61	61	65	65	65	—	
學	宗	孔	孟	行	王	道	道	—	
範	家	除	各	各	國	黨	黨	—	
大	32	3	21	6	21	3	20	—	
人	作	新	民	在	中	華	華	—	
人	人	人	人	人	人	人	人	—	
幸	3	6	12	35	65	65	65	—	
3	3	6	12	35	65	65	65	—	
格	物	致	知	正	心	誠	意	—	
23	5	61	65	35	65	65	65	—	
修	身	齊	家	治	國	平	天	—	
								下	

楽譜 2-1：《新民歌》作詞李薦賢 作曲江文也

また《新民歌》を普及させるために、『新民報』の主催により1938年4月24日北京の中央公園（今の中山公園）で「新民歌授賞式兼演奏会」が行われた。当日の新聞記事によると、日本軍部からは根本大佐、川口大佐、新民会からは湯爾和、張燕卿が出席した。北京市警察局吹奏楽隊が吹き込んだレコードバージョン、江文也の独唱（柯政和がピアノ伴奏）、そして中学生による合唱（江文也が指揮）、各バージョンの《新民歌》が演奏された。また、より広く普及させるため、1938年5月3日から毎日昼12時に《新民歌》

が北京中央放送局より放送されるようになった<sup>100</sup>。

### 3-2 「新民民謡」をテーマとする歌曲募集と普及

1939年1月7日『新民報』に2回目の歌曲募集広告が打ち出された。今回は、「新民民謡」をテーマとする歌詞の募集が行われた。広告の内容によると、「茲新歲方始、本報為更使新民主義深入各地、決定繼新民之歌之後、再徵求《新民民謡》、以广流誦」（日本語訳：新たな一年に立つ所、本報は新民主義を各地に浸透させるため、また広く歌われるため、《新民之歌》の続きに《新民民謡》を募集する）と書かれた。5月15日に『新民報』によって受賞者が発表された。歌詞は15249点の応募数があったという。また一等賞を受けた王国章（賞金100元）は、河北省保定第二師範大学の二年生であった。注目すべきは、今回の作曲は日本人作曲家の飯田信夫<sup>101</sup>に委託したことである。王垠丹の論文によると、「日中親善と協力する意欲を示すために、作曲を日本人作曲家の飯田信夫に依頼した」と指摘している<sup>102</sup>。

《新民之歌》と同じように、《新民民謡》の授賞式を行う際にも演奏会が開かれた。演奏会は1939年7月2日午後2時から中央公園新民堂で開催された。北京市警察局楽隊の伴奏のもとに、覚生女子学校、北京市立師範小学校の生徒が《新民民謡》を合唱し、また中国人声楽家である王悌之が《新民民謡》を独唱した。当日の状況について、7月3日『新民報』に音楽報道と撮影写真が残っている<sup>103</sup>。また《新民民謡》のレコードは女性声楽家であり、日本武蔵野音楽学校声楽科出身の梁素馨<sup>104</sup>の独唱で勝利管弦楽団の伴奏のもとに、1939年5月16日に日本ビクター蓄音器株式会社でレコードに吹き込まれた。そして7月28日から北京中央放送局によって《新民之歌》と共に毎日放送されていた。

---

<sup>100</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013年、22页。

<sup>101</sup> 飯田信夫（1903-1991）、昭和期の作曲家、指揮者。戦前から「百万人の合唱」の音楽を担当するなど早くからラジオ、レコードの作曲家として活動。昭和13年の「上海」以来映画音楽も手がけ、「鶴八鶴次郎」「将軍」等を担当。

<sup>102</sup> 王垠丹、23页。

<sup>103</sup> 「昨新民堂演奏記」『新民報』1939年7月3日、7页。

<sup>104</sup> 梁素馨（1917-?）遼寧省旅順出身。1934年武蔵野音楽学校選科に入学、翌年本科声楽科に入学した。アジア歴史資料センター、「継続補給ニ関スル件：武蔵野音楽学校・昭和13-14年」（H-0392）。Ref: B05015504500 閲覧日：2019年10月2日。



新民報社題獎徵求勳運第一名

**新民民謠** 王國章作詞 飯田信夫作曲

標準-加緩

1 5 6 - 3 6 1 - 3 5 6 1 2 3 5 -

今也新 明也新 扔了舊的換上-新-

6 4 1 - 2 1 2 3 - 5 3 2 3 4 1 -

衣也新 心也新 你-也-新 秋也-新

2 3 5 - 3 5 6 2 2 - 1 2 3 4 5 6 1 2 3 -

悔-未 大-做-好-人 愛--朋友 愛-鄉-親

2 3 1 6 5 6 1 5 3 5 6 1 2 5 3 1 -

孝-父母 要-修-身 太陽出來-照-着-心-

図 2-16 (左) : 「新民民謠」授賞式兼演奏会に関する音楽報道<sup>105</sup>

楽譜 2-2 (右) : 《新民民謠》楽譜、作詞：王国章、作曲：飯田信夫<sup>106</sup>

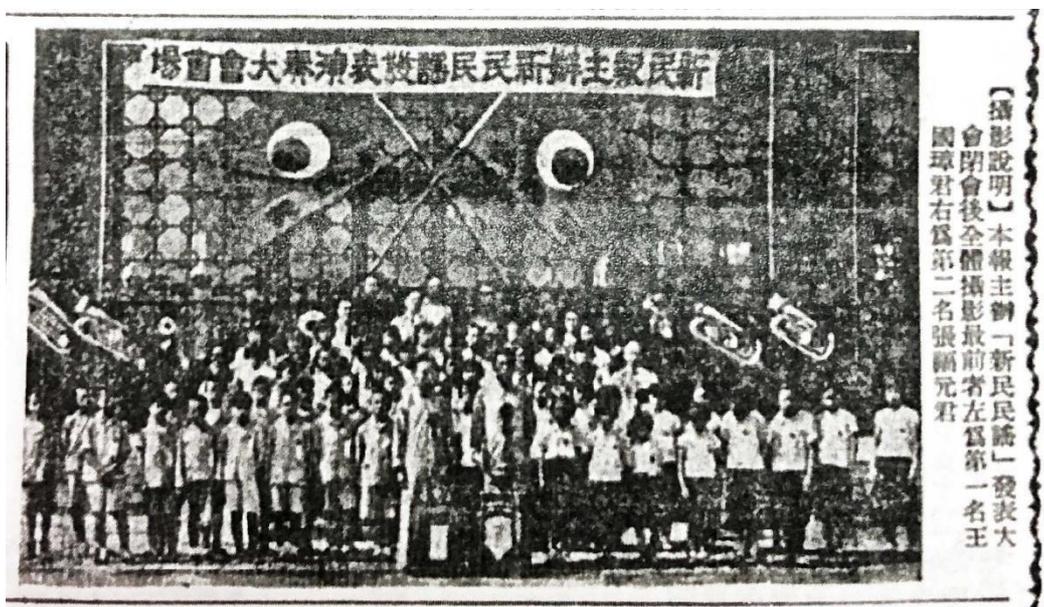


図 2-17 : 「新民民謠」授賞式兼演奏会の撮影写真<sup>107</sup>

<sup>105</sup> 『新民報』1939年7月3日、7頁。

<sup>106</sup> 『新民報』1939年5月15日、1頁。

<sup>107</sup> 『新民報』1939年7月3日、7頁。

### 3-3 「興亜進行曲」をテーマとする歌曲募集と普及

新民会が「善隣締盟以て東亜新秩序を建設す」という新たな綱領を打ち出したことに伴い、「興亜進行曲」（日本語では「興亜行進曲」）をテーマとする歌曲募集を開始した。1940年1月14日、新民会首都指導部は『「興亜進行曲」歌曲募集計画書』（略称：『計画書』）を発表した。

『計画書』によると、今回募集活動の主旨は「為表現國民之氣概，公開征集《興亜進行曲》歌詞，藉以發揮吾健走向新秩序建設之熱情與堅強之意志，由高尚之歌詞與協和之音樂，使其普遍浸透于大眾之間，以鼓舞激昂慷慨興亜之義氣。」（訳：国民の気概を表現するために、「興亜進行曲」の歌詞を公募する。高尚な歌詞と協和の音楽によって、東亜新秩序建設への情熱と強い意志を発揮し音楽を通して興亜精神を大衆の間に浸透させ、興亜の気概を鼓舞する）である。主催者は新民会首都指導部であり、後援者は軍報道部、特務機関、興亜院文化局、情報処、教育部、市公署、中央放送局、新民報、庸報、東亜新報、新北京報、実報、武徳報、国楽唱片会社である。募集期間は、1月15日から2月末までとなる。審査は北京にいる専門家によって行われ、3月20日に結果が発表された<sup>108</sup>。

1940年4月20日に新民会首都指導部で「興亜進行曲」歌詞募集の授賞式が行われた。一等賞は湯家驥（賞金300元）、二等賞は閻新之、金玉啟（賞金60元）、三等賞は張南屏、王堪、陳鐘育、劉超然等（賞金20元）。当日、北京特別市総会次長柯政和による「製曲要義」が改めて発表された。柯政和は以下のように述べた。

本総会で、「興亜進行曲」歌詞を募集する目的は、東亜新秩序の実現を視野に入れて、東アジアの人々を団結させてアジアの建設を前進させることです。東亜新秩序を実現するために、まず精神の統一をしなければいけません。精神の統一をするためには、「興亜進行曲」を作る必要があります。それ故に、本総会では、意欲的なアジアの人々の心を開くために、今回の歌詞募集活動を行いました。国内外の各界の人士の続々と投稿を受けました。佳作はとて多くて、専門家の審査によって今の成績を獲得したと言えます。（中略）歌詞の行間から湧たる興亜の精神を表し、大衆の声から向上の精神に富んだ気概が流れ出ます。誠に偉大で、深く感心しています。将来は有名な専門家に曲の制作を依頼し、きっと大衆の中に伝わることができます。また、本総会は歌曲のレコード製作や下半期に大規模な演奏会を開催する予定があります。<sup>109</sup>

残念ながら《興亜進行曲》の楽譜はまだ見つかっておらず、現時点では作曲者が確認できない。また王垠丹の論文によると、その後《興亜進行曲》は独唱曲、混声四部合唱曲、女声四部合唱曲、吹奏楽曲に編曲されており、1940年12月24日、新民会首都指導部の主催による長安劇院で「興亜進行曲発表大会」で発表された<sup>110</sup>。

「興亜進行曲」をテーマとする歌曲募集活動については、以下の二点に注目すべきところがある。一つ目は、1940年日本国内で「興亜行進曲」をテーマとする軍歌の公募も行われたことである。朝日新聞が主催、陸軍省、海軍省、文部省が後援して1940年3月22日

<sup>108</sup> 『新民報』1940年1月14日、7頁。

<sup>109</sup> 「膺選興亜進行曲歌詞 昨日舉行發獎式 柯政和闡明製曲要義」『新民報』1940年4月21日、7頁。

<sup>110</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013年、25頁。

から4月30日にかけて募集され、同年6月5日に発表された。2万9521通の応募の中から今沢ふきこという25歳の女性の詞が選ばれた。また曲は同年7月2日に発表され、藤原義江のピアノ伴奏をしていた福井文彦の曲が選ばれた。同月7月にレコード会社各6社から競作で発売された。日本国内と日本の占領地であった北京で、同じような歌曲募集活動が行われたことは意味深いと考えられる。残念ながら、北京で作られた《興亜進行曲》の楽譜と音源が見つかっておらず、まだ比較考察ができないが、日本国内の動向と占領地の動向を並行して考察することが、戦時下の音楽文化に関する研究の更なる展開に可能性を提示できるだろう。

二つ目は、北京の「興亜進行曲」募集活動が結果発表と演奏発表会にとどまらず、新民会首都指導部がその後、華北地域各地の小・中学校に歌曲の学習を命令し、定期的に「《興亜進行曲》唱歌コンクール」を開催したことである。1941年3月1日に長安劇院で「《興亜進行曲》唱歌コンクール」の予選が行われ、3月31日には懐仁堂で本選が行われた。本選には日本軍部、臨時政府また新民会の要人をはじめ、日中各関係者合計400人が参加したという。小学校組の第一位は北京市立師範附属小学校、第二位は天津市立女子師範附属小学校、第三位は山西省太原扶輪小学校。中学校組の第一位は河北省通県女子師範学校、第二位是北京育英中学校、第三位は天津市立中学校である。また個人の受賞者もいた<sup>111</sup>。当日学生の参加人数は確認できないが、学校名からみると華北の全地域でコンクールを推進していたことがわかった。

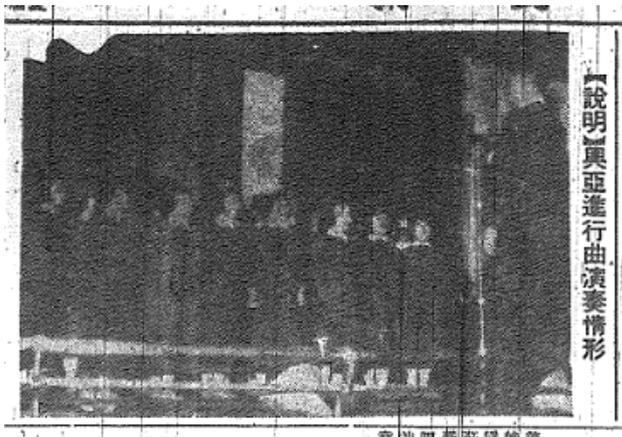


図2-18（左）：《興亜進行曲》唱歌コンクール予選<sup>112</sup>

図2-19（右）：《興亜進行曲》唱歌コンクール本選<sup>113</sup>

### 3-4 「大東亜総進軍之歌」をテーマとする歌曲募集と普及

1942年1月10日から23日間連続し、「大東亜総進軍之歌」をテーマとする歌曲募集の広告が『新民報』に掲載され続けていた。広告では募集の趣旨として「私たちの全東アジアの各民族を発揚して、中国人同士の勇気を奮い起こして、大東亜聖戦が早く完成することを祈ります」と書かれている。そして賞金は、それまでの10倍即ち一等賞は賞金1000

<sup>111</sup> 「興亜進行曲決戦大会 昨盛大舉行成績圓滿」『新民会』1941年4月1日、2頁。

<sup>112</sup> 『新民報』1941年3月2日、2頁。

<sup>113</sup> 『新民報』1941年4月1日、2頁。

元とされている。今回の歌曲募集については、1941年12月8日に太平洋戦争が始まったことがその背景であると考えられる。審査員は、林文龍、吉世安、陳宰平、周大文、柯政和等が務めた。2300通の応募の中から一等賞は杜宇の詞に、二等賞は北京市立象鼻子中坑実験小学校音楽研究の作品が選ばれた<sup>114</sup>。そして、作曲者は日本軍より北京国立師範学院音楽科の教授である江文也を指名した。

図 2-20：「大東亞總進軍之歌」公募広告<sup>115</sup>

楽譜 2-3：《大東亞總進軍之歌》<sup>116</sup>

1942年5月18日午後2時から、北京ビクター蓄音機会社で《大東亞總進軍之歌》がレコードに吹き込まれた。北京国立師範学院音楽科の生徒が合唱をし（そのうち、呂克利、馬逸君は合唱のリードを務めた）、華北軍岡田軍楽隊が伴奏した。呂克利、馬逸君の二人はいずれも江文也の門下生である。また当日江文也と、同じく北京国立師範学院音楽科の教授である張秀山が合唱の指導を務めた。レコードのA面には軍楽隊の吹奏楽バージョンが収録されており、B面には北京国立師範学院生徒による合唱のバージョンが収録された。これまで、《新民之歌》、《新民民謡》、《興亜進行曲》は日本のレコード会社で製作されたが、今回の《大東亞總進軍之歌》ははじめて北京ビクター蓄音機会社ですべての吹き込み作業が完成できたという<sup>117</sup>。

続いて6月20日午後3時から5時まで、「大東亞總進軍之歌発表会」が長安劇院で開催された。出演者は、岡田軍楽隊、北京師範大学音楽系教員と生徒、北京市内中小学校学生であった。また華北映画会社が当日の状況をドキュメンタリーの形で撮影し記録したという<sup>118</sup>。当日のプログラムは、以下の通りである。

<sup>114</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013年、25頁。  
<sup>115</sup> 『新民報』1942年1月10日、1頁。  
<sup>116</sup> 『新民報』1942年5月20日、4頁。  
<sup>117</sup> 「大東亞總進軍之歌 灌音昨告完成」『新民報』1942年5月19日、3頁。  
<sup>118</sup> 「大東亞總進軍之歌今日舉行發表大會 歡迎各界參加-地點在長安戲院」『新民報』1942年6月20日、3頁。

發表會秩序	
(一)	開會，司會者。
(二)	國旗敬禮，會樂一闕。
(三)	會詞，隨團組團長。
(四)	團委會。
一 歌唱指導	
	北京師範大學音樂系。
	「大東亞總進軍之歌」
二 合唱	
	象鼻子中抗實業小學校
	甲，「少年愛國歌」指揮， 關秀如。
	乙，「海行かば」(日本語) 伴奏，孔祥欣。
	丙，「大東亞總進軍之歌」
三 合唱	
	南立女子第一中學校學生。
	甲，「關進軍歌」
	乙，「大東亞總進軍之歌」
四 合唱與獨唱	
	甲，「大東亞總進軍之歌」
	獨唱 呂克利 周逸君
	合唱 國立北京師範大學音 樂系學生
	伴奏 雲北軍樂隊
五 管弦樂	
	雲北軍樂隊
	甲，序曲ワイルヘルムナ 乙，關進軍細亞
	丙，搖籃曲中國馬車
	丁，中國歌興進軍行曲
	戊，西班牙搖籃曲
小五 附會 附會者	

図 2-21：大東亞總進軍之歌發表大会のプログラム<sup>119</sup>

北京師範大学音楽系による《大東亞總進軍之歌》の歌唱指導を行い、それに続いて小学校・中学校の生徒による合唱、岡田軍楽隊の伴奏のもとに北京師範大学音楽系生徒による合唱と、軍楽隊の演奏で構成された。そのなかで日本語歌曲《海行かば》も小学校生徒によって歌われた。当日演奏の風景について、『新民報』1942年6月27日5頁で多数の写真が掲載された。



図 2-22：大東亞總進軍之歌發表大会、演奏の風景（中：岡田軍楽隊）<sup>120</sup>

その後、新民報首都指導部は北京市内の小中学校に《大東亞總進軍之歌》を学習するように命令した。そして《興亞進行曲》と同じように、「《大東亞總進軍之歌》歌唱コンクール」も開催された。1942年9月20日に予選を行い、9月26日に本選を行った。岡田軍楽隊は歌曲の伴奏を務めた<sup>121</sup>。

<sup>119</sup> 同上。

<sup>120</sup> 『新民報』1942年6月27日、5頁。

<sup>121</sup> 『新民報』1942年9月27日、4頁。



図 2-23 (左) : 《大東亞總進軍之歌》歌唱コンクール予選<sup>122</sup>

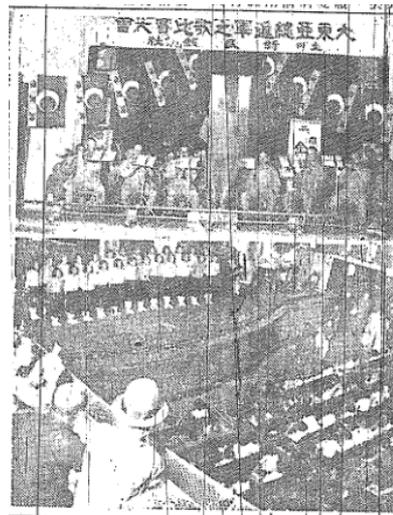
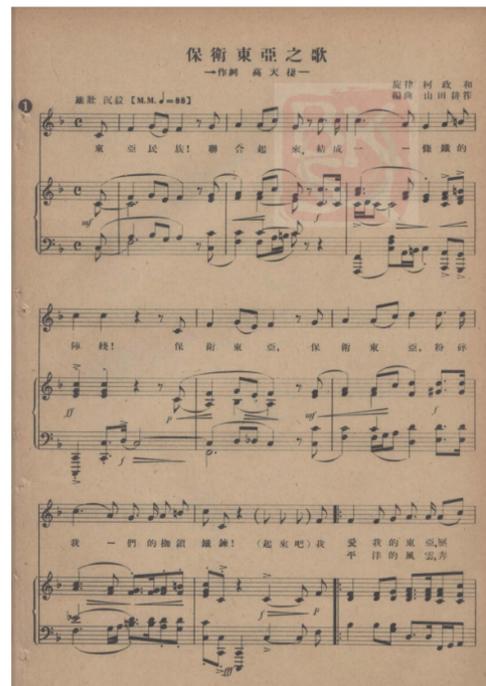


図 2-24 (右) : 《大東亞總進軍之歌》歌唱コンクール本選<sup>123</sup>

### 3-5 その他：華北放送協会と大阪毎日新聞社による「保衛東亜之歌」の歌曲公募活動

『新民報』主催の以外、1941 年華北放送協会と大阪毎日新聞社の合同主催による「保衛東亜之歌」の歌曲公募活動が行われた。具体的な開催日時は資料の欠缺で確認できなかったが、1941 年 7 月 10 日と 17 日に、「《保衛東亜之歌》歌唱コンクール」の予選と本選が行われたことが『新民報』から確認できた。『新民報』の記事によると、「東アジアを共同で守る精神を奮い立たせ、東アジアの新たな秩序を構築する観念を育成するために、華北放送協会と大阪毎日新聞社の協力を得て、本報社では「《保衛東亜之歌》歌唱コンクール」を開催します」と書かれている<sup>124</sup>。

そして、《保衛東亜之歌》の楽譜は大阪毎日新聞社が編集する雑誌『華文大阪毎日』に掲載されていることが確認できた。作詞は高天楼、旋律は柯政和、そして編曲は山田耕筰というところが、特筆すべき点であろう。山田耕筰が《保衛東亜之歌》とどう関わっていたのかは今後の課題にしたい。



楽譜 2-4 : 《保衛東亜之歌》 (一部) <sup>125</sup>

<sup>122</sup> 『新民報』1942 年 9 月 21 日、4 頁。

<sup>123</sup> 『新民報』1942 年 9 月 27 日、4 頁。

<sup>124</sup> 『新民報』1941 年 6 月 22 日、2 頁。

<sup>125</sup> 『華文大阪毎日』1941 年第 6 卷第 7 期、26～28 頁。楽譜は論文の付録に添付した。

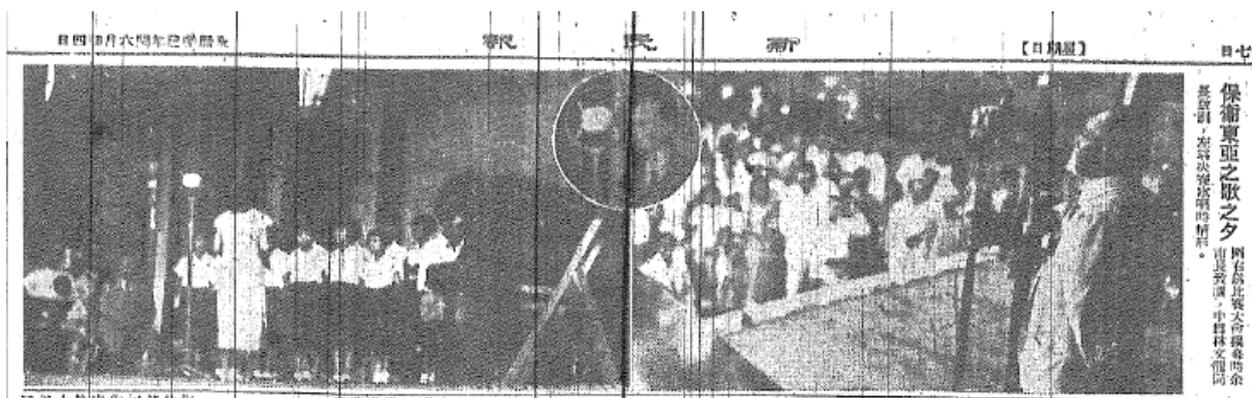


図 2-25：保衛東亞之歌之夕、演奏会<sup>126</sup>

### 3-6 まとめ

1938 年から 1942 年まで毎年「新民歌曲」の歌曲募集活動が行われた。「新民歌曲」の制定は新民主義ないし臨時政府のイデオロギーを大衆に浸透させるための手段であった。それを実現するため、世論の支持が不可欠であり、大きな運動を展開し、大衆の意識の高揚を図り、大衆を動員する必要があった。その手段として機能し、活用されたのは、音楽作品の募集であった。音楽作品の募集、特に歌詞の懸賞募集の場合、性別を問わず幅広い年齢層の大衆が参加できる点で、美術や映画など特別な技能を要するジャンルではなし得ない大衆の動員が可能だったと思われる。

そして新民報、レコード会社、中央放送局などメディアを通して、「新民歌曲」は直接かつ即時的に大衆に「聴かせる」ようになった。またコンクールの開催によって、新民会が「新民歌曲」に込められているイデオロギーを、大衆とりわけ学生世代に浸透させる目的も目立つように見える。歌曲の募集、審査、発表そして普及に至るまで、一つの一貫したイベントとして広く大衆にアプローチできる運動としての性格も併せ持っていたと考えられる。こういった「新民歌曲」の歌曲募集と普及の活動は、新民会の「音楽工作」の一つの実践であったと言えよう。

### 第四節 北京中央放送局における「音楽工作」の展開

「新支那」に対する第一回の留学生として戦時下の北京に来た石井文雄は、「更生支那の音楽を語る」という文章で、以下のことを述べた。

「新支那」に於ける音楽工作の中心は何と云ってもよい「放送局」（無線廣播電台であろう。現在のところ「廣播電台」も戦地であるだけに、軍の管轄の下にあり、其の報道機関であり、宣伝機関としての羈絆を脱し得ないのであるから、思ふ存分な本来の使命を發揮し得ないのは当然であるが、それにもまたそれで種々の方法があって、音楽文藝方面からの提携融合、宣撫指導の方策もあるのであるから、ラジオを通じての音楽工作というものがまずその方面のトップを切っているといっても良い<sup>127</sup>。

<sup>126</sup> 『新民報』1941年7月27日、7頁。

<sup>127</sup> 石井文雄「更生支那の音楽を語る」『音楽世界』第11巻第1号、1939年、91頁。

石井の記述から当時の北京における「音楽工作」の中心は中央放送局（無線廣播電台）であったことがわかった。中央放送局の全称は、北京中央放送局（中国語では「北京中央廣播電台」という。以下では史料表示以外は、「北京中央放送局」の名称で統一する）である。北京中央放送局は1938年1月1日に設立され、ラジオ放送が開始された。1937年北京が日本軍の占領下に置かれてから、日本軍は北京の放送事業を接收し、放送技術を改良し、放送方針と内容を変更した上で、北京中央放送局の設立に至ったのである。

北京中央放送局において具体的にどのような「音楽工作」が行われたのか、どのような形で「音楽工作」を展開していたのかを、『新民報』に掲載し続けた「北京中央廣播電台節目」（訳：北京中央放送局の番組表）のデータ、また音楽雑誌や新聞での記事（日本語・中国語）に基づいて、明らかにする。

## 1. 北京中央放送局における「音楽工作」

### 1-1 戦前の北京におけるラジオ放送の状況

北京中央放送局（中国語名は「北京中央廣播電台」）の前身は、「北京廣播無線電台」に遡ることができる。「北京廣播無線電台」が1927年中国東北を拠点とする張作霖軍閥の入京、そして北洋軍閥を統制したことに伴い、1927年9月1日に設立された。「北京廣播無線電台」は近代北京の初めてのラジオ放送局でもある<sup>128</sup>。1928年6月の時点では、北京においてラジオ受信機を設置された世帯は、1950戸であり、ラジオ受信機を販売する店舗は45軒であった<sup>129</sup>。そして、「北京廣播無線電台」（1938年から「北平廣播無線電台」に改称）が1920～30年代における北京政権の変遷に伴い、組織自体が何度も変革されていた。

表 2-4：北平廣播電台沿革一覧

名称	時期	所管	変更理由
北京廣播無線電台	民国十六年（1927年）9月1日	北洋政府所属東北無線電電話監督処	北京初めての廣播電台
北平廣播無線電台	民国十七年（1928年）6月	太原無線電管理处	民国16年（1927年）4月に南京政府が成立した。翌年、国民革命軍第三集団が北京に進駐し、東北軍は撤退した。
	同年10月	国民政府交通部	民国17年（1928年）6月28日北京が北平特別市に改称されたことに伴い、北平廣播無線電台に改称。
北平無線電廣播電台	民国十九年（1930年）10月	東北边防司令官（張学良部隊）公署	国民革命軍第三集団軍が撤退し、張学良が部隊を率いて北平に進駐した。

<sup>128</sup> 李志成「近代北京第一座无线广播电台」『北京档案』2020年第9期、49页。

<sup>129</sup> 李聪「北京的“声音”：1927-1937年北京广播电台与市民生活」『史学月刊』、2020年第9期、127页。

交通部北平廣播電台	民国二十一年 (1932年) 10月	交通部上海国際電信局	国民政府交通部が北平廣播電台を接收。
北京中央廣播電台	民国二十七年 (1938年) 1月1日	中華民國臨時政府	中華民國臨時政府が交通部北平廣播電台を接收。
北平廣播電台	民国三十四年 (1945年) 10月10日	国民政府中央廣播事業管理处	終戦後、国民政府が戦時下の北京中央廣播電台を接收。

赵玉明、艾红红、刘书峰主编『新修地方志早期广播史料汇编 上』<sup>130</sup>に基づいて筆者作成

1927年から1937年までの、いわゆる日本占領期までの10年間には、「北平廣播電台」があらゆる番組を立ちあげた。内容は文藝関係、生活関係、知識講座、時事などが含まれる。1928年4月15日のラジオ番組表を見てみると、「下午三點至晚上十點的節目有播放中西唱片，報告廣播消息，播放廣德樓俞步蘭、劉宗楊、王少樓、李萬春戲曲，重播中西唱片，天氣預報，報告京津商情行市，報告國內新聞暨廣播消息，播放開明戲院王又宸、尚小雲戲曲等。」<sup>131</sup>がある。番組表のなかから、特に音楽については、レコードによる中国音楽や西洋音楽の放送、戯劇、曲芸の生中継がなされたことが窺える。北京が1937年日本の占領地になるまでに、北京市民の生活にはラジオ放送文化が浸透し続けていたと考えられる。またラジオを通じた「音楽享受」という習慣が、ある程度北京市民のなかに定着していたと言えるだろう。

## 1-2 北京中央放送局の設立と経緯

続いて、戦時下の北京中央放送局に注目する。1937年7月北京が日本軍の占領地となっ  
てから、北京の放送事業も日本軍の統制に置かれていた。情報宣伝やイデオロギーの教化  
を浸透させるため、軍部はラジオ放送の役割を重視していた。日本軍は「北平廣播電台」  
を接收し、放送技術を強化し、放送方針と内容を変えた。1938年1月1日北京中央放送局  
（「北京中央廣播電台」）が設立された。コールサインはXGAPという。大電力の設備を新  
たに設置した。そこで大電力を北京中央放送局の中国語チャンネルに使うことにして、  
「北平廣播電台」で使われた小電力の設備は、北京中央放送局の日本語チャンネルに使う  
ことにした。そして、北京中央放送局の主席は周大文が務めた。

1938年1月3日の『新民報』では、北京中央放送局の開幕式当日の状況を報道した。当  
日、主席の周大文より以下の挨拶を述べた<sup>132</sup>。

ラジオ放送は世界中において重要な役割を果たしています。すべての文化、交通、  
商業、治安及び娯楽など放送によって世界中に伝えることができます。ですから近

<sup>130</sup> 赵玉明、艾红红、刘书峰主编『新修地方志早期广播史料汇编 上』北京：中国广播电视出版社、2016年、10页。

<sup>131</sup> 李聪「北京的“声音”：1927-1937年北京广播电台与市民生活」『史学月刊』、2020年第9期、128页。

<sup>132</sup> 「京市近代文化界先鋒中央廣播電台 前晚懷仁堂行開幕禮」『新民報』1938年1月3日、2頁。

代化の国ではラジオがほとんど家の必需品です。ラジオ事業の発達文化事業の発達に繋がっているため、文化事業が発達すればするほど、ラジオ事業も発達すると言えるでしょう。しかし、我が国の放送事業はまだ萌芽期にあります。北京放送の台頭は十数年の歴史がありますが、設備が粗末で、各種の技術的な不良のため、あまり発達していません。ですから、私たちがどうやって全国の人々を放送事業に興味を持たせるかということは、とても重要なことであり、放送局の人々の責任でもあります。

そして、これからのラジオ放送の構想について、以下のように述べた。

過去にラジオ事業が発達していなかった主な原因は、設備や番組が不良だったからです。この後、上記の二点を改善するつもりです。特に番組の更新という点については、北京は中国伝統戯劇、曲芸の発祥地であり、有名な役者がここに集まっています。彼らの素晴らしい芸術を広く発揚するために、北京に住んでいる人や北京に住んでいない人に対しても、家に座っているだけでも、すばらしい歌や音楽を鑑賞できるように、放送局としてはよい放送をしなければなりません。本局は、演劇、音楽放送の番組を非常に重視しているため、この度「顧問委員会」を組織しました。委員は北京に在住している伝統戯劇、曲芸、伝統音楽、西洋音楽の専門家です。専門家たちがどうやってリスナーの興味を高められるのかを研究し、ラジオ放送の番組を考えます。リスナーの皆様、何かご意見やご指示がありましたら、いつでも書簡でお知らせください。

また、挨拶の最後にラジオを通じての「日中親善」の役割についても言及した。

放送局は、中国と日本が真の協力と善意を求める時に、放送を使って双方の考えや思想、又は技術的な側面を伝えることができると感じております。このような関係により、両国国民の感情をさらに高め、相互理解を深めることを期待しています。

周の挨拶から見ると、まずラジオ放送事業の重要性を強調した。「顧問委員会」の詳細について、現時点の資料では確認できないが、放送局では音楽を重視する方針を読み取れるであろう。また時局や社会情勢を考えた上で、ラジオ放送が軍政の報道機関・宣伝機関であり、「日中親善」のための情報宣伝や教化の機能も当然ながら期待されていたことがわかった。

そして、北京中央放送局のラジオ放送の聴取状況について、具体的なデータを確認することができなかったが、『新民報』の記事によると、北京中央放送局の放送範囲をある程度把握することができる。1938年10月1日『新民報』によると、天津市や河北省の放送局がすべて北京中央放送局の番組を中継することになり、華北地域の放送番組は一元化することになることが分かった。また1938年10月14日と1939年2月6日の『新民報』の記事によると、北京中央放送局が日本国内や「満洲国」に放送することも実現できたことがわかった。

### 1-3 文藝係と「洋楽制度」の放送方針

北京中央放送局における「音楽工作」は、具体的にどのような形で実行されていたのか。まず、北京中央放送局文藝部に触れておく。北京中央放送局文藝部の全称は「北京中央廣播電台放送科文藝係」（以下「文藝係」と略称する）である。組織の構成や係員の人数については確認できなかったが、現時点の資料から、文藝係について以下の三点が確認できた。

一点目は、戦時下の北京に初めて移住した日本人音楽家の袴田克巳が、文藝係の係員であったことである<sup>133</sup>。前章で述べたように、袴田克巳は1938年4月23日日本を出発し北京に渡航したことが分かった。それ故に、袴田が文藝係の係員を務め始めたのは1938年5月以降であり、そして文藝係の重要な役割を果たしていた可能性があるかと推測される。袴田の履歴については第三章で詳しく記述する。

二点目は、1938年8月1日から1939年5月31日までの『新民報』において、第7頁又は第8頁に「無線文藝」という欄が存在したことである。「無線文藝」は北京中央放送局のラジオ番組表における文藝関係の内容について、見どころや特に紹介すべきところなどをピックアップし、解説文章または宣伝的な文章を載せる欄である。その編集者が「北京中央廣播電台放送科文藝係主編」と書かれていることから、文藝係が「無線文藝」の企画と文章作成を担当していたことが確認できる。その内容は、西洋音楽、ジャズ、伝統曲劇、演劇などあらゆるジャンルの解説や紹介文を含んでおり、また時局や社会情勢に合わせて放送されたイベントの紹介もある。例えば、「鋼琴独奏曲紹介」（1938年8月3日）、「第七交響曲とベートーヴェンの紹介」（1938年8月7日）、「長安劇院による京劇中継の紹介」（1939年1月26日）、「春節の娯楽放送プログラムの紹介」（1939年2月18日）などがある。「無線文藝」の内容からみると、その編集の担当者は相当の音楽知識を持たないといけないことが考えられるであろう。袴田克巳の音楽的出自を考えると、彼が「無線文藝」の編集に関わっていた可能性が高いと思われる。そして、「無線文藝」欄は、『新民報』の読者や北京中央放送局の聴者に音楽を普及したり、音楽をより深く理解させたりするために役割を果たしたと言えよう。

三点目は、1939年の時点では、北京中央放送局における音楽の放送方針は「洋楽制度」であったことである。石井文雄は「更生支那の音楽を語る」（1939）という文章で、「北京中央放送局で実行している音楽プロ工作は洋楽制度である」<sup>134</sup>と指摘した。そして袴田克巳も日本の占領地区に於いては、抗日歌は絶対に禁止されている一方で、国際言語としての西洋音楽の力を生かし、日中親善を深めることを主張した。「巷説支那談義（北支音楽の巻）」では袴田が以下のように述べた。

藝術殊に音楽を通じての工作は一層効果的だと思う。この場合如何に日本固有の音楽が優秀なりと言へ直ちに是を以って実施していく事は困難であるから、まず国際語と言はれる洋楽を通じて入って行かなければ労多くして効果が薄い。音楽から入った親善工作に対しては中国人に警戒心を起させることなくに愉快に明るい気分浸らせることができる<sup>135</sup>。

<sup>133</sup> 袴田克巳「巷説支那談義（北支音楽の巻）」『揚子江』第3巻第10号、1940年、75頁。

<sup>134</sup> 石井文雄「更生支那の音楽を語る」『音楽世界』第11巻第1号、1939年、91頁。

<sup>135</sup> 袴田克巳「巷説支那談義（北支音楽の巻）」『揚子江』第3巻第10号、1940年、75頁。

「巷説支那談義（北支音楽の巻）」文章の最後には、袴田克巳が「筆者は北京放送局文藝部員」と署名している。袴田が西洋音楽を北京中央放送局における音楽放送の方針にしようとした言葉は見つかっていないが、袴田が音楽工作において「洋楽」が果たす役割を再三強調したことは、袴田が所属していた文藝系の仕事にも影響を与えてくると考えられるだろう。

## 2. ラジオ番組表からみる「音楽工作」の実際

以上の背景を踏まえて、実際にラジオ番組表において音楽内容の構成がどうなっていたのかを明らかにする。下文は筆者が把握している1938年8月1日から1939年7月31日まで『新民報』に掲載されている約1年分の北京中央放送局ラジオ番組表のデータ<sup>136</sup>に基づいて、考察を進める。

### 2-1 「新民歌曲」の放送

本章の第三節ですでに述べたように、新民会が主催とした歌曲募集活動により公募された歌曲や、新民会が指示して作られた歌曲といった「新民歌曲」は、歌に込められている新民主主義のイデオロギーを大衆のなかに浸透させるため、新民会の指示により北京中央放送局で毎日放送されるようになった。放送の時間も昼12時15分から12時45分まで「唱片」（レコード）の時間帯に固定されている。例えば1939年1月4日（水）のラジオ番組表を見てみると、「唱片」の内容は「1. 歌曲——江文也唱《新民之歌》、《新民青年会歌》、白光唱《新民婦女歌》。2. 京劇——梅蘭芳律佩芳合唱《玉堂春》、王竹生唱《文昭》」がある。また時には、《東亜進行歌》、《新民会会歌》、《新民会会旗歌》などの「新民歌曲」も放送されている。

一方、「新民歌曲」を大衆に練習させるために、特に放送で練習時間を設けたこともある。例えば1939年5月10日から20日まで10日間に、毎日11時50分から11時59分まで「東亜進行歌練習時間」が設けられた。歌手文麗の独唱で北京国楽唱片会社による吹き込んだ《東亜進行歌》のレコードが繰り返して放送された。以上のように「新民歌曲」は、ラジオ放送の固定内容として毎日強制的に大衆の耳に届けられるようになった。

### 2-2 西洋音楽の放送

次に、北京中央放送局の放送方針でもある西洋音楽の放送に触れてみよう。西洋音楽の放送は、主に三つのパターンに分けられる。レコードによる西洋音楽の放送、東京中継による西洋音楽の放送、生演奏による西洋音楽の放送である。西洋音楽レコードの放送は、毎日11時50分から12時15分までの時間帯によく見られる。東京中継による放送と生演奏による西洋音楽の放送は、夜20:00から20:30の間に固定されている。

レコードによる西洋音楽の放送の内容は、古典派とロマン派のクラシック音楽の曲目が主な対象である。しかし、レコードの名前や製作会社など詳細の内容は、ラジオ番組表から確認できない。『北平廣播電台唱片目録』（1912年1月1日-1949年9月30日、档案

---

<sup>136</sup> 筆者は1938年1月1日から1940年10月31日まで『新民報』に掲載されている北京中央放送局ラジオ番組表を複写できたが、1938年2月1日から7月31日までの史料を全て複写できなかったため、今回の分析は1938年8月1日から1939年7月31日までの範囲と設定した。

号：J070-002-00932)によると、北平廣播電台が西洋音楽のレコード（日本製を含む）を300枚以上持つことがわかる<sup>137</sup>。また本文の第一章で紹介した1920-30年代の北京におけるレコードの販売や蓄音機の普及状況から考えてみると、西洋音楽のレコードがある程度に北京の市場に流通していることが確認できる。要するに、放送局にとって西洋音楽のレコードを手に入れることはそこまで難しいことではないと考えられる。

続いて、東京中継（東京轉播）による西洋音楽の放送について述べる。現時点では、1938年8月1日から1939年7月31日まで『新民報』のラジオ番組表から約34回の中継記録が見つかっており、以下の表にまとめる。放送時間はほとんど夜20時から20時半までである。

表 2-5：東京中継（東京轉播）による西洋音楽の放送内容一覧（中国語）

年	月日	星期	頁	内容
1938	8月9日	二	8	合唱（二十時）東京轉播（大日本聯合合唱團）。
	8月14日	日	8	唱片（十二時）東京轉播。
	8月20日	六	8	曼德林五重奏（二十時）東京轉播。
	8月21日	日	8	管弦樂（二十時）東京轉播、松竹管弦樂團、指揮：紙恭輔。
	8月30日	二	8	合唱（二十時）東京轉播。
	9月3日	土	8	獨唱（二十時）東京轉播。《無根草外》、獨唱：藤原義江、鋼琴：多部三郎。
	9月6日	二	8	室內樂（二十時）東京轉播、鈴木四重奏團（小提琴：鈴木鎮、鈴木喜文夫、中提琴：鈴木秋喜、大提琴：鈴木二三夫）。
	9月20日	二	8	鋼琴獨奏（二十時）東京轉播、鋼琴：禮阿尼克來查。
	10月6日	四	7	鋼琴獨奏（二十時）東京轉播、李斯特作品集。鋼琴：禮阿尼克來查、練習曲、惡魔之圓舞曲、愛之夢、匈牙利狂想曲。
	10月20日	四	7	小提琴獨奏（二十時）東京轉播、小提琴：巖本真理、鋼琴：阿部和子。
	11月10日	四	8	獨奏及獨唱（二十時）東京轉播。1. 加藤琉璃子鋼琴獨奏《變奏曲》G長調、牟查德作曲、2. 遠藤磨裡子小提琴獨奏《協奏曲》G長調、孟德爾作曲、由武澤鋼琴伴奏、3. 山本篤子獨唱、由松本寬子鋼琴伴奏：1) 南國風光、多馬作曲、2) 國民歌謠《母親之歌》板星節子作詞、橋本國彥作曲、3) 小林和子鋼琴獨奏《詩曲》作品四七、蕭邦作曲。
11月18日	五	7	小提琴獨奏（二十時）東京轉播、小提琴：鳩山寬。1. 巴基達、2. 美奴愛特、3. 緩廣調、4. 小夜曲、5. 小圓舞曲、	

<sup>137</sup> 李聰「民国北平广播电台研究」、宁夏大学硕士论文、2014年、17～20页。

1938				6. 加福特。
	11月24日	四	8	合唱（二十時）東京轉播，俄國大合唱團演奏九曲，指揮夏拉寶：1. 皇帝萬歲（歌劇雪姬選曲，林斯基果沙果夫作曲）2. 民謠（行駛伏爾加河中）、3. 綠色的牧場、4. 黃昏、5. 結婚式之歌、6. 坡卡、7. 柳絮、8. 盛■無窮、9. 綠色之森林。
	11月29日	二	8	管弦樂（二十時）東京轉播、大阪放送交響樂團奏第二交響詩《喜歡與勝利》、第三交響曲《布拉姆斯作曲》。
	12月4日	日	8	東京轉播：管弦樂唱片、交響曲第五號。
	12月10日	六	7	管弦樂及二重唱（二十時）東京轉播、日本放送樂團奏管弦樂。
	12月13日	二	7	吹奏樂（二十時）東京轉播，陸軍戶山學校軍樂隊奏樂。
1939	1月8日	日	8	曼德林合奏（二十時）東京轉播，橫濱曼德林俱樂部演奏。
	1月9日	一	8	管弦樂（二十時）東京轉播，大阪放送交響樂團演奏管弦樂。
	1月10日	二	8	鋼琴獨奏（二十時）東京轉播，水園登史子演奏。
	1月12日	四	8	小提琴獨奏（二十時）東京轉播，大岡運英演奏。
	1月13日	五	8	管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響樂團演奏。
	1月17日	二	8	鋼琴獨奏（二十時）東京轉播，安尼維多留斯。
	1月23日	一	8	吹奏樂（二十時）東京轉播，杉山部隊軍樂隊演奏。
	1月27日	五	8	管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響樂團演奏。
	2月6日	一	8	小管弦樂（二十時）東京轉播，杉山部隊軍樂隊演奏。
	2月9日	四	8	小提琴獨奏（二十時）東京轉播，奏鳴曲第八番 G 長調。
	2月17日	五	8	獨奏（二十時）東京轉播，夫呂特獨奏協奏曲。
	2月28日	二	8	室內樂（二十時）東京轉播，弦樂四重奏曲
	3月9日	四	7	管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響管線樂團演奏。
	4月8日	六	8	小提琴獨奏（二十時）東京轉播。
	5月8日	一	8	管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響樂團演奏《交響曲》。
5月15日	一	8	二重唱（二十時），東京轉播。	

ラジオ番組表ではすべての曲目や演奏者の情報が掲載されなかったが、中継の頻度からみるとほぼ毎週であり、頻度が高い時には1ヶ月間のなかに8日間にわたって中継されたことが分かった。そして出演者について、大日本連合唱団、日本放送交響樂團（「日本放

送樂團」)、大阪放送交響楽団、陸軍戸山学校軍楽隊など日本楽壇においても代表的な演奏団体の登場が注目すべきであろう。当時の北京中央放送局が、日本の放送局とどのような関わりがあったのかについて、現時点の資料ではまだ解明できない。しかし、ラジオ放送を通じて、当時の日本楽壇のレベルを代表できる演奏団体や個人の演奏による西洋音楽を北京の聴衆に届けることが可能であったことは間違いない。また「洋楽制度」の放送方針を考えてみると、文藝系の担当者(もしくは袴田)が意図を込めてこのようなプログラムを選んだ可能性も考えられる。

最後、生演奏による西洋音楽の放送について触れておく。放送時間は東京中継と同じく夜 20 時から 20 時半までがほとんどである。放送の内容について、特に「世界名歌曲定期放送」と「北京警察局楽隊定期演奏」を挙げられる。「世界名歌曲定期放送」は、北京中央放送局が作曲家・声楽家である江文也に依頼し、世界的な名曲を江文也の独唱によって生放送をするプログラムである。最初の放送日は資料の欠缺で確認できなかったが、1938 年 9 月 7 日の『新民報』によると、「世界名歌曲定期放送第 7 回」が放送されたことが確認できた。当日、江文也がゴダールの名曲《ジョスランの子守歌 (Berceuse de Jocelyn)》とイタリア民謡 2 曲(曲名は不明)を演唱し、袴田克巳がピアノ伴奏を務めた。当日「無線文藝」の文章でも放送の経緯や、江文也の履歴も大幅に紹介された。「世界名歌曲定期放送」は 1939 年 12 月まで合計 30 回が放送された。江文也の独唱のほか、ピアノ伴奏は中国人音楽家の老志誠、または北京師範大学で教鞭を執ったロシア人のピアニストのプラウロフスキー、ドイツ人ピアニストのグプケであったことがわかった。演奏されたレパートリーからみると、ロマン派音楽の声楽曲が多く、また江文也の自作の歌曲もあったのである。詳細については第四章における江文也に関する節で詳しく記述する。

一方、「北京警察局楽隊定期演奏」はどのような放送であったのか。まず「北京警察局楽隊」について説明する。1938 年 8 月 26 日(第 8 頁)『新民報』では、北京警察局楽隊の成立歴史について以下のように紹介された。

当局のバンドは、前清の光緒三十二(1906)年十月に設立された。西楽をはじめとして、古楽をも習っている。民政部の管理に属している。民国二(1913)年まで、京師員警察庁に改属し、十七(1928)年に北平特別市公安局に改属し、二十六(1937)年に当局に改属した。創立以来、計 32 年目となる。また、前清禁衛軍、甘肅省公署、察哈爾省公署、山東監督弁公署、本市悟善社などの所でのバンド組織の始まりは、すべて本バンドから教員を招聘したのである。今年(1938)は北京と河北放送局が設立され、相次いで中国と西洋の音楽を演奏するために放送局に招聘された。今日は北京警察局楽隊が二十時に三曲を演奏する。

曲目は《講和退讓行進曲》、《聯隊得意行進曲》、《在山上散步行進曲》の 3 曲であった。曲名から見ると、進行曲であることが分かるが、いずれも中国語に訳したタイトルであると思われるので、曲目の中身は確認できない。北京警察局楽隊は吹奏楽を演奏するだけでなく、紹介文に書かれたように中国の伝統音楽(「絲竹合奏」)も演奏する。「絲竹合奏」も定期演奏のなかに含まれている。1938 年 8 月 1 日から 1939 年 7 月 31 日まで『新民報』のラジオ番組表から約 27 回の放送記録が確認できた。

また特筆すべきは、石井文雄が音楽工作現地報告についての文章では、北京中央放送局のことを述べる際に、北京警察局楽隊のことにも言及していることである。「一般の洋楽

方針として警察バンドを養成してこれを確立させようという考えから、これと契約して江文也のタクトによって月々定期演奏をしているのがその内容や成績等の批判はここにはさしひかへて措く」<sup>138</sup>。「警察バンド」は「北京警察局楽隊」のことを示しているのか、確実に言い切れないのだが、当時の状況からみると「北京警察局楽隊」の可能性が十分にあり得ると考えられる。石井文雄の文章から、「北京警察局楽隊」を養成することが北京中央放送局の洋楽方針の一つにもなることが窺えた。江文也が北京警察局楽隊の指揮者として招聘されたことは注目すべきであろう。

### 2-3 大衆音楽の放送

北京中央放送局の音楽放送について、「新民歌曲」や西洋音楽の以外では、大衆音楽の放送も挙げられる。内容は、流行歌の放送、ハーモニカ（口琴）音楽の放送とジャズ音楽の放送である。そのなか、ハーモニカ（口琴）音楽の放送について、1938年8月1日から1939年7月31日まで『新民報』のラジオ番組表から約23回の放送記録が確認できた。出演者のほとんどは中華口琴会会長王慶勳をはじめ、口琴会の会員である。

またジャズ音楽について、「北京国楽唱片公司爵士樂團」がジャズ音楽演奏の主な担い手であった。「北京国楽唱片公司」の広告は『新民報』のなかにしばしば見られるが、「北京国楽唱片公司爵士樂團」について詳しい状況がまだ確認できなかった。1939年2月18日（8頁）『新民報』のラジオ番組表からみると、「北京国楽唱片公司爵士樂團」の指揮者は日本人音楽家の青谷徳二であることだけが分かった。

### 2-4 「慶祝活動」のための特別放送

ここで言う「慶祝活動」は、日本軍や臨時政府が周年記念や戦事の勝利などを慶祝する活動を示すことである。例えば、1938年10月30日と31日に「漢口陥落」を慶祝するために特別放送が行われた。そして、1939年7月3日から1週間には「與亞紀念週間特別廣播節目」が放送された。期間中に毎日の「與亞特輯青年時間（十九時開始）」では北京警察局楽隊による《中国国歌》、《日本国歌》、《滿洲国歌》、《東亞進行歌》の演奏が放送された。また具体的に、以下一つの事例を挙げられる。

北京中央放送局が成立1周年を記念するために、1939年1月1日から3日まで3日間にわたって「音楽集団放送」が行われていた。「音楽集団放送」は北京市内の中国音楽や西洋音楽の専門家を集めて多様なプログラムを取り込んでいた。1938年12月30日『新民報』の「無線文藝」に、「音楽集団放送」2日目と3日目のプログラム（1日目のプログラムが不明）が掲載されており、以下の表にまとめた。

---

<sup>138</sup> 石井文雄「更生支那の音楽を語る」『音楽世界』第11巻第1号、1940年、91頁。

表 2-6：「音楽集団放送」2日目と3日目のプログラム（中国語）

日時	放送時間	ジャンル	曲目	出演者
1939年 1月2日	11:30 開始	廣東音楽	1. 貴妃出浴、2. 燭影搖紅、3. 醉太平、 4. 柳搖金、5. 鴛鴦、6. 小桃紅	北京燕社
	12:00 開始	絲竹合奏	1. 春從天上來、2. 海棠新、3. 雲慶、4. 水中花、5. 雙飛蝴蝶、6. 五福降中天	韶光社
	14:15 開始	十番音楽	1. 慶賞、2. 萬民歌	李綽仁、 蔡東林、 白子明等
	18:30 開始	夏威夷音楽	1. 碧綠的夏威夷、2. 火魯奴奴的小秦會 所、3. 夏威夷的戀愛、4. 馬利希尼的沙 灘、5. 加羅拉多的月光、6. 對影成三 人、7. 椰子島	黃卓人 等。
	20:40 開始	忽雷獨奏	1. 高山流水、2. 到春來	朱子栽
1939年 1月3日	11:30 開始	南胡獨奏	1. 薰風操、2. 關頭歌、3. 月夜、4. 慶之 春	王紹先
	14:15 開始	古箏獨奏	1. 天下大同、2. 百鳥朝鳳、3. 位祿名壽	姜樹華
	19:00 開始	提琴與口琴	1. 米諾愛特舞曲、2. 聖馬利亞、3. 中華 前進曲、4. 阿里路亞、5. 進行曲、6. 天 國與地獄	北京育英 中學校生
	20:40 開始	鋼琴獨奏	1. 秋興、2. 牧童之樂、3. 小曲三、4. 鐘	老志誠

2日間のみのプログラムを見ると、伝統音楽や西洋音楽を含まれたことが確認できた。このような特別な「音楽集団放送」の形からは、当時の北京楽壇の一つの側面を窺うこともできると言えよう。

### 第五節 総力戦体制と楽壇の統制——「音楽工作」の強化

1941年12月太平洋戦争の勃発によって、日本軍の華北基地である北京でも色々なことの風向が変わってきた。日本国内のように総力戦体制と楽壇の統制が行われた。そのなか、特に1941年11月に設立された「日本音楽文化協会」の規約に則って、1942年2月に創立された北京音楽文化協会のことと、1942年11月に建てられた北京音楽堂のことは特筆すべきである。

#### 1. 北京音楽文化協会の設立と協力演奏会の増加

『音楽文化新聞』に掲載された袴田克巳の文章「北京音楽文化協会の誕生」では、北京音楽文化協会の設立経緯および目的を、以下のように述べている。

北京音楽文化協会は、太平洋戦争の勃発によって華北の基地北京に於いて洋楽界を団結するため、1942年2月に設立された。規約は、日本音楽文化協会に則って作成された。華北の特殊性は日本人及び中国人から構成され、音楽文化を通じて日中の善隣友好の徹底を図る点が異っている。会費を徴収せず、出来得る物質的に

精進的に助成する方針である。協会の経費は、寄付や助成金によって運営される。援助は日本側は、興亜院華北連絡部、大使館、大政翼賛会北京事務局；中国側は、新民会、華北中央放送局などである。

そして協会の事業については、「華北の音楽界のレベルを引き上げ、明朗な健全な音楽界にするためであり、在留邦人に対する高尚なる趣味の涵養と健全な娯楽の提供は目下の急務である」と指摘している。援助方から見ると、大政翼賛会と関わっていることも注目すべきであろう。

また1942年2月27日に開催された創立記念演奏会について、「1942年2月27日夜7時半より真光映画館に於いて創立記念演奏会が開催された。北京ではじめての日中合同音楽会入場料は徴収せず、無料で申込によって配布した。中国人の聴衆は約半数を占めていた。」と袴田が述べた。注目すべきなのは、「北京ではじめての日中合同音楽会」という事である。これまでに日中音楽家が共演した演奏会は多数あったが、この「合同音楽会」がどういう意図が含まれていたのかは、意味深いと考えられる。そして、1942年2月25日の『新民報』では、27日創立記念演奏会の全プログラムが掲載された。

(1) 混聲合唱 (2) 夏威夷海面之凱歌 (3) 雲雀之歌 (北京合唱音樂協會、指揮荒井三郎)		(1) 管絃樂 歌劇「塞維爾之理髮師」 (北京交響樂團、指揮井上直二)	
(2) 鋼琴獨奏 (1) 夜想曲 (2) 幻想的即興曲 (三浦宙一)		(2) 鋼琴獨奏 奏鳴曲「月光」 (陳汝翼)	
(3) 獨唱 (1) 頌 (2) 歌劇 (森喜美子)		(3) 獨唱 (1) 十六夜 (2) 安息之君 (鈴木富美子)	
(4) 獨唱 (1) 對於小川之感謝 (2) 水車屋之花 (3) 捧呈 (劉陽春)		(4) 鋼琴獨奏 協奏曲第一號 (趙年魁) (5) 鋼琴獨奏 奏鳴曲 瓦長調 (田中利夫)	
(5) 鋼琴獨奏 (老志誠)		(6) 獨唱 (1) 如何美麗的神之恩惠 (2) 歌劇 (寶井真一)	
(6) 獨唱 (1) 鐘鳴 (2) 我仍太陽 (3) 夜之奧津城 (一瀬克己)		(7) 混聲合唱 (1) 亞細亞之力 (2) 天地創造 (3) 海行。 (北京合唱音樂協會指揮荒井三郎)	
(7) 吹奏樂 (1) 雄燧 (2) 日本的提燈會 (華北運輸吹奏樂團、指揮森)		(三郎) (2)	

図 2-26 : 1942年2月27日北京音楽文化協会創立記念演奏会プログラム<sup>139</sup>

プログラムから見ると、団体の出演について、合唱は荒井三郎の指揮する北京合唱音楽協会であり、井上直二指揮する北京交響樂團は約40名の団員でロッシーニの歌劇「セヴィラの理髮師」の序曲を演奏した。また吹奏樂團は、華北運輸吹奏樂團が出演した。樂團の指揮者は軍隊出身の森信雄であった。そして、個人の出演は、ピアノでは三浦宙一、老志誠、陳汝翼（武蔵野音楽学校出身）、田中利夫の諸氏の独奏。声楽では、劉陽春、森喜美子、一瀬克己、寶井真一の諸氏が日本語・ドイツ語・イタリア語の歌曲を、提琴では趙

<sup>139</sup> 『新民報』1942年2月25日、5頁。

年魁がアッコーライの協奏曲を三浦の伴奏で演奏した。プログラムの内容と出演者のことから見ると、北京音楽文化協会の創立記念演奏会では当時の北京における西洋音楽のレベルを代表できる音楽家のほとんどが集められたと言っても過言ではない。

そして、北京音楽文化協会が設立してから、日本人音楽家の演奏旅行、および日中音楽家の合同演奏が明らかに増加してきたと、『新民報』の記事及び『音楽之友』に掲載された文章からうかがえた。1942年3月から6月までのたった3か月間に約13回の演奏会が行われた。以下の表にまとめた。

表 2-7 : 1942年3月から6月に北京で行われた西洋音楽の演奏会

日期	場所	タイトル	出演者	備考 (プログラム等)
1942/3/14	真光映画館	北京交響楽団 第4回演奏会	北京交響楽団	
1942/3/15	国民学校講堂	「管弦楽の夕」	北支那方面軍軍楽隊	第一部 (管弦楽) (1)行進曲「軍隊」(シューベルト)、(2)円舞曲「碧きドナウ」(シュトラウス)、(3)玩具交響曲(ハイドン)、(4)提琴獨奏 ロマンズ長調(ベートーヴェン)、(5)弦楽四重奏「セレナーデ」(モーツァルト)、(6)交響曲第五番(ベートーヴェン) 第二部 (吹奏楽) (1)序曲 セミラミーデ (ロッシーニ) (2)組曲 スペイン奇想曲(リムスキ・コルサコフ)
1942/3/16	北京飯店	「管弦楽の夕」	北支那方面軍軍楽隊	同上
1942/3/29	真光映画館	辻久子演奏会	辻久子	(1)シヤコンヌ(バッハ) (2)荒城之月(山田耕作編曲) (3)妖精の舞(バッジーニ)
1942/4/25	真光映画館	藤原義江独唱会	藤原義江一行	藤原義江、三上孝子、高柳二葉、村尾護郎、ピアノの安川正。プログラムは不明。
1942/4/26	国民学校講堂	藤原義江独唱会	同上	同上。
1942/5/4	北京飯店	北京合唱音楽協会第1回演奏会	荒井三郎	
1942/5/31	北京	演奏会	寶井眞一、	陳汝翼がリストの《ハンガリー狂詩

	飯店		田中利夫、 陳汝翼など	曲第 7 番》を演奏した。
1942/6/3	国民 学校 講堂	北京音楽文化 協会第一回音 楽大会（再 演）	双葉合唱 団、王純 方、王榮 珍、古藤孝 子など	第1回演奏会が創立演奏会に出演しな かった団体・個人によって日華両国 人のために無料公開された。国民合 唱を双葉合唱団が、イタリア民謡 3 曲を王純方が、ラフマニノフの《前 奏曲》その他を王榮珍が、プッチー ニ《トスカ》とヴェルディ《椿姫》 からのアリアを古藤孝子が、フォー レの《ゆりかご》その他を張維之 が、シューマン 2 曲と国民歌を松原 宏が演奏した。
1942/6/18	北 京 飯店	北京交響楽団 第 5 回演奏会	北京交響楽 団	《ロシア風行進幻想曲》、《フィン ガルの洞窟》序曲（メンデルスゾー ン）、ベートーヴェンピアノ協奏曲第 1 番。
1942/6/22	北 京 飯店	低音歌家斯義 桂 獨唱音樂會		
1942/6/23	新 々 大 劇 院	満州建国 10 周 年記念演奏会	哈爾濱交響 楽団、李香 蘭	(1) リムスキー・コルサコフ《シエ ヘラザード》(2) 《スペイン狂詩曲》 等。
1942/6/24	新 々 大 劇 院	満州建国 10 周 年記念演奏会	同じ	(1) ベートーヴェン《交響曲第 5 番》 (2) ベートーヴェンの序曲《レオノー レ 第 3 番》(3) 《荒城の月》《何日 君再来》（独唱：李香蘭）など

『新民報』記事、『音楽之友』記事に基づいて筆者作成

そのなかで、特筆すべきは「満洲国 10 周年記念演奏会」である。「慶祝満洲国建国 10 年記念」のため、満洲日日新聞社北京支社の主催で 1942 年 6 月 23 日から 1 週間にわたって北京 2 日間、天津 3 日間の演奏会が行われた。出演者は哈爾濱交響楽団と李香蘭であった。1942 年 6 月 17 日の『新民報』では、演奏会の全プログラムを掲載した。そして 6 月 24 日の『新民報』では当日の盛況を報道した。



図 2-27 : 「慶祝滿洲建國十周年記念」哈爾濱交響樂團、李香蘭提携音樂大會<sup>140</sup>

## 2. 北京市音樂堂の建立

1942 年北京樂壇にとって、もう一つ重要な出来事があった。これは 11 月に北京市音樂堂が作られたことである。1942 年 6 月 12 日の『新民報』「龐大建築之北京音樂堂 巨夏可榮觀衆五千——預卜美輪美奐稷園多一大觀樓」の記事によると、北京市音樂堂は「大東亞共榮圈建設の道に大きな業績を残した一つの例であり、将来世界に誇示すべきものである。さらに音楽を通して日中親善や文化交流を行うため」という目的で作られた。6 月 19 日午後 4 時から北京中南海懷仁堂で日本陸軍特務部、新民会の要人が出席し、音樂堂の建設についての協議会を行った。北京市音樂堂は中央公園のなかに作られる予定で、広さは約 5000 平方メートル、約 5000 人が収容できる。8 月 16 日から工事が開始し、1942 年 11 月に落成したという<sup>141</sup>。

そして、北京市音樂堂の落成を慶祝するために 1942 年 11 月 9 日から 5 日間にわたって西洋音楽、日本舞踊、中国京劇などあらゆるジャンルの演奏会が行われた。『新民報』ではそれぞれの演奏会を報道した。演奏会の詳細を以下の表にまとめた。

<sup>140</sup> 『新民報』1942 年 6 月 24 日、5 頁。

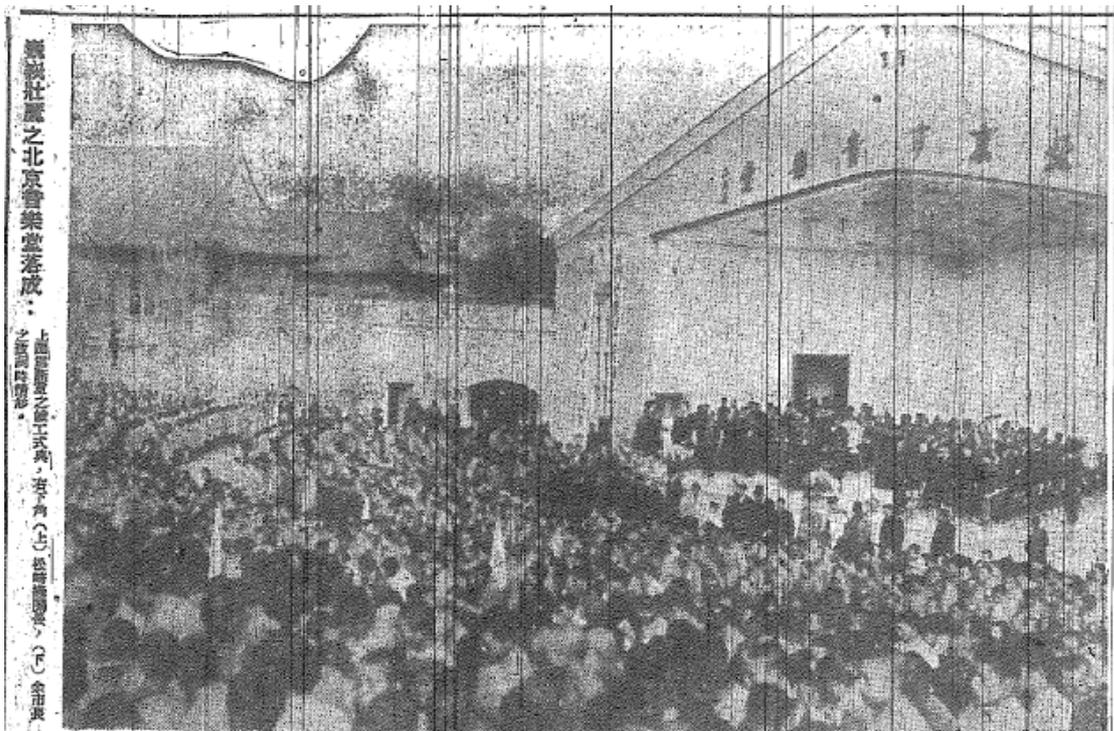
<sup>141</sup> 『新民報』1942 年 6 月 21 日、4 頁。

表 2-8 : 北京市音楽堂竣工記念音楽会一覧 (中国語)

日期	タイトル	備考 (プログラム、出演者など)
1942 年 11 月 9 日	音楽堂竣工記念音楽会	1. 吹奏楽 (北京市警察局音楽隊、指揮: 袴田克己) 2. 絲竹合奏 (北京市警察局音楽隊) 3. 吹奏楽 (華北運輸吹奏樂團、指揮: 森信雄) 4. 口琴合奏 (中華口琴會、指揮: 王慶勛) 5. 吹奏楽 (華北交通本社吹奏樂團 指揮山口豊作) 6. 吹奏楽大合奏 (吹奏樂團體合奏、北支那方面軍軍樂隊、指揮: 岡田國一)
1942 年 11 月 10 日	学童音楽大会	参加者: 全市日華中小學生 5000 餘人。 1. 吹奏楽: 《軍艦進行曲》、《軍艦之威力》、《凱旋行進曲》 (北京日本中学校) 2. 鼓笛演奏 (北京第二高等女学校) 3. 合唱 (各学校学生)
1942 年 11 月 11 日	合唱舞踊大会	1. 合唱: 《活躍吧! 清晨》《拭去興奮的熱汗》 (北京合唱音楽協會會員) 2. 合唱 (聲華合唱團國花女子青年合唱團) 3. 日本舞踊 (日本舞樂協會會員) 其他、共計 10 項目
1942 年 11 月 12 日	京劇	霸王別姬
1942 年 11 月 13 日	音楽大会	陳汝翼獨唱、軍樂隊、北京交響樂團、華北運輸吹奏樂團の大合奏。中日 50 餘名演出者。趙年魁提琴獨奏、老志誠伴奏。寶井真一的低音獨唱。最後曲目、李恩科低音唱《新北京曲》、《東亞共榮歌》老志誠伴奏。日本方面獨唱者一同齊唱《北京之合唱》、《東亞共榮歌》。

『新民報』1942 年 11 月 10 日～14 日の記事に基づいて筆者作成

1942 年 11 月北京市音楽堂竣工記念のために行われた演奏会のプログラムや出演者の情報からみると、日本側では北支那方面軍軍樂隊、華北運輸吹奏樂團、華北交通本社吹奏樂團、北京合唱音楽協會、日本舞樂協會 (日本舞踊)、袴田克己、寶井真一らが参加し、中国側では北京市警察局音楽隊、中華口琴會、北京交響樂團、ヴァイオリニストの趙年魁、ピアノニストの老志誠、声樂家の陳汝翼、李恩科らがいた。また北京市内の中国人、日本人小学生合計 5000 人以上が動員された。日本占領下に置かれた北京において、日本人や中国人の協力演奏会はしばしば見られるようになってきたが、今回の 1 週間に渡って日中の各音楽ジャンルが混ざり合い、盛大な演奏活動が行われたのは、「音楽を通しての日中親善」を表にし、実は日本軍による「音楽工作」の強化の結果と言えるだろう。



樂堂壯麗之北京音樂堂落成：上圖開工之盛況，右角（上）松時攝影，（下）余甫表

图 2-28：1942 年 11 月 9 日、音樂堂竣工紀念音樂會



图 2-29 (左)：1942 年 11 月 10 日、學童音樂大會



图 2-30 (右)：1942 年 11 月 13 日、音樂大會

## 第六節 まとめ

本章では、日本占領下の北京においてどのような「音楽工作」が行われたのか、また日本側においてはどのような動向が見られたのかを検討した。まず、1937年12月7日から11日まで東京で開催された「東亜文化協議会」が、北京における「音楽工作」を推進させるための重要な要因であったことを指摘した。そして占領地現地における「音楽工作」の実態としては、抗日音楽が禁止された一方で、日本の傀儡政府である中華民国臨時政府が、日本化教育のための音楽講座や新民歌曲の募集、ならびにそれらの強制的な普及により、臨時政府のイデオロギーを大衆に浸透させようとしていた。さらに北京中央放送局のラジオ放送番組を分析した結果、日本側が西洋音楽を中心に用いた「音楽工作」を通して、戦時下の「日中親善」を深める意図を持っていたことが明らかになった。とりわけ1942年以降は北京音楽文化協会の設立により、北京楽壇の統制による「音楽工作」が強化されたことがわかった。

### 第三章 日本占領下の北京における日本人音楽家とその音楽活動

従来の研究では、近代の北京、とりわけ戦時下北京に渡った日本人音楽家に関する記述は極めて少なかった。孟維平（2012）は、北京師範大学で教師を務めていた寶井真一、井上直二、田中利夫、鈴木富美子らについて言及した<sup>142</sup>が、いずれも氏名、簡単な履歴と担当授業しか書かれていない。また王垠丹（2013）の論文では、戦時下の北京に在住した、又は一時的北京に渡った日本人音楽家について、何人かの名前を挙げていたが、その詳細は不明である。

本稿では、『音楽研究』、『音楽世界』、『音楽之友』など戦時下の日本における重要な音楽雑誌を見通し、そのなかから戦時下の北京に在住した日本人音楽家の実態を明らかにしてみたい。

#### 第一節 戦時下はじめて北京に移住した日本人音楽家——袴田克巳夫妻

『近代日本音楽年鑑』によると、袴田克巳（ハカマダ カツミ）は明治 38（1905）年 5 月 8 日に生まれた。出身地の情報は不明。東洋音楽学校本科の器楽部（ピアノ）に籍を置き、ピアノを伊達愛に師事した。卒業後、千葉県立成東中学校講師を勤める一方で、袴田ピアノ・スタディーを主宰し、生徒の育成に尽力していた<sup>143</sup>。昭和 7（1932）年 5 月、袴田は朝日講堂でピアノのリサイタルを開いて日本の楽壇にデビューし<sup>144</sup>、翌年ピアノ・スタディー門下生演奏会も華やかな風景で開催した<sup>145</sup>。その後、毎年の『近代日本音楽年鑑』の東京における音楽関係者名簿に氏名が書かれている。

日本の楽壇で名声を得た袴田は、「音楽報国の熱意に燃え北支に骨を埋める覚悟で渡支することになったものだ」と語り、前述したように 1938 年 4 月、夫人の袴田音子と長女美智子を連れて、戦時下の「北支」で音楽宣撫しようという最初の日本人音楽家として北京に渡った。その後、主な音楽活動は以下の三点である。

第一に、北京中央放送局文芸係員を務めたことである。放送局は、戦時下の北京において軍政の報道機関・宣伝機関となり、「提携融合」と「宣伝指導」を方針とした初期「対支音楽工作」の主な拠点であった。西洋音楽と中国伝統音楽の音楽作品が放送されており、袴田は、主に西洋音楽の放送を担当した。具体的な内容は、現時点ではまだ確認できていないが、放送局の主催で袴田が「夏期音楽講習会」を企画し、北京の小中学校の教師向けに音楽講座を行ったこと、そして放送局に二つの合唱団（中国人合唱団と日本人合唱団）を創立したことがわかった。

第二に、新民会の音楽宣伝活動に携わり、審査員や演奏者として協力したことである。例えば、1938 年 6 月 1 日「新民の歌を普及させ、新民の精神を養う」ために開催された新民歌曲コンクールにおいて、袴田は柯政和、江文也、島村義雄、王長青らと共に審査員を務めた。同様に 1939 年 7 月 5 日「興亜記念児童合唱コンクール」でも審査員を務めた。一方、1938 年 6 月 16 日「中日音楽界空前演奏会大会」では、妻音子と共にピアノを演奏した

<sup>142</sup> 孟維平『北京近代新音乐发展史研究』北京：首都师范大学出版社、2012 年、129 頁。

<sup>143</sup> 『近代日本音楽年鑑』昭和 11 年、82 頁。昭和 13 年、241 頁。

<sup>144</sup> 「ブテイロフスキーの演奏ポーズ、五月演奏会を開く袴田克巳氏」『月刊楽譜』21（5）、5 月号、1932 年。写真頁。

<sup>145</sup> 「袴田克巳氏の一堂」『月刊楽譜』22（11）、11 月号、1933 年。写真頁。

記録も残っている<sup>146</sup>。

第三に、執筆活動である。北京に渡る前にも、「赤松克三」というペンネームを使って執筆活動を続けていた。北京に滞在した時期には、多数の文章を日本の楽壇へ発信した。文章の内容は、主に「対支音楽工作の進展」、「中国の音楽文化に対する認識」、「現地演奏活動情報の発信」という三つに分けられる。当時日本側の音楽工作者にとって「対支音楽工作現地」の情報を知るうえで、重要な情報源であった。現時点までの調査で、以下の記事がある。

表 3-1 : 袴田克巳の執筆記事一覧

発表年	タイトル	出典
1939年	抗日音楽と音楽工作	『音楽世界』第11巻第1号、昭和14年、85～88頁。
1940年	「巷説支那談義（北支音楽の巻）」	『揚子江』第3巻第10号、1940年10月、73～75頁。
1942年	「北京音楽文化協会の誕生」	『音楽文化新聞』1942（昭和17）年3月10日、第8号、7頁。
1942年	「北京から」	『音楽の友』第2巻第5号、1942年5月、107頁。
1942年	「北京音楽通信」	『音楽の友』第2巻第8号、1942年8月、118-119頁
—	「北京の音楽系」	『吹奏楽月報』昭和15・16（確認要）

一方、袴田夫人である袴田音子は、元浅草女子商業学校の音楽教師であった。北京では日本の中学校に勤めながら、夫の克巳と共に活発な音楽活動をしていた。戦時下の北京で発行された『新民報』には、二人の記事がしばしば見られるようになった。例えば、1938年6月1日審査委員として「新民之歌」歌唱コンクールに参加し<sup>147</sup>、1938年6月16日北京で開催された「中日音楽界空前演奏大会」に夫婦ともに出演した<sup>148</sup>。

袴田夫婦は戦時下の日本の「対支音楽工作」において先駆者の役割を果たしたと言えるであろう。日本が敗戦した後の袴田夫妻の動静については、現在のところ不明だが、日本に帰国して小中学校の音楽教育の従事していた可能性が高いと考えられる<sup>149</sup>。

## 第二節 日本占領下の北京に派遣された北支方面軍軍楽隊

日本占領下の北京には、北支那方面軍とともに軍楽隊も駐在した。北支那方面軍軍楽隊の背景を理解するため、北支那方面軍のことに少し触れておく。北支那方面軍は盧溝橋事件後、戦争終結の動機獲得に向けて、華北での会戦に備えるために創設された軍隊である。1937年8月、支那駐屯軍が第1軍に改編され、第2軍が創設されるに伴って、これらを統

<sup>146</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013年、37～40頁。

<sup>147</sup> 「“普及新民之歌，涵養新民精神”歌咏比赛」『新民報』1938年6月18日、2頁。

<sup>148</sup> 「中日音楽界空前演奏大会」『新民報』1938年6月17日、2頁。

<sup>149</sup> 戦後、袴田克巳が雑誌『4年の学習』に歌曲に関する多数な文章を投稿した。

括するために当初天津において編成された。11月、大本営隷下となり、1938年1月、北京へ移転、1939年9月、新設された支那派遣軍の隷下に入った。北京において、華北蒙疆地区の現地政権の「育成強化」、および当該地の治安警備にあたった。

支那方面軍軍楽隊の名称について、日本語史料では北支那派遣軍軍楽隊と言われる場合もあり、中国語史料では「日本陸軍軍楽隊」と言われる場合もある。本文では、史料名がそのまま引用するほか、記述上では公文書での言い方「北支那方面軍軍楽隊」（以下「軍楽隊」と略称する）に統一する<sup>150</sup>。

先行研究では、北支那方面軍軍楽隊について王垠丹の論文でしか言及されなかった。しかも、王の論文は軍楽隊の数回の演奏活動<sup>151</sup>を取り上げたが、軍楽隊が「北支」に派遣された経緯、軍楽隊隊員の詳細、そして北京での具体的な活動内容についてはまだ不明瞭なままである。また王の論文が日本側の史料を利用しなかった。それ故に、本文は先行研究を参考したうえで、『新民報』に掲載された北支那方面軍軍楽隊の情報を参照しながら、日本語史料としては陸軍省公文書、『陸軍軍楽隊史』（山口常光、1973）、雑誌『吹奏楽』の記事等に基づいて、日本占領下の北京に派遣された北支那方面軍軍楽隊の詳細及び音楽活動の実態を明らかにする。

## 1. 北支那派遣軍軍楽隊から北支那方面軍軍楽隊への編成

現時点の史料から見ると、北支那方面軍軍楽隊は、北支那派遣軍軍楽隊のもとに編成されたと推測できる。『陸軍軍楽隊史』の「北支那派遣軍軍楽隊の思い出」によると、北支那派遣軍軍楽隊の本体は1937年陸軍戸山学校軍楽隊から改称された日本陸軍軍楽隊である。日中全面戦争が勃発してから太平洋戦争に至るまで、軍隊の戦闘序列が命ぜられており、総軍、方面軍、軍が編成されるようになるに従って、軍楽隊も急激に編成され、各軍に配属され、太平洋・中国各地域に派遣された<sup>152</sup>。北支那派遣軍軍楽隊は、1937（昭和12）年11月3日に編成された<sup>153</sup>。軍楽隊は陸軍戸山学校に於いて、「日支事変」最初の戦地派遣軍楽隊として動員下命された隊であった。最初は隊長岡田国一<sup>154</sup>をはじめ、57名1隊編成であったが1943（昭和18）年7月以降、半隊28名編成となった。そして、北支那の作戦基地、北京における方面軍司令部隷下にあり、約8年間に渡り北京に駐留した。その間人員の移動はあったが、軍楽隊としての演奏活動は終戦までに続けられていたという<sup>155</sup>。

一方、日本陸軍省公文書「北支那方面部隊履歴」においての「北支那方面軍軍楽隊略歴」から見ると、北支那方面軍は1938（昭和13）年11月25日に将校2名、准士官2名、

---

<sup>150</sup> 陸軍省公文書によると、「北支那方面軍軍楽隊部隊略歴」やほかの公文書では軍楽隊を「北支那方面軍軍楽隊」と称する。一方、『陸軍軍楽隊史』では北京に派遣された軍楽隊のことを「北支那派遣軍軍楽隊」と称する。また雑誌『吹奏楽』の記事では「北支派遣軍楽隊」と言われる場合もある。本文では、公文書での言い方「北支那方面軍軍楽隊」に統一する。

<sup>151</sup> 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013年、34～35頁。

<sup>152</sup> 山口常光『陸軍軍楽隊史』東京：三青社、269頁。

<sup>153</sup> 同上。

<sup>154</sup> 岡田国一（1880-?）、愛知県出身。1913（大正2年）は戸山学校軍楽隊。1915（大正4年）は戸山学校軍楽隊附兼同校教官同校研究員。1932（昭和8年）年戸山学校軍楽隊隊長、1937（昭和8年）軍楽大尉、支那総軍隊長を務め、北支那派遣軍軍楽隊とともに北京に派遣された。東京藝術大学、海軍・陸軍軍楽隊データベースを参照した。

<sup>155</sup> 山口常光『陸軍軍楽隊史』東京：三青社、271頁。

下士官以下 53 名、合計 57 名で編成されたことが分かった。北支那方面軍軍楽隊の行動は、北支那方面軍司令部に於いて演奏勤務に従事することである。また 1942（昭和 17）年 7 月 1 日に将校 1 名、准士官 1 名、下士官以下 26 名、ビルマ派遣軍司令部要員として転属するということがわかった<sup>156</sup>。二つの軍楽隊の編成年から見ると、北支那派遣軍軍楽隊が北京に派遣されて、北支那方面軍司令部隷下に置かれてから、そのうち北支那方面軍軍楽隊に編成された可能性が高いと考えられる。

また北支那派遣軍軍楽隊要員が携行楽器の詳細については、「時局関係部隊に人馬増加配属の件」<sup>157</sup>から窺うことができた。以下の表にまとめた。

表 3-2：北支那派遣軍軍楽隊要員が携行楽器詳細一覧

品目	差出員数
フリュート	1
オーボエ	1
プチット・クラリネット	1
グランド・クラリネット	5
サクソフォン・アルト	1
サクソフォン・テノール	1
サクソフォン・バリトン	1
コルネ・ア・ピストン	2
ビュウグル	1
トロンペット	1
アルト	2
コール・アピストン	1
トロンボーン	2
バリトン	1
バース	2
コントルバース ミ b	1
コントルバース ミ b	1
プチット・ケース	1
グロス・ケース	1
原譜台箱	1
譜見台箱	3
軍楽隊手入具箱	1
小譜盒	26
指揮棒	2
携帯囊	24

<sup>156</sup> 「JACAR(アジア歴史資料センター)Ref. C12122435300、北支那方面部隊略歴（その 1）／分割 1（防衛省防衛研究所）」

<sup>157</sup> 「JACAR(アジア歴史資料センター)Ref. C04120319500、時局関係部隊に人馬増加配属の件（防衛省防衛研究所）」

陸軍省公文書「時局関係部隊に人馬増加配属の件」に基づいて筆者作成

特筆すべきは、軍楽隊に 3 回の異動があったことである。「陸軍軍楽隊年誌」によると、1 回目の異動は「1937 年 12 月北支軍楽隊半隊上海に転進、戸山で半隊編成し上海へ派遣、中支那方面軍軍楽隊を編成、隊長大沼哲」<sup>158</sup>のである。最初、北京に派遣された北支那派遣軍軍楽隊の 57 名の隊員は北京に着いて間もなく、その半隊を上海に転進されたことが分かった。それゆえに、「北支那方面軍司令部軍楽隊要員補填ノ件」という史料では、1938（昭和 13）年 2 月 15 日に北支那方面軍参謀長岡部直三から日本陸軍省次官の梅津次郎宛てに軍楽隊要員 10 名の補填と楽器増加の請求を発信した。それは 2 回目の異動である。岡部直三は増員について、以下のように述べている<sup>159</sup>。

- 一、軍楽隊ノ演奏ハ前線、後方ヲ問ハス将兵ノ志気ノ振起確保、地域ノ治安ノ維持、宣撫構策ノ効果ノ増大ニ其ノ価値特ニ大ナリ。
- 二、軍目下ノ人員ハ二十八名ニシテノヲ方面軍担任区ニ比スレハ極メテ寡少ナレノミナラス一方支那及外国ノ其レニ比シ国軍ノ威ヲ保持スル為ニハ、最少限前述ノ人員楽器ノ増加ヲ必要トスルモノナリ<sup>160</sup>。

その請求に基づいて、陸軍省が教育総監へ照会し、軍楽隊要員 10 名の補填は陸軍戸山学校より配属するように、楽器は陸軍兵器本廠より交付するように指示した。「陸軍兵器本廠長への達案」の別紙では、楽器の種類と数量が以下のように記録されている<sup>161</sup>。

										別紙
携	小	譜	フ	バ	ト	コ	パ	サ	グ	品
帯	譜	見	キ	ロ	ル	ビ	ツ	ク	ラ	目
囊	盒	蓋	ケ	ム	ビ	ソ	ン	ソ	ン	目
一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	数
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	数

図 3-1：楽器増加要請の明細

以上のことから、1938（昭和 13）年 2 月 15 日に北支那方面軍参謀長岡部直三から日本陸軍省次官の梅津次郎宛てに軍楽隊要員 10 名の補填と楽器増加の請求をしたことが分かった。そして、軍楽隊が「前線、後方ヲ問ハス将兵ノ志気ノ振起確保、地域ノ治安ノ維持、宣撫構策ノ効果」の役割を果たすことを期待されていることも窺えた。

<sup>158</sup> 山口常光『陸軍軍楽隊史』、東京：三青社、520 頁。

<sup>159</sup> 同上。

<sup>160</sup> 「JACAR(アジア歴史資料センター)Ref. C04120453600、北支那方面軍司令部軍楽隊要員補填の件（防衛省防衛研究所）」

<sup>161</sup> 同上。

また軍楽隊の3回目の異動について、上述したように、1942（昭和17）年7月1日に将校1名、准士官1名、下士官以下26名、ビルマ派遣軍司令部要員として転属したことである。「北支那派遣軍軍楽隊の思い出」では「1943（昭和18）年7月以降、半隊28名編成となった」と書かれているが、正しいのは「1942（昭和17）年7月1日」であったと考えられる。そこで残りの半隊28名は、終戦までに北京に駐留していた。

続いて、北支那方面軍軍楽隊の別称についても触れておく。終戦復員までに北支那方面軍では、寺内寿一（1937年8月26日-1938年12月9日）、杉山元（1938年12月9日-1939年9月12日）、多田駿（1939年12月-1941年7月7日）をはじめ、計7代の司令官が務められていた。特に中国語の史料では軍楽隊の名称が司令官によって変わる場合がある。例えば「寺内部隊軍楽隊」、「杉山部隊軍楽隊」、「多田部隊軍楽隊」、または軍楽隊の隊長である岡田国一の名で「岡田軍楽隊」と言われる場合もある。いずれにせよ、北支那方面軍軍楽隊のことを示すことを意識しておきたい。

表 3-3：北支那方面軍軍楽隊略歴

年月日	概要
1937年11月3日	北支那派遣軍軍楽隊が北京へ派遣。岡田国一が隊長を務めた。隊員は56名。
1937年12月	北支那派遣軍軍楽隊の半隊は上海に転進。
1938年2月15日	北支那方面軍司令部から陸軍省へ軍楽隊隊員10増員、楽器増加を請求。
1938年7～8月？	軍楽隊増加要員が北京へ渡航。
1938年11月25日	北支那方面軍軍楽隊が編成。岡田国一が隊長。
	将校2名、准士官2名、下士官以下53名。 増加要員として、北支那方面軍司令部に所属する。 行動、北支那方面軍司令部に於て、演奏勤務に従事する
1942年7月1日	分駐。
	将校1名、准士官1名、下士官以下26名。 ビルマ派遣軍司令部要員として転属。 ■番接收。
1945年11月10日	第九十二軍司令部に於て、■番接收完了。 帰還。
1945年11月27日	北京出発。
1945年11月30日	塘沽出発。
1945年12月5日	佐世保港上陸。
1945年12月6日	復員。 帰還に方り現地除隊5名、名■経行済。 内地帰還 23名。

陸軍省公文書「北支那方面軍軍楽隊略歴」、『陸軍軍楽隊史』に基づいて筆者作成

## 2. 北支那方面軍軍楽隊の音楽活動

北支那方面軍軍楽隊（以下、軍楽隊と略称する）の略歴を把握したうえで、続いて軍楽隊が日本占領下の北京においてどのような音楽活動を行ったのか、その実態を明らかにする。『新民報』の史料に基づいて、軍楽隊の音楽活動が主に「日本軍や新民会の催事による演奏活動」、「宣撫工作のための演奏会」という二つの部分に分けられる。

### 2-1 日本軍や新民会の催事による演奏活動

北支那方面軍軍楽隊は、日本軍や新民会の催事による様々な演奏活動を行った。そのなか、特に日本軍戦事の勝利を「慶祝」する演奏活動と、前章で記述したように「新民歌曲」発表会および演奏会での演奏活動が挙げられる。前者は、例えば1938年10月25日日本軍が武漢を占領したことを「慶祝」するため、10月29日、30日二日間に北京では軍楽隊が2回の演奏遊行を行った。1938年10月28日『新民報』（7頁）では、二日間に日本軍軍楽隊の遊行路線を掲載された<sup>162</sup>。また1942年2月15日シンガポールが陥落したことによって、日本軍と新民会が2月20日に北京で「慶祝活動」を開催し、軍楽隊も盛大な演奏遊行を行った。

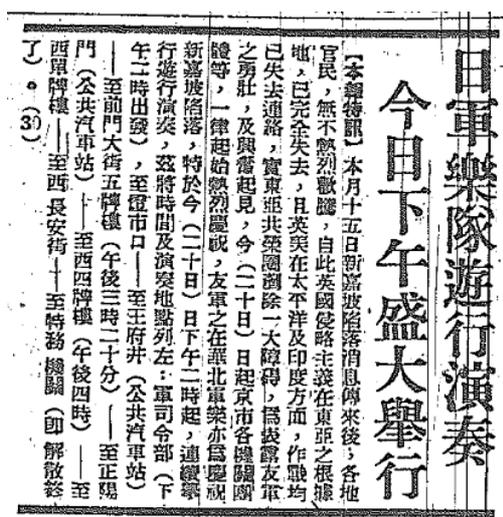


図 3-2：1942年2月20日、日本軍楽隊演奏遊行<sup>163</sup>

一方、第二章にも記述したが、北支那方面軍軍楽隊は、新民会が募集した「新民歌曲」の演奏および伴奏を多く務めており、「新民歌曲」レコードの吹き込む録音にも参加した。例えば、1942年5月18日午後2時から、北京ビクター蓄音機会社で《大東亜総進軍之歌》がレコードに吹き込まれた際に、軍楽隊は《大東亜総進軍之歌》の吹奏楽バージョンと合唱バージョンの伴奏を演奏した。当日の撮影写真では、岡田国一と軍楽隊隊員の姿が映っている。

<sup>162</sup> 『新民報』1938年10月28日、7頁。

<sup>163</sup> 『新民報』1942年2月20日、6頁。



図 3-3: レコードに吹き込む当日の写真 (左は生徒、右は岡田隊長と軍楽隊隊員)

## 2-2 宣撫工作のための演奏活動

北支那方面軍軍楽隊は前線や後方の将兵の志気振起のために吹奏楽を演奏するほか、現地の中国民衆に対する親善宣撫工作は彼らの使命の一つでもある。北京市内で行われた軍楽隊の演奏活動のほとんどは、一般民衆に対する宣撫工作のための演奏活動といっても過言ではない。

まず、中央放送局におけるラジオ生放送の演奏活動である。『新民報』の資料によると、1938年7月から1940年2月までに、北支那方面軍軍楽隊による約12回の演奏が放送された。

表 3-4 : 北京中央放送局のラジオ生放送における軍楽隊の出演一覧 (中国語)

年	月日	星期	頁	題目	出演者	曲目
1938	7月4日	一	8	吹奏樂 (二十時)	寺内部隊軍 樂隊演奏、 指揮：陸軍 軍樂大尉岡 田國一	1. 行進曲《忠誠》、2. 《弔殉國勇士之歌》(土井晚翠作詞，陸軍軍樂隊作曲)、3. 圓舞曲《曠野》(陸軍軍樂隊作曲)、4. 意想曲《攻撃》(山本銃三郎作曲)。
1938	7月18日	一	7	吹奏樂 (二十時)		1. 行進曲《太湖船》(哀開魯托作曲)、2. 圓舞曲《多納烏河之夜》(伊巴那微期作曲)、3. 《軍■進軍之歌》(松島慶三作詞，陸軍軍樂隊作曲) 4. 描寫曲《森林中水車》(愛蓮波爾希作曲)、5. 描寫曲《斯哇尼河》(密度爾敦作曲)
1938	7月24日	日	8	吹奏樂 (二十時)		1. 序曲《意大利人》(普西尼作曲)、2. 箏曲《千鳥》(陸軍軍樂隊編曲)、3. 交響曲第五・終章(貝多芬作曲)。

1938	7月25日	一	7	吹奏樂 (二十時)		曲目無刊載
1938	8月8日	一	8	吹奏樂 (二十時)		1. 行進曲《譚會茲》(Tannhauser) (瓦格納作曲)、 2. 木琴獨奏《威廉提路》(William tell) (羅西尼作曲)、 3. 組曲《阿貝銀多》(Peer Gynt)
1938	11月7日	一	8	管弦樂 (二十時)		交響樂《軍隊》(海頓作曲)
1939	1月23日	一	8	吹奏樂 (二十時)	杉山部隊軍樂隊演奏、 指揮：陸軍軍樂大尉岡田國一	1. 行進曲《聯隊旗之下》(高木東六作曲)、 2. 描寫音樂《北京之街》(森屋五郎作曲)、 3. 舞曲《蕾達》(法利亞作曲)、 4. 合唱《大陸行進曲》(中支派遣軍軍樂隊作曲)、 《愛國行進曲》(瀨戶口藤吉作曲)
1939	2月6日	一	8	小管弦樂 (二十時)	杉山部隊軍樂隊演奏。 陸軍少尉森屋五郎指揮。	1. 進行曲《奔向和平》(森屋五郎作曲)、 2. 小品二曲《春之歌》(孟德爾鬆作曲)、 《寄託薔薇花》(馬杜衛作曲) 3. 克拉里涅特獨奏《浪漫斯與波羅乃斯》(庫拉貝作曲) 4. 歌劇《加哇刺利亞，路斯低加那》(馬斯加尼作曲)、 5. 軍歌《萬萬的合唱》(東辰三作曲)、 《大陸軍之歌》(日本陸軍省選詞、山田耕筰作曲)。
1939	3月13日	一	8	交響曲 (二十時)	杉山部隊軍樂隊、 指揮：陸軍軍樂大尉岡田國一	《未完成交響曲》(舒伯特作曲)
1939	3月20日	一	8	管弦樂 (二十時)	杉山部隊軍樂隊、 指揮：陸軍軍樂大尉岡田國一	1. 進行曲《軍隊進行曲》(修伯特作曲)、 2. 描寫曲《林間的鐵鋪》(米蓋爾作曲)、 3. 小夜曲《杜里哥的小夜曲》(杜里哥作曲)、 4. 歌劇《馬太》序曲(夫羅多作曲)、 5. 圓舞曲《空色》(卡聶作曲)
1939	3月27日	一	8		杉山部隊軍	1. 序曲《詩人与农夫》(組伯作)

					楽 隊、指 揮：陸軍軍 楽大尉岡田 國一	曲)、2. 木琴独奏《忆昔》(戴德 里希作曲)、3. 组《印度舞曲二 題》(斯基尔敦作曲)
1940	2月8日	五	8	交響曲 (二十 時)	多田部隊軍 楽 隊、指 揮：陸軍軍 楽大尉岡田 國一	德沃扎克交響曲《新世界》演奏四 樂章。

曲目のレパートリーから見ると、①西洋古典派音楽(管弦楽、交響楽、吹奏楽)の代表的曲目は多数含まれている。例えば、フランツ・ヨーゼフ・ハイドンの交響曲第100番《軍隊》、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの交響曲第5番《運命》、フランツ・シューベルトの交響曲第7番《未完成》、アントニン・ドヴォルザーク交響曲第9番《新世界より》、進行曲の《軍隊進行曲》(シューベルト作曲)、歌劇「タンホイザー」の進行曲(ワーグナー作曲)がある。また②日本人作曲の作品、例えば、行進曲《忠誠》、《殉国勇士を弔う歌》(土井晚翠作詞、陸軍軍楽隊作曲)、《曠野》(陸軍軍楽隊作曲)、《攻撃》(山本銃三郎作曲)、箏曲《千鳥》(陸軍軍楽隊編曲)、《大陸軍之歌》(日本陸軍省選詞、山田耕筰作曲)などがある。

続いて、軍楽隊が出演した市民向けの公開演奏会に触れておく。新民会首都指導部の主催で「日本陸軍軍楽隊公開演奏会」が1939年4月9日に北京中央公演中の新民堂で開催された。1939年4月7日『新民報』では演奏会の予告を掲載し、「日本陸軍軍楽隊の演奏は、平素から首都の人々に賛美されています」と軍楽隊の演奏実力を賞賛した。当日のプログラムは最初の中国国歌と日本国歌以外、すべては西洋音楽の曲目であった。プログラム(中国語)も以下のように掲載された。

楽曲紹介解説如下。演奏者日本陸軍軍楽隊、指揮軍楽隊長岡田國一。楽曲：中國国歌《卿雲歌》、日本国歌《君が代》、1. 行進曲《軍隊》(休倍路德作曲)、2. 序曲《詩人與農夫》(茲菲作曲)、3. 圓舞曲カ《多瑙河之波》、4. 組曲《兩個印度舞曲》、5. 木琴獨奏《鳥依瞭母台爾》(羅西尼作曲)、6. 描寫曲《森之鍛冶屋》(米卡耶魯斯作曲)、7. 交響曲《未完成》(舒伯特作曲)<sup>164</sup>。

また、1939年夏に北京市民向けの「夏季遊藝大会」、「日華親善音楽映画大会」、1941年8月から毎週土日に開催した「消暑大会」(暑気払い大会)にそれぞれ出演した。当日のプログラムは、すべて『新民報』に掲載されている。出演者は杉山部隊軍楽隊、指揮は岡田國一。プログラムを以下の表にまとめた。

<sup>164</sup> 「日陸軍楽隊公開演奏 名曲内容紹介 予定上奏者共有七部」『新民報』、1939年4月7日、7頁。

表 3-5 : 杉山部隊軍樂隊が出演したプログラム (中国語)

年	月日	星期	頁	タイトル	曲目
1939	7/22	六	7	夏季遊藝大會	1. 行進曲《雙頭之鷺》、2. 序曲、3. 圓舞曲《多瑙河之波》4. 箏曲《六段》、5. 中華曲《東亞進行曲》、6. 描寫曲《狩之光景》、7. 小品《斯開契》北京風景、8. 交響曲《新世界》、9. 《北京行進曲》。
1939	8/6	日	7	日華親善音樂映畫大會 昨晚稷園盛況空前	1. 鋼琴曲《軍隊》、2. 行進曲《埃克蒙德》、3. 圓舞曲《金與銀》、4. 《卡沃雷利亞魯斯期卡那》、5. ■、6. ■。
1941	8/2	六	3	消夏大會 今晚請友軍樂隊演奏世界名歌曲	1. 行進曲《國民進軍》、2. 中國歌《新民之歌》、3. 序曲《輕騎兵》、4. 圓舞曲《多瑙河之漣漪》5. 歌劇萃曲、6. 中國歌《東亞進行曲》、7. 意想曲《北京風景》、8. 獨奏曲《克拉里得獨奏》、9. 日本曲箏曲《千鳥》、10. 描寫曲《森之鍛冶屋》、11. 進行曲《分列進行曲》、12. 中日國歌、卿雲歌、君之代。
1941	8/9	六	3	消夏大會 今晚請友軍樂隊演奏世界名歌曲	1. 進行曲《高揚五色旗》、2. 序曲、3. 圓舞曲《林中之獵人》、4. 組曲、5. 中國歌曲《與亞進行曲》、6. 描寫曲、7. 木琴獨奏、8. 日本音樂《越後獅子》、9. 描寫曲《■的情景》、10. 進行曲聯隊、中國國歌、日本國歌

最後に、軍樂隊は学生向けの演奏会も開催した。王垠丹 (2013) の論文では、1938 年軍樂隊は日本軍の統制に置かれた国立北京師範学院、市立第四中学校、市立第二女子中学校、北京師範学院附属第一小学校及び女子師範学院で約 5 回以上の演奏会が開催されたことに言及した<sup>165</sup>。

本文では、日本語の資料から新たな軍樂隊の演奏記録が見つかった。雑誌『音楽之友』に掲載された袴田克巳の「北京から」の文章では、北支那方面軍軍樂隊の演奏会に言及した。文章によると、1942 年 3 月 15 日午後 8 時から北京東城第一国民学校講堂において中国人並びに邦人向けの北支那方面軍軍樂隊の「管弦楽の夕」演奏会が北京音楽文化協会の主催で開催された。当日のプログラムは、以下の曲目がある。

#### 第一部 (管弦楽)

- (1)行進曲「軍隊」 (シューベルト) (2)円舞曲「碧きドナウ」 (シュトラウス)  
 (3)玩具交響曲 (ハイドン)、(4)提琴獨奏 ロマンズ長調 (ベートーヴェン)、  
 (5)弦楽四重奏「セレナーデ」 (モーツァルト) (6)交響曲第五番 (ベートーヴェン)

#### 第二部 (吹奏楽)

<sup>165</sup> 王垠丹 (2013) 、34 頁。

- (1)序曲 セミラミーデ (ロッシーニ)  
 (2)組曲 スペイン奇想曲 (リムスキー・コルサコフ)<sup>166</sup>

また当日の風景について、袴田は「新聞紙上に只一回発表したにかかわらず超満員の盛況で、殊に聴衆のなかには多数の中国人が熱心にきいていたのが異彩を放っていた」と述べた。また翌日の3月16日に、同様のプログラムで北京飯店のホールにおいて「管弦楽音楽会」が開催された。今回の演奏会は中国人のために開催し、特に学生側の希望によって北京師範大学の音楽系の生徒たちを優先に招待したという<sup>167</sup>。特に注目すべきは、この2回の演奏会のプログラムは全て西洋音楽の曲目であったことである。日本の曲も「新民歌曲」の内容もなかったという事である。このような純粋な西洋音楽の演奏会を学生たちに届けることは、様々な制限がされている占領下の「文化空間」のなかには、学生にとって新たな風が吹いてきたように感じられたであろう。

### 第三節 北京に渡航した東京音楽学校の卒業生

#### 1. 北京に渡航した東京音楽学校の卒業生の概要

特に重要な手がかりとなった資料は、『音楽教育研究』（1941）第3巻第5号に掲載された寶井真一の「北京音楽印象記」である。1941年2月下旬北京に渡った寶井は、自分の北京音楽への印象、又は当時北京や天津に在住している日本人音楽家を日本の楽壇に紹介した。そこで、戦時下の華北における日本人音楽家の情報を得ることができた。1941年時点で北京に在住した日本人音楽家の情報を、以下の表にまとめた。

表 3-6：戦時下の北京に在住した日本人音楽家一覧

氏名	性別	出身	略歴・出身校	北京に渡った時期	勤務先・主な音楽活動
袴田克巳	男	一	東洋音楽学校、本科器楽部（ピアノ）卒業。元千葉県立高校学校音楽教師。	1938年4月	北京中央放送局文芸部委員
袴田音子	女	一	袴田克巳の夫人、ピアニスト。元浅草女子商業学校音楽教師。	1938年4月	北京の中学校音楽教師
原芳道	男	一	ピアニスト	1938年4月やや遅れ	ラジオ体操のピアノ伴奏
井上直二	男	大分	東京音楽学校、昭和15年本科器楽部（トロンペット）卒業。	1940年春以降	北京の日本中学校→商業学校→北京師範大学講師
中村千代子	女	三重	東京音楽学校、昭和15年甲種師範科卒業。	1940年春以降	北京の日本女学校
寶井真一	男	新	東京音楽学校、昭和9年本科	1941年2	北京師範大学副教

<sup>166</sup> 袴田克巳「北京から」『音楽之友』第2巻第5号、1942年、107頁。

<sup>167</sup> 同上。

		潟	(声楽・テノール) 卒業。昭和 9、10 年研究科 (声楽・バトリン) 在籍。	月 23 日	授
田中利夫	男	広島	東京音楽学校、昭和 10 年本科器楽部 (ピアノ) 卒業。	1941 年 2 月、寶井の直後	北京師範大学
荒井三郎	男	石川	東京音楽学校、昭和 11 年甲種師範科卒業。	—	北京の日本女学校
綱代栄三	男	神戸	東京音楽学校、昭和 11 年本科作曲科卒業。	1942 又は 1943 年	作曲家。ハルビン高等女学校音楽教師→1942 又 1943 北京へ移住。
鈴木富美子	女	愛媛	東京音楽学校、昭和 9 年本科 (声楽・ソプラノ) 卒業。旧姓、佐伯富美子。	—	北京師範大学女子学院
三浦宙一	男	—	武蔵野音楽学校、ピアノ科卒業。	1943 年の前	—
一瀬克己	男	—	武蔵野音楽学校、声楽科卒業。	1943 年の前	—

表 3-6 から読み取れるのは、まず東京音楽学校出身者が多くを占めることである。彼らの専攻はピアノ科、声楽科または甲種師範科である。北京での勤務先は、主に北京師範大学や北京の日本人中学校・女学校という教育関係の機関であった。多数の東京音楽学校出身者は、なぜどのような経緯で北京に渡ったのであろうか。

昭和初期から戦時中の『東京音楽学校一覧』および東京音楽学校時代の関連資料を確認してみると、戦時下「北支」へ音楽教育関係者を派遣するという公式の動きはなかったが、前述した東亜文化協議会の文脈で考えてみると、東京音楽学校校長の乗杉嘉寿が役員であったことの影響がなかったとは言えないであろう。もう一つの要因として、多数の日本人音楽家が勤めていた北京師範大学音楽系の主任であり、北京の楽壇では重要な人物であった柯政和との関連性を看過することができない。彼が東京音楽学校の出身者と北京の楽壇との仲介者になった可能性は極めて高いと推測される。

## 2. 寶井真一について

続いて、すでに何回も言及した寶井真一はどのような人物であろうか。彼は明治 40 (1907) 年 8 月 21 日新潟県に生まれた。新潟県村上中学校を卒業後、声楽を徳山璉、内田栄一、沢崎定之に師事し、昭和 6 (1931) 年東京音楽学校本科 (声楽部・テノール) に入学した。入学後、声楽を宮廷歌手ヘルマン・ヴァーハーペーニヒ博士に師事、萩原英一についてピアノとトロンボーンを修めた。昭和 9 (1934) 年本科を卒業した。同年 5 月 6 日、東京にて開催された「母校の名誉を双肩に 新人世三名大競演」という新人洋楽コンサートに参加した。そこで、寶井は、金子登のピアノ伴奏とともに《薔薇のごと香はしき会釈

を》（シューマン作曲）、《琴に寄す》（シューベルト作曲）の2曲を歌った<sup>168</sup>。また同校の研究科に進学し、バリトンに変わった。1937年堀口大学が作ったラジオ・オペラ《いすばにや春秋譜》に出演した<sup>169</sup>。1939年9月5日、バリトン歌手として仁壽講堂でデビュー演奏会を開いた。プリングスハイム氏のピアノ伴奏でマーラーの歌曲を中心に、新進邦人作曲家安部幸明、平井保喜、高田三郎の作品を独唱した<sup>170</sup>。また、翌年1940年5月6日夜、再び仁壽講堂でプリングスハイム氏の伴奏と共に「マーラーの夕」独唱会を開いた。この演奏会について、音楽評論家の有馬大五郎は「新時代を代表せんとする若い歌手への切なる希望である」と評価された。

日本の楽壇の新人として期待されていた寶井真一は、1941年2月23日、妻とともに北京に渡航した。どのような契機で戦時下の北京に渡ったのかを現時点では解明できなかったが、「僕と妻とは一生涯をこの大陸に捧げ様と誓ひ合つて海を越えて来た。」「音楽が真の姿を持つのがこの大陸に於いてではあるまいか」などの言葉が残っている<sup>171</sup>。要するに、彼にとっての「対支音楽工作」、すなわち音楽を通じて戦時下の「興亜教育」に貢献したいという強い意思を読み取れるといえよう。

そして、彼は最初の日本人音楽教師として北京師範大学に勤めるようになった。寶井の文章には、彼の就任挨拶の際に、北京師範大学音楽系教授の柯政和が通訳してくれたこと、そして「柯政和先生は僕の先輩である」と書かれている。二人とも東京音楽学校出身であった。寶井の北京師範大学への赴任は、おそらく柯政和が関わっていた可能性が高いと推測される。北京師範大学で寶井は、主に声楽の授業を担当していた。同大学では、戦後に中国大陸や台湾で活躍していたヴァイオリニストの鄧国昌、コントラバス奏者の計大偉、テノール声楽家の張樹楠らが寶井に師事したことが知られている。また、寶井真一は北京師範大学、同校の女子師範学院で音楽授業を行う一方、北京師範大学の合唱団を組織した。団員は、主に師範大学の生徒であった。彼自身も、1941年に第1回の独奏会を開き、シューベルトの《冬の旅》から10曲と新人邦人歌曲12曲を演奏した。そして、新民会主催「興亜進行曲」を課題曲としたコンクールの審査員、北京市教育局の主催で市内公立小学校音楽教員の講習会での講師などを務めた。

戦後、寶井真一は日本に戻り、東京で音楽活動（明治大学合唱団の指揮者を務め、1952年に第1回東京六大学合唱連盟定例演奏会に参加）をした後、1973年まで新潟大学で教育学の教授職を務めた<sup>172</sup>。

### 3. 井上直二と北京交響楽団

寶井真一と同じく北京師範大学に務めていた井上直二は、北京交響楽団の創立者として先行研究の中で言及されたが、不明点が多くある。本稿では、井上はどのような人物なのか、彼が設立した北京交響楽団は、戦時下の北京においてどのような役割を果たしたのか、を論じてみたい。

井上直二は、大分県出身。昭和11年東京音楽学校予科を経て、昭和12年同校の本科器

<sup>168</sup> 「母校の名誉を双肩に 新人世三名大競演」『朝日新聞』1934年5月6日、朝刊、6頁。

<sup>169</sup> 「世界音楽地理の第二步 いすばにや春秋譜」『朝日新聞』1937年3月27日、朝刊、14頁

<sup>170</sup> 「秋の音楽界 華かな幕開き 下旬から十月へかけて」『朝日新聞』1939年9月28日、朝刊、3頁。

<sup>171</sup> 寶井真一「北京の一年」『音楽教育』第4巻第3号、70頁。

<sup>172</sup> 寶井真一の辞職状況が、『新潟大学学報』（第323号、昭和48年5月、10頁）の人事異動に掲載されている。

楽部（トランペット）に入学し、昭和15年本科を卒業した。彼は、卒業の直後から北京に渡航し、日本人中学校、商業学校の音楽教師を経て、北京師範大学の講師に至った。学校での音楽教育を続ける一方で、彼は1941年北京交響楽団を創立し、楽団の指導と演奏会の運営に尽力した。北京交響楽団は、創立されてまもなく戦時下の北京における西洋音楽を演奏する際に、重要な楽団として位置づけられるようになった。

北京交響楽団の団員は、設立当初は約40名で構成されていたが、後に60～70名余りに増え、楽団の演奏技術も向上し、演奏会の規模も大きくなっていった<sup>173</sup>。また、満州で活躍してきた作曲家の綱代栄三は、「北京あれこれ」（1943）という文章で以下の様に書いている。

メンバーはハルビンと似て白系露人を中心に邦人、中国人が若干参加している。編成は二管であるが、ファゴットがないのでサキソフォンが代用していることと、ホルンが二つよりないこと、オーボエが一本でクラ三本で代用していることを除けば、先づ先づ二管という所である技術はハルビンといい勝負と云へば少し褒めすぎかもしれないが、しかし経営と技術的指導に日夜骨身を削っている同君（注：井上直二）の熱意は大に多としなければならない<sup>174</sup>。

また、戦時下の北京師範大学卒業生の計大偉は、「北京交響楽団は70人余りの教師で構成されており、指揮者は井上直二（日本人）、彼らは中、米、日、露、ユダヤ人、フィリピンなどの国からきており、その中で中国人は7人しかいないが、私は唯一の学生で、コントラバスの首席を務めている。」と述べた<sup>175</sup>。戦乱の影響もあり、北京交響楽団に関する資料は僅かであるが、上記の文章から北京交響楽団の演奏者の構成、楽器編成や楽団の演奏技術の一端が窺うことができるだろう。

一方、新聞雑誌の記事には、北京交響楽団の演奏会の情報が散見される。現時点までの調査結果の限りでは、1941年1月25日第1回北京交響楽団演奏会を開催してから、1943年6月12日まで10回の演奏会を開いた。また、1943年12月5日に開催された北京交響楽団、華北放送局合唱団、北京師範大学合唱団の「聯合音楽会」は、おそらく北京交響楽団の第11回目の演奏会になるかもしれない。演奏曲目については、1941年1月25日第1回目のプログラムと、1942年6月18日第5回目のプログラムを見てみよう。第1回目には、モーツァルトの《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》、ベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第3番》（ピアノ：老志誠）、ビゼーの「カルメン」より間奏曲、組曲などがある<sup>176</sup>。第5回目には、リンデル（団員中の白系露人）の《ロシア風の幻想曲》、メンデルスゾーン《フィンガルの洞窟》、ベートーヴェンの《ピアノ協奏曲第1番》（ピアノ：富永律子）が演奏された<sup>177</sup>。そのほか、北京交響楽団は合唱との共演や、放送局ラジオの伴奏などにも出演した。

井上直二の戦後の状況は、殆ど知られていなかったが、北京交響楽団は戦争後、1948年

<sup>173</sup> 袁耀龙「近代北京六份老报纸中的新音乐史料研究」首都师范大学硕士论文、2014年、93頁。

<sup>174</sup> 綱代栄三「北京あれこれ」『音楽の友』第3巻第4号、1943年、58～59頁。

<sup>175</sup> 計安邦「低音提琴之父 計大偉教授の音楽人生」『美育』第169期、93頁。

<sup>176</sup> 袁耀龙「近代北京六份老报纸中的新音乐史料研究」首都师范大学硕士论文、2014年、92～93頁。

<sup>177</sup> 袴田克巳「北京音楽通信」『音楽の友』第2巻第8号、1942年、118～119頁。

「北平交響楽団」と改称し、戦時下の日本に留学した作曲家、指揮者の雷振邦が楽団の指揮者となり、中華人民共和国の成立するまで演奏活動を続けていた。

#### 4. 荒井三郎と北京合唱協会

続いて、北京在留日本人の合唱団をリードした荒井三郎のことに触れておく。荒井三郎は石川県出身、1933（昭和 8）年に東京音楽学校甲種師範科に入学し、1936（昭和 11）年に東京音楽学校を卒業した。荒井三郎はいつ北京にわたったのか、現時点の資料では確認できなかったが、寶井真一が北京に渡った後とりわけ 1941 年 2 月以降から 1942 年までに渡航した可能性が高いと資料から推測できる。また、東京音楽学校『同声会名簿』（昭和 18 年 12 月）によると、荒井三郎の北京での勤務先は日本第一高等女学校であったことが確認できた。

本文では、荒井三郎が指導していた北京在留邦人向けの北京合唱団および北京合唱協会について述べていきたい。日本占領地になった北京では、日本人の移住が年々増加している。北京在留日本人の娯楽を充実するために、日本人の音楽団体もしばしば設立されるようになった。1941 年冬に荒井三郎が日本人向けの北京合唱音楽協会を設立した（具体的な設立日は不明）。1942 年 5 月 3 日『新民報』（第 4 頁）では、「北京合唱音楽協会 昨開首次演奏会」という記事が掲載された。記事では 1942 年 5 月 2 日に北京飯店で開催された北京合唱音楽協会のはじめての公開演奏会について、以下のように報道した。

北京合唱音楽協会は各界の後援を受けて、創立して半年を経た。団体や自己の修養を深めるため、更に音楽報国の目的を達成するために、常に真剣に音楽を研究している。今回は、北京音楽文化協会および興亜青年同盟会の後援を受けて、昨日 5 月 2 日に北京飯店で第 1 回の合唱演奏会が開催された。日本第一高等女学校の荒井三郎の指導のもとに、非常に良い音楽が演奏できた<sup>178</sup>。

1942 年 5 月 2 日北京飯店で開催された北京合唱音楽協会の「第 1 回合唱演奏会」のパンフレットを通じて、当日のプログラムが確認できた。以下の表のとおりである。

表 3-7 : 1942 年 5 月日第北京合唱音楽協会「第 1 回合唱演奏会」プログラム

タイトル	曲目	出演者
国家	《君が代》	全員奉唱
1. 混声合唱	《アジアの力》（国民歌、放送協会撰） 《此の一戦》（国民歌、信時潔作曲） 《朝だ元気で》（国民歌、飯田信夫作曲）	指揮：小杉誠治、伴奏：山本繫松
2. 女声合唱	《別離》（ドイツ民謡、今中楓溪詞） 《菊の盃》（ベートーヴェン作曲、林古溪詞）	指揮：馬場、伴奏：山本繫松
3. 混声合唱	《雲雀の歌》（メンデスゾーン作曲、高野辰之詞） 《夢》（シューマン作曲、作曲誠実詞）	指揮：梅澤、伴奏：山本繫松

<sup>178</sup> 『新民報』1942 年 5 月 3 日、4 頁。

	《流浪の民》（シューマン作曲、石倉小三郎詞）	
4. ピアノ独奏	《前奏曲と遁走曲イ短調》（バッハ作曲）	白田豊子
5. 混声合唱	《天地創造曲》（ハイドン作曲、津川主一詞） 《海行かば》（日本古謡、信時潔作曲）	伴奏：中村千代子
6. 女声合唱	《朧月夜》（文部省唱歌） 《川》（千家文麿詩、橋本國彦作曲）	伴奏：山本繁松
7. 混声合唱	《大島節》（日本民謡、信時潔作曲） 《あかがり》（日本民謡、信時潔作曲、荒井三郎編曲） 《さくら》（日本民謡、大井辰夫曲）	伴奏：山本繁松
8. ピアノ独奏	奏鳴曲《月光》（ベートーヴェン作曲）	荒井三郎
9. 混声合唱	《祝歌》（歌劇タンホイザー）（ワグナー作曲、犬童球溪詩）	伴奏：中村千代子
10. 混声合唱	《興亜の合唱》（荒井三郎作曲）	伴奏白田豊子
合唱	《海行かば》	全員合唱

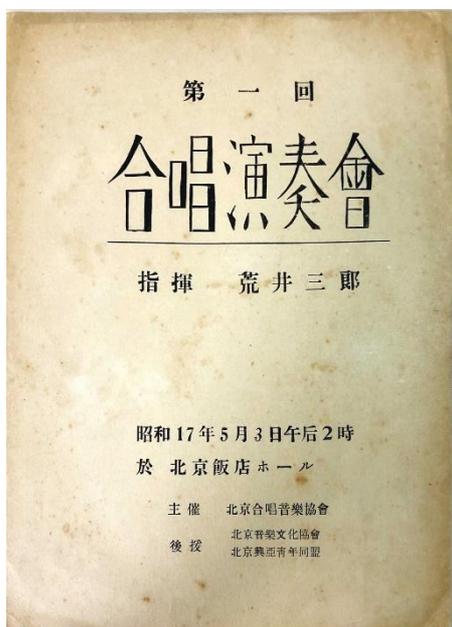


図 3-4、3-5：「第 1 回合唱演奏会」パンフレット表紙、裏表紙<sup>179</sup>

プログラムの曲目から見ると、クラシック音楽の代表的な合唱曲の以外では日本人作曲家が作った曲や、戦時下の色を反映する国民歌などが歌われた。またパンフレットの裏表紙には《興亜の合唱》の全歌詞を掲載した。1942年5月、当時の時局を合わせて考えてみる

<sup>179</sup> 筆者所蔵。

と、このようなプログラムの構成は、当時の華北に在住する日本人を団結させようとする気持ちも読み取れるだろう。

ピアノ演奏の白田豊子<sup>180</sup>と中村千代子は東京音楽学校の卒業生であり、荒井三郎と同じく北京日本第一高等女学校で教鞭を取っていた。北京合唱音楽協会は、毎週金曜日午後 6 時から 8 時まで北京東城第一国民学校の音楽室で練習を行っていた。1943 年 4 月『音楽之友』に掲載された綱代栄三の文章「北京あれこれ」によると、1943 年春までに荒井三郎が指導していた北京合唱団は既に 23 回の発表会を行ったという<sup>181</sup>。ここで言及した「北京合唱団」は北京合唱音楽協会のことを示したのか、又は北京合唱音楽協会の前身であったのかまだ資料不足で確認できなかったが、日本占領下の北京において荒井三郎が北京の合唱事業に関わっていたことは確実であると言えよう。

#### 第四節 北京に渡航した日本人音楽家・音楽関係者

第二章で記述したように、1938 年 3 月 14 日『朝日新聞』の「楽人も是非一役を 北支大衆教化に交響楽団進出」との記事では、山田耕筰が率いる中京交響楽団がこれから「北支」方面に約一か月の慰問演奏を含む演奏旅行をすることが決定し、4 月から「北支」に渡航するということがわかった<sup>182</sup>。音楽雑誌と一般新聞紙の調査結果によって、山田耕筰の慰問演奏をはじめ、日本人音楽家が北京に移住すると同時に、1938 年以降は内地の日本人音楽家が、北京をはじめとする華北地区に渡って、慰問公演や演奏旅行が行われるようになったことがわかった。

例えば、また王垠丹の論文で言及したように、1938 年 10 月 29 日にハーモニカ世界名家の佐藤秀廊が北京飯店で開催した演奏会があった。そして、1938 年 11 月から松竹少女歌劇団が 1 ヶ月に渡って中国で慰問公演を行った。そのうち、松竹少女歌劇団は 11 月 21 日に北京に到着し、22 日夜 8 時から北京の新新劇院で少女歌劇「珍珠之塔」（中国語タイトル）を公演した。当日の北京中央放送局が公演の生中継を行い、「無線文藝」で松竹少女歌劇団の紹介も掲載した。また、1939 年 6 月 20 日に日本音楽の名家琴古流尺八竹友社の川瀬涕二と正派生田流の中島雅楽之都が国立北京女子師範学院で開いた日本音楽の演奏会もあった<sup>183</sup>。

---

<sup>180</sup> 白田豊子は、1941（昭和 16）年東京音楽学校甲種師範科卒業。

<sup>181</sup> 綱代栄三「北京あれこれ」『音楽之友』第 3 巻第 4 号、1943 年、59 頁。

<sup>182</sup> 「「楽人も是非一役を」北支大衆教化に交響楽団進出」『東京朝日新聞』1938（昭和 13）年 3 月 14 日朝刊、11 頁。

<sup>183</sup> 王垠丹（2013）、36～37 頁。

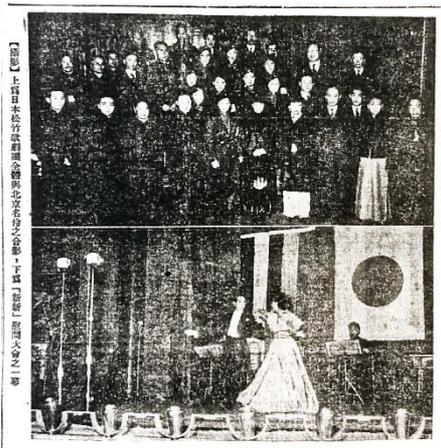


図 3-6 (左) : 松竹少女歌劇団北京公演の写真<sup>184</sup>

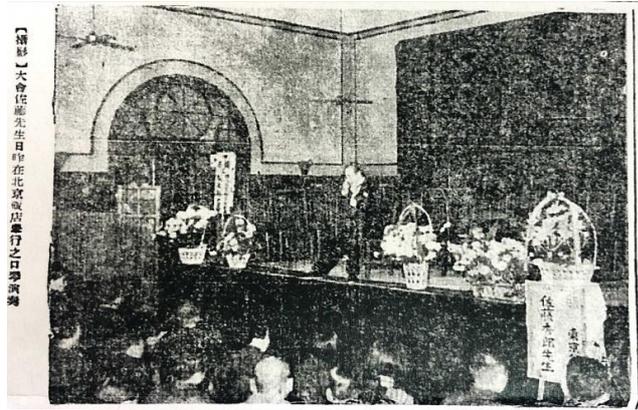


図 3-7 (右) : 佐藤秀廊ハーモニカ演奏会の写真<sup>185</sup>

一方、日本で人気を得たバイオリン演奏家である辻久子が、1942年3月29日に北京の真光映画館で演奏会を開催したことや、1942年5月23日、24日に、満洲建国10周年を記念するため、満州の音楽使節として哈爾濱交響楽団が李香蘭と共に北京にやってきて、新々大戲院で演奏会を開催したことも新たな発見した史料からわかった<sup>186</sup>。

以下では先行研究を参考しながら、『新民報』で新たに発見した史料や『音楽之友』に掲載された記事などの日本語資料に基づいて、北京を訪われた以下3人の日本人音楽家や音楽関係者のことを事例として述べる。

### 1. 藤原義江の演奏旅行

昭和時代の日本で名声を博した藤原義江は、戦時下の中国で慰問公演の演奏旅行も行った。『朝日新聞』1939年3月30日の記事が藤原義江の慰問公演について、以下のように述べた。

大阪朝日新聞社社会事業団では在支皇軍将兵慰問と日支文化提携親善の音楽使節としてテナー藤原義江、ピアノ伴奏加納和夫両氏を派遣することとなった。両氏は四月六日長崎を出発、上海、南京、青島、天津、北京各市で慰問、親善の独唱会を開催することになった<sup>187</sup>。

以上の文章から、大阪毎日新聞社の主催で藤原義江と加納和夫が1939年4月中国で慰問公演を行ったことが窺える。そして北京での公演は、その慰問演奏旅行の一つであったことも分かった。

また1942年4月、藤原義江が再び北京で公演を行った。その詳細について、袴田克巳が

<sup>184</sup> 『新民報』1938年11月23日、7頁。

<sup>185</sup> 『新民報』1938年10月31日、7頁。

<sup>186</sup> 袴田克巳「北京から」『音楽之友』第2巻第5号、1942年、107頁。

<sup>187</sup> 「テナー藤原渡支」『朝日新聞』1939年3月30日朝刊、11頁。

書いた「北京音楽通信」では以下のように記録されている。

いささか旧聞に属するが藤原義江一行の北京に於ける音楽会は四月二十五、六日の両日真光電影院にて昼夜二回開催された。今までにない豪華な番組と出演者で多大の反響を喚起した。二十七日は北京音楽文化協会の主催で日本国民学校講堂で日華人の為に無料の音楽会が催され、入場者中国人一千名、邦人五百名に大きな感銘を興へ、日華音楽親善の実を挙げたことは当日の出演者の好意に対し感謝に絶えぬ次第である。尚出演者は高柳二葉、村屋護郎、ピアノの安川正、三上孝子並びに藤原義江の諸氏である<sup>188</sup>。

当時の時局を考えると、藤原義江の再び北京公演の実施は1942年2月北京音楽文化協会の成立とかなり大きな関連性があったと考えられる。北京音楽文化協会によって招聘された可能性もあるであろう。以上の藤原義江の北京公演について、これまでの先行研究では言及されていなかった。

## 2. 山田耕筰の北京への旅

本節の冒頭で山田耕筰が北京に渡ったことを述べたほかに、1942年11月25日山田耕筰が北京に渡った記録も残っている。1942年11月26日『新民報』では、「作曲家山田氏抵京」という文章が掲載された。文章によると、山田は11月一度来京してから、11月25日再び伊藤武雄、辻輝子と共に北京に来た。今回来京の目的は二つがあるという。一つ目は満蒙毛織株式会社から社歌の指導を依頼されたことであり、もう一つ目は新作オペラ《香妃》の構想を完成させるためであった。特に新作《香妃》について、山田耕筰が『新民報』の記者に以下の感想を述べた。

当初はチンギスカンをテーマにしたものを作りたかったが、数日前に北京に来てから、私の考えが変わり、香妃をテーマにした。すでに長與善郎の原作をもとに脚本を作ったが、今回北京で舞台や衣装の構想について十分に考えたい<sup>189</sup>。

文章から、今回の北京への旅は山田耕筰が新作オペラのテーマを「香妃」に変えるきっかけになったことが窺えた。具体的に、北京への旅と新作オペラ《香妃》の創作がどう関わっていたのかを今後の課題にしたい。

また1942年11月27日の『新民報』では、山田耕筰が満蒙毛織株式会社の社歌を指導し、当会社の演奏会に参加した写真も掲載された。

<sup>188</sup> 袴田克巳「北京音楽通信」『音楽之友』第2巻第8号、1942年、118頁。

<sup>189</sup> 『新民報』1942年11月26日、4頁。

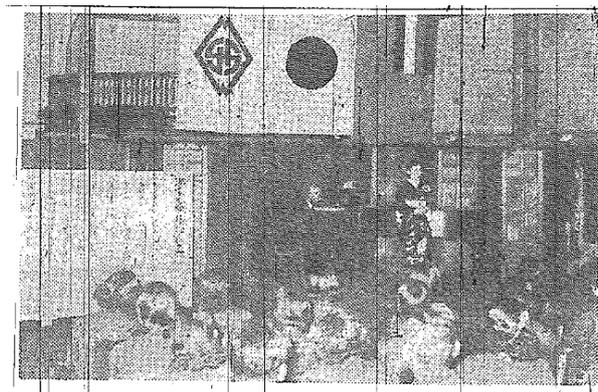


図 3-8：山田耕筰の来京の新聞報道<sup>190</sup>

図 3-9：満蒙毛織株式会社が開催した演奏会（山田耕筰がピアノ伴奏を務めた）<sup>191</sup>

### 3. 『音楽之友』編集者・三浦潤の北京への旅

続いて、音楽家ではないが雑誌『音楽之友』の編集者である三浦潤の北京の旅に触れておく。1941年10月、戦時体制に応じて音楽雑誌に統合と廃刊の動きがあった。かつての『月刊楽譜』、『音楽世界』、『音楽倶楽部』から、1941年12月雑誌『音楽之友』に統合した。戦時下の雑誌『音楽之友』は、1943年12月までに廃刊されたが、『音楽文化新聞』と並び、戦時下の日本楽壇を記録した重要な媒体である。1942年第2巻第1号の『音楽之友』では、編集者三浦潤の「北支の音楽の友」<sup>192</sup>という文章が掲載された。

文章では、まず雑誌『音楽之友』のこれからについて、三浦は「今後の目標を国内のみならず、大いに海外にも向け給へ、とすることである。（中略）近くは友邦中華民国へ、まず第一号から紹介して、我楽壇の充実とレコード文化の健全な発展振りを宣伝すべきである」<sup>193</sup>と述べた。そして、三浦が1941年5月と9月に2回わたって北京に渡航した。9月には1ヶ月ほど滞在をし、北京、天津の各地でレコード音楽の解説附の演奏会を開いたという。レコード演奏会の風景について、以下のように述べた。

前回五月に行った時と同様に、北京、天津の各地数々所でレコード音楽の解説附演奏会を開いた。その主なものは、北京最大のホテル北京飯店の大ホールで開いたコンサートと、天津居留民団大講堂で催したコンサートの二つで、共に約五百名の聴衆を集めたことは、現地として正に画期的なことであった。特に北京の方は、華北交通株式会社福祉室の主催と東亜新報の後援によって会は一層意義深いものとなった<sup>194</sup>。

そして、北京の滞在中に三浦は、北京の音楽雑誌やレコード、楽譜の状況について各音楽グループの人々に話を聞いた。詳細については、以下のように述べた。

<sup>190</sup> 同上。

<sup>191</sup> 『新民報』1942年11月27日、4頁。

<sup>192</sup> 三浦潤「北支の音楽の友」『音楽之友』1942年第2巻第1号、71-75頁。

<sup>193</sup> 同上、72頁。

<sup>194</sup> 同上、72頁。

私が北京滞在中に、各国策会社の社員を以て結成された色々な音楽グループの人達と、喫茶店や北京料理店で歓談したが、其時一様に「北支には我々の読むような音楽雑誌がない」と言われた。少数の雑誌は、極く一部の人達に渡っているのかもしれないが、それでは音楽雑誌本来の趣意に反するし、雑誌としても将来の発展は望めない。又彼等にとって、レコードの月遅れや、品不足はお互いにグループのレコード演奏会を利用する方法があるから我慢もできるが、楽譜というものが殆ど手に入らないのは、何としても物足りないといっていた。内地のようにベートーヴェン交響楽スコアの縮写版が安く手に入ることは、一寸外国にも例があるまい。（中略）それから見ると、我国のスコア複写版は余程よくできている。これ等に、何とか中国の好楽家に安価に提供してあげたいものである<sup>195</sup>。

三浦の文章から、占領下の北京における音楽雑誌がないこと、そして楽譜やレコードの提供が物足りないことが窺えた。戦前の北京において音楽出版やレコード販売などが発展していた音楽産業の状況を考え合わせると、戦争の影響で北京の音楽産業もかなり停滞していたことを推測できるだろう。三浦の文章から、演奏会以外の北京の音楽環境の一面を窺うことができた。

## 第六節 まとめ

本章では、日中両国の資料を活用し、戦時下の北京に渡った日本人音楽家および彼らの音楽活動を明らかにした。「対支音楽工作」の展開は、1937年12月東京で開催された「東亜文化振興協議会」がその重要な誘因と考えられる。その影響で日本の音楽界のなかにも「対支音楽工作」の新たな動きが現れ、袴田夫妻が最初の日本人音楽家として北京に移住した。そして袴田の日本楽壇への発信の影響も受けつつ、1940年前後から日本人音楽家の北京移住が増えるようになった。そのうちの多数は、戦時下の北京に在住した日本人音楽家の多数は、東京音楽学校出身者であったことが明らかとなった。彼らは北京の大学や日本人中学校・女学校で教鞭を執った。占領下の北京と日本楽壇との繋がり、同じく東京音楽学校出身で当時北京師範大学の教授を務めた柯政和が重要な仲介者となったと考えられる。

一方、これまでの先行研究にあまり触れなかった北支那方面軍軍楽隊の結成、楽隊の編成と北京において行われた音楽活動を明らかにした。北支那方面軍軍楽隊は、日本軍や新民会の催事による日本軍戦事の勝利を「慶祝」する演奏活動、前線将兵への「慰安」演奏活動、現地の中国民衆に対する「親善」、「宣撫工作」のための演奏活動を行った。またラジオの生放送や北京市民向けの公開演奏会では、少数の日本人作曲家の作品の以外、主なレパートリーは西洋音楽の作品であることがわかった。

また北京に在住した日本人音楽家のほか、一時的に北京に渡った音楽家・音楽関係者（藤原義江、山田耕筰など）について、それぞれの音楽活動の実態を明らかにした。彼らは占領下の北京において、それまで停滞していた西洋音楽による音楽活動の主たる担い手となっていたと言えるだろう。

---

<sup>195</sup> 同上、73頁。

## 第四章 日本占領下の北京における中国人・欧米人音楽家とその音楽活動

これまでに孟维平『北京近代新音乐发展史研究』（2012）、王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」（2013）、袁耀龙「近代北京六份老报纸中的新音乐史料研究」（2014）等の先行研究では、日本占領下の北京における中国人や欧米人音楽家の音楽活動を既に述べている。特に袁耀龍の論文は、中華民国時代において北京に刊行された六つの新聞紙を網羅し、そのなかの音楽記事を抽出し、分析した論文である。例えば、王慶勛と中華口琴会北京分会の活動や、声楽家の郎毓秀、伍正謙の演奏会等が挙げられる。

本文では、『新民報』の記事と日本語資料に基づいて、これまでに言及されなかった戦時下の中国人・欧米人音楽家の音楽活動を述べていきたい。

### 第一節 「台湾出身」音楽家の江文也とその演奏活動

作曲家・声楽家である江文也に関して、日本や中国でもすでに沢山の先行研究が存在している。戦時下の江文也の音楽活動については、劉麟玉（2005）の研究をはじめ、近年も多数の研究成果が出てきた。例えば、朱婷婷「江文也“北平、北京时期”钢琴作品民族化探究」（2019）、张珺怡「江文也北平时期（1938年-1949年）的钢琴音乐创作研究」（2019）、金莲花「江文也钢琴音乐研究（1934-1937）」（2019）等がある。しかし、これまでの先行研究は主に作曲家としての江文也に焦点を当てており、声楽家としての江文也に関する研究はわずかであると思われる。本文では、『新民報』で発見した、北京中央放送局ラジオ放送における江文也の出演記録に基づいて、これまで知られなかった日本占領下の北京における江文也の声楽曲を中心とした演奏活動について述べておきたい。

#### 1. 戦時下の北京に移住した江文也

江文也（本名江文彬 1910-1983）は植民地下台湾に生まれた声楽家・作曲家である。1914年に家族と共にアモイに移住し、1917年に台湾総督府が付設した籍民学校で初等教育を受け、1923年に長野県上田中学校に「内地」留学した。その後江は1932年と1933年に時事新報社が主催する第1回と第2回音楽コンクール声楽部門に参加し、入選した。続いて1934年の第3回音楽コンクール作曲部門に参加し、第2位に入賞したことにより江文也は作曲家としての実力が認められることとなった。また1936年にベルリンで開催されたオリンピックにおける作曲部門の名誉賞の受賞者としても知られている。1938年3月に江文也は中国の北京へ渡り、第二次大戦の終焉を迎えて後も北京に残ることとした<sup>196</sup>。

戦時下の北京に渡る契機について、これまでの研究結果では三つの可能性があるとして挙げられた。一つ目は、北京の家族の証言によると、同じ台湾出身の北京師範学校教授の柯政和の招聘を受けたことである。二つ目と三つ目は、劉麟玉の論文によると、北京新民会の活動のため、もしくは映画音楽を制作するためという二点である。特に映画音楽を制作するためという点について、江文也が北京に渡るまえにすでに『南京』と『東亜平和の道』という二つの映画音楽の制作に携わっていることから、従って映画『北京』が企画された際に、中国関係の文化映画の音楽制作に適していると思われる江文也が声をかけられた可

<sup>196</sup> 劉麟玉「戦時体制下における台湾人作曲家江文也の音楽活動—1937年～1945年の作品を中心に—」『お茶の水音楽論集』第7号、2005年、1頁。

能性が大きい、と劉の論文ではそう指摘している<sup>197</sup>。

一方、江文也が自分独自の音楽表現やルーツなどを考え始めたため、チェレプニンの薦めを受けて北京に初めて行き、古き良き伝統文化に深く惹かれたことも注目すべきであろう。新しい音楽のアイデンティティを求めるために、北京に行くという目的を達成しようとした可能性も十分に考えられよう。

そして、1938年北京にわたった江文也はどのような音楽活動を行ったのか。北京師範学院で教鞭を執るほか、作曲活動も行っていた。劉麟玉の論文によると、戦時下の北京における江文也の作曲活動は以下四つの特徴を挙げられる。「一、北京に渡ってからの作品のほとんどが北京新民音楽書局によって出版されたこと、二、江は文化映画のテーマ音楽を担当したこと、三、幾つかの作品名は日本の戦時体制と関わっていること、四、戦時体制と関わる作品のなかに中国伝統音楽を題材にしたと思われる作品が混在していること、である」<sup>198</sup>。その一方で前文にも記述したように、北京に渡った江文也は新民会の活動に携わっていたほかに、北京中央放送局とも深く関わっていたことが『新民報』の記事から窺えた。

## 2. 江文也と北京中央放送局の「世界名曲定期放送」番組

江文也と北京中央放送局との関わりは第二章にも述べたように、主に二点がある。一つ目は北京中央放送局が「洋楽制度」の方針を実施するため、北京警察局楽隊の養成に力を入れたことである。そして、楽隊の指揮者に江文也を招聘したことは、石井文雄の文章からわかった。もう一つ目は、1938年から1939年年末までに北京中央放送局のラジオ放送に頻繁に出演したことである。北京中央放送局が江文也に依頼し、世界的な名曲を江文也の独唱によって生放送をする「世界名歌曲定期放送」という番組を作った。

最初の放送日は資料の欠缺で確認できなかったが、1938年9月7日の『新民報』によると、「世界名曲定期放送第7回」が放送されたことが確認できた。当日、江文也がゴダールの名曲《ジョスランの子守歌 (Berceuse de Jocelyn)》とイタリア民謡2曲(曲名は不明)を演唱し、袴田克巳がピアノ伴奏を務めた。当日「無線文藝」の文章でも放送の経緯や、江文也の履歴も大きく紹介された。

---

<sup>197</sup> 同上、16頁。

<sup>198</sup> 同上、9頁。



図 4-1：世界名曲定期放送第七回による江文也の紹介文<sup>199</sup>

「世界名曲定期放送」は 1939 年 12 月まで合計 30 回が放送された。江文也が出演した 30 回の「世界名曲定期放送」のプログラムを以下の表にまとめた。

表 4-1：「世界名曲定期放送」放送記録（中国語）

年	月日	星期	題目	出演者	曲目
1938	9月7日	三	世界名曲定期放送第七回	江文也 獨唱、袴田克巳 鋼琴伴奏	1. 《約瑟夫之搖籃曲》（"Berceuse" from Jocelyn）、2. 《打麥歌》義大利民謠二曲。
1938	9月14日	三	世界名曲定期放送第八回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《威尼斯的船歌》（孟德爾頌作曲）、2. 《流浪者之夜曲》（舒伯特作曲）、3. 《鳴金收軍》（日本民謠）、4. 《聖母讚歌》（古諾作曲）
1938	9月21日	三	世界名曲定期放送第九回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《加羅描鞭》（Caro mio ben）（約但尼作曲）、2. 《西班牙夜曲》（La Paloma）（伊拉底為作曲，Yradler）、3. 《弗忘草》（杉山長谷夫作曲）、4. 《河深》（黑人靈歌）
1938	10月12日	三	世界名曲定期放送第十回	不明	不明
1938	10月19日	三	世界名曲定期放送第十一回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《君休無情》（義大利古歌）、2. 《薔蓮》（西班牙民謠）、3. 《我們的牧場》（日本民謠）、4. 《你是我的安息》（舒伯特作曲）、5. 《傷春》（中國民歌、江文也編作曲）

<sup>199</sup> 『新民報』1938年9月6日、8頁。

1938	11 月 23 日	三	世界名曲定期放送第十二回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《蘇格蘭的吊鐘草》（蘇格蘭民謠）、2. 《白鳥》（古裡克作曲）、3. 《牧歌》（西門聶低作曲）、4. 《南薰歌》（中國古歌、江文也作曲）
1938	11 月 30 日	三	世界名曲定期放送第十三回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《君勿難我》（意國語、斯加拉底作曲）、2. 《打毯球》（日本民謠）、3. 《萬觸優思唯我自知》（德語）、4. 《鋤頭歌》（中國名歌、江文也編曲）
1938	12 月 21 日	三	世界名曲定期放送第十五回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《亞德萊迪》（貝多芬作曲）、2. 《船夫曲》（日本民謠）、3. 《古琴吟》（中國民歌、江文也編作曲）
1939	1 月 4 日	三	世界名曲定期放送第十六回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《上帝的榮光》（貝多芬作曲）、2. 《春經》（舒伯特作曲）、3. 《開船口岸》（日本民謠）、4. 《春景》（中國民歌）
1939	1 月 11 日	三	世界名曲定期放送第十七回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	海涅及舒曼之夕。1. 《天天君如花》、2. 《惆悵又奈何》、3. 《美麗的蒲月》、4. 《兩個精兵》，舒曼作曲。
1939	1 月 18 日	三	世界名曲定期放送第十八回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	《琴瑟寄言》（舒伯特作曲）
1939	2 月 1 日	三	世界名曲定期放送第十九回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《佐渡舞蹈曲》（日本民謠）、2. 《門答泥沙》（西班牙民謠）、3. 《蘇武牧羊》（中國民謠，江文也作曲）、4. 《回索羅多去》（義大利民謠）
1939	2 月 8 日	三	世界名曲定期放送第二十回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《靜寂如深夜》（玻母作曲）、2. 《牧歌》（馬斯加尼作曲）、3. 《神田祭》（日本民謠）、4. 《春日郊遊》（江文也編曲）
1939	2 月 15 日	三	世界名曲定期放送第二十一回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	修伯特於海涅之夕。1. 《他的肖像》、2. 《海濱》、3. 《影》（舒伯特作曲）
1939	2 月 22 日	三	世界名曲定期放送第二十二回	江文也 獨唱、老志誠 鋼琴伴奏	1. 《春宵一刻值千金》（落語、蘇軾詞）、2. 《歎息若小夜曲》（杜謝麗作曲）、3. 《可愛之歌》（布勒希作曲）、4. 《開船之歌》（日本民謠）
1939	3 月 1	三	世界名曲定	江文也 獨	貝多芬重要四曲。1. 《愛你》、2.

	日		期放送第二十三回	唱、普拉魯夫斯基鋼琴伴奏	《黑暗的墳墓》、3. 《上帝的榮光》、4. 《雅迪萊蒂》。貝多芬作曲。
1939	3月8日	三	世界名曲定期放送第二十四回	江文也 獨唱、老志誠鋼琴伴奏	一、唐詩三首：1. 春眠不覺曉、2. 易水送別、3. 長安道（江文也作曲）、二、《好奇心》（舒伯特作曲）、三、《馬裡亞麻裡》（義大利民謠）。
1939	3月15日	三	世界名曲定期放送第二十五回	江文也 獨唱、希林鋼琴伴奏	1. 《何必歎息》（舒曼作曲）、2. 歌劇《單會查》選曲《夕星之歌》（瓦格納作曲）
1939	3月22日	三	世界名曲定期放送第二十六回	江文也 獨唱、老志誠鋼琴伴奏	1. 《春夜洛城聞笛》（江文也作曲）、2. 《閨怨》（江文也作曲）、3. 《離愁曲》（江文也作曲）、4. 《威尼斯的龍船歌》（孟德爾頌作曲）、5. 《菩提樹》（舒伯特作曲）
1939	4月5日	三	世界名曲定期放送第二十七回	江文也 獨唱、老志誠鋼琴伴奏	克西爾克斯 歌劇選曲及唐詩三首。一、歌劇《克希爾克斯》選曲《莊嚴調》（亨德爾作曲）、二、■聶敦各的湖畔（劉爛斯作曲）、三、唐詩三首（江文也作曲）：1. 照鏡見白髮、3. 長幹行。
1939	4月12日	三	世界名曲定期放送第二十八回	江文也 獨唱、希林鋼琴伴奏	1. 《托詩歌以飛騰》（孟德爾頌作曲）、2. 《金花菜》（馬克大衛作曲）、3. 《海濱》（舒伯特作曲）、4. 《唉！唉！唉！》（西班牙民謠）
1939	4月19日	三	世界名曲定期放送第二十九回	江文也 獨唱、老志誠鋼琴伴奏	1. 《依樂道情》（舒伯特作曲）、2. 《吾心無所煩》（柴可夫斯基作曲）、3. 《可愛的歌》（布勒希作曲）、4. 《打麥歌》（義大利民謠）
1939	7月12日	二	世界名曲定期放送第三十回	江文也 獨唱、普拉魯夫斯基鋼琴伴奏	1. 《請你帶我回到維金尼亞》（德國民謠）、2. 《唉！唉！唉！》（西班牙民謠）、3. 《船夫歌》（日本民謠）、4. 《無言獨自上西樓》（江文也作曲）。

上記のプログラムから見ると、江文也の独唱のほか、ピアノ伴奏は中国人音楽家の老志誠、または北京師範大学に教鞭を執ったロシア人のピアニストのプラウロフスキー（希林については不明）であったことがわかった。演奏されたレパートリーからみると、ロマン派音楽の声楽曲や世界各地の民謡が多く、また日本の民謡も散見された。

そして、注目すべきなのは、江文也が北京で創作または編曲した中国民謡や中国風の作

品が多数含まれていることである。戦時下の北京で膨大な中国の詩曲や歴史文化を題材にして作られた作品は、戦時下の江文也の本音を代言しているものとも考えられる。そしてラジオ放送の出演記録から見ると、これらの中国を題材にした作品が、創作されてからすぐに江文也の肉声でラジオを通じて放送されていたことも推測されるであろう。これらのレパートリーは、江文也の演唱活動を理解する上で重要な史料にもなり、江文也の戦時下の北京での創作との関わりも意味深い。こちらの史料をうまく活用できれば、戦時下の江文也の音楽活動に関する更なる研究の可能性も展開できるだろう。これらは今後の課題にしたい。

## 第二節 各国音楽家が共演する演奏会—慈善演奏会を中心に

続いて、日本占領下の北京における各国音楽家が共演する演奏会について触れておきたい。以下は、慈善演奏会を事例として、「占領空間」における演奏会の一つの側面を捉えてみたい。

『新民報』によると、1938年から1942年までに約11回の慈善演奏会が行われたことが確認できた。その内容は主に、自然災害による慈善演奏会（特に水害）と冬季救済事業のための慈善演奏会に分けられる。出演者について、多国籍の音楽家が出演したことはその特徴の一つである。例えば、1939年12月23日の『新民報』に掲載された「世界音楽大會青年會為冬賑募款 將在北京飯店舉行」記事によると、青年会の主催により北京飯店で冬季救済事業のために慈善演奏会を行うことが決定されており、出演者は中国や日本の音楽家だけでなく、アメリカ、ロシア、イタリア、スイスなど北京に在住している外国人音楽家が集まる予定であると書かれている。また慈善演奏会では、曲目も一つのジャンルにとどまらず、多様な芸術ジャンルが含まれている。例えば、音楽だと西洋音楽や、日本音楽、ロシア音楽など、舞踊だと各国の舞踊も披露される。また時には演劇が出されることもある。

その一つの事例として、以下は1938年9月15日に新民報の主催により新新劇院で行われた黄河水災募金のための慈善演奏会「音楽舞踊大会」に触れておきたい。「音楽舞踊大会」を開催する背景は、1938年6月に国民革命軍が日本軍の進撃を食い止めるために起こした黄河の氾濫であった「黄河決壊事件」に遡ることができる。「黄河決壊」の影響で犠牲者は数十万人に達し、農作物に与えた被害も住民を苦しめたという。

そして、新民報は8月27日から演奏会の予告を打ち出し、9月28日まで1か月のなかに約15回の報道を行ったことから、今回のイベントが非常に重視されていたことが窺える。9月15日の出演プログラムからみると、当日の出演ジャンルは日本音楽、日本舞踊、中国音楽、中国舞踊、西洋音楽、ロシア舞踊等がある。出演者も中国人、日本人、ベラルーシ人の音楽家であったことが『新民報』の記事から窺える。



図 4-2：『新民報』1938 年 8 月 27 日の報道<sup>200</sup>



図 4-3：「音樂舞蹈大會」ポスター<sup>201</sup>

具体的なプログラムは、以下のものである。

#### 第一部

- 一、合唱：《大聖孔子讚歌》、北京中央合唱團、袴田克巳指揮。
- 二、交響樂：《未完成交響樂》、北京交響樂團
- 三、日本舞蹈：1. ■ 2. 《吾妻八景》、加治千恵子、奈良文江
- 四、二胡獨奏，王紹先：1. 《病中吟》（劉天華作曲）、2. 《枝頭叫■》（王紹先作曲）
- 五、舞蹈：小腳娘、新民舞蹈研究會
- 六、琵琶獨奏，王紹先：《陽春白雪》
- 七、合唱：1. 《■》2. 《■》3. 《荒城の月》、北京中央合唱團袴田克巳指揮。
- 八、夏威夷音樂：1. 《鳥歌》、2. 《檀島小集》、青年會四樂研究會

#### 第二部

- 一、舞蹈：1. 《新民之歌》、2. 《太陽讚歌》新民舞蹈研究會、指導景安正夫
- 二、獨唱：1. 《美しき太陽よれ》、2. 《俄国民謡》
- 三、獨唱：1. 《■》、2. 《悲秋》、3. 《茶花女中の飲酒歌》
- 四、口琴獨奏，佐藤秀郎：《荒城之月幻想曲》
- 五、舞蹈，景安正夫
- 六、昆曲彈詞：青年會昆曲研究社
- 七、合唱：《高聲歡唱》、青年會靈韻合唱團、王組恭指揮。

#### 第三部

- 話劇《黃河之淚》、出演者：新民劇團。

多国籍の音楽家が同じのステージに共演すること、そして日本人音楽家も中国人音楽家も

<sup>200</sup> 『新民報』1938 年 8 月 27 日、7 頁。

<sup>201</sup> 『新民報』1938 年 8 月 30 日、7 頁。

共演することは、1938年の8月からもうすでに存在していたと考えられる。特に、慈善演奏会という社会福祉のイベントとして、国同士の間には社会時勢や戦争による対立感情の影響がより少ないことも特筆すべきであろう。

### 第三節 戦時下における平和への祈り——宗教音楽の演奏会を中心に

#### 1. 燕京大学合唱団による《メサイア》演奏会

燕京大学は1919年に設立され、米国のキリスト教会が運営する教会学校である。同校は自分のオーケストラと合唱団を持っている。その中、燕京大学の合唱団は1928年に創立されており、団員は学校の生徒で芸術指導は范天祥教授を中心とする教師陣である。設立以来、毎年クリスマスイヴにヘンデルの《メサイア》を演奏することで、北京音楽界で名を博した。袁耀龍の論文によると、燕京大学合唱団は、1928年から1947年までに17回の演奏会を行い、そのなかに《メサイア》を9回歌ったことが分かった。しかし戦時下の記録はほとんど残っておらず、戦時下の燕京大学合唱団の状況を確認することが難しい。

一方、1940年4月21日『朝日新聞』に掲載された安井郁「新支那と音楽」の文章では、1937年12月24日に北京飯店で燕京大学が開催したヘンデル《メサイア》演奏会のことに言及した。安井は1937年12月24日ヘンデル《メサイア》の演奏会に参加し、当日の風景を以下のように述べた。

南京陥落が伝えられてから間もないこと、北京に着いた私は音楽会のポスターに注意をひかれた。アメリカ人の経営する燕京大学の合唱団がヘンデルの不朽の大作「救世主」の全曲を歌うというのである。数日後に私は郊外の燕京大学を訪れて総長や諸教授と意見を交した。その際に私が音楽会のことに言及すると、哲学を専攻するという支那人の教授が立って熱烈な語調で述べた。「この合唱には音楽に何の素養もない私も参加する。われわれの平和に対する望みと祈りとがそれに込められているからである」と。クリスマスも近い成る夕にその音楽会は北京飯店のホールで催された。百人の合唱団中には白髪のアメリカ婦人や支那の女学生の姿も見える。聴衆は殆どすべてが欧米人や支那人とであり、北京在住の知識人の半分がそこに集まっている。ハレルヤ・コーラスが始まると、聴衆は一人残らず起立し、厳粛な雰囲気会場を包んだ<sup>202</sup>。

短い文章であるが、当時の日本占領地になった初期の燕京大学の状況を窺える貴重な史料である。特に「この合唱には音楽に何の素養もない私も参加する。われわれの平和に対する望みと祈りとがそれに込められているからである」という中国人教授の言葉が、日本占領下の北京における殆どの中国人や欧米人の心境を代言していると考えられる。

しかし、太平洋戦争の勃発によって、燕京大学はアメリカ人が経営するために、日本軍が大学構内に突入占領し、大学は閉鎖された。燕京大学の合唱団の演奏活動も1941年まで止まっていた。

#### 2. 北平聯合聖楽団による演奏会

孟維平は『北京近代新音楽発展史研究』で、日本占領下の北京において宗教音楽をテー

<sup>202</sup> 安井郁「新支那と音楽」『朝日新聞』1940年4月21日、6頁。

マとする演奏会が非常に多いと言及した。1942 年春、北京キリスト教会が聯合大学合唱団を創立した。合唱団の指導者は燕京大学の卒業生である楊榮東であった。1942 年 6 月に第 1 回の演奏会を開催し、中国人や欧米人の音楽愛好者に好評を得た。1942 年北京匯文中学の学生であった姚思源（その後は、音楽教育家になった）の思い出によると、1942 年から北平聯合聖楽団は毎年のクリスマスにはヘンデルの《メサイア》を演奏し、毎年の春にはハイドンの《天地創造》を演奏することになった<sup>203</sup>。

また姚思源が所蔵する「20 世紀 30-40 年代北京地区部分節目単」によると、1937 年 7 月とりわけ北京が日本軍の占領地になってから 1945 年終戦までに、北京において宗教音楽をテーマとする演奏会が 18 回を確認できた<sup>204</sup>。

#### 第四節 まとめ

本章では占領下の北京における中国人・台湾人および欧米人音楽家の音楽活動に注目した。まずは、新たに発見した史料に基づき、江文也が占領下の北京において行った歌曲を中心とする演奏活動の実態を明らかにした。戦時下の北京に渡航した江文也は、中国古代の文化に夢中になっており、中国の詩曲や歴史文化を題材に多数の名曲を作った。これらの作品は、戦時下の江文也の本音を代言しているものとも考えられるだろう。そして、その中の声楽曲は、当時のラジオ放送を通じて江文也の肉声で放送されたことがわかった。声楽曲のレパートリーは、江文也の声楽演奏活動を理解する上で重要な史料にもなり、江文也の戦時下の北京における音楽創作との関わりに考察する上で意味があると言えるだろう。

加えて、中国人・欧米人音楽家が主催した慈善演奏会や、西洋の宗教音楽をテーマとした演奏会が多く開催されたことがわかった。これらの演奏会において、占領空間に置かれた人々が、西洋音楽に平和への祈りをこめていたことを指摘できるだろう。

---

<sup>203</sup> 孟维平『北京近代新音乐发展史研究』北京：首都师范大学出版社、2012 年、55 頁。

<sup>204</sup> 同上、263-264 頁。

## 結論 「音楽交渉」とその内面：抵抗・支配・協力

### 1. 各章のまとめと考察

第一章では、占領下の北京音楽文化を理解するため、先行研究や修士論文に基づいて中華民国から占領期までの北京音楽略史（1912-1937）を以下三つの方面から記述した。まず、専門音楽教育が大学での音楽専攻の設立によって、1910～1930年代の北京においてどのように発展してきたのか、その全体像を提示した。そして、音楽団体（西楽社、北京愛美楽社を事例として）の演奏活動の実態および1920～1930年代の北京における音楽享受の実態を明らかにした。また、音楽環境の整備について、1920～1930年代の北京楽壇のキーパーソンである柯政和の音楽事業を中心に記述した。

第二章では、日本占領下の北京においてどのような「音楽工作」が行われたのか、また日本側においてはどのような動向が見られたのかを検討した。まず、1937年12月7日から11日まで東京で開催された「東亜文化振興協議会」（1938年「東亜文化協議会」に改称）が、北京における「音楽工作」を推進させるための重要な要因であったことを指摘した。そして占領地現地における「音楽工作」の実態としては、抗日音楽が禁止された一方で、日本の傀儡政府である中華民国臨時政府が、日本化教育のための音楽講座や新民歌曲の募集、ならびにそれらの強制的な普及により、臨時政府のイデオロギーを大衆に浸透させようとしていた。さらに北京中央放送局のラジオ放送番組を分析した結果、日本側が西洋音楽を中心に用いた「音楽工作」を通して、戦時下の「日中親善」を深める意図を持っていたことが明らかになった。とりわけ1942年以降は北京音楽文化協会の設立により、北京楽壇の統制による「音楽工作」が強化された。

第三章では、日中戦争下、とりわけ1937～1945年に日本軍の占領地となった北京における日本人音楽家の音楽活動に焦点を当て、従来漠然とした把握にとどまっていた戦時下の北京における音楽文化の側面を明らかにした。特に戦時下において初めて北京に移住した日本人音楽家袴田克巳夫妻や、北京に派遣された北支那方面軍軍楽隊、そして北京に渡航した東京音楽学校の卒業生（井上直二、寶井真一、荒井三郎など）、さらには一時的に北京に渡った音楽家・音楽関係者（藤原義江、山田耕筰など）について、それぞれの音楽活動の実態を明らかにした。彼らは占領下の北京において、それまで停滞していた西洋音楽による音楽活動の主たる担い手となっていた。

第四章では、占領下の北京における中国人（台湾人）・欧米人音楽家の音楽活動に注目した。まずは、新たに発見された史料に基づき、江文也が占領下の北京において行った演唱活動の実態を明らかにした。加えて、中国人・欧米人音楽家が主催した慈善演奏会や、宗教音楽をテーマとした演奏会が多く開催されたことがわかった。これらの演奏会において、占領空間に置かれた人々は、西洋音楽に平和への祈りをこめていたことを指摘した。

本論文は日本占領下の北京における音楽活動の実態を明らかにすべく、日中両国の基礎資料を収集と整理を行う実証的な研究である。結果として、占領下の北京における西洋音楽の音楽活動が最初に、北京中央放送局のラジオ番組に取り入れられ、特に古典派およびロマン派の音楽が普及されるようになった。1938年4月最初の日本人音楽家が北京に移住してから、1940年以降、多数の日本人音楽家が北京に移住するようになった。彼らは、占領下の北京における西洋音楽の音楽活動の主な担い手となった。また、日本占領下北京における西洋音楽には、支配側のプロパガンダの手段として利用される一方で、被支配側の

「抵抗」も込められている。西洋音楽を通して日中戦争下の「音楽交渉」を発生させながら、互いの文化にも浸透しつつあった。結果として、抗日音楽を禁止された占領下北京の「音楽空間」において、支配側や被支配側の双方にとって「中立」とみられる西洋音楽を通じた「音楽交渉」の発生が、戦時下の北京における西洋音楽の意外な発展を促進したと言えよう。

## 2. 今後の課題と展望

今後の課題について、特に資料調査の課題については、本論文で主な調査対象とした『新民報』のうち、1943年1月～1944年4月（北京国家図書館所蔵）の未調査の部分については2020年1月北京での資料調査を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、実施できなかった。これらは、1943年から1945年日本の敗戦まで、北京における西洋音楽および音楽文化の全体がどのような状況になったのか、また、日本占領の初期と比較して、北京の音楽文化がどのような変化を経験し、どのような転換があったのかを解明できる重要な資料と言えらる。未調査の部分は、今後の課題とする。

また、戦時下の北京で発行された唯一の日本語新聞紙である『東亜新報』は、「上海図書館に所蔵されている」と先行研究では述べられているが、現地で調査したところ、該当新聞紙の所蔵状況は確認できなかった。『東亜新報』は、『新民報』の裏付けとなるのみならず、戦時下の日本人コミュニティにおいて、どのような音楽を享受されたのかを明らかにする際に、重要な切り口になると考えられる。そのため、今後も、『東亜新報』の調査作業を続ける予定である。

戦争時代の音楽文化を論じる際に肝要な要素であると考えられる日中戦争史や戦時下の文化論などの歴史背景に深く立ち入ることができなかったことは、今回の反省点である。特に、1941年太平洋戦争の勃発によって変化した日本国内と外地の楽壇の動向に照らし合わせながら、当時の歴史背景または戦争史の問題とも接続される必要がある。しかしながら、本論文ではその点が、知識、資料の両面においてともに不足している。したがって、これらのことは今後の課題にしたい。

## 参考史料・文献

### 一、日本語文献

#### 1. 史料

『近代日本音楽年鑑』

『東京音楽学校一覧』

#### 2. 新聞・雑誌

『朝日新聞』（1937～1945）

『読売新聞』（1937～1945）

『音楽文化新聞』（1941～1943）

『音楽之友』（1942～1943）

#### 3. 著書・単行本

石田一志『モダニズム変奏曲：東アジアの近現代音楽史』東京：朔北社、2005年。

井田敏『まぼろしの五線譜—江文也という「日本人」』東京：白水社、1999年。

井上祐子『秘蔵写真 200枚でたどるアジア・太平洋戦争：東方社が写した日本と大東亜共栄圏』東京：みずき書林、2018年。

岩野裕一『王道楽土の交響楽：満洲—知られざる音楽史』東京：音楽之友社、1999年。

ヴォーゲル、エズラ（編集）、平野健一郎（編集）、Ezra Feivel Vogel（原著）『日中戦争期中国の社会と文化（日中戦争の国際共同研究）』東京：慶應義塾大学出版会、2010年。

晏妮『戦時日中映画交渉史』東京：岩波書店、2010年。

長田暁二『戦争が遺した歌：歌が明かす戦争の背景』東京：全音楽譜出版社、2015年。

片山杜秀『大東亜共栄圏と TPP ラジオ・カタヤマ【存亡篇】』東京：アルテスパブリッシング、2015年。

菊池清磨『昭和軍歌・軍国歌謡の歴史：歌と戦争の記憶』東京：アルファベータブックス、2020年。

小村公次『徹底検証・日本の軍歌—戦争の時代と音楽』東京：学習の友社、2011年。

桜本富雄『歌と戦争—みんなが軍歌をうたっていた』東京：アテネ書房、2005年。

佐藤由美子『戦争の歌がきこえる』東京：柏書房、2020年。

芝崎祐典『権力と音楽：アメリカ占領軍政府とドイツ音楽の「復興」』東京：吉田書店、2019年。

関智英『対日協力者の政治構想—日中戦争とその前後』名古屋：名古屋大学出版会、2019年。

貴志俊彦『東アジア流行歌アワー』東京：岩波書店、2013年。

貴志俊彦、川島真、孫安石編『戦争ラジオ記憶』東京：勉誠出版、2015年。

高橋巖夫『昭和激動の音楽物語』福岡：葦書房、2002年。

竹山昭子『戦争と放送：史料が語る戦時下情報操作とプロパガンダ』東京：社会思想社、1994年。

戸ノ下達也著『音楽を動員せよ：統制と娯楽の十五年戦争』東京：青弓社、2008年。

戸ノ下達也、長木誠司編『総力戦と音楽文化：音と声の戦争』東京：青弓社、2008年。

- 戸ノ下達也『戦時下音楽界の再編統合 清瀬保二メモにみる楽壇新体制促進同盟から日本音楽文化協会へ』東京：音楽の世界社、2001年。
- 戸ノ下達也『「音楽文化新聞」全三巻・別巻』金沢：金沢文圃閣、2011年-2012年。
- 成田龍一ほか執筆『感情・記憶・戦争』東京：岩波書店、2002年。
- 西村正男、星野幸代編『移動するメディアとプロパガンダ：日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術』東京：勉誠出版、2020年。
- 野村佳正『「大東亜共栄圏」の形成過程とその構造：陸軍の占領地軍政と軍事作戦の葛藤』東京：錦正社、2016年。
- 馬場毅 編『多角的視点から見た日中戦争 一政治・経済・軍事・文化・民族の相克』東京：集広舎、2015年。
- 原朗『創作か 盗作か 「大東亜共栄圏」論をめぐって』東京：同時代社、2020年。
- 広中一成『後期日中戦争 太平洋戦争下の中国戦線』東京：KADOKAWA、2021年。
- 広中一成『傀儡政権 日中戦争、対日協力政権史』東京：KADOKAWA、2019年。
- 広中一成『通州事件 日中戦争泥沼化への道』東京：星海社、2016年。
- 星野幸代『日中戦争下のモダンダンス：交錯するプロパガンダ』東京：汲古書院、2018年。
- 堀雅昭『戦争歌が映す近代』福岡：葦書房、2001年。
- 増田芳雄『大陸からの音：クラシック音楽の中継地・満洲』東京：近代文藝社、2014年。
- 松本和也『太平洋戦争開戦後の文学場：思想戦/社会性/大東亜共栄圏』神奈川：神奈川大学出版会、2020年。
- 松本和也『日中戦争開戦後の文学場—報告/芸術/戦場』神奈川：神奈川大学出版会、2018年。
- 和田春樹、後藤乾一他『岩波講座 東アジア近現代通史 第6巻アジア太平洋戦争と「大東亜共栄圏」1935-1945年』東京：岩波書店、2020年。

#### 4. 論文

- 晏妮『戦時下の日中映画交渉：その史的展開をめぐって』一橋大学博士論文、2007年。
- 岩野裕一「朝比奈隆にとっての上海、満州時代がもつ意味—その後の韓国、中国音楽界に間接的な貢献（追悼特集 朝比奈隆一人、そして芸術）」『音楽現代』、第32巻第3号（通号 371）、2002年、87～89頁。
- 王娟「自由学園北京生活学校の設立について」『鶴山論叢』、第10期、2010年、1～19頁。
- 王京「教会大学と日中戦争 —「北平私立輔仁大学案」（1925—1952年）から見た戦時下の学生収容—」『人類文化研究のための非文字資料の体系化』(03)、2006年、250～259頁。
- 大里浩秋「『日華学報』目次」『人文学研究所報』、第38巻、2005年、1～78頁。
- 小野美里「日中戦争期華北占領地における文教政策の展開：「事変」下占領地の「内面指導」」首都大学東京博士論文、2015年。
- 尾高暁子「両大戦間期の中日ハーモニカ界にみる大衆音楽の位置づけ」『東京藝術大学音楽学部紀要』、第33期、2007年、15～34頁。
- 葛西周「音楽プロパガンダにおける「差異」と「擬態」：戦時下日本の「満支」をめぐる欲望（移動するメディアとプロパガンダ：日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術）—（身体芸術プロパガンダ：横溢する美）」『アジア遊学』、第247期、2020年、113～132頁。

- 川上尚恵「日本占領下の北京における日本語教育:体験者へのインタビュー」『ことばの科学』、第18期、2005年、47～62頁。
- 河西秀哉「総力戦下における合唱:その論理の検討」『神戸女学院大学論集』59(1)、2012年、49～61頁。
- 菊地俊介「「認識・イメージ 日本占領下華北における在留邦人の対中国認識」『日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」②21世紀の日中関係:青年研究者の思索と対話 OUGCブックレット』、第38巻、2014年、271～293頁。
- 菊地俊介「日本占領下華北の在留邦人雑誌に見る「日華親善」の矛盾」『社会システム研究』、第38巻、2019年、79～100頁。
- 菊地俊介「日本占領下華北における華北善隣会と機関誌『建設戦』・『敦隣』(宇野木洋教授退職記念論集)」『立命館文學』、第667巻、2020年、1607～1620頁。
- 熊澤彩子「アレクサンドル・チェレプニンと日本:昭和初期の作曲における影響 / 熊澤彩子」『研究紀要』、第22巻、1～16頁。
- 黄漢青「新民印書館について」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第41巻、2009年、135～153頁。
- 越沢明「日本占領下の北京都市計画(1937～1945年)」『日本土木史研究発表会論文集』、5(0)、1985年、265～276頁。
- 小林元裕「日中戦争期華北の日本居留民—居留民組織・団体と徴兵検査を中心に—」『新潟国際情報大学国際学部紀要1』、創刊号、2016年、103～116頁。
- 芝崎 祐典「ラジオ、音楽、アメリカのドイツ占領」『中央大学通信教育部白門』、72(845)、2020年、60～65頁。
- 鄒双双「日本占領下の北京における文化人:銭稻孫と周作人を中心に」『近代世界の「言説」と「意象」:越境的文化交渉学の視点から』、2012年、321～348頁。
- 杉本史子「国立北京女子師範学院について:日本占領下北京における女子教育(宇野木洋教授退職記念論集)」『立命館文學』、第667巻、2020年、1635～1648頁。
- 高岡裕之、戸ノ下達也、塚原康子「シンポジウム1 十五年戦争期の日本の音楽文化と社会〔含 質疑応答〕(日本音楽学会第52回全国大会(札幌)総覧)」『音楽学』、47(3)、2001年、251～253頁。
- 高橋裕子「「満州国」における日本人の西洋音楽の足跡」『神奈川大学大学院言語と文化論集』 / 神奈川大学大学院外国語学研究科 編 第7巻、2000年、107～127頁。
- 東谷護 書評「芝崎裕典先生「敗戦国ドイツの音楽とアメリカ占領軍政府:ドイツ音楽の越境性・非ナチ化・冷戦」」『ミクスト・ミューズ:愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要 = Mixed muses』、第15巻、2020年、79～80頁。
- 戸塚麻子「創刊期『東亜新報』(一九三九)の文芸・文化記事について:日本占領下北京の日本語新聞」『常葉大学教育学部紀要』、第38巻、2017年、1～9頁。
- 戸ノ下達也「音楽による国民教化動員—演奏家協会・日本音楽文化協会の活動から」『立命館大学人文科学研究部紀要』、第73巻、1999年、81～104頁。
- 戸ノ下達也「電波に乗った歌声—『国民歌謡』から『国民合唱』へ(戦時下の宣伝と文化)」『年報・日本現代史』、第7巻、2001年、115～145頁。
- 戸ノ下達也「1920-1950 ニッポン 空白の洋楽史(4)戦時下音楽界一元統合—日本音楽文化協会をめぐって」『レコード芸術』、50(4)、2001年、323～325頁。
- 戸ノ下達也「量産された「国民歌」—アジア太平洋戦争期の楽曲募集(特集=文化装置とし

- てのメディア)』『メディア史研究』、第11巻、2001年、18～39頁。
- 戸ノ下達也「戦時期の音楽を概観する(特集 戦争と芸術)」『前夜』、第1期(5)、2005、78～81頁。
- 戸ノ下達也「規律・慰安・メディアとしての「音楽」--近代日本の歩みと音楽(特集 娯楽とメディア)」『メディア史研究』、26、2009年、45～62頁。
- 波多野澄雄「日本における日中戦争史研究について」『外交史料館報』、第31巻、2018年、37～60頁。
- 潘吉玲「「対支文化事業」をめぐる日中両国学者の連携:一中華学芸社の動きを中心に一」『アジア教育』、14(0)、2020年、21～32頁。
- 平尾佳子「教科書からみた満洲の唱歌教育:「外地」における新教育の理想と現実」、『阪大音楽学報』第16、17巻、2020年、85～143頁。
- 藤田高夫「日中文化交渉史研究の将来--日中学術交流史と比較中国学」『関西大学東西学術研究所紀要』、第38巻、2005年、1～9頁。
- 古舘嘉「日本占領下の北京を描く亀井文夫の『北京』」『千葉大学人文公共学研究論集』、第35巻、2017年、1～20頁。
- 松岡昌和「日本占領下シンガポールにおける文化政策」一橋大学博士論文、2016年。
- 松岡昌和「娯楽か日本化教育か?: 日本占領下シンガポールにおける音楽」『植民地教育史研究年報』、第17巻、2014年、98～123頁。
- 宮脇弘幸「日中戦争期日本軍占領区の文教政策: 華北・蒙疆・華中における日本語普及の展開」『人文社会科学論叢』、第30巻、2021年、33～59頁。
- 村上民「戦時下における自由学園の教育(2)戦時下「生活即教育」の諸相」『生活大学研究』、6(1)、2021年、91-117頁。
- 劉潤「旧満洲国のラジオ放送から見た流行歌の普及状況: 昭和10年代を中心に」『音楽研究: 大学院研究年報』、/ 国立音楽大学大学院 編 第27巻、2015年、9891頁。
- 劉麟玉「戦時体制下における台湾人作曲家江文也の音楽活動--1937年～1945年の作品を中心に」『お茶の水音楽論集』、第7巻、2005年、1～37頁。
- 鄭曉麗「1920～1930年代の中国における西洋音楽出版——柯政和と中華樂社を中心に——」東京芸術大学大学院修士論文、2017年度。

## 二、中国語文献

### 1. 新聞・雑誌

『新民報』(1938～1942)

### 2. 著書・単行本

北京市档案馆編『日偽北京新民会』北京: 光明日报出版社、1989年。

北京市地方志编纂委员会『北京志 文化艺术卷』北京: 北京出版社、2002年。

黄兴涛、陈鹏著『民国北京研究精粹』北京: 北京师范大学出版社、2016年。

經盛鴻等編著『日本侵華圖志 第23巻 扶植偽政權』濟南: 山東畫報出版社、2015年。

李少兵、齐小林、蔡蕾薇著『北京的洋市民』北京: 北京师范大学出版社、2016年。

孟維平『北京近代新音楽発展史研究』北京: 首都師範大学出版社、2012年。

日本防衛廳戰史室編：『華北治安戰（上）』天津：天津人民出版社、1982年。  
宋恩荣、余子侠编『日本侵华教育全史 第2卷 华北卷』北京：人民教育出版社、2016年。  
谢荫明、陈静著『北平抗战实录沦陷时期的北平社会』北京：北京出版社、2015年。

### 3. 論文

曹硕「20世纪40年代天津音乐社团及演出活动初探」天津音乐学院硕士论文、2014年。  
戴俊超「20世纪上半叶中国音乐社团概论」中国音乐学院博士论文、2010年。  
关心「民国音乐会与社会生活变迁：1912-1945—以学校音乐会活动为中心」南开大学博士论文、2014年。  
郭丽娜「北平育英学校歌咏队研究（1929-1952）」哈尔滨师范大学硕士论文、2016年。  
郭贵儒「日伪在华北沦陷区新闻统制述论」『河北师范大学学报(哲学社会科学版)』、第3期、2003年、112~119页。  
胡小丽「日本对伪满广播的统治性经营（1931-1945）」吉林大学硕士论文、2019年。  
計安邦「低音提琴之父 計大偉教授的音樂人生」『美育』第169期、93頁。  
刘楚楚「1942年“大东亚建设博览会”研究」华中师范大学硕士论文、2019年。  
刘小飞「抗战时期日本对天津的奴化教育」天津商业大学硕士论文、2020年。  
刘晓琳「老志诚生平简介及钢琴作品浅谈」『音乐时空』、第5期、2016年、49~50页。  
李聪「民国北平广播电台研究」宁夏大学硕士论文、2014年。  
李聪「北京的“声音”：1927-1937年北京广播电台与市民生活」『史学月刊』、2020年第9期、127页。  
李岩「20世纪20年代的西乐社、爱美乐社及柯政和」『音乐研究』第3期、2003年、34~43页。  
李岩「往事犹可追—忆13年前访老志诚先生往事」『人民音乐』、第2期、2013年、52~55页。  
李岩「旧中国的孟广乐社」『朔风起时弄乐潮 李岩音乐学术论文集』上海：上海音乐学院出版社、2004年、198~200页。  
李志成「近代北京第一座无线广播电台」『北京档案』2020年第9期、49页。  
李趁基「抗战时期沦陷区城市青年的生活状况—以两位沦陷区青年的日记为中心的考察」『北京党史』、第2期、2019年、19~26页。  
李趁基「抗战时期沦陷区城市青年的日常生活—以两位沦陷区青年的日记为中心」河南大学硕士论文、2019年。  
刘楚楚「1942年“大东亚建设博览会”研究」华中师范大学硕士论文、2019年。

- 孟维平、项梦璐「北京近代音乐会演出史研究」『中国音乐学』、第4期、2010年、60~65页。
- 孫芝君「日治時期台灣師範學校音樂教育之研究」國立台灣師範大學碩士論文、1997年。
- 孙邦华「日伪政权统治下北京师范大学的奴化教育论析」『北京社会科学』、第8期、2017年、39~50页。
- 王萌「日本在华北沦陷区的宣抚班及其“宣抚”工作」『日本侵华南京大屠杀研究』、第3期、2021年、第45~61页。
- 王建伟「断裂与传承:沦陷时期北平的文化生态」『安徽史学』、第4期、2018年、80~90页。
- 王申「沦陷时期旅平籍文化人的文化活动与身份表述——以张深切、张我军、洪炎秋、钟理和为考察中心」北京大学博士论文、2010年。
- 王达「东北沦陷时期的音乐现状及其发展研究」吉林大学硕士论文、2010年。
- 王岩「沦陷时期哈尔滨音乐文化研究(1932-1945)」哈尔滨师范大学博士论文、2010年。
- 王垠丹「抗战时期“新民会”管控下的北平音乐生活研究」中央音乐学院硕士论文、2013年。
- 邢泽林「华北沦陷区的新民会研究」北方民族大学硕士论文、2017年。
- 姚思源「老志诚先生和他的音乐创作」『人民音乐』、第2期、2002年、26~29页。
- 于志国「抗战时期日伪在河南沦陷区的思想控制研究」郑州大学硕士论文、2020年。
- 袁耀龙「中国教育音乐促进会——近代北京音乐史中不应被遗忘的重要音乐组织」『人民音乐』、第9期、2014年、第58~60页。
- 袁耀龙「近代北京六份老报纸中的新音乐史料研究」首都师范大学硕士论文、2014年。
- 袁耀龙「中华口琴会北平分会音乐活动考察」『人民音乐』、第10期、2018年、58~61页。
- 姚思源「老志诚先生和他的音乐创作」『人民音乐』、第2期、2002年、26~29页。
- 郑善庆「何以自处:北平留守知识分子的心态与境遇」『北京社会科学』、第4期、2016年、96~103页。
- 翟元凯「纪念“北师大”百年(一)」『中国音乐教育』、第2期、2011年、37~40页。
- 翟元凯「纪念“北师大”百年(二)」『中国音乐教育』、第3期、2011年、41~45页。
- 翟元凯「纪念“北师大”百年(三)」『中国音乐教育』、第4期、2011年、39~42页。
- 张琚怡「江文也北平时期(1938年~1949年)的钢琴音乐创作研究」西安音乐学院硕士论文、2019年。
- 张嫫骁「抗战时期华北沦陷区的基督教教育——以北平教会中小学为中心(1937~1945)」山东大学硕士论文、2016年。
- 郑利南「抗战时期平津地区慈善义演研究(1937~1945)」河南大学硕士论文、2017年。

张琺怡「江文也北平时期（1938年～1949年）的钢琴音乐创作研究」西安音乐学院硕士论文、2019年。

赵乐「从《游艺画刊》看1940年～1945年天津音乐生活」天津音乐学院硕士论文、2020年。

战薪羽「20世纪上半叶天津外籍人士音乐活动初探」天津音乐学院硕士论文、2013年。

## 図表一覧

### 【表】

- 表 0-1 : 資料調査の状況とその結果
- 表 2-1 : 1941 年の北京における日本人学校一覧
- 表 2-2 : 東亜文化協議会の開催情報一覧
- 表 2-3 : 北京近代科学図書館が開催した日本語基礎講座一覧
- 表 2-4 : 北平廣播電台沿革一覧
- 表 2-5 : 東京中継（東京轉播）による西洋音楽の放送内容一覧（中国語）
- 表 2-6 : 「音楽集団放送」2 日目と 3 日目のプログラム（中国語）
- 表 2-7 : 1942 年 3 月から 6 月に北京で行われた西洋音楽の演奏会
- 表 2-8 : 北京市音楽堂竣工記念音楽会一覧（中国語）
- 表 3-1 : 袴田克巳の執筆記事一覧
- 表 3-2 : 北支那派遣軍軍楽隊要員が携行楽器詳細一覧
- 表 3-3 : 北支那方面軍軍楽隊略歴
- 表 3-4 : 北京中央放送局のラジオ生放送における軍楽隊の出演一覧（中国語）
- 表 3-5 : 杉山部隊軍楽隊が出演したプログラム（中国語）
- 表 3-6 : 戦時下の北京に在住した日本人音楽家一覧
- 表 3-7 : 1942 年 5 月日第北京合唱音楽協会「第 1 回合唱演奏会」プログラム
- 表 4-1 : 「世界名曲定期放送」放送記録（中国語）

### 【図】

- 図 0-1 : 戦時期の音楽文化研究現状（概念図）
- 図 2-1 : 中華民国臨時政府成立式典、北京天安門
- 図 2-2 : 「新民會首都指導部成立大會記念撮影」
- 図 2-3 : 1937 年 2 月-11 月北京市総人口変化グラフ
- 図 2-4 : 「東亜文化協議会成立大会記念撮影 撮於北京懷仁堂」（写真は部分）
- 図 2-5 : 「東京女子高等師範学校視察の支那側委員」（左四：柯政和）
- 図 2-6 : 『中華樂社出版音楽書目録』（1935）
- 図 2-7 : 『新民音楽書局目録』（1938）
- 図 2-8（左） : 『初中模範唱歌教科書（第二冊）』表紙
- 図 2-9（右） : 『初中模範唱歌教科書（第二冊）』奥付
- 図 2-10（左） : 『初級小學模範音楽教科書（第三冊）』（新民音楽書局、1941 年 6 月）
- 図 2-11（右） : 『初級小學模範音楽教科書伴奏譜（第二冊）』（中華樂社、1935 年 12 月）
- 図 2-12 : 唱歌の時間、1938 年 9 月
- 図 2-13 : 北京近代科学図書館正門、1938 年 4 月
- 図 2-14 : 日本語講習所・通学生
- 図 2-15 : 北京近代科学図書館第一期音楽講座、1939 年 7 月
- 図 2-16（左） : 「新民民謡」授賞式兼演奏会に関する音楽報道
- 図 2-17 : 「新民民謡」授賞式兼演奏会の撮影写真
- 図 2-18（左） : 《興亜進行曲》唱歌コンクール予選

- 図 2-19 (右) : 《興亜進行曲》唱歌コンクール本選
- 図 2-20 : 「大東亜総進軍之歌」公募広告
- 図 2-21 : 大東亜総進軍之歌発表大会のプログラム
- 図 2-22 : 大東亜総進軍之歌発表大会、演奏の風景 (中 : 岡田軍楽隊)
- 図 2-23 (左) : 《大東亜総進軍之歌》歌唱コンクール予選
- 図 2-24 (右) : 《大東亜総進軍之歌》歌唱コンクール本選
- 図 2-25 : 保衛東亜之歌之夕、演奏会
- 図 2-26 : 1942 年 2 月 27 日北京音楽文化協会創立記念演奏会プログラム
- 図 2-27 : 「慶祝満洲建国十周年記念」哈爾濱交響楽団、李香蘭提携音楽大会
- 図 2-28 : 1942 年 11 月 9 日、音楽堂竣工記念音楽会
- 図 2-29 (左) : 1942 年 11 月 10 日、学童音楽大会
- 図 2-30 (右) : 1942 年 11 月 13 日、音楽大会
- 図 3-1 : 楽器増加要請の明細
- 図 3-2 : 1942 年 2 月 20 日、日本軍楽隊演奏遊行
- 図 3-3 : レコードに吹き込む当日の写真 (左は生徒、右は岡田隊長と軍楽隊隊員)
- 図 3-4、3-5 : 「第 1 回合唱演奏会」パンフレット表紙、裏表紙
- 図 3-6 (左) : 松竹少女歌劇団北京公演の写真
- 図 3-7 (右) : 佐藤秀廊ハーモニカ演奏会の写真
- 図 3-8 : 山田耕筰の来京の新聞報道
- 図 3-9 : 満蒙毛織株式会社が開催した演奏会 (山田耕筰がピアノ伴奏を務めた)
- 図 4-1 : 世界名曲定期放送第七回による江文也の紹介文
- 図 4-2 : 『新民報』1938 年 8 月 27 日の報道
- 図 4-3 : 「音楽舞踊大会」ポスター

#### 【楽譜】

- 楽譜 2-1 : 《新民之歌》作詞李薦賢 作曲江文也
- 楽譜 2-2 (右) : 《新民民謡》楽譜、作詞王国章、作曲坂田信夫
- 楽譜 2-3 : 《大東亜総進軍之歌》楽譜、作詞杜宇、作曲江文也
- 楽譜 2-4 : 《保衛東亜之歌》 (一部)

## 付録

### 目次

1. 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938. 1. 1-1940. 10. 30）
2. 『新民報』における音楽記事一覧（1938. 1. 1-1942. 12. 31）
3. 『新民報』に掲載された「新民歌曲」楽譜一覧

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	1月1日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	中央廣播電台節目開幕典禮實況，由懷仁堂轉播。
1938	1月3日	一	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月4日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月5日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月6日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月7日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月8日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	2:00 レコード（洋楽）ダンスミュージック「ツルハラ」外、下午5:00 子供の時間：童謡山口児童樂團、伴奏：東京放送管弦樂團、指揮：山口保治
1938	1月9日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	レコード（洋楽）、ダンスミュージック「アツ點ロン」外
1938	1月10日	一	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	レコード（洋楽）、ダンスミュージック「ブルーバクィ」等、レコード（洋楽）、「思い出の軍歌集」外、子供の時間（童話 久留島武彦）
1938	1月11日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	レコード（洋楽）、ダンスミュージック「月の思出」、レコード（洋楽）軍歌集「月下の進軍」等
1938	1月12日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月13日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月14日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月15日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月16日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	唱片、レコード（洋楽）
1938	1月17日	一	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月18日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	1月19日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月20日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月21日	五	4	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月22日	六	2	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月23日	日	2	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	唱片A 交響樂第五種 新世界的音響, B西班牙舞曲 提琴獨奏 賈克提波, C即興幻想曲 鋼琴獨奏 琴羅包爾
1938	1月24日	一	2	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月25日	二	2	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	1月26日	三	2	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	7月1日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	7月2日	六	7	明晚中央電台口琴轉播	音樂新聞	西洋音樂	中	口琴音樂轉播預告
1938	7月2日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	口琴音樂
1938	7月3日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	
1938	7月4日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時吹奏樂——寺內部隊軍樂隊（指揮陸軍軍樂大尉岡田國一）曲目：1.行進曲《忠誠》、2.《弔殉國勇士之歌》（土井晚翠作詞，陸軍軍樂隊作曲）、3.圓舞曲《曠野》（陸軍軍樂隊作曲）、4.意想曲《攻擊》（山本銃三郎作曲）。
1938	7月5日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	東京轉播西樂
1938	7月6日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	
1938	7月7日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	
1938	7月9日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	鋼琴獨奏（東京轉播）
1938	7月10日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	日本寶利唱片公司北京國樂音樂團出演爵士樂。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	7月11日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時大提琴獨奏（東京轉播）5首曲目、二十一時獨唱及鋼琴獨奏第一部5首曲目、第二部4首曲目。
1938	7月12日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時大提琴獨奏（東京轉播）
1938	7月13日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	7月14日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時小提琴及管弦樂（東京轉播）：安藤幸子-小提琴、維克爾，弦樂合奏（齊藤秀雄）1. 小提琴二重協奏曲D短調（巴哈作曲）、2. 弦樂夜曲G長調（牟查德作曲）
1938	7月15日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	二十時吹奏樂-定期演奏第十四回（北京警察局樂隊演奏）
1938	7月16日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	
1938	7月17日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	
1938	7月18日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時吹奏樂（寺內部隊軍樂隊、指揮岡田國一）。曲目：1. 行進曲《太湖船》（哀開魯托作曲）、2. 圓舞曲《多納烏河之夜》（伊巴那微期作曲）、3. 《軍艦行進曲》（松島慶三作詞，陸軍軍樂隊作曲）4. 描寫曲《森林中水車》（愛蓮波爾希作曲）、5. 描寫曲《斯哇尼河》（密度爾敦作曲）
1938	7月19日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	
1938	7月20日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時小提琴獨奏（田中富貴子）
1938	7月21日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時管弦樂（由東京轉播）、日本放送交響樂團、指揮篠原正雄
1938	7月22日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	二十時絲竹合奏（定期演奏第十五回）北京警察局樂隊演奏
1938	7月23日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	7月24日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	十二時星期特別演藝（唱片及解說）、十四時十五分爵士樂（日本寶利唱片公司北京國樂音樂團）、二十時吹奏樂（寺內部隊軍樂隊、指揮岡田國一）：1.序曲《義大利人》（蒲賽尼作曲）、2.箏曲《千鳥》（陸軍軍樂隊編曲）、3.《第五交響曲》終章（貝多芬作曲）。
1938	7月25日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時吹奏樂（寺內部隊軍樂隊），曲目無刊載
1938	7月26日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	7月27日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	二十時吹奏樂（由東京轉播）
1938	7月28日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	7月29日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	二十時吹奏樂（北京警察局樂隊定期演奏）
1938	7月30日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	7月31日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月4日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	中央廣播電台節目放送科文藝係主編，鋼琴演奏：黒川伊沙子
1938	8月5日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	二十時 絲竹合奏（定期演奏）北京警察局樂隊
1938	8月7日	日	7	音樂舞蹈 夏季講習會 北京中央電台主辦 自本月十三日講習十天	音樂新聞	日本音樂	中日	時間：八月十三日至二十三日，每日上午八時至正午。會場：中央廣播電台。會費：無。講習科目：另有規定，講師：音樂袴田克巳氏，發聲練習袴田育子女士，島打戰雄氏（日本名曲集及其他）。跳舞，景雷正夫氏，內包括體動運動法，西洋舞蹈，近代舞蹈基礎，舞蹈創作法，及其他等等
1938	8月7日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	（唱片及講說）管弦樂、交響曲-第七號（貝多芬作曲）等

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	8月7日	日	8	今日星期-特別演藝 第七交響樂 貝多芬作曲 十二時開始	音樂新聞	西洋音樂	中西	對貝多芬及第七交響樂的解說
1938	8月11日	四	7	中央電台發起音樂舞蹈 夏季講習會	音樂新聞	日本音樂	中日	
1938	8月11日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月12日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月13日	六	2	中央電台舉辦音樂舞蹈 夏季講習會 明天上午開始講習 歡迎中日教員參加	音樂新聞	日本音樂	中日	
1938	8月14日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	(星期日特別演藝) 唱片 (十二時) 東京轉播
1938	8月15日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月16日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月17日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月18日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	歌曲集手風琴獨奏 (今日二十時), 本台今日特約日本寶利唱片公司專屬藝術團之【歌曲集手風琴】由寶利唱片公司樂團伴奏。
1938	8月19日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	定期演奏: 絲竹合奏 (二十時), 北京警察局樂隊
1938	8月20日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	曼德林五重奏 (二十時、東京轉播)
1938	8月21日	日	8	今日聖詩聖歌節目、星期日特別演藝 (十二時) 東正教總會介紹	音樂新聞	西洋音樂	中日西	十二時、聖詩聖歌。二十時、管弦樂 (東京轉播): 松竹管弦樂團, 指揮: 紙恭輔編曲。
1938	8月22日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	8月23日	二	8	本台主催之 音楽舞蹈會 將放送所練習之歌曲	音楽新聞	日本音楽	中日	本台應時代之要求，及為文化發達起見，自八月十三日經本台之主催，在電台內音樂練習室，舉行舞蹈講習會
1938	8月24日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	本台音樂舞蹈講習會會員演唱齊唱及獨唱 二十時放送
1938	8月25日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月26日	五	8	本市警察局樂隊 成立歷史介紹 今日放送樂曲 吹奏樂三曲	音楽新聞	西洋音楽	中	
1938	8月27日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月28日	日	8	今星期日特別演藝 三法喇樂團 之創設及放送曲目介紹	音楽新聞	西洋音楽	中西	三法喇樂團
1938	8月29日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	8月30日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	合唱（二十時）東京轉播
1938	8月31日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中日	
1938	9月1日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	新增音樂常識（十五時）
1938	9月2日	五	8	警察局樂隊絲竹合奏今晚放送 中央電台廣播節目	音楽新聞	傳統音樂	中	本市警察局樂隊於前清光緒三十二年成立，以西樂為主，兼習古樂。本台為提倡藝術起見每逢星期五日演播該隊中西音樂。今日二十時開始放送該局樂隊中西音樂。今日二十時開始放送該局樂隊，節目為絲竹合奏。屆時請各聽戶收聽可也。
1938	9月3日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	獨唱（由東京轉播）（二十時）無根草外、獨唱-藤原義江、鋼琴伴奏-多部三郎
1938	9月4日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	管弦樂三法喇叭樂團，指揮：庫布將克
1938	9月5日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	9月6日	二	8	本台世界名歌定期演奏節目	音楽新聞	西洋音楽	中	①本台特訂世界名家歌曲定期演奏節目，由名音樂家江文也先生主持，前已屆第六次放送。嗣因江文也先生有東京之行，遂暫緩放送。該江文也先生已返抵北京，本台特訂前項定期演奏第七次放送於明日二十時開始，由袴田克己先生擔任鋼琴伴奏，已訂放送世界名曲三隻，明日本刊當有詳要介紹，望聽戶注意收聽也。 ②室內樂（二十時）由東京轉播，鈴木四重奏團（小提琴（鈴木鎮、鈴木喜文夫）、中提琴（鈴木秋喜）、大提琴（鈴木二三夫））
1938	9月7日	三	8	世界名曲定期放送 第七次曲目及江文也先生介紹	音楽新聞	西洋音楽	中日	江文也、袴田克己伴奏
1938	9月8日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音楽	中	
1938	9月9日	五	8	北京警察局樂隊 放送吹奏樂 二十時起共奏三曲	音楽新聞	西洋音楽	中	定期演奏
1938	9月10日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音楽	中	
1938	9月11日	日	8	今日八時三十分自北京飯店中繼 交響樂與舞蹈之夕 演奏世界名曲及名舞 牟禮女士及三法喇團	音楽新聞	西洋音楽	中西	第一部、牟禮演唱歌劇【杜斯加】。第二部、三法喇合唱團之合唱。1.輝煌燦爛的日出、2.伏爾加船夫曲、3.順伏爾加河流而下。三曲皆為俄國時代一般人民皆喜歡的通俗歌曲。
1938	9月12日	一	8	一週年紀念特別放送 滿華交換放送	音楽新聞	西洋音楽	中日	1.19時30分演講（滿華親善）、2.新歌曲獨唱（大連轉播）：李香蘭、3.京劇（大連轉播）：汾河灣、4.20時35分管弦樂（大連轉播）：哈爾濱交響管弦樂團，貝多芬第一交響曲第一、第二樂章。
1938	9月13日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音楽	中	
1938	9月14日	三	8	世界名歌曲定期放送第八回	音楽新聞	綜合	中	今日二十時 江文也先生獨唱 老志誠伴奏。曲目及介紹。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	9月15日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	9月16日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	9月18日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	9月20日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	鋼琴獨奏（二十時）（東京轉播）鋼琴：禮阿尼-克來查
1938	9月21日	三	8	世界名歌曲定期放送第九回	音樂新聞	綜合	中	江文也獨唱四曲
1938	9月22日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	轉播東京室內樂。本台音樂除約請本市音樂家獨奏或團體合奏外，並轉播日本東京廣播電台有名音樂。今晚二十時轉播東興【室內樂】由本橋皓【小提琴】、阿部幸明【大提琴】，伊藤完夫【風琴】演出。
1938	9月23日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時）北京警察局樂隊定期演奏
1938	9月24日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	9月25日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	9月26日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	9月27日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	合唱（二十時）北京放送合唱團 團體
1938	9月28日	三	8	江文也氏今晚 獨唱本台徵選 兒歌	音樂新聞	綜合	中	江文也獨唱本台征選兒歌、老志誠伴奏
1938	9月29日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	9月30日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月1日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月2日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	今日（星期日）特別演藝 禪門音樂 錦堂樂
1938	10月3日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月4日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月5日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	10月6日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	鋼琴獨奏（二十時-由東京轉播），1.李斯特作品集-禮阿尼克來查奏一練習曲，惡？之圓舞曲，愛之夢，匈牙利狂想曲。
1938	10月7日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時）、北京警察局樂隊定期演奏
1938	10月8日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	獨唱（二十時）江文也唱世界著名皓月歌曲選
1938	10月8日	六	8	獨唱 江文也老志誠	音樂新聞	西洋音樂	中	江文也演唱，老志誠伴奏。曲兒聽得差不多了，給您換換胃口，請江文也先生來放送獨唱。這個節目，是世界著名皓月歌曲選，都選的關於這顆皓月的歌曲。曲目：1.美麗屯加湖畔之月--美國語，2.秋之月--日本語，3.月夜--德國語，4.西江月--中國名歌
1938	10月10日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月11日	二	3	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	獨唱（李香蘭）
1938	10月12日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	獨唱（二十時）江文也唱【世界名歌曲】、4.北京警察局樂隊演奏【黃族青年歌，卿雲國歌】
1938	10月12日	三	8	江文也先生獨唱 世界名歌定期放送 第十回	音樂新聞	西洋音樂	中	江文也
1938	10月13日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	口琴欣賞講話（二十時）：佐藤秀郎講【論現在之口琴】
1938	10月14日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	絲竹合奏（二十時二十分）北京警察局樂隊定期演奏
1938	10月15日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月16日	日	8	今日星期日特別演藝 三法喇樂團	音樂新聞	西洋音樂	中西	今日星期日特別演藝：三法喇樂團。
1938	10月17日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月18日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	10月19日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	獨唱（二十時）江文也
1938	10月19日	三	8	江文也先生獨唱 世界名歌曲定期放送 第十一回	音樂新聞	西洋音樂	中	世界名歌曲定期放送第十一回，今晚二十時開始放送。曲目：1.君休無情，義大利古歌、2.藿達，西班牙民謠、3.我們的牧場，日本民謠、4.你是我的安息，舒伯特、5.傷春，中國名歌-江文也編曲。
1938	10月20日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	小提琴獨奏（二十時）東京轉播，嚴本美？獨奏阿部和子伴奏【奏鳴曲】、羅曼史【諧謔曲】。
1938	10月21日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時）北京警察局樂隊定期演奏
1938	10月22日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月23日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	星期天特別演藝（十二時）：西番音樂
1938	10月24日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月25日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月26日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	10月27日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	女高音獨唱（二十時），牟禮女士獨唱、希林鋼琴伴奏
1938	10月28日	五	8	中央廣播電台節目 今日特訂慶祝節目	音樂新聞	綜合	中日	漢口陷落，特訂慶祝節目。絲竹樂、墜子、話劇、古琴
1938	10月29日	六	8	中央廣播電台節目 今日特訂慶祝節目	音樂新聞	綜合	中日	漢口陷落，特訂慶祝節目。新民合唱、室內樂、播音劇、二胡獨奏
1938	10月30日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	管弦樂曲目（國樂唱片公司）：1.愛國行進曲（日本軍歌）、2.軍隊進行曲（舒伯特）、3.歌劇【愛達】的進行曲（卡？作）、4.彈兵進行曲（謝繆克爾作曲）
1938	10月31日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月2日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	11月3日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月4日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月5日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月6日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	星期日特別演藝（十二時）管弦樂唱片-交響歌
1938	11月7日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	管弦樂（二十時）寺內部隊軍樂隊奏交響樂【軍隊】，
1938	11月8日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月9日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	中國音樂唱片（二十時）廣東音樂社奏樂
1938	11月10日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	獨奏及獨唱（二十時）由東京轉播。加藤琉璃子鋼琴獨奏《變奏曲》G長調、牟查德作曲、2.遠藤磨裡子小提琴獨奏《協奏曲》G長調、孟德爾作曲、由武澤鋼琴伴奏、3.山本篤子獨唱，由松本寬子鋼琴伴奏：1) 南國風光、多馬作曲、2) 國民歌謠《母親之歌》板星節子作詞，橋本國彥作曲、3) 小林和子鋼琴獨奏《詩曲》作品四七、蕭邦作曲。
1938	11月11日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時）北京警察局樂隊定期演奏
1938	11月12日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月13日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	日中滿親善交換放送（十八時）特別兒童時間
1938	10月30日	日	8	中央廣播電台節目 今日特訂慶祝節目	音樂新聞	綜合	中日	漢口陷落，特訂慶祝節目。管弦樂、播音劇、對口相聲、琵琶演奏
1938	10月31日	一	8	中央廣播電台節目 今日特訂慶祝節目	音樂新聞	綜合	中	漢口陷落，特訂慶祝節目。慶祝戲。
1938	11月14日	一	7	日滿華 兒童精神交歡 昨晚由三國兒童代表 第一次交換親善廣播	音樂新聞	宣傳音樂	中日	
1938	11月14日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	11月15日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月16日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月17日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月18日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	小提琴獨奏（二十時）東京轉播，小提琴獨奏（東京轉播）鳩山寬演奏：1.巴基達、2.美奴愛特、3.緩廣調、4.小夜曲、5.小圓舞曲、6.加福特。
1938	11月19日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月20日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	口琴演奏 王志強，曲目：1.漁光曲、2.燕雙雙、3.夜來香、4.白雪公主、5.小鳥依人、6.何日君再來、7.柏路斯基小步舞曲
1938	11月21日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月23日	三	8	中央廣播電台節目 世界名曲定期放送	音樂新聞	綜合	中	獨唱（二十時）世界名歌曲定期放送，江文也獨唱，老志誠伴奏。樂曲：1.蘇格蘭的吊鐘草（蘇格蘭民謠）、2.白鳥（古裡克作曲）、3.牧歌（西門轟低作曲）、4.南薰歌（中國古歌）江文也作曲
1938	11月24日	四	8	中央廣播電台節目 今日「合唱」由東京轉播 俄國大合唱團 演奏九曲	音樂新聞	綜合	中日西	合唱（二十時）東京轉播，合唱由東京轉播：俄國大合唱團演奏九曲，指揮夏拉寶：1.皇帝萬歲（歌劇雪姬選曲，林斯基果沙果夫作曲）2.民謠（行駛伏爾加河中）、3.綠色的牧場、4.黃昏、5.結婚式之歌、6.坡卡、7.柳絮、8.盛？無窮、9.綠色之森林。
1938	11月25日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時），北京警察局樂隊定期演奏
1938	11月26日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	11月27日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	星期日特別演藝（十二時）西番音樂

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	11月28日	一	8	中央廣播電台節目詳細介紹 王志強先生 口琴獨奏	音樂新聞	綜合	中	王志強先生 口琴獨奏：1.新鳳陽歌、2.漢宮秋月、3.新鳳求凰、4.牧童短笛、5.彈性女兒、6.諾波利之歌、7.燦爛舞
1938	11月29日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	管弦樂（二十時）東京轉播，大阪放送交響樂團奏第二交響詩【喜歡與勝利】，第三交響曲【布拉姆斯作曲】。
1938	11月30日	三	8	中央廣播電台節目世界名歌曲 定期放送 第十三回	音樂新聞	綜合	中	獨唱（二十時），江文也先生 世界名歌曲 定期放送 第十三回，老志誠伴奏：1.君勿難我（意國語）斯加拉底作曲、2.打毬球（日本民謠）、3.萬觸優思唯我自知（德語）、4.鋤頭歌（中國名歌）江文也編曲
1938	12月1日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月2日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	北京市警察局定期演奏，絲竹樂。
1938	12月3日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月4日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	東京轉播：管弦樂唱片，交響曲第五號
1938	12月5日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月6日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月7日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月8日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片：柏林國立歌劇管弦樂團演奏管弦樂
1938	12月9日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	北京市警察局定期演奏，絲竹樂。
1938	12月10日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	管弦樂及二重唱（二十時）東京轉播，日本放送樂團奏管弦樂
1938	12月11日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	星期天特別演藝（十二時）：西樂唱片（倫敦交響管弦樂團演奏）
1938	12月12日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片：柏林國立歌劇管弦樂團演奏管弦樂
1938	12月13日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	吹奏樂（二十時）東京轉播，陸軍戶山學校軍樂隊奏樂

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	12月14日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月16日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	北京市警察局定期演奏，絲竹樂。
1938	12月17日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月18日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	星期日特別演藝（十一時三十分），西樂唱片：爵士樂。
1938	12月19日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片：柏林國立歌劇管弦樂團演奏管弦樂
1938	12月20日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月21日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	江文也世界名曲放送，第十五回。
1938	12月22日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月23日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月24日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月25日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月26日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月27日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月28日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月29日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1938	12月30日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	紀念本台成立週年。音樂集團放送，延聘中西樂名家，各顯身手大演奏
1939	1月4日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	世界名曲定期放送第十六回，江文也獨唱歌曲，老志誠鋼琴伴奏。
1939	1月5日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時十五分），電影音樂
1939	1月6日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時十五分），流行歌
1939	1月7日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	北京警察局樂隊定期演奏吹奏樂
1939	1月8日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	曼德林合奏（二十時）東京轉播，橫濱曼德林俱樂部演奏

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	1月9日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	管弦樂（二十時）東京轉播，大阪放送交響樂團演奏管弦樂
1939	1月10日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	鋼琴獨奏（二十時）東京轉播，水園登史子。獨唱（二十一時）李夢梅女士，名歌五首，國樂唱片公司管弦樂團伴奏。
1939	1月11日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	世界名歌曲定期放送第十七回，江文也獨唱，老志誠鋼琴伴奏
1939	1月12日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	西樂唱片（十一時十五分），爵士樂。小提琴獨奏（二十時）東京轉播，大岡運英演奏
1939	1月13日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	歌曲唱片（十一時十五分），流行歌。管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響樂團演奏。
1939	1月14日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	警察局樂隊定期演奏絲竹合奏
1939	1月15日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	星期日特別演藝（十一時三十分），西樂唱片。
1939	1月16日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	1月17日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	鋼琴獨奏（二十時）東京轉播，安尼維多留斯。
1939	1月18日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	江文也先生獨唱修伯特作曲 老志誠伴奏 世界名曲定期放送第十八回
1939	1月19日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分）
1939	1月20日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	1月21日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時）北京警察局樂隊定期演奏，吹奏樂。
1939	1月22日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	今日星期日特別演藝（十二時）歌詠隊合唱，（十八時三十分）王志強口琴獨奏。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	1月23日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	吹奏樂（二十時）東京轉播？，杉山部隊軍樂隊演奏。曲目：1.行進曲-聯隊旗之下（高木東六作曲）、2.描寫音樂-北京之街（森屋五郎作曲）、3.舞曲-蕾達（法利亞作曲）、4.合唱-大陸行進曲（中支派遣軍軍樂隊作曲）、愛國行進曲（瀨戶口藤吉作曲）
1939	1月24日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	1月25日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	獨唱（二十時）東京特播，鐵能子獨唱八曲。
1939	1月26日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	西樂唱片（十一時五十分）電影歌曲。獨唱及合唱（二十時）北京師範學院合唱團，江文也獨唱老志誠伴奏。
1939	1月27日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響樂團演奏。
1939	1月28日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	絲竹樂（二十時）北京警察局樂隊定期演奏絲竹樂
1939	1月29日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十二時）管弦樂《悲愴交響曲》。星期日特別演藝，播放各種雜曲。
1939	1月30日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	1月31日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	2月1日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	獨唱（二十時）世界名歌曲定期放送（第十九回），江文也先生獨唱老志誠先生鋼琴伴奏。
1939	2月2日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分）爵士樂
1939	2月3日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	2月4日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時）北京警察局樂隊定期演奏，吹奏樂。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	2月6日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	小管弦樂（二十時）東京轉播，杉山部隊軍樂隊演奏。陸軍少尉森屋五郎指揮。1.小品二曲-春之歌（孟德爾鬆作曲）、寄託薔薇花（馬杜衛作曲）3.克拉裡涅特獨奏，浪漫斯與波羅乃斯（庫拉貝作曲）4.歌劇-加哇刺利亞，路斯低加那（馬斯加尼作曲）、5.軍歌-一萬萬的合唱（東辰三作曲）、大陸軍之歌（日本陸軍省選詞、山田耕筰作曲）。
1939	2月7日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	2月8日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	獨唱（二十時）江文也獨唱老志誠伴奏，世界名歌定期放送（第二十回）
1939	2月9日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	小提琴獨奏（二十時）東京轉播，奏鳴曲第八番G長調
1939	2月10日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	2月11日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	「今日日本紀元節特別節目」（十一時三十分）口琴獨奏及二重奏，王志強王景輝演奏。絲竹合奏（二十時）北京警察局樂隊定期演奏
1939	2月12日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	星期日特別演藝，西番音樂
1939	2月13日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	2月14日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲
1939	2月15日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	獨唱（二十時）江文也唱修伯特於海涅之夕。世界名歌定期放送（第二十一回）。
1939	2月16日	四	8	中央廣播電台節目 陰曆除夕 擴大娛樂放送	節目單	綜合	中西	陰曆除夕，擴大娛樂放送。西樂唱片（十一時五十分）
1939	2月17日	五	8	中央廣播電台節目 慶祝春節	節目單	綜合	中日西	獨奏（二十時）東京轉播，夫呂特獨奏協奏曲。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	2月18日	六	8	中央廣播電台節目 春節擴大放送 娛樂節目	節目單	綜合	中日西	四日特別放送。第二日包括爵士樂，國樂唱片爵士樂團，青穀德二指揮演奏西樂若干首。第三日包括希林三重奏樂團演奏三重奏樂曲若干。李夢梅獨唱，青穀德二鋼琴伴奏。第四日包括王志強口琴獨奏，國樂唱片五重奏樂團放送五重奏。及其他傳統音樂等。
1939	2月22日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分）文理學院音樂系演奏。獨唱（二十時）江文也獨唱，老志誠伴奏，世界名歌去定期放送（第二十二回）春宵一刻值千金 及其他名曲三雙
1939	2月23日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	西樂唱片（十一時五十分）。
1939	2月24日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	2月25日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。吹奏樂（二十時）北京市警察局樂隊定期演奏吹奏樂。
1939	2月26日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），利沙龍管弦樂團演奏樂曲若干。星期日特別演藝，中國音樂唱片播放共四種，其中包括上海工部局管弦樂團錄音。
1939	2月27日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	2月28日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	西樂唱片（十一時五十分），匈牙利舞曲，圓舞曲。室內樂（二十時）東京轉播，弦樂四重奏曲
1939	3月1日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	世界名歌曲定期放送第二十三回 江文也獨唱，普勞魯夫斯基鋼琴伴奏，貝多芬重要四曲
1939	3月2日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	3月3日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	3月4日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	3月6日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），西班牙舞曲。爵士樂（二十時）國樂唱片公司爵士樂樂團演奏
1939	3月7日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲
1939	3月8日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	獨唱（二十時），江文也獨唱老志誠鋼琴伴奏，世界名歌曲定期放送（第二十四回）唐詩三首春眠不覺曉
1939	3月9日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響管線樂團演奏。
1939	3月10日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	3月11日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	3月12日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	口琴獨奏（十一時三十分），王志強，王景輝演奏口琴。音樂節目（十二時）西樂唱片，天體之音樂等。
1939	3月13日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。交響曲（二十時）杉山部隊軍樂隊演奏《未完成交響曲》，岡田國一指揮。
1939	3月14日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	3月15日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	獨唱（二十時），江文也獨唱希林伴奏。世界名歌曲定期放送第二十五回
1939	3月16日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	3月17日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	3月18日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	絲竹合奏（二十時）北京警察局樂隊，絲竹合奏

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	3月19日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	今日星期日特別節目演奏禪門音樂。三重奏（十一時三十分）青穀三重奏團（鋼琴：青穀德二，小提琴：巴布魯夫斯基，大提琴：李德納）演播三重奏
1939	3月20日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	西樂唱片（十一時五十分），管弦樂（二十時）杉山部隊軍樂隊演奏管弦樂，岡田國一指揮。1.描寫曲-林間的鐵鋪（米蓋爾作曲）、3.小夜曲-杜裡哥的小夜曲（杜裡哥作曲）、4.歌劇-【馬太】序曲（夫羅多作曲）、5.圓舞曲-空色（卡聶作曲）
1939	3月21日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	3月22日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	獨唱（二十時）江文也獨唱老志誠鋼琴伴奏，世界名歌曲定期放送第二十六回
1939	3月23日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	3月24日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	3月25日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時），北京警察局樂隊演奏北京市歌。
1939	3月26日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），管弦樂《交響的變奏曲》，獨唱《聖母讚歌》。
1939	3月27日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	西樂唱片（十一時五十分），管弦樂（二十時）杉山部隊軍樂隊演奏管弦樂，岡田國一指揮。1.序曲-詩人與農夫（組伯作曲）、2.木琴獨奏-憶昔（戴德里希作曲）、3.組曲-印度舞曲二題（斯基爾敦作曲）
1939	3月28日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲
1939	3月29日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	合唱及獨唱（二十時），國立北京師範學院合唱團，江文也先生獨唱及指揮，普勞魯夫斯基鋼琴伴奏

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	3月30日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	3月31日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。東亞進行曲發表之夕（二十時）絨線胡同小學兒童《齊唱》，北京警察局樂隊絲竹合奏、吹奏樂、王悌之李震在獨唱。
1939	4月1日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	4月2日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	4月3日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	4月4日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	4月4日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	4月5日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	獨唱（二十時），江文也獨唱老志誠鋼琴伴奏，世界名歌曲定期放送（第二十七回），克西爾克斯 歌劇選曲及唐詩三首
1939	4月6日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	三重奏（十二時），北京國樂唱片公司三重奏及獨唱，青穀德二【鋼琴】及【獨唱】，巴布魯夫斯基【小提琴】，李德納【大提琴】。
1939	4月7日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），絲竹合奏（二十時），北京警察局樂隊
1939	4月8日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	歌曲唱片（十一時五十分），小提琴獨奏（二十時）東京轉播
1939	4月9日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	口琴獨奏（十一時三十分），王志強口琴獨奏。
1939	4月10日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	4月11日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	4月12日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。獨唱（二十時），江文也獨唱，希林鋼琴伴奏。世界名歌曲定期放送（第二十八回），孟德遜作曲及其他名曲三首
1939	4月13日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	4月14日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	4月15日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時），北京警察局樂隊定期演奏吹奏樂
1939	4月16日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），管弦樂
1939	4月17日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	4月18日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	4月19日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	獨唱（二十時），江文也獨唱，老志誠伴奏。世界名歌曲定期放送（第二十九回）
1939	4月20日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	4月21日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	4月22日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	絲竹合奏（二十時），北京警察局樂隊演播絲竹合奏
1939	4月23日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	4月24日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	4月25日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	4月26日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	獨唱及合唱（二十時），國立北京師範學院合唱團合唱江文也獨唱及指揮，普勞魯夫斯基鋼琴伴奏，蘇格蘭的鐘兒花
1939	4月27日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	4月28日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	4月29日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	日本天長節特別節目，慶祝唱片（八時）日本國歌，卿雲歌，東亞進行歌。西樂唱片（十二時）倫敦愛音樂管弦樂團演奏。防共音樂之夕（二十時），吹奏樂，天津俄國防共音樂不遠演奏。
1939	4月30日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），管弦樂。
1939	5月1日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	5月2日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	5月3日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。混聲合唱與獨唱（二十時），北京YMCA混聲合唱團合唱江文也獨唱，普拉魯夫斯基鋼琴伴奏
1939	5月4日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分），爵士樂。
1939	5月5日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1939	5月6日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	吹奏樂（二十時），北京警察局樂隊吹奏樂
1939	5月7日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	星期日特別放送廣東音樂。爵士樂（十八時三十分），國樂唱片管弦樂團演奏。
1939	5月8日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（十一時五十分）女高音獨唱，管弦樂（二十時）東京轉播，日本放送交響樂團演奏《交響曲》
1939	5月9日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	輕音樂（二十時），國樂唱片管弦樂隊演奏。
1939	5月10日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	獨唱（二十時），江文也獨唱，普拉魯夫斯基鋼琴伴奏，唐詩三首。
1939	5月11日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。
1939	5月12日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	5月13日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。絲竹合奏（二十時）北京警察局樂隊定期演奏。
1939	5月14日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	5月15日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	西樂唱片（九時三十分），歌劇唱段。東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。二重唱（二十時），東京轉播。
1939	5月16日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	西樂唱片（九時三十分），舞蹈曲。東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。
1939	5月17日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	歌曲唱片（九時三十分），流行歌曲。東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。男生合唱與獨唱（二十時）國立北京師範學院學生合唱江文也獨唱及指揮。二十三夜及其他四名曲。
1939	5月18日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	西樂唱片（九時三十分），管弦樂，鋼琴獨奏。東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。
1939	5月19日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日西	西樂唱片（九時三十五分），西班牙舞曲，鋼琴獨奏曲。東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。
1939	5月20日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中日	歌曲唱片（九時三十五分），流行歌曲。東亞進行歌練習時間（十一時五十分），國樂唱片公司文麗獨唱。忽雷獨奏（二十一時）。
1939	5月21日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	爵士樂（十一時三十分），國樂唱片管弦樂團演奏
1939	5月22日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（九時三十五分），歌劇選段。
1939	5月23日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（九時三十五分），管弦樂。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	5月24日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	獨唱（二十時）江文也獨唱中國古歌五首，普拉魯夫斯基鋼琴伴奏。
1939	5月25日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（九時三十五分），管弦樂。輕音樂（二十時），國樂唱片管弦樂團演奏。
1939	5月26日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	5月27日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（九時三十分），歌曲、序曲。吹奏樂（二十時），北京警察局樂隊定期演奏吹奏樂。
1939	5月28日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（八時五十分），流行歌曲。口琴合奏及獨奏（十一時三十分），中華口琴會基本隊合奏王慶勛獨奏。
1939	5月29日	一	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（九時三十分），提琴：拉克曼裡諾夫，鋼琴：克萊斯勒，合奏《奏鳴曲C短調》。
1939	5月30日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片（九時三十分），弦樂四重奏。
1939	5月31日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（九時三十五分），流行歌曲。獨唱（二十時）江文也獨唱，普拉魯夫斯基鋼琴伴奏，菩提樹及流浪者之夜歌及其他三曲。
1939	6月1日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	6月2日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	6月2日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	6月3日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	6月4日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	歌曲唱片（八時四十分），流行歌曲。
1939	6月5日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	6月6日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	6月7日	三	8	中央電台放送 青年會合唱團 歌曲 由江文也指揮二十時開始	音樂新聞	西洋音樂	中西	合唱及獨唱（二十時），青年會合唱團歌曲，由江文也指揮，混聲合唱及獨唱。普拉魯夫斯基鋼琴伴奏。
1939	6月14日	三	8	中央電台放送 合唱與獨唱 江文也獨唱兼指揮	音樂新聞	西洋音樂	中西	合唱及獨唱（二十時），靈韻？合唱團合唱，江文也獨唱，普拉魯夫斯基鋼琴伴奏。
1939	6月17日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。絲竹合奏（二十時）北京員警樂隊定期演奏，東亞進行歌及絲竹樂若干曲。
1939	6月21日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。獨唱（二十時）江文也獨唱。
1939	6月21日	三	7	中央廣播電台 曾音樂新節目	音樂新聞	西洋音樂	中	為增加民眾樂趣起見，下月中旬起，邀請華北樂隊，每日在電台公開廣播，演奏合乎時代性之歌樂。該項音樂廣播演奏，於事變前即由華北樂隊擔當，事變後則由軍部樂隊及警察局樂隊演奏，民眾樂隊演奏尚未恢復，此次恢復後，對民眾娛樂，更增加一番興趣。
1939	6月23日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	反英民眾大會紀念特輯
1939	6月25日	日	8	中華口琴會基本隊 口琴大合奏	音樂新聞	大眾音樂	中	曲目單
1939	6月25日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（八點四十分），流行歌曲。輕音樂唱片（十一時三十分），口琴合奏（十八時三十分）中華口琴會基本樂隊演奏，王慶勛指揮。
1939	6月26日	一	7	夏威夷音樂 今日在電台廣播	音樂新聞	大眾音樂	中	不明
1939	6月26日	一	7	中華口琴會 今日下午演播 名曲	音樂新聞	大眾音樂	中	不明
1939	6月26日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	夏威夷音樂，口琴演奏。
1939	6月27日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	不明

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧 (1938.1.1-1940.10.30)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	6月28日	三	8	中央電台今晚放送 中國名歌之夕 國立北京師範學院合唱團演播 江文也先生獨唱 西江月	音樂新聞	西洋音樂	中	獨唱及合唱 (二十時), 國立北京師範學院合唱團演播, 江文也先生獨唱, 中國名歌之夕。
1939	6月29日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片 (十一時五十分), 輕音樂。蒙古音樂 (二十二時三十分), 蒙古政府音樂團演播。
1939	7月2日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片 (八時四十分), 流行歌曲。輕音樂 (十一時三十分)
1939	7月3日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	與亞紀念周間特別廣播節目。東亞進行歌 (十二時三十分鐘), 與亞特輯青年時間 (十九時): 吹奏樂, 北京警察局樂隊演奏, 中國國歌, 日本國歌, 滿洲國歌, 東亞進行歌。
1939	7月6日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	與亞紀念周間特別廣播節目 (第四日)
1939	7月8日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	與亞紀念周間特別廣播節目 (第六日)。歌曲唱片 (十一時五十分), 流行歌曲。東亞進行歌 (二十時) 北京警察局樂隊同合唱隊文麗李震甫, 吹奏樂, 獨唱, 齊唱。
1939	7月9日	六	7	本報主辦 大眾慰安會 昨在公園兒童體育館第二次舉行	音樂新聞	綜合	中日西	與亞紀念周間特別廣播節目 (第七日)。歌曲唱片 (八時四十分), 流行歌曲。西樂唱片 (十二時三十分), 輕音樂。口琴合奏 (十八時三十分) 中華口琴會基本隊、
1939	7月11日	一	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	西樂唱片 (十一時五十分), 爵士樂。
1939	7月12日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片 (十一時五十分), 流行歌曲。獨唱 (二十時), 江文也。
1939	7月12日	二	8	中央電台今日 世界名歌曲 定期放送江文也先生獨唱	音樂新聞	大眾音樂	中西	獨唱 (二十時) 江文也, 世界名歌曲定期放送。江文也獨唱, 普勞魯夫斯基鋼琴伴奏。
1939	7月15日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧 (1938.1.1-1940.10.30)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	7月16日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片 (八時四十分), 流行歌曲。輕音樂 (十一時三十分), 國樂唱片公司管弦樂團。
1939	7月19日	二	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	混聲合唱與獨唱 (二十時), 獨唱江文也, 合唱北京交響合唱團, 普勞魯夫斯基鋼琴伴奏。
1939	7月19日	二	8	中央電台今日二十時放送 混聲合唱與獨唱 獨唱兼指揮江文也先生	音樂新聞	大眾音樂	中	演出人員、演出曲目等
1939	7月20日	三	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	7月21日	四	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	7月22日	五	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	青年時間 (十九時) 提琴獨奏。絲竹合奏 (二十時) 北京警察局樂隊定期演奏絲竹樂。
1939	7月23日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片 (八時四十分), 流行歌曲。鋼琴獨奏 (二十時), 江文也《北京萬華集》。
1939	7月24日	日	7	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	8月3日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	不明
1939	8月5日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	絲竹合奏 (二十時), 北京警察局樂隊演播絲竹合奏。口琴合奏 (二十一世二十分), 中華口琴會基本隊。
1939	8月19日	六	8	口琴獨奏	音樂新聞	西洋音樂	中	王慶勛先生演奏。
1939	8月19日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	絲竹合奏 (二十時), 北京警察局樂隊定期演奏。口琴獨奏 (二十一時二十分), 王慶勛演奏。
1939	9月1日	五	3	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	夏威夷音樂 (二十時四十分), 黃卓人朱慧合奏。
1939	9月16日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	絲竹合奏 (二十時), 北京警察局樂隊定期演奏。
1939	10月7日	六	8	今晚吹奏樂 由北京警察局樂隊演奏	音樂新聞	西洋音樂	中	不明

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	11月4日	六	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	吹奏樂（二十時），北京警察局樂隊定期演奏。
1939	11月16日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	11月28日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	12月1日	五	8	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1939	12月6日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	獨唱（二十時二十分），江文也獨唱，老志誠鋼琴伴奏。包括江文也作曲歌曲。
1939	12月10日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	口琴合奏及獨奏（十二時），中華口琴會基本隊。王慶勛演奏。
1939	12月12日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	合唱及獨唱（二十時），國立北京師範學校合唱團合唱，呂培生先生獨唱，古普克先生鋼琴伴奏。演奏江文也作品。
1939	12月14日	四	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（九時十分）卿雲歌，中日提攜歌等。特輯青年時間（十九時），華北音樂會（吹奏樂）。
1939	12月17日	日	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	歌曲唱片（九時十分），流行歌曲。特設音樂（十二時），口琴合奏，中華口琴會基本隊演奏。
1939	12月19日	二	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	對華放送（十九時四十分），輕音樂、演講、歌謠曲。爵士樂（二十一時二十分）北京國樂唱片管弦樂團。
1939	12月20日	三	8	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	歌曲唱片（十一時五十分），流行歌曲。
1940	1月19日	五	5	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	1月19日	五	5	日本歌曲指導播送	音樂新聞	日本音樂	中日	北京近代科學圖書館為依據音樂藝術促進中日親善起見，與中央廣播電台提攜，定將實施下列之日本歌曲指導放送。由一月二十三日至二月五日播出。

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1940	2月3日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	絲竹合奏（二十時），北京警察局樂隊定期演奏，絲竹樂。
1940	3月1日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月2日	六	7	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	吹奏樂（二十時），北京警察局樂隊定期演奏吹奏樂。
1940	3月3日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月4日	一	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	
1940	3月5日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月6日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月7日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	爵士樂（二十一時），國樂公司管弦樂團演奏爵士樂。
1940	3月8日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月9日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	絲竹合奏（二十時），北京警察局樂隊定期演奏，絲竹樂。
1940	3月10日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月11日	一	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月12日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月13日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月14日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月15日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月16日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月17日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月18日	一	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月19日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月20日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

## 『新民報』におけるラジオ番組表一覧（1938.1.1-1940.10.30）

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1940	3月21日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中西	爵士樂（二十時四十分），國樂公司管弦樂團演奏爵士樂。
1940	3月22日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月23日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	絲竹合奏（十九時五十分），北京警察局樂隊演奏絲竹合奏。
1940	3月24日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	綜合	中	口琴獨奏（二十時四十分），王慶勛口琴獨奏。
1940	3月25日	一	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月26日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月27日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月28日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月29日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月30日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	3月31日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月5日	五	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月7日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月17日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月20日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月21日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月23日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月24日	三	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月25日	四	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月27日	六	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月28日	日	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	
1940	4月30日	二	6	中央廣播電台節目	節目單	傳統音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧 (1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	1/11	二	2	本報徵求「新民之歌」	廣告	宣傳音楽	中	懸徵者來函達數千件
1938	1/13	四	1	徵求「新民之歌」	廣告	宣傳音楽	中	廣告
1938	1/14	五	1	徵求「新民之歌」	廣告	宣傳音楽	中	廣告
1938	7/1	五	7	新民會會歌 普遍歌詠	音楽評論-報道	宣傳音楽	中	
1938	7/14	四	2	音楽家王義山 製造古樂器	音楽評論-報道	傳統音楽	中	
1938	8/7	日	7	音楽舞蹈 夏季講習會 北京中央電台主辦 自本月十三日講習十天	音楽會 (活動) 預告	日本音楽	中日	時間：八月十三日至二十三日，每日上午八時至正午。會場：中央廣播電台。會費：無。講習科目：另有規定，講師：音楽袴田克己氏，發聲練習袴田育子女士，島打戰雄氏（日本名曲集及其他）。跳舞，景雷正夫氏，內包括體動運動法，西洋舞蹈，近代舞蹈基礎，舞蹈創作法，及其他等等。
1938	8/11	四	7	中央電台發起 音楽舞蹈 夏季講習會	音楽會 (活動) 預告	日本音楽	中日	前報刊登後獲得各方面熱烈響應。天津方面對於此舉亦頗歡迎。電台正在積極籌備中。音楽講師袴田克己與舞蹈講師景安正夫對往訪者發表談話，略稱，“我輩深望教育者多多參加，但民眾之應征者比較為多，在先北京亦無此等新時代藝術之研究機構，然由於此次講習會之組成，黨課滿足此等人士之要望矣，吾更希望將來能從彼等之千中，而多多誕生新的藝術，此乃吾等對於此次運動之最大意義也，同時，廣播電台，亦文化報道機關之一種，其所負之使命至重且巨，將來更可利用文化上或藝術上之溝通工作，而舉中日親善之實也。云云”
1938	8/22	一	2	音楽隊 他們比鼓手尊優	音楽會 (活動) 預告	傳統音楽	中	對音楽隊的介紹

表2:『新民報』における音楽記事一覧 (1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	8/23	二	8	本台主催之 音楽舞蹈會 將放送所練習之歌曲	音乐会 (活動) 預告	日本音楽	中日	本台應時代之要求, 及為文化發達起見, 自八月十三日經本台之主催, 在電台內音樂練習室, 舉行舞蹈講習會。參加者均教育界及一般知識階級上分子, 其中有由天津及通縣等各處而來報名參加者, 於現在氣候酷熱之下, 承各方面熱烈的參加, 自第一日起, 日日增加, 計每日之練習時間, 為四小時, 參加者均十分愉快, 百倍興奮, 是以獲得美滿之成績。本台嗣後更決意繼續此種努力, 更望各界方面予以絕大幫助, 以期成功此偉大之文化事業。
1938	8/26	五	8	本市警察局樂隊 成立歷史介紹 今日放送樂曲 吹奏樂三曲	音乐会 (活動) 預告	西洋音楽	中	本局樂隊, 於前清光緒三十二年十月設立, 以西樂為主, 曾習古樂, 隸屬民政部管理, 是為京師創設西樂隊之始, 職司內廷帝后萬壽祭祀壇廟, 及各項典禮奏樂之任。至民國二年, 改隸京師員警廳, 十七年改隸北平特別市公安局, 二十六年改隸本局, 自成立以來, 計三十二年。其前清禁衛軍, 甘肅省公署, 察哈爾省公署, 山東督辦公署, 本市悟善社等處, 樂隊組織之始, 均係由本隊聘請人員教授。今年北京及河北廣播電台成立, 先後應聘播奏中西音樂。今日警察局樂隊二十時演奏三曲。
1938	8/27	六	7	貝多芬音樂演奏會 九月三日晚八點半 在青年會禮堂舉行	音乐会 (活動) 預告	西洋音楽	中西	本市青年會音樂教育委員會定於九月三日晚八時半在該會大禮堂舉辦貝多芬樂曲演奏會。三重奏是提琴、鋼琴、大提琴三種樂器的合奏。此種組合本市以前頗為少見, 純為中國人組織者, 尤屬首創。

表2:『新民報』における音楽記事一覧 (1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	8/28	日	7	本社擴大黃災募 9月15日在新新戲院 開音樂舞蹈大會 中日俄名流薈聚一堂	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日西	為擴大黃災募捐將舉行音樂舞蹈大會。昨 (27日) 舉辦籌備大會, 參加者為: 景安正夫、袴田育子、辻野音羽、奈良文江、加治千惠子、柯政和、王國材、蔡炳南、袴田克己、富田廣吉、陳重光、藤澤隆次郎、趙大同、王永芳、張淳、馬爾果夫等。大體內容如下: 日本音樂、日本舞蹈、中國音樂、西洋音樂、中國舞蹈、俄國舞蹈等。出演者皆為各地名流。時間定為9月15日10時起。
1938	8/30	二	7	海報 音樂舞蹈大會 新民會主辦	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日西	
1938	9/6	二	7	本報主辦的 黃河水災賑款 音樂舞蹈大會 中日俄音樂舞蹈家表演	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日西	十五日在新新劇院舉行
1938	9/8	四	2	本報主辦黃災振濟 音樂舞蹈大會 中外人士極表	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日西	9月6日報道相關聯
1938	9/8	四	7	交響樂與舞蹈之夕 演奏世界名曲名舞 十一晚在北京飯店舉行	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日西	入秋以來, 京市藝術界頗形活躍, 本報創黃河賑災音樂舞蹈大會於前, 中日聯合油畫展覽繼起於後, 近更有嶄新的交響樂團 (北京交响乐团?) 之誕生, 誠可慶可賀之現象也。該團近為向世中推展其藝術起見, 乃有【交響樂與舞蹈之夕】創舉, 會期已定於九月十一日午後六時起, 會址在北京飯店內, 入場券計: 前排三園、中排二園、後排一園。凡愛好藝術者不可不傾聽妙音, 茲將其演奏節目列下
1938	9/8	四	7	音樂舞蹈大會 節目內容極精彩	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日西	九月十五日在新新劇院舉行。音樂會由4部構成, 諸多音樂家參加。演出曲目參加人員均有記載。
1938	9/11	日	7	音樂舞蹈大會 誇耀的名貴傑奏 宗旨在為黃河災民請賑 表演節目內容力求精彩	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日西	本報主辦黃河賑濟中日白俄協同音樂舞蹈大會, 準於本月十五日晚在新新大戲院舉行。

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	9/11	日	8	今日八時三十分自北京飯店中繼 交響樂與舞蹈之夕 演奏世界名曲及名舞 牟禮女士及三法喇團	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	牟禮女士為歌劇之有名歌唱家,舉世皆知。彼於十餘年前,即仰慕東洋風土,並欣然來居於中國及日本。曾於日本東京京都各處,舉行獨唱演奏數次,頗博好評。牟禮女士並設立聲樂及鋼琴之教授所,養成多數之新進音樂家,最近牟禮女士遊歷與青島濟南等處,並居於北京,一方面教授,一方面演奏,工作頗為繁忙。今日牟禮女士所歌唱之歌劇【杜斯加】,是彼最得意者。預計必蒙聽眾之好評。
1938	9/13	二	2	本報主辦音樂舞蹈大會 中日各機關購票踴躍 截至現在存票已無多	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	音樂會的售票情況
1938	9/13	二	7	音樂舞蹈大會將揭幕 加演話劇黃河淚 描寫黃災慘狀哀感異常 各界人士不可不往一觀	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	9月15日在新新大劇院演出,加演話劇
1938	9/14	三	7	本報主辦的音樂舞蹈大會 明晚盛大舉行 黃河淚話劇精彩動人 日口琴專家參加演奏	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	音樂舞蹈大會預告,日本口琴演奏家佐藤秀郎參加演出。
1938	9/15	四	2	音樂舞蹈大會籌備就緒 各部負責人員規定 明晚	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	各部門負責人名單
1938	9/15	四	7	音樂舞蹈大會 今晚在新新劇院開幕 黃河淚話劇	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	黃河淚的劇情介紹
1938	9/16	五	2	音樂舞蹈大會 節目增添精彩 欲坐佳座務請早臨	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	中日俄音樂舞蹈大會,分為3部構成,曲目單。袴田克己、江文也、北京中央合唱團、北京交響樂團均有出演。
1938	9/16	五	7	音樂舞蹈大會 昨晚盛大揭幕 日華觀眾摩肩擦踵 賑災精神極可感佩	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	音樂評論
1938	9/17	六	2	音樂舞蹈大會素描 中日白俄 名家盡最大努力	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	詳細的音樂評論與介紹
1938	9/24	六	7	青年會明晚舉行 口琴音樂演奏會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	節目單與演出人員名單
1938	9/27	二	7	新民愛卿歌(江文也譜曲、樂譜)、青年會音樂演奏會定三十晚舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	新民歌樂譜、音樂會節目預告
1938	9/28	三	7	黃災音樂舞蹈會 淨盈千餘元	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	音樂會收益說明
1938	10/11	二	3	國樂唱片公司 專屬歌星 李香蘭女士	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	國樂唱片公司專屬歌星李香蘭女士,今日二十一時播放獨唱。李香蘭介紹。

表2:『新民報』における音楽記事一覧 (1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	10/12	三	7	口琴會長 王慶勛氏	廣告	大眾音樂	中	口琴會長王慶勛氏開班教授口琴。前上海大夏大學教授現任北京中華口琴分會會長王慶勛氏，近為愛好者高尚藝術研究口琴者得有正當規範起見，特在王府井小甜井甲八號設會會址，成立初高教授版及獨奏版，初學者定一個月畢業，初級定本月十五日開班，高級十七日開班，有志研究口琴者，不分性別，均可報名雲。
1938	10/13	四	7	青年會公演 日本古典戲劇	音樂會（活動）預告	日本音樂	日	日本名交際家青柳氏，鑒於旅京日僑激增，甚為關懷故國藝術，籍慰鄉思，茲特定本月十二、十三、十四日三晚在青年會禮堂公演日本著名古典戲劇，茲由日本管弦樂隊伴奏，是以原定十五日開幕之芮克影院，因之延期云云。
1938	10/13	四	7	新民勞動歌 江文也作譜	文化政策	宣傳音樂	中	新民會中央指導部長繆？氏特撰【新民勞動歌】仍由江文也氏作譜，詞雅音和。原樂譜如下。
1938	10/14	五	7	新民少年歌 江文也作曲	文化政策	宣傳音樂	中	新民會中央指導部長繆斌氏撰寫歌詞，江文也譜曲。樂譜如下。
1938	10/14	五	4	國樂唱片的廣告	廣告	其他	中	1938年第一期驚人的新貢獻，國樂唱片曲目表，收錄江文也演唱新民歌曲若干曲。
1938	10/15	六	4	國樂唱片 廣告	廣告	其他	中	1938年第一期驚人的新貢獻，國樂唱片曲目表，收錄江文也演唱新民歌曲若干曲。
1938	10/16	日	8	佐藤秀郎先生 口琴欣賞講話	音樂會（活動）預告	大眾音樂	日	今日十八時五十分及二十時開始放送節目。日本口琴家佐藤秀郎來華演出，特邀進行【口琴欣賞講話】。今日繼續，講題為【口琴之最近技術法，實演及解說】。二十時開始口琴獨奏。曲目如下。
1938	10/16	日	8	今日星期日特別演藝 三法喇樂團	廣播相關	西洋音樂	中西	今日星期日特別演藝：三法喇樂團。
1938	10/19	三	7	新民少女歌 江文也作曲	文化政策	宣傳音樂	中	繆部長撰江文也作譜，新民少女歌。

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1938	10/23	日	7	佐藤秀朗 口琴獨奏會	音樂會(活動)預告	大眾音樂	日	佐藤秀郎音樂會演出預告。
1938	10/23	日	8	聆佐藤音樂後 謎樣的人生條雞皮 像個溫柔少	音樂評論-報道	大眾音樂	日	音樂會樂評
1938	10/25	二	3	口琴聖手 佐藤演奏會 二十九日舉行	音樂會(活動)預告	大眾音樂	日	音樂會預告
1938	10/27	四	7	佐藤氏口琴演奏大會 後日在北京飯店舉行	音樂會(活動)預告	大眾音樂	日	音樂會預告、曲目列表。
1938	10/27	四	8	今日特訂放送 慶祝節目	廣播相關	西洋音樂	中日	包括西洋樂曲。
1938	10/28	五	7	慶祝武漢陷落 日本軍樂隊 定期演奏大遊行	文化政策	西洋音樂	日	
1938	10/29	六	1	佐藤秀朗 口琴音樂演奏大會 廣告	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中日	組織單位名單
1938	10/29	六	2	口琴 廣告	廣告	大眾音樂	中	王慶勛開班廣告
1938	10/29	六	7	新民會今日舉行 武漢陷落慶祝會	文化政策	西洋音樂	中日	樂隊遊行會
1938	10/29	六	8	中央電台廣播節目 今日特訂慶祝節目	廣播相關	西洋音樂	中西	包括西洋樂曲。
1938	10/30	日	7	日軍軍樂隊今日第二次遊行	文化政策	西洋音樂	日	
1938	10/30	日	8	今日特訂 慶祝節目	廣播相關	西洋音樂	中日	1.管弦樂、2.播音劇、3.對口相聲、4.
1938	11/15	二	7	北京飯店將舉行遊藝會 音樂專家合奏名曲 名門	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1938	11/20	日	7	松竹歌劇團明星 水之江瀧子一行來京 本報招待 中外名流【新新】舉行慰問大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1938	11/22	二	7	日本松竹歌劇團抵京 今日訪問日華當局	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1938	11/22	二	8	中央電台廣播節目 松竹少年班歌劇團	廣播相關	西洋音樂	日	
1938	11/23	三	7	慰問皇軍：日本松竹歌劇團	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1938	11/27	日	3	女師院音樂系 昨日演奏大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1938	12/3	六	8	中國古樂唱片	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1938	12/11	日	3	新民之歌 簡譜	文化政策	宣傳音樂	中	
1939	1/8	日	7	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	1/9	一	8	大阪放送 交響樂團 管弦樂	廣播相關	西洋音樂	日	
1939	1/10	二	7	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	1/11	三	7	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	1/20	五	7	北京市歌 徵集歌詞	廣告	宣傳音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧 (1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	1/22	日	8	王志強口琴獨奏	音樂會 (活動) 預告	大衆音樂	中	
1939	1/30	一	7	北京舞樂院組織訪日滿舞藝使節團	音樂會 (活動) 預告	其他	中	
1939	2/4	六	7	日少女文樂團以文樂偶人	音樂會 (活動) 預告	其他	日	
1939	2/5	日	1	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	日	
1939	2/7	二	1	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	日	
1939	2/8	三	3	音樂的意義及其欣賞教育 柯政和	音樂評論-報道	其他	中	
1939	2/9	四	3	音樂的意義及其欣賞教育 柯政和 (2)	音樂評論-報道	其他	中	
1939	2/10	五	7	古國古裝 歌舞音樂會	音樂評論-報道	傳統音樂	中	古樂器演奏西洋音樂
1939	2/11	六	1	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	2/17	五	1	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	2/18	六	1	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	2/22	三	1	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	2/23	四	7	古城歌舞 明晚北京飯舉行	音樂會 (活動) 預告	傳統音樂	中	
1939	2/24	五	1	徵求「新國民謠」廣告	廣告	宣傳音樂	中	
1939	2/24	五	4	國樂唱片 廣告	廣告	其他	中	
1939	2/25	六	1	徵求「新國民謠」廣告 本月底截止	廣告	宣傳音樂	中	
1939	2/26	日	1	徵求「新國民謠」廣告 本月底截止	廣告	宣傳音樂	低	
1939	2/26	日	4	國樂唱片 廣告	廣告	其他	中	
1939	3/14	二	7	鋼琴家 古普克 舉辦振濟音樂會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	日	本月二十八日, 協和禮堂
1939	3/25	六	7	露西亞慈善協會 主辦慈善音樂大會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	二十八日北京飯店舉辦, 所得票款救濟在京無國籍人
1939	4/1	六	7	日陸軍音樂隊 應約公開演奏	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	日	
1939	4/7	五	7	日陸軍樂隊公開演奏 名曲內容介紹 預定上奏	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	日	
1939	4/8	六	7	日本東京歌舞伎 昨起在京表演	音樂評論-報道	日本音樂	日	
1939	4/9	日	7	日陸軍軍樂隊 公開演奏會 今日下午在新民堂揭	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	日	

表2:『新民報』における音楽記事一覧 (1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	4/11	二	7	新新戲院演奏會 音樂演奏之夕	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	李夢梅小姐高音獨唱, 所得票款充慈善之用。國樂唱片公司音樂名家李夢梅小姐日本音樂名家青谷德二の指導下。進行演唱。
1939	4/13	四	7	李夢梅小姐 演奏會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中	國樂唱片公司主辦
1939	4/15	六	7	李夢梅小姐獨唱, 今晚在新新戲院揭幕	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中	北京音樂界各人士參加
1939	4/16	日	7	李夢梅小姐 昨晚一呈珠喉	音樂評論-報道	西洋音樂	中	音樂評論
1939	4/18	二	7	中華口琴會 設班教授	廣告	大眾音樂	中	
1939	4/24	一	7	北京行進曲選定後 發表演奏大會	音樂會 (活動) 預告	宣傳音樂	中日	後日晚在光陸電影院舉行 同時演奏北京情緒異曲 (竹內龍夫 作曲)
1939	4/30	日	7	音樂協會 大演奏會 今晚北京飯店	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	4月30日在北京飯店舉辦。江文也新作品10餘首, 孟德遜, 格力克作品等。
1939	4/30	日	8	音樂家王志強 口琴獨奏與二重奏	音樂會 (活動) 預告	大眾音樂	中	王志強獨奏, 王景輝伴奏。
1939	5/15	一	1	新新民謠支撐曲譜 明日管制唱片 月底可運京	音樂會 (活動) 預告	宣傳音樂	中日	
1939	5/17	三	7	樂隊分會指定 三種歌曲	音樂會 (活動) 預告	宣傳音樂	中	
1939	5/21	日	7	京藝協主辦 音樂演奏大會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中	
1939	5/28	日	7	藝術協會 音樂會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中	
1939	6/2	五	3	中華口琴會 昨開成立大會	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1939	6/4	日	7	首都樂隊分會 昨開常會	音樂評論-報道	西洋音樂	中	
1939	6/12	一	7	北京口琴聯合會 演奏會	音樂評論-報道	大眾音樂	中	照片, 新新劇院, 第二次演奏會合奏【大雷】進行曲
1939	6/23	五	2	東亞進行曲唱片 分發全市各校	文化政策	宣傳音樂	中	
1939	6/23	五	7	新民會籌辦 藝術家講演大會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1939	6/23	五	7	今日反英大會 抗英歌	文化政策	宣傳音樂	中	
1939	6/24	六	1	繼續徵求新新民謠 按照既定曲譜作詞	廣告	宣傳音樂	中	
1939	6/25	日	1	繼續徵求新新民謠 按照既定曲譜作詞 (相同)	廣告	宣傳音樂	中	
1939	6/25	日	8	中華口琴會基本樂隊大合奏	音樂評論-報道	大眾音樂	中	王慶勛, 口琴樂隊, 西洋樂曲
1939	6/28	三	4	國樂唱片 廣告	廣告	其他	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	7/2	日	7	本報徴求之新民民謡 今日在新民堂舉行發表大	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1939	7/3	一	7	新民民謡發表大會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1939	7/3	一	7	新民民謡 昨新民堂 演奏記	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1939	7/3	一	7	本報主辦之 夏季演藝大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/4	二	7	本報主辦之 夏季演藝大會 昨晚因雨臨時停止	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/6	四	7	本報主辦 電影與音樂之夕 7日晚在東單練兵場	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/6	四	7	本報主辦之 演藝大會 第一日因雨停演 改八日	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/6	四	7	本報繼續徴求新民民謡	廣告	宣傳音樂	中	
1939	7/8	六	7	本報主辦 電影與音樂之夕 昨晚在東單練兵場今日在公園新民堂舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	國樂唱片公司特選之唱片播放, 中華口琴會演奏
1939	7/9	日	7	本報主辦 大眾慰安會 昨在公園兒童體育館第二	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/11	二	7	本報珠翠之 大眾慰安會 第二週今晚舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/11	二	8	中華口琴會 今日學習	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中	
1939	7/15	六	7	夏季大眾慰安會 今晚在公園組織舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1939	7/16	日	7	大眾慰安會 昨晚圓滿舉行	音樂評論-報道	西洋音樂	中西	
1939	7/19	三	7	本報主辦之 大眾慰安會 昨晚在公園舉行	音樂評論-報道	西洋音樂	中西	
1939	7/20	四	7	本報主辦之夏季遊藝大會 今晚照例舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/21	五	7	本報主辦之 夏季遊藝大會 昨晚在公園繼續舉行	音樂評論-報道	西洋音樂	中西	
1939	7/21	五	8	日華親善 音樂映畫大會 定期盛大舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	7/22	六	7	本報主辦 夏季遊藝大會 第七頁節目有日本軍軍	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	7/22	六	7	日華親善 音樂映畫大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	7/23	日	7	市民慰安納涼大會 本月下旬舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	7/23	日	7	日華親善 音樂映畫大會 昨在中央公園舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	7/24	一	7	市民慰安納涼大會 昨日開始舉行	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	
1939	7/24	一	7	本報社主辦之 慰安遊藝大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/25	二	7	市民慰安納涼大會 昨第二日情形 清音一唱 三	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	7/26	三	7	本報主辦消夏大會 昨日因雨暫停	音樂評論-報道	西洋音樂	中西	
1939	7/28	五	7	市民慰安納涼大會 今日繼續舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/29	六	7	昨晚友人擁擠 本報主辦之消夏大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/29	六	7	日華親善 音樂映畫大會 明日繼續舉行 演奏各	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	7/29	六	7	日華親善 音樂映畫大會 今晚第二次舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	7/29	六	7	本報主辦消夏大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	7/30	日	7	昨晚稷園 兩娛樂同時舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1939	7/30	日	7	慰安納涼大會 今在地安門舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1939	8/1	二	7	本報主辦 消夏大會 今晚節目精彩	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	傳統曲目, 口琴王慶勳(何日君再來)
1939	8/4	五	7	日華親善 音樂映畫大會 明日繼續舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	吹奏樂、西洋音樂
1939	8/4	五	7	本報主辦 消夏大會 星期日之節目	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1939	8/6	日	7	日華親善音樂映畫大會 昨晚稷園盛況空前	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	報道, 軍樂隊
1939	8/6	日	7	今晚稷園消夏會 本報同人清唱	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1939	8/11	五	2	本報主辦 消夏大會 今晚娛樂節目已決定	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	江文也, 白光, 李香蘭
1939	8/12	六	7	中日親善 第四次會 今晚仍在稷園舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	8/12	六	7	今晚中央公園 消夏大會節目	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	8/13	日	2	北京中華口琴會 首次比賽規則	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1939	8/13	日	7	消夏大會 今晚有新節目	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	8/16	三	7	公園消夏大會 名歌名曲五花八門	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	8/18	五	7	日華親善音樂映畫大會 改明日舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	8/19	六	7	公園消夏大會 今晚節目精彩	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	8/19	六	8	口琴獨奏	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1939	8/20	日	7	今晚消夏大會 演奏廣東音樂	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1939	9/1	五	3	排英歌	文化政策	宣傳音樂	中	
1939	9/3	日	2	本報電影部主辦 水災賑款電影大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1939	9/3	日	2	使市民明瞭天津水災 新民會映演電影	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	9/3	日	3	本報自今日起舉行 電影賑災大會 選映中日名片	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1939	9/4	一	3	本報電影賑災大會 昨日開始舉行	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1939	9/5	二	2	本報主辦消夏大會 因水災暫中止	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1939	9/6	三	2	娛樂不忘就再 本報電影賑災大會 市民參加踴	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1939	9/6	三	3	本報主辦 電影賑災大會 今日為最後一日 勿失	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1939	9/7	四	3	本報電影大會最末一日 情緒熱烈將	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1939	9/8	五	3	首都中日鮮婦女界 發起籌賑運動 舉辦水災音	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1939	9/9	六	3	津災電影繼續放映 觀眾情緒緊張	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1939	9/10	日	3	賑款音樂舞蹈大會 (廣告) 婦女界	廣告	西洋音樂	中日	
1939	9/11	一	3	天津水災 賑款音樂舞蹈大會 (廣告) 婦女界	廣告	西洋音樂	中日	
1939	9/12	二	3	天津水災 賑款音樂舞蹈大會 (廣告) 婦女界	廣告	西洋音樂	中日	
1939	9/13	三	2	中日婦女同心救災	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	
1939	9/13	三	3	中日婦女籌賑恤災 舉辦舞蹈大會	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	
1939	9/15	五	2	中日婦女劉團體舉辦 音樂舞蹈大會 情況熱烈	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	
1939	9/15	五	7	中華口琴會 賑災演奏大會	音樂會 (活動) 預告	大眾音樂	中	
1939	9/18	一	7	津災音樂舞蹈大會 餘款算出	其他	其他	中日	
1939	9/19	二	7	津婦女新都會畫報 賑災遊藝大會 26晚假北京飯	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1939	9/24	日	2	口琴賑災演奏會 明晚盛大舉行	音樂會 (活動) 預告	大眾音樂	中	
1939	9/26	二	7	津婦女新都會畫報 賑災遊藝大會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1939	9/27	三	7	賑災口琴演奏	音樂會 (活動) 預告	大眾音樂	中	
1939	10/1	日	8	口琴賑災會素描 王慶勛登場	音樂會 (活動) 預告	大眾音樂	中	
1939	10/3	二	7	婦女水災救濟會 賑災音樂會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1939	10/4	三	7	天津婦女新都會畫報 水災籌賑遊藝會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1939	10/11	三	7	北京灌音室是王念祖君創辦的 有與眾不同之特	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1939	10/15	日	8	白蘭之歌一鏡頭	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1939	11/9	四	7	青年會夏威夷音樂班 音樂演奏大會 十七日晚	音樂會 (活動) 預告	大眾音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1939	11/16	四	8	青年會夏威夷音樂班主辦 音樂演奏大會 17日晚在北京飯店舉行	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中	
1939	11/17	五	3	夏威夷音樂大會 今晚在北京飯店舉行	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中	
1939	11/19	日	3	何校長輔仁 逝後哀樂	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1939	11/19	日	3	夏威夷音樂大會 陶醉了古城的藝術家	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1939	12/1	五	8	世界音樂大會 青年會為冬賑募款 將在北京飯店	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	國際音樂會, 邀請本市各國音樂家
1939	12/13	三	3	本市中小學校 歌唱比賽大會 報名日期延至二十	音樂會(活動)預告	學校音樂	中	
1939	12/18	一	8	北京灌音室之創辦人 王念祖談片記	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1939	12/23	六	7	婦女界拯救貧困 開映畫舞蹈大會 今日在新新戲	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1939	12/27	三	3	全市中小學校歌唱比賽大會	音樂會(活動)預告	學校音樂	中	
1939	12/30	六	3	中小校歌唱比賽 明天上午揭幕	廣播相關	學校音樂	中	
1940	1/13	六	7	鼓舞國民將義氣 徵集與亞進行曲	廣告	宣傳音樂	中	
1940	1/14	日	7	徵集與亞進行曲 首指部發表計劃書	文化政策	宣傳音樂	中	
1940	1/15	一	1	徵集「與亞進行曲」歌詞	廣告	宣傳音樂	中	
1940	1/15	一	3	台灣歌舞會抵京	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1940	1/16	二	3	首都中小學校唱歌比賽總批評	音樂評論-報道	學校音樂	中	
1940	1/19	五	5	日本歌曲指導播送	廣播相關	日本音樂	中日	北京近代科學圖書館依據音樂藝術促進中日親善起見, 與中央廣播電台提攜, 定將實施下列之日本歌曲之指導播送。指導者: 北京近代科學圖書館囑托島村義雄。出演學生: 該館日本音樂講座學生數名。曲目如下「春が来た」「まちぼらけ」
1940	1/24	三	2	新民會函市署募集與亞進行曲	廣告	宣傳音樂	中	
1940	1/25	四	7	津加緊濟貧工作 舉辦音樂演奏會 定二月一日揭	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1940	2/7	三	7	津冬賑音樂演奏會 昨日盛大舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1940	3/20	三	7	徵集歌謠曲三種	廣告	宣傳音樂	中	
1940	3/21	四	7	首都總會徵集之 與亞進行曲 取錄七名前日揭曉	文化政策	宣傳音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1940	3/22	五	7	首都總會徵集之 與亞進行曲 取録七名前日掲曉	文化政策	宣傳音楽	中	
1940	3/23	六	7	首都總會徵集之 與亞進行曲 取録七名前日掲曉	文化政策	宣傳音楽	中	
1940	3/30	六	7	新民會天津總會 徵求歌謠展期 至四月十日截	廣告	宣傳音楽	中	
1940	3/31	日	3	音楽與文藝	音楽評論-報道	其他	中	
1940	4/14	日	2	音韻悠長節拍整齊 昨一幕音楽會 多田部隊樂	音楽評論-報道	西洋音楽	日	
1940	4/15	一	7	新民會 總會主辦 聯合遊藝演奏	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中日西	
1940	4/18	四	7	政府成立幾年 應徵之歌謠曲	廣告	宣傳音楽	中	
1940	4/18	四	7	津市慶祝政府遷都 音楽會盛大舉行	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中日西	
1940	4/19	五	2	與亞進行曲演唱會 最近期間舉行	音楽會 (活動) 預告	宣傳音楽	中	
1940	4/21	日	7	膺選與亞進行曲歌詞 昨日舉行發獎式 柯政和闡	音楽評論-報道	宣傳音楽	中	
1940	4/22	一	7	新民會慶祝國府遷都 舉行音楽講演大會	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中日	
1940	4/25	四	7	新聞協會慶祝政府遷都 明日舉行音楽會 在中央	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中日	
1940	4/26	五	6	國府遷都慶祝大會 今日盛大舉行 全是民眾一致	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中日	
1940	5/17	五	7	青年會少年聯誼社 慶祝二週年 演奏中西音楽	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中西	
1940	5/28	二	6	新民民謠 勝利唱片	廣告	宣傳音楽	中日	廣告, 樂譜。飯田信夫作曲, 王君之作詞, 梁素馨演唱。勝利唱片公司(天津日租界內)灌録。
1940	5/28	二	7	讀者慰安會第二日 情緒尤為熱烈 僅為最後一天	音楽會 (活動) 預告	大眾音楽	中	郭伯苓先生的口琴獨奏
1940	7月6日 晚刊	六	4	慶祝與亞節音楽會特輯	音楽會 (活動) 預告	宣傳音楽	中	新民堂, 7月7日午後2時, 主辦北京新聞協會
1940	7月6日 晚刊	六	5	與亞市民慶祝大會 今日熱烈舉行 太和門前展開 偉大場面	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中日	李香蘭參加盛典
1940	7/13	六	2	中華口琴會 慶祝四週年 表演音楽盛極一時	音楽會 (活動) 預告	大眾音楽	中	照片
1940	7月16 日	二	2	音楽體育映畫之夕 定期盛大揭幕	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中西	音楽會節目單
1940	7/20	六	2	昨晚盛大揭幕 音楽有如急風暴雨情緒激昂 映畫 介紹友邦體育一新耳目	音楽會 (活動) 預告	西洋音楽	中日	多田部隊樂隊 照片

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1940	7/20	六	4	滿映影星李香蘭 被聘東渡演劇 定今日首途出發	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1940	8/1	四	4	參加本報主辦之消夏大會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1940	9/7	六	3	華北交通公司 音樂聯奏會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1940	10/19	六	2	演奏雅樂 日軍樂隊在冀省署舉行	音樂會(活動)預告	日本音樂	日	
1940	10/26	六	2	廣播協會定期放送日本音樂	廣播相關	日本音樂	日	
1941	1/22	三	5	日語唱歌指導指導	廣播相關	日本音樂	日	
1941	1/24	五	2	川村靜子女士 播唱日本詞曲	廣播相關	日本音樂	日	
1941	2/1	六	2	北京電臺將成立教員音樂講習會	廣播相關	日本音樂	中日	
1941	2/9	日	2	與亞進行曲決賽 定期開預選大會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	2/16	日	2	新民會三周紀念 舉行與亞曲預選	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	2/20	四	2	華北演藝協會的使命/ 川村靜子女士 播唱小學	音樂會(活動)預告	學校音樂	日	
1941	2/20	四	3	教育局分令 各校練習與亞進行曲以備參加3月1	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	2/22	六	2	與亞進行曲比賽會 3月1日在長安舉行	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	2/27	四	2	華北各地中小學校 將演奏與亞進行曲	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	3/2	日	2	祝新民會三周年, 昨晚演藝大會盛況	音樂評論-報道	其他	中日	
1941	3/2	日	3	【說明】與亞進行曲演奏情形	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1941	3/4	二	2	與亞進行曲預賽會 曾少文榮膺首選	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1941	3/7	五	2	與亞進行曲 下月初舉行決賽	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	3/8	六	2	天才少年歌手溫君 於與亞進行曲比賽會中獲亞	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	3/15	六	2	與亞進行曲 華北決勝比賽大會 本月31日在懷	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	3/21	五	2	新民會強化文化宣傳 定期舉行與亞曲比賽	文化政策	宣傳音樂	中	
1941	3/29	六	3	政委會成立周年紀念慶祝儀式擴大舉行 音樂電	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1941	3/30	日	3	與亞進行曲 全華北決賽大會 明日下午在懷仁	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	4/1	二	2	與亞進行曲決賽大會 昨盛大舉行成績圓滿	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1941	4/2	三	2	參加與亞曲比賽代表 昨晉見 王委員長聆訓	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1941	4/3	四	3	慶祝音樂電影大會、參加與亞進行曲代表 明日	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1941	4/11	五	2	與亞進行曲決賽後 中央總會命令嘉獎	文化政策	宣傳音樂	中	
1941	4/12	六	3	國樂唱片公司 組織伴奏團/北京藝術協會 定期	音樂評論-報道	西洋音樂	中西	
1941	4/17	四	2	多田部隊軍樂隊赴固安地區宣慰	音樂評論-報道	西洋音樂	日	
1941	4/18	五	3	朝外海會寺貧兒院 兒童音樂隊成立(照片)	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1941	4/20	日	3	北郊新民教育館 昨慶祝紀念大會 會後舉行講演	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	4/21	一	2	日軍樂隊深入民間 宣慰固安縣區民眾	音樂評論-報道	西洋音樂	日	
1941	4/22	二	2	京電臺請文麗女士播授兒童唱歌 歌名春天的小	音樂會(活動)預告	學校音樂	中	
1941	4/23	三	2	奉祝音樂與時局電影之夕	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1941	4/24	四	2	奉祝音樂與時局電影	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1941	4/25	五	2	參加華北與亞進行曲 決賽大會的感想 石門扶 中學生六鈺銘作、奉祝音樂與時局電影	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1941	4/26	六	2	奉祝音樂與時局電影	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1941	4/27	日	2	奉祝音樂與時局電影	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1941	4/28	一	2	貝滿舉行音樂會、奉祝音樂與時局電影、北京	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1941	5/1	四	2	藝專成立三周年 決盛大舉行慶祝	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1941	5/5	一	7	北京交響樂團第二次演奏會 定10日晚在北京	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1941	5/12	一	7	國際交響樂團演奏會參觀記	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	
1941	5/27	二	2	中華口琴會將印製紀念刊	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1941	5/30	五	2	師院音樂演奏會 明晚假北京飯店舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1941	6/7	六	3	市總會近日舉辦新民歌曲合唱會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	6/8	日	3	市總會提倡新民歌曲 昨舉辦合唱大會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	6/20	五	2	北京中央廣播電臺、中日婦女界共樂會 東京舉	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1941	6/22	日	2	保衛東亞之歌、定期舉行比賽	文化政策	宣傳音樂	中	
1941	6/23	一	4	上海大歌舞劇團 昨起演茶花女	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1941	6/28	六	2	廣播協會一周年 7月1日舉行慶祝	廣播相關	西洋音樂	中	
1941	7/1	二	2	與亞展覽會, 遊藝節目擬定	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1941	7/10	四	7	保衛東亞之歌 今在長安預選	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1941	7/11	五	6	保衛東亞之歌 昨日預選竣事 決選定17日舉行	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1941	7/12	六	6	中華口琴會 赴日旅行表演 暑期後出國東渡	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1941	7/14	一	4	北京中央廣播電臺、北京飯店:日內有盛會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1941	7/17	四	6	保衛東亞之歌決賽 延至26日舉行	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	7/22	二	7	與亞滅共歌聲撼天地	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1941	7/24	四	7	保衛東亞之歌 決在會場舉行比賽大會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	7/27	日	7	保衛東亞之歌 之夕 名媛名歌稱盛事	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	7/28	一	4	現代家庭適合於什麼娛樂?唯有音樂能增進家	音樂評論-報道	其他	中	
1941	7/30	三	7	本報主辦, 消夏大會:敦請友軍樂隊演奏, 今日歌曲唱片播放益較精彩	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/1	五	3	【本報主辦】明晚請友軍樂隊演奏世界名曲/本報消夏大會 今晚唱片節目	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/2	六	3	【本報主辦】消夏大會 今晚請友軍樂隊演奏世	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/3	日	3	【本報主辦】消夏大會 昨晚圓滿花影明月中天友軍樂隊委婉演奏名曲	音樂評論-報道	西洋音樂	日	
1941	8/7	四	3	【本報主辦】消夏大會 友軍樂隊 九日晚演奏	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/8	五	3	【本報主辦】消夏大會 友軍樂隊 明晚演奏名曲	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/9	六	3	【本報主辦】消夏大會 今晚請友軍樂隊演奏世	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/13	三	3	【本報主辦】秋不壓暑 納涼節目日日新 十四五兩日田邊公司演奏名樂	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/14	四	3	【本報主辦】本週末 友軍奏樂	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/15	五	3	【本報主辦】本週末友軍奏樂	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/16	六	3	【本報主辦】友軍奏曲, 雜耍, 電影 好節目薈	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	8/18	一	3	【本報主辦】明晚特定為 華北廣播協會之夜 今晚國樂公司唱片益較精彩	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1941	8/19	二	3	【本報主辦】今晚特定為---華北廣播協會之夜, 特輯遊藝節目八時開始	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1941	8/20	三	3	【本報主辦】消夏大會 今夕最後一夕 特演名	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	8/21	四	3	【本報主辦】新涼夜色中 昨夕圓滿結束, 留此珍貴回憶期待明年	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	9/11	四	3	治強慰問大會 燕京歌劇團定期蒞石門公演	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	9/12	五	6	日高田舞蹈團 20日在光陸電影院上演	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	9/17	三	3	華北廣播協會 特輯節目昨開播	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1941	9/27	六	3	【本報主辦】讀者慰安大會 演藝節目均極精彩 單弦-相聲-京音大鼓	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1941	10/3	五	5	本報讀者慰安大會 昨第一日盛況空前	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1941	10/4	六	5	本報主辦 讀者慰安大會 今日為最末一日	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1941	10/5	日	6	日本名聲樂家 寶井真一氏 十月十日北京飯店	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1941	11/25	二	3	中日滿締約一周年紀念 廣播協會舉行慶祝周 十電臺發送特輯節目	廣播相關	西洋音樂	中日	
1941	11/27	四	6	華北廣播協會主辦 與亞發表演奏會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1941	12/3	三	6	【本報主辦】冬賑電影遊藝大會 十九日假吉祥	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	12/8	一	6	舉辦冬賑遊藝會	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	12/18	四	5	【本報主辦】冬賑電影遊藝大會 明日假東安市	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	12/19	五	5	【本報主辦】冬賑電影遊藝大會	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	12/20	六	5	【本報主辦】冬賑電影遊藝大會 昨假吉祥劇院	音樂會(活動)預告	其他	中	
1941	12/27	六	3	慶祝香港淪陷音樂會---本報東亞新報廣播協會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1941	12/28	日	3	慶祝香港淪陷---中日學生 今日舉行音樂大會	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1941	12/29	一	7	中日學生慶祝香港淪陷、音樂大會昨盛大舉行。長安戲院內歌樂融合氣象激昂	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1942	1/10	六	1	本報主辦重獎徵求 大東亞總進軍之歌	廣告	宣傳音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	1/11	日	5	冬賑音楽跳舞會 今日假北京飯店盛大舉行 --- 北京中日輔仁團體之善舉	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1942	1/12	一	5	冬賑音楽大會 昨假北京飯店展開序幕 名聞表演舞蹈精彩倍出	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	
1942	1/23	五	1	本報主辦重獎徵求 大東亞總進軍之歌	廣告	宣傳音樂	中	
1942	2/14	六	3	準備慶祝新嘉坡淪陷 京市擬定盛大行事	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1942	2/19	四	3	華北廣播協會特輯 慶祝新嘉坡淪陷節目	廣播相關	宣傳音樂	中日	
1942	2/20	五	6	日軍樂隊遊行演奏 今日下午盛大舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1942	2/20	五	6	慶祝新嘉坡淪陷 中日聯合音樂會 假真光影院	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1942	2/22	日	2	本報重金徵求 大東亞總進軍之歌 作品發表、中日學童交歡學藝大會 昨在東西城盛大舉行	音樂會(活動)預告	學校音樂	中日	
1942	2/23	一	3	大東亞總進軍之歌 冠軍----杜宇君系一活潑青年 昨天百發表膺選感想	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	2/23	一	5	中日演藝慰問團 昨上午慰問友軍	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	
1942	2/25	三	5	北京音樂文化協會 主辦親善演奏大會----二十七日晚在真光影院舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	2/25	三	6	李香蘭 葉荅演【蘇州之夜】	音樂會(活動)預告	西洋音樂	日	
1942	3/2	一	3	本報徵求 大東亞總進軍之歌 昨在本報發給獎	廣告	宣傳音樂	中	
1942	3/6	五	3	中央廣播電臺今晚 對日放送廣東音樂	廣播相關	傳統音樂	中	
1942	3/13	五	4	北京交響樂團 第四次演奏大會 --明晚七時假真	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	3/14	六	4	管弦音樂會演奏 後晚假北京飯店盛大舉行--交響樂團今晚在真光演奏	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	3/22	日	3	京市籌備擴大慶祝 新聞協會主辦遊藝大會 假北京飯店招待各要人	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1942	3/28	六	3	慶祝國政府遷都政會成立二周年 電臺特輯節目	廣播相關	宣傳音樂	中	
1942	3/29	日	4	北京飯店真光影院 異曲異地同義同聲---京市一般樂迷得其所哉	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	3/30	一	4	三曲音樂演奏會 昨在北京飯店盛大舉行	音樂會(活動)預告	日本音樂	日	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	3/31	二	4	新協慶祝 國府遷都政會成立 二周年紀念---遊	音樂會(活動)預告	其他	中日	
1942	4/11	六	4	京市音樂界聯合大演奏會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	4/12	日	3	新民會中央總會 重金徵求東亞解放歌、北京中	廣告	宣傳音樂	中	
1942	4/14	二	3	新民會中央總會 重金徵求東亞解放歌、北京中	廣告	宣傳音樂	中	
1942	4/20	一	4	市總會擴大治運宣傳舉辦名流講演音樂會 明 晚北京飯店將有一盛況	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	4/21	二	4	名流講演音樂會 今晚盛大節目 北京飯店將呈	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	4/22	三	3	四次治運講演音樂會大會 新民會京市總會昨	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	
1942	5/4	一	4	北京合唱音樂協會 昨開首次演奏會---由荒井 三郎指揮成績極佳	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1942	5/9	六	4	京市二百萬民眾歡騰 昨起展開盛大慶祝…… 市總會今舉行音樂遊行電影會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1942	5/19	二	3	大東亞總進軍之歌 灌音盛舉昨告完成、新民	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	5/20	三	4	大東亞總進軍之歌 樂譜 杜宇作詞 江文也作曲	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	6/1	一	3	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念	廣告	宣傳音樂	中	
1942	6/2	二	4	第一回音樂大會 明晚在日第一國民學校舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	6/3	三	3	全東亞殷望之大東亞總進軍之歌 本報昨舉行	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	6/4	四	3	滿映名星李香蘭女史	音樂會(活動)預告	大眾音樂	日	
1942	6/5	五	4	警局樂隊 吹奏樂---今日在大東亞博覽會演奏	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1942	6/14	日	3	大東亞總進軍之歌 定期舉行發表大會	文化政策	宣傳音樂	中	
1942	6/15	一	4	慶祝滿洲建國十年 定期舉行音樂大會---李香	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	6/16	二	3	治安強化歌發表 演奏大會 昨在長安戲院盛大	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1942	6/17	三	3	慶祝滿洲建國十周年紀念 京津自本月二十三 日起特別舉行 李香蘭 哈爾濱交響樂團 提攜大	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	6/17	三	3	大東亞總進軍之歌 定期舉行發表大會	文化政策	宣傳音樂	中	
1942	6/18	四	4	中華口琴會 慶祝六周年---舉辦中日音樂交歡	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中日	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	6/20	六	3	《大東亞總進軍之歌》今日舉行發表大會---歡迎各界參加 地點在長安戲院	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1942	6/20	六	3	大東亞總進軍之歌 是東亞人意志表現	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	6/21	日	3	《大東亞總進軍之歌》將就東亞全圖 發表大會昨在長安劇院隆重舉行	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1942	6/21	日	4	龐大建築之北京音樂堂--巨夏可容觀眾五千--預卜美輪美奐櫻園多一大觀樓	音樂評論-報道	其他	中	
1942	6/22	一	4	低音歌家斯義桂 獨唱音樂會--今晚在北京飯店	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中	
1942	6/24	三	3	大東亞總進軍之歌, 有聲影片昨日攝成	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	6/24	三	3	慶祝滿洲建國十周年紀念, 哈爾濱交響團李香蘭女士 提攜音樂大會。	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	6/27	六	5	大東亞總進軍之歌發表演奏大會畫刊	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	6/30	二	3	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念	廣告	宣傳音樂	中	
1942	6/30	二	4	【本報主辦】消夏大會 明日在中央公園揭幕	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1942	7/1	三	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞, 七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/1	三	4	【本報主辦】消夏大會 今日起在中央公園揭幕	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1942	7/2	四	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞, 七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/3	五	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞, 七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/3	五	3	世界舞蹈界馳名 崔承喜一行 今日起在京公演/北京中央廣播電臺	音樂會(活動)預告	其他	日	
1942	7/3	五	4	消夏勝地 本報消夏大會 今日精彩節目	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1942	7/4	六	4	【本報主辦】消夏大會今日節目 三豔之一 方紅寶大西廂、崔承喜昨日開始獻藝	音樂會(活動)預告	其他	中日	
1942	7/5	日	3	新民會徵求大東亞解放歌 昨在中央總會舉行發	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	7/5	日	4	【本報主辦】消夏大會精彩節目 方紅寶大西廂 深受歡迎 今日演唱牌子戲汾河調	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1942	7/6	一	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞,七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/6	一	4	【本報主辦】消夏大會 八日節目精彩遊藝更新 /中日音樂交歡演奏會(中華口琴會)	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中日	
1942	7/8	三	4	崔承喜舞蹈今日最後一場	音樂會(活動)預告	其他	日	
1942	7/10	五	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞,七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/11	六	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞,七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/11	六	4	【本報主辦】消夏大會 聯幼茹梅花大鼓勸黛玉	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1942	7/13	一	3	華北廣播協會定期舉行 票友京劇放送比賽大會	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1942	7/13	一	4	【本報主辦】消夏大會 今日遊藝節目極為精彩	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1942	7/14	二	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞,七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/14	二	4	【本報主辦】消夏大會 今日節目 華北電影公司	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中	
1942	7/15	三	4	本報主辦之消夏大會 決于今晚圓滿閉幕 華北 電影公司後援遊藝節目充實	音樂會(活動)預告	大眾音樂	中	
1942	7/16	四	3	新民會徵集東亞解放歌詞 第一名歌詞原文發表	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	7/16	四	4	本報主辦消夏大會 昨晚圓滿閉幕	音樂評論-報道	大眾音樂	中日	
1942	7/17	五	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞,七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/18	六	1	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念 歌詞,七月三十一日截止收稿八月底發表	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/19	日	4	慶祝滿洲建國十周紀念 華北演藝使團人選決定	音樂評論-報道	其他	中	
1942	7/21	二	3	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/22	三	3	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念	廣告	宣傳音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	7/23	四	4	促進社會人士音樂愛好 廣播協會組合唱團--- 青年中學生均可參加報考	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	
1942	7/25	六	3	大東亞總進軍之歌 在不遠之將來聚過詠唱---滿	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	7/26	日	3	世界的舞蹈家崔承喜定期表演 慰問在京皇軍部	音樂會(活動)預告	其他	日	
1942	7/27	一	3	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/29	三	3	大東亞戰爭紀念北京音樂堂 懸賞徵求竣工紀念	廣告	宣傳音樂	中	
1942	7/30	四	3	馳譽世界舞蹈家崔承喜 今晚作臨別表演---招待	音樂會(活動)預告	其他	日	
1942	7/31	五	3	【本報特寫】用創造力量發揚東亞藝術 是崔承 喜的真精神----昨做最後表演給與京市人的音響	音樂評論-報道	其他	日	
1942	8/1	六	3	天津法國公園昨盛大演奏 大東亞總進軍之歌--- 聽眾五千人情緒激昂	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	8/1	六	4	市總會推行臨組制度 舉辦臨組歌募集---今日 起徵集九月十日截止	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/7	五	4	新民會北京特別市總會 懸賞徵募臨組歌	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/9	日	4	新民會北京特別市總會 懸賞徵募臨組歌	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/10	一	3	大東亞總進軍之歌 青島電臺開始廣播 聲調磅	廣播相關	宣傳音樂	中	
1942	8/10	一	4	對白歌唱片的我見---要有創造性要有新意識 音樂要動人歌詞要春節	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1942	8/11	二	4	新民會北京特別市總會 懸賞徵募臨組歌	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/11	二	4	對白歌唱片的我見---要有創造性要有新意識 音樂要動人歌詞要春節	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1942	8/13	四	4	新民會北京特別市總會 懸賞徵募臨組歌	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/15	六	4	音樂堂基礎工事完成 明日盛大行開工典禮---即 將從事偉大舞臺之建築工事	音樂會(活動)預告	其他	中	
1942	8/17	一	3	大東亞總進軍之歌 濟南廣播電臺開始放送	廣播相關	宣傳音樂	中	
1942	8/17	一	4	北京音樂堂開工典禮 昨晨在稷園隆重舉行--會	音樂會(活動)預告	其他	中	
1942	8/19	三	4	新民會北京特別市總會 懸賞徵募臨組歌	廣告	宣傳音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	8/21	五	4	新民會北京特別市總會 懸賞徵募臨組歌	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/24	一	4	新民會北京特別市總會 懸賞徵募臨組歌	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/29	六	4	敬天會歌詞選定 由老志誠氏作譜---今晚假流	音樂會(活動)預告	其他	中	
1942	8/31	一	3	募集[建設真渤之歌]	廣告	宣傳音樂	中	
1942	8/31	一	4	華北演藝使節一行 赴滿獻技決定戲碼	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1942	9/1	二	3	逐出英美侵略勢力 東亞民族高歌入雲---大東亞共榮歌、新北京曲 仲選歌詞發表。作歌之目	文化政策	宣傳音樂	中	
1942	9/4	五	3	【本報主辦】大東亞總進軍之歌比賽會---現已開始報名歡迎各校踴躍參加	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1942	9/5	六	3	【本報主辦】大東亞總進軍之歌比賽會---現已	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1942	9/5	六	4	華北廣播、北京放送合唱團---明日舉行結成式	音樂會(活動)預告	其他	中日	
1942	9/6	日	4	【太平地】流行歌曲之檢討 徐榮	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1942	9/7	一	3	廣播協會昨日盛會 青年合唱團告成立--將以音樂修養發展民族文化	音樂評論-報道	其他	中日	
1942	9/7	一	4	【太平地】流行歌曲之檢討(續) 徐榮	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1942	9/9	三	4	華北演藝使節團 馬連良一行抵奉天	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1942	9/10	四	3	對日演藝節目 明晚特別放送	廣播相關	其他	中	
1942	9/11	五	4	慶祝滿洲建國十周年 市民慰安電影大會----十五、十六兩日分在四場舉行	音樂會(活動)預告	其他	中日	
1942	9/12	六	3	于古樂悠揚聲中 完成秋丁祀孔大典---由王委員	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1942	9/15	二	3	稷園音樂堂 十一月初可告完工---征歌仲選者	音樂評論-報道	其他	中	
1942	9/17	四	4	華北演藝使節在滿洲大受歡迎	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1942	9/18	五	4	大東亞總進軍之歌 比賽大會預選會 二十日下午	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1942	9/19	六	4	華北演藝慰問團 定後日出發赴隴海線	音樂會(活動)預告	傳統音樂	中	
1942	9/20	日	4	大東亞總進軍之歌預選會---與今日下午二時假	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1942	9/21	一	4	大東亞總進軍之歌比賽會 昨舉行預選大會---第四女中宏廟小學等十校當選	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	

表2:『新民報』における音楽記事一覧(1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	9/26	六	4	大東亞總進軍之歌比賽會--今日假長安戲院舉行--岡田軍樂隊 女一中學生 參加大會演奏並舞	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中日	
1942	9/27	日	4	響遏行雲雄壯昂揚 大東亞總進軍之歌比賽大會	音樂評論-報道	宣傳音樂	中日	
1942	10/1	四	4	京市總會 徵募臨組歌詞 梅青君榮膺首選	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	10/4	日	4	一對年輕音樂家的介紹	音樂評論-報道	其他	中	
1942	10/8	四	3	東亞共榮歌(介紹樂譜)	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	10/8	四	4	新北京曲(介紹樂譜)/稷園音樂堂 下月三日行	音樂會(活動)預告	宣傳音樂	中	
1942	10/16	五	4	中日音樂交歡演奏 後日晚在北京飯店盛大舉行	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	
1942	10/18	日	4	獨唱提琴演奏 愛好音樂這寶兒福	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中西	
1942	10/21	三	4	臨組歌選定 昨舉行發獎式	音樂評論-報道	宣傳音樂	中	
1942	10/22	四	6	怎麼研究音樂 萊默	音樂評論-報道	其他	中	
1942	10/25	日	4	中華口琴會 票款用作獻金	音樂評論-報道	大眾音樂	中	
1942	11/1	日	4	音樂堂建築落成 竣工式典定九日舉行	音樂會(活動)預告	其他	中	
1942	11/8	日	4	音樂堂竣工紀念 明日起舉行音樂大會五日	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	11/9	一	4	音樂堂竣工紀念 今日盛大舉行音樂演奏	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日西	
1942	11/10	二	3	愛東亞之情緒 京音樂堂建築完成---昨舉行隆重式典並作紀念演奏	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	
1942	11/11	三	4	學童音樂大會 晴爽秋空下熱烈舉行(音樂堂竣	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	
1942	11/12	四	4	音樂堂竣工紀念第三日 昨晨舉行合唱舞蹈大會	音樂評論-報道	西洋音樂	中日西	
1942	11/13	五	4	音樂堂中演京劇	音樂評論-報道	傳統音樂	中	
1942	11/14	六	4	音樂大會圓滿閉幕 集團合奏激動了人群	音樂評論-報道	西洋音樂	中西	
1942	11/20	五	4	音樂堂設花瓶 點綴得有聲有色	音樂評論-報道	其他	中	
1942	11/22	日	4	音樂堂移交市署 建委會同時宣告解散	音樂評論-報道	其他	中	
1942	11/26	四	4	作曲家山田氏抵京 對傑作[香妃]新構想發表梗	音樂評論-報道	西洋音樂	日	
1942	11/27	五	4	滿蒙毛織社歌演唱 山田氏出席指揮	音樂評論-報道	西洋音樂	中日	
1942	12/15	二	4	師大慶祝成立紀念 盛大舉行書畫展遊藝音樂會	音樂會(活動)預告	西洋音樂	中日	

表2:『新民報』における音楽記事一覧 (1938.1.1-1942.12.31)

年	月日	星期	頁	題目	内容分類	音楽分類	出演者	備考欄
1942	12/17	四	4	北大文院 師範大學 慶祝成立紀念 今日分別舉	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1942	12/18	五	4	國立北大文學院 昨慶祝創立紀念 遊藝會表演	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中西	
1942	12/20	日	4	中日婦女名流軫念貧黎 舉辦東鎮友誼大會 今日 下午假北京飯店舉行	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1942	12/21	一	4	五婦女團體冬賑遊藝會 會場充滿博愛精神 一 曲驚四座北京飯店空前盛會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1942	12/25	五	4	仁慈堂孤兒可憐 名媛舉辦籌款音樂會	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中日	
1942	12/29	二	4	中大音樂會 定後日舉行	音樂會 (活動) 預告	西洋音樂	中	

・『新民報』に掲載された「新民歌曲」楽譜一覧

年	月日	曜日	頁	曲名（作詞者・作曲者）
1938	9月27日	火	7	新民愛卿歌（繆斌作詞，江文也作曲）
	10月13日	木	7	新民勞動歌（繆斌作詞，江文也作曲）
	10月14日	金	7	新民少年歌（繆斌作詞，江文也作曲）
	10月19日	水	7	新民少女歌（繆斌作詞，江文也作曲）
	12月11日	日	3	新民之歌（李薦賢作詞，江文也作曲）
1939	6月23日	金	7	抗英歌（寄安君作詞，吳雨晨作曲）
	6月24日	土	1	新民民謠（王國章作詞，飯田信夫作曲）
	9月1日	金	3	排英歌（陳光作詞，林西峰作曲）
1942	5月20日	水	4	大東亞總進軍之歌（杜宇作詞，江文也作曲）
	10月8日	木	3	東亞共榮歌（詞作曲者 不明）
	10月8日	木	4	新北京曲（詞曲作者 不明）

# 新民愛鄉歌

大家歌和以中庸之速度 C調4/4

繆斌作詞  
江文也作曲

3 . 5 5 5 . 1 3 | 2 . 3 1 2 . 1 6 | 5 3 1 2 . 3 1 | 2 — . 0

青的山 綠的水 四邊村 東邊莊 這 是 我的家 鄉……

3 . 5 5 5 . 1 3 | 2 3 1 2 1 6 | 5 6 1 5 . 5 3 2 | 1 — . 0 3

在這裏 我生長 在這裏 我那坊 我 愛 我的 家 鄉 伯

2/4 5 . 6 | 1 — | 1 0 2 | 1 . 2 | 1 5 . | 5 —

叔 兄 弟…… 牽 牛 拉 羊……

3 5 5 | 6 5 1 | 3 — | 3 3 1 1 | 2 — | 2 0 3

一 塊 土 上 一 滴 汗…… 百 變 欣 長…… 大

5 . 6 | 1 — | 1 0 2 | 1 . 3 | 2 6 . | 6 —

家 自 衛…… 自 治 自 費……

5 6 5 | 1 1 2 1 | 3 — | 2 3 2 | 1 — | 1 0

願 四 季 風 調 雨 順…… 國 泰 民 康……

二十七年九月二十六日

## 繆斌部長制 新民愛鄉歌

詞雅音和極受社會歡迎

【本報特訊】新民會中央指導部部長繆斌氏，近來制成新民歌曲多調，詞雅音和極受社會歡迎，茲又撰成新民愛鄉歌，仍由江文也氏作譜，茲覽錄原歌譜如次：

樂譜 1：新民愛鄉歌（繆斌作詞，江文也作曲）

# 新民勞動歌

快快樂樂以勞動時之速度，變E調，3/4

繆斌作詞  
江文也作曲

2	2 1	6 6 1	2 3 5 6	3	—	3	—
(一) 喂！	……	用力吧	拔除哪野	草兒……	……	啊……	……
(二) 喂！	……	用力吧	把平哪泥	堆兒……	……	啊……	……
(三) 喂！	……	用力吧	開通哪河	道兒……	……	啊……	……
5	5 5	6 5 1	6 5 3 5	2	—	2	—
拔除	了	野	草……	百發	好	生	長
把平	了	泥	堆……	房屋	好	建	築
開通	了	河	道……	船隻	好	通	行
3	2 3	5 —	6 3 5	6	—	1	—
階	呀	啾……	呀	呼	兒	啾……	拔……
階	呀	啾……	呀	呼	兒	啾……	把……
啾	呀	啾……	呀	呼	兒	啾……	開……
6	5	6 3	5 —	5 6 0	1 2 1	1 2 1	1 2 1
除	了	野……	草	兒……	啊……	百	發
平	了	泥……	堆	兒……	啊……	房	屋
通	了	河……	道	兒……	啊……	農	田
6	5	6 5 3 5	2 —	3 2 1	2 —	2 —	2 —
生	長	啾	呀	啾……	呀	呼	兒
建	築	啾	呀	啾……	呀	呼	兒
灌	溉	啾	呀	啾……	呀	呼	兒

【本報特訊】新民會中央指導部長繆斌氏特撰「新民勞動歌」仍由江文也氏作譜，詞歌音和。茲登錄原歌譜如次：

# 新民勞動歌

繆斌 長撰 江文也 作譜

樂譜 2：新民勞動歌（繆斌作詞，江文也作曲）

# 新民少年歌

繆斌作詞 江文也作曲

【本報特訊】新民會中央指導部部長繆斌氏，昨（十三日）日又撰就「新民少年歌」一闕，茲特覓錄於次：

## 新民少年歌

輕快而活潑G調，♩

繆斌作詞  
江文也作曲

	<u>1 5 5 1 3</u>	<u>2 3 2</u>	<u>1 5 5 1 3</u>	2 0	<u>5 5 3</u>	<u>2 3 5 6</u>	<u>3 2 1 2</u>	3 0
(一)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	看萬丈	光的太陽	向我們笑	哪哪哪
(二)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	看亞細	亞的兄弟	相與相愛	哪哪哪
(三)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	看太平	洋的時代	向我們來	哪哪哪
	<u>1 5 5 1 3</u>	<u>2 3 2</u>	<u>1 5 5 1 3</u>	2 0	5 1	2 6	<u>5 2 3 2</u>	1 0
(一)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	活活活	潑潑潑	前途正無	量量量
(二)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	活活活	潑潑潑	前途正無	量量量
(三)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	活活活	潑潑潑	前途正無	量量量
	<u>3 2</u>	1	<u>2 3</u>	<u>1 2 7 6</u>	5 0	<u>3 2 1 1</u>	2 3 1	<u>2 3</u> 5 6 0
(一)	努力吧		練得身心	強	要有	做難	奮子當	不願
(二)	努力吧		肝膽照熱	方	有東	同文	當明	願發
(三)	努力吧		壯志在四	方	方的	文	明	發揚
	<u>1 5 5 1 3</u>	<u>2 3 2</u>	<u>1 5 5 1 3</u>	2 0	<u>5 3 1</u>	<u>2 3 5 6</u>	<u>3 0 2 0</u>	1 0 0
(一)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	要有	做難	奮子當	不願
(二)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	有未	難同	奮文	願發
(三)	青春的少年	啊	青春的少年	啊	未來的	文	明	發揚

二十七年十月十三日教化部宣傳科

樂譜 3: 新民少年歌 (繆斌作詞, 江文也作曲)

# 新民少女歌

繆部長撰 江文也作譜

「本報特訊」新民會中央指導部長繆斌氏頃又撰就「新民少女歌」一闕，歌詞光輝而美麗，茲將歌譜錄次：

## 新民少女歌

光輝而美麗！不太快，變B調，凡

繆斌作詞  
江文也作曲

啊…… 小妹妹真是  
美麗像月亮兒一樣…… 儂春  
風似的明朗 像白玉似的健康 在陽  
光下的草地上 大家歡唱……

The musical score is written in numbered notation (jianpu) across four lines. It includes various musical symbols such as beams, slurs, and accents. The lyrics are written below the notes, with some words appearing above notes in certain measures. The score is enclosed in a rectangular frame.

新民會中央指導部，二十七年十月十八日。

樂譜 4：新民少年歌（繆斌作詞，江文也作曲）

E調 新 民 之 歌 子

6	1	2	3	23	23 21	6
旭		日		照	東	亞
撒	得	下	清	小	康	種
博	3	河	2	與	人	裔
12		53		6	21	2
全	亞	協	和	爲	一	家
必	切	開	惡	大	同	花
一	61	罪	5	絕	根	芽
6		23		61	61 65	3
學	宗	孔	孟	行	王	道
範	家	除	度	各	繼	黨
大	32	共	21	太	平	日
5		3		6	21	3 20
人	作	新	民	在	中	華
人		人		防	赤	化
幸	3	福		永	無	誕
3		0	12	35	65	3
格	物	致		正	誠	意
23	5	61	65	35	65	6
修	身	齊	治	平	天	下
		家	國			

樂譜 5: 新 民 之 歌 (李薦賢作詞, 江文也作曲)

# 今日反英大會 本市全體學生高唱 抗英歌

【本市消息】反英大會，定於今（二十三）日上午十一時，在天安門太和門舉行，本市各機關各學校，均行參加，於大會中，全體學生，當場歌唱抗英歌，該歌為名詞家寄安君作詞，吳雨農作曲，茲誌歌詞如下：

F 4/4 Tempo di March

	3. 2 1 6   5 —	4. 3 2. 1   5 —	3. 5.	6 5. 3
( 1	黃 族 且 慶 揚	英 人 太 放 肆	區 區	英 格 蘭
2		英 人 太 乖 戾	堂 堂	我 亞 洲
	3. 2 1. 3   2 —	3. 2 1. 6   5 —	4. 3 2. 1   5 —	
	豈 能 長 得 意	我 一 中 一 國	真 一 砥 一 柱	讓 計
	豈 能 受 爾 制	我 一 中 一 國	工 一 巧 一 匠	
	3 5.   6 5 3	5. 4 3. 2   1 —	6 1 2   3. 3 1 2	
	忍 一 痛 苦	受 一 壓 一 迫	鴉 片 一 毒	毒 藥 來 出
	暴 一 雄 威	精 一 吏 一 治	西 藏 一 日 寇	逐 爾 出 境
	3 5. 6   1. 6 5	6 6.   6 6 6	5 5.   5 5 5	
	喪 失 一 香 港 地 一 帶	頻 年 一 激 內 亂	軍 火 一 日 寇	英 人 賜 厚 誼
	印 度 一 仲 大 義 一 來	頑 強 一 不 能 退	日 寇 一 日 寇	結 厚 誼
	3. 2 1. 6   5 —	4. 3 2. 1   5 —	6 1 6   6 3 2	
	印 度 與 西 藏	狠 心 施 毒 計	1 大 地 遍	錫 尤 一
	共 同 攜 手 來	驅 逐 毒 計 避	2	
	5. 4 3. 2   1 —			
( 1	殺 敵 英 吉 利			
2				

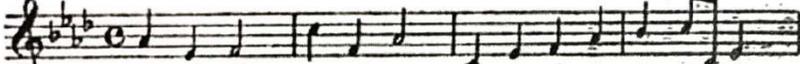
樂譜 6: 抗英歌 (寄安君作詞, 吳雨農作曲)

新民報社贈獎徵求曲選第一名

# 新民民謠

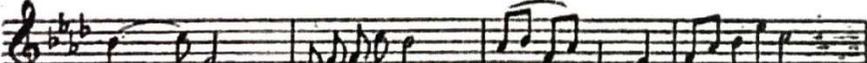
樸素-加緩

王國章作詞  
飯田信夫作曲

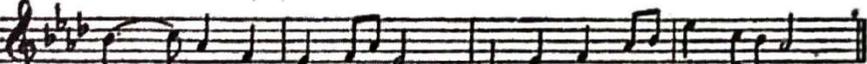
**A**    
 1 5 6 - 3 6 1 - 3 5 6 1 2 3 5 -   
 今也新 明也新 扔了舊的換上-新-



6 5 6 1 - 2 1 2 3 - 5 3 5 2 3 1 5 6 1 -   
 衣也-新 心也-新 你-也-新 我-也-新



2 3 5 - 3 5 6 2 2 - 1 2 6 1 3 4 6 1 2 5 3 -   
 悔-未 大-做好人 愛-朋友 愛-鄉親



2 3 1 6 5 6 1 5 3 5 6 1 2 5 3 2 1 -   
 孝-父母 要-修身 太陽出來-照-着心-

樂譜 7: 新民民謠 (王國章作詞, 飯田信夫作曲)

# 排英歌

陳光作詞  
林西峰作曲

1 3	5 . 0	1 6 1	5 . 0	2 . 2	3 1	2 1 6 1	5 . 0	1 . 6
好姊	妹	好兄	弟	大	家	團	結	在
好姊	妹	好兄	弟	大	大	團	結	在
5	6 5 3 1	2 . 0	3 5	3 1	2 3	5 . 0	5	5
倒	英	吉	利	鴉	片	戰	爭	須
倒	英	吉	利	鴉	片	戰	爭	須
6	5	6 5 3 2	1 . 0	2 5	3 1	2 3	5 . 0	6
強	佔	我	士	地	從	祖	國	被
破	境	新	秩	序	此	祖	國	被
1 . 0	1	5	3 2 1	2 . 0	1 6 5	6 5 3	5 3 1	2 . 0
地	兄	弟	姊	妹	啊	要	想	重
離	兄	弟	姊	妹	啊	要	想	重
5	6 5 3 2	1 . 0	2	5	3 5 1	2	3 . 6	6
除	英	吉	利	不	買	英	國	貨
除	英	吉	利	不	買	英	國	貨
5 . 0	6	5	3 1	5 . 0	3 . 5	1	6 5 6 2	1 . 0
育	齊	心	努	力	齊	心	努	力
錄	齊	心	努	力	齊	心	努	力

樂譜 8: 排英歌 (陳光作詞, 林西峰作曲)





### 新北京曲

Allegretto Congrandioso  
 4/4 中速 稍強 P

我愛北京 我愛北京 北京 北京 萬里 萬里 平原 平原

旭日 東上 白雲 西行 自遠 自遠 自遠 自遠

長江 浪浪 長江 浪浪 長江 浪浪 長江 浪浪

新北京 足紀念 新北京 足紀念 新北京 足紀念 新北京 足紀念

1st and 2nd Last time

新北京 足紀念 新北京 足紀念 新北京 足紀念 新北京 足紀念

北京風物清 平原蕪 關帝廟  
 旭日東上白雲西行 自遠金  
 關明清 橫千百年 精衛文明  
 長江浪浪 黃河奔 陰山巖巖  
 朔風應 建新北京 足紀念建  
 設新北京 鐘靈毓秀 以永世  
 脈秀而更鐘靈 後來之必勝今

(2) 我愛北京 我愛北京  
 北京形勢勝 長地古 關山壯  
 笳鼓喧喧 想漢將營 太行通  
 五川兩岸 千軍除 寒雨激風  
 一路奔 建設新北京 足紀念  
 建設新北京 天定勝人 何如  
 說 人定恰承天心

(3) 我愛北京 我愛北京  
 北京古蹟 昭王墓 黃金築  
 建功立業 榮華如夢 行聯日  
 白虹貫 悲歌慷慨 壯志雄沉  
 故城千載 重光明 大好雄洲  
 從此興 建設新北京 足紀念  
 建設新北京 今之視昔 亦可知

(1) 我愛北京 我愛北京  
 北京風物清 平原蕪 關帝廟  
 旭日東上白雲西行 自遠金  
 關明清 橫千百年 精衛文明  
 長江浪浪 黃河奔 陰山巖巖  
 朔風應 建新北京 足紀念建  
 設新北京 鐘靈毓秀 以永世  
 脈秀而更鐘靈 後來之必勝今

樂譜 11: 新北京曲 (詞曲作者 不明)